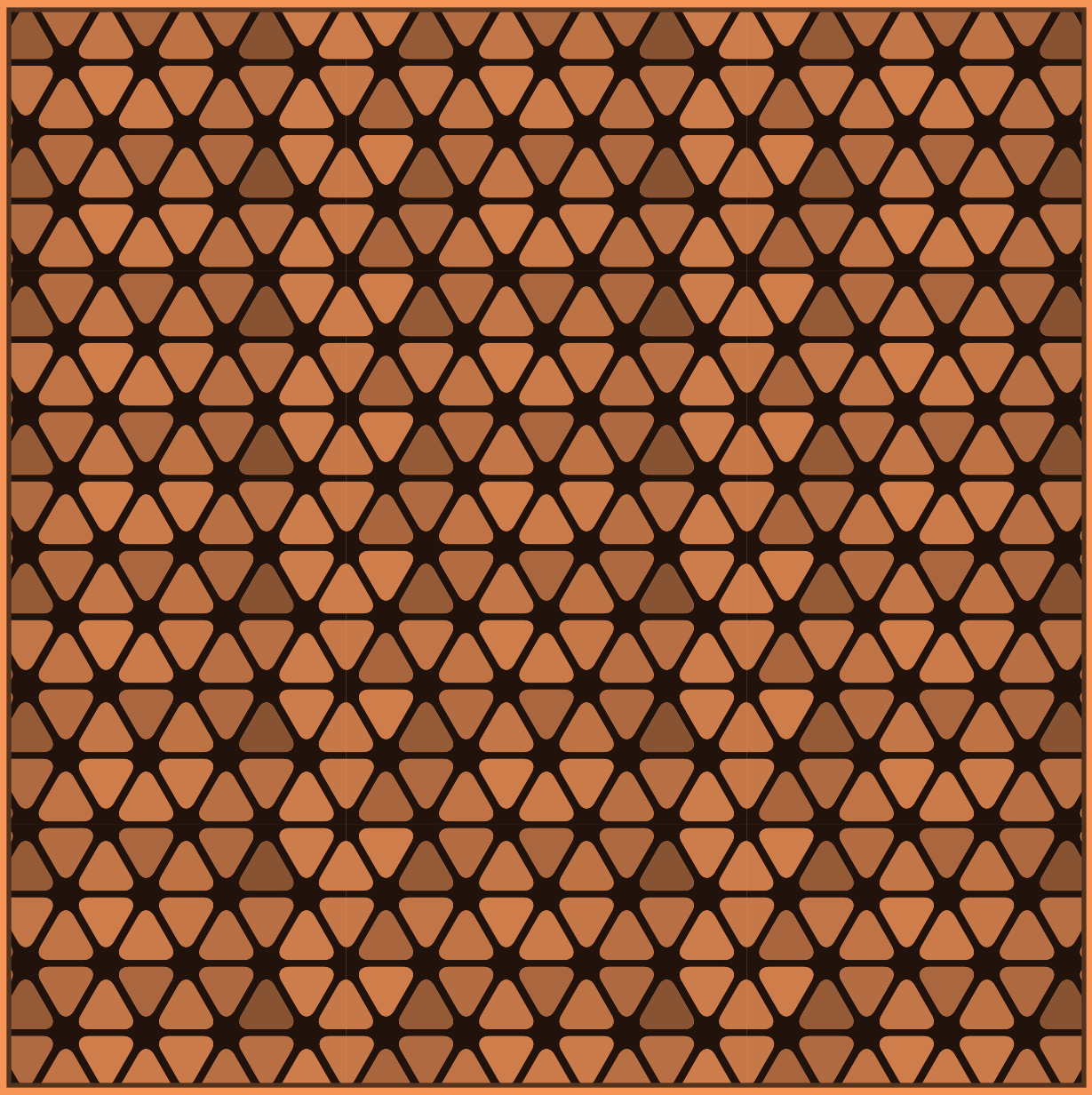
2018年度

シラバス

交流文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	経： 経済学部	法： 法学部
独： ドイツ語学科		済： 経済学科	律： 法律学科
英： 英語学科		営： 経営学科	国： 国際関係法学科
仏： フランス語学科		環： 国際環境経済学科	総： 総合政策学科
交： 交流文化学科			免： 2013年度以降入学の教職課程登録者
全： 交流文化学科以外の全学部学科			

2. シラバスページの見方（右図参照）

①入学年度

09年度……2009年度入学者
09～12年度……2009～2012年度入学者
13年度以降……2013年度以降入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト

⑧参考文献

⑨評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

――― 目　次 ―――

2009～2018 年度入学者開設科目一覧表
学科基礎科目 ---------- 2
学科共通科目 ---------- 4
学科専門科目 ---------- 9
外国語学部共通科目開設一覧表 ---------- 13
担当者別シラバス ---------- 15

【参考資料】（英語レベル表）

2009 年度以降入学者				
レベル	TOEIC®LISTENIG AND READING TEST	TOEFL®TEST		実用英語技能検定
		PBT	iBT	
上級	800 点以上	520 点以上	68 点以上	準 1 級
中級	600 点以上	480 点以上	54 点以上	

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した
TOEIC®LISTENIG AND READING TEST(IP)のスコアが履修条件を満たしていれば登録可能です。

学内で実施した以外のスコアを利用する場合は、
既修条件を満たしていることを証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

交流文化学科　授業科目

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
交流文化概論i	鈴木　涼太郎	春	水3	2	1	全	15
交流文化概論ii	須永　和博 / 山口　誠	春	金1	2	1	全	16
交流文化概論iii	堀　芳枝	秋	金1	2	1	全	17
基礎演習Ⅰ	堀　芳枝	春	水1	2	1	全	18
基礎演習Ⅱ	堀　芳枝	秋	水1	2	1	全	18
基礎演習Ⅰ	永野　隆行	春	水1	2	1	全	19
基礎演習Ⅱ	永野　隆行	秋	水1	2	1	全	19
基礎演習Ⅰ	山口　誠	春	水1	2	1	全	20
基礎演習Ⅱ	山口　誠	秋	水1	2	1	全	20
基礎演習Ⅰ	鈴木　涼太郎	春	水1	2	1	全	21
基礎演習Ⅱ	鈴木　涼太郎	秋	水1	2	1	全	21
基礎演習Ⅰ	須永　和博	春	水1	2	1	全	22
基礎演習Ⅱ	須永　和博	秋	水1	2	1	全	22
英語圏の文学と文化概論	高橋　雄一郎	秋	火5	2	1		23
英語の世界Ⅰ	大澤　舞	春	火1	2	2	全	24
English for BusinessⅠ	各担当教員	春		1	2	全	25
English for BusinessⅡ	各担当教員	秋		1	2	全	25
Listening & Speaking	D. ブラドリー	春	火1	1	1	全	26
Listening Practice for TOEFL＆TOEIC	D. ブラドリー	秋	火1	1	1	全	26
Listening & Speaking	D. ブラドリー	春	火2	1	1	全	27
Listening Practice for TOEFL＆TOEIC	D. ブラドリー	秋	火2	1	1	全	27
Listening & Speaking	野上　文子	春	金3	1	1	全	28
Listening Practice for TOEFL＆TOEIC	野上　文子	秋	金3	1	1	全	28
Listening & Speaking	L. G. ボンド	春	月2	1	1	全	29
Listening Practice for TOEFL＆TOEIC	L. G. ボンド	秋	月2	1	1	全	29
Listening & Speaking	L. G. ボンド	春	月3	1	1	全	30
Listening Practice for TOEFL＆TOEIC	L. G. ボンド	秋	月3	1	1	全	30
Grammar for TOEFL&TOEICⅠ	各担当教員	春		1	2	全	31
Grammar for TOEFL&TOEICⅡ	各担当教員	秋		1	2	全	31
Reading StrategiesⅠ	伊藤　兵馬	春	木3	1	1	全	32
Reading StrategiesⅡ	伊藤　兵馬	秋	木3	1	1	全	32
Reading StrategiesⅠ	島田　啓一	春	火3	1	1	全	33
Reading StrategiesⅡ	島田　啓一	秋	火3	1	1	全	33
Reading StrategiesⅠ	瀬戸　千尋	春	月4	1	1	全	34
Reading StrategiesⅡ	瀬戸　千尋	秋	月4	1	1	全	34
Reading StrategiesⅠ	大澤　舞	春	水2	1	1	全	35
Reading StrategiesⅡ	大澤　舞	秋	水2	1	1	全	35
Reading StrategiesⅠ	野上　文子	春	金5	1	1	全	36
Reading StrategiesⅡ	野上　文子	秋	金5	1	1	全	36
Reading StrategiesⅢ	野上　文子	春	金4	1	2	全	37
Reading StrategiesⅣ	野上　文子	秋	金4	1	2	全	37
Reading StrategiesⅢ	河原　宏之	春	月4	1	2	全	38
Reading StrategiesⅣ	河原　宏之	秋	月4	1	2	全	38
Reading StrategiesⅢ	関根　路代	春	水1	1	2	全	39
Reading StrategiesⅣ	関根　路代	秋	水1	1	2	全	39
Reading StrategiesⅢ	白川　貴子	春	水2	1	2	全	40
Reading StrategiesⅣ	白川　貴子	秋	水2	1	2	全	40
Reading StrategiesⅢ	白川　貴子	春	水1	1	2	全	41
Reading StrategiesⅣ	白川　貴子	秋	水1	1	2	全	41
Reading StrategiesⅢ	島田　啓一	春	水1	1	2	全	42
Reading StrategiesⅣ	島田　啓一	秋	水1	1	2	全	42

学科基礎科目

科目名(副題)	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Writing Strategies Ⅰ	伊藤　兵馬	春	火2	1	1	全	43
Writing StrategiesⅡ	伊藤　兵馬	秋	火2	1	1	全	43
Writing Strategies Ⅰ	伊藤　兵馬	春	月4	1	1	全	44
Writing StrategiesⅡ	伊藤　兵馬	秋	月4	1	1	全	44
Writing Strategies Ⅰ	R. J. バロウズ	春	火3	1	1	全	45
Writing StrategiesⅡ	R. J. バロウズ	秋	火3	1	1	全	45
Writing Strategies Ⅰ	M. ダーリン	春	月4	1	1	全	46
Writing StrategiesⅡ	M. ダーリン	秋	月4	1	1	全	46
Writing Strategies Ⅰ	D. グライムズ	春	月5	1	1	全	47
Writing StrategiesⅡ	D. グライムズ	秋	月5	1	1	全	47
Comprehensive English Ⅰ	N. H. ジョスト	春	月2	1	1	全	48
Comprehensive EnglishⅡ	N. H. ジョスト	秋	月2	1	1	全	48
Comprehensive English Ⅰ	C. 芦沢	春	火3	1	1	全	49
Comprehensive EnglishⅡ	C. 芦沢	秋	火3	1	1	全	49
Comprehensive English Ⅰ	C. 芦沢	春	金2	1	1	全	50
Comprehensive EnglishⅡ	C. 芦沢	秋	金2	1	1	全	50
Comprehensive English Ⅰ	D. マッキー	春	木3	1	1	全	51
Comprehensive EnglishⅡ	D. マッキー	秋	木3	1	1	全	51
Comprehensive English Ⅰ	A. マグズ	春	月2	1	1	全	52
Comprehensive EnglishⅡ	A. マグズ	秋	月2	1	1	全	52
Comprehensive English Ⅰ	D. ベイカー	春	木3	1	1	全	53
Comprehensive EnglishⅡ	D. ベイカー	秋	木3	1	1	全	53
Comprehensive English Ⅰ	K. ミーハン	春	月3	1	1	全	54
Comprehensive EnglishⅡ	K. ミーハン	秋	月3	1	1	全	54
Comprehensive English Ⅰ	R. ダラム	春	火2	1	1	全	55
Comprehensive EnglishⅡ	R. ダラム	秋	火2	1	1	全	55
Comprehensive English Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	月2	1	1	全	56
Comprehensive EnglishⅡ	A. R. ファルヴォ	秋	月2	1	1	全	56
Comprehensive English Ⅰ	J. ハント	春	木3	1	1	全	57
Comprehensive EnglishⅡ	J. ハント	秋	木3	1	1	全	57
Comprehensive EnglishⅢ	E. フランコ	春	木3	1	2	全	58
Comprehensive EnglishⅣ	E. フランコ	秋	木3	1	2	全	58
Comprehensive EnglishⅢ	T. ダニー	春	木4	1	2	全	59
Comprehensive EnglishⅣ	T. ダニー	秋	木4	1	2	全	59
Comprehensive EnglishⅢ	A. マグズ	春	金4	1	2	全	60
Comprehensive EnglishⅣ	A. マグズ	秋	金4	1	2	全	60
Comprehensive EnglishⅢ	E. フランコ	春	木1	1	2	全	61
Comprehensive EnglishⅣ	E. フランコ	秋	木1	1	2	全	61
Comprehensive EnglishⅢ	M. ダーリン	春	月5	1	2	全	62
Comprehensive EnglishⅣ	M. ダーリン	秋	月5	1	2	全	62
Comprehensive EnglishⅢ	R. J. バロウズ	春	火4	1	2	全	63
Comprehensive EnglishⅣ	R. J. バロウズ	秋	火4	1	2	全	63
E-learning Ⅰ	大澤　舞	春	木4	1	1	全	64
E-learningⅡ	大澤　舞	秋	木4	1	1	全	64

学科共通科目「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （Cool Japan: 1900-1960 / Cool Japan: 1960-2016）	J. E. マジャール	春秋	月2	2	2	全	65
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （生成文法理論と英語統語論）	鈴木　英一	春秋	月2	2	2	全	66
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （Readings on JapanⅠ / Readings on JapanⅡ）	N. H. ジョスト	春秋	月3	2	2	全	67
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （Exploring Language Teaching）	浅岡　千利世	春秋	月3	2	2	全	68
英語専門講読　Ⅱ※ （アメリカの広告概史）	板場　良久	秋	月4	2	2	全	69
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （ナーサリー・ライムズの世界）	大木　理恵子	春秋	月4	2	2	全	70
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （戦後国際政治史）	永野　隆行	春秋	月4	2	2	全	71
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （イギリス児童文学）	前沢　浩子	春秋	月4	2	2	全	72
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （シンボルを読み解く / 表象文化のシンボルを読み解く）	三吉　美加	春秋	月4	2	2	全	73
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （現代国際関係）	永野　隆行	春秋	月5	2	2	全	74
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む）	金谷　優子	春秋	火2	2	2	全	75
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （芝居の台本を読んで観る）	児嶋　一男	春秋	火2	2	2	全	76
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （SLA最前線）	羽山　恵	春秋	火2	2	2	全	77
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （言語研究のさまざまな知見を巡る）	青柳　真紀子	春秋	火3	2	2	全	78
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （異文化コミュニケーションの基礎 / 異文化コミュニケーションの理論）	瀬戸　千尋	春秋	火3	2	2	全	79
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （日英語の受動文の比較 / 動詞派生形容詞などについて）	安井　美代子	春秋	火3	2	2	全	80
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （文法と文脈の関係）	大澤　舞	春秋	火4	2	2	全	81
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （現代東南アジアの政治・経済・社会）	金子　芳樹	春秋	火4	2	2	全	82
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （アメリカ小説）	島田　啓一	春秋	火4	2	2	全	83
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （世界ブランドとグローバル社会）	竹田　いさみ	春秋	火4	2	2	全	84
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （比較統語論）	船越　健志	春秋	火4	2	2	全	85
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （映画『スターウォーズ』批評）	柿田　秀樹	春秋	火5	2	2	全	86
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （アジア太平洋地域の国際関係・政治経済）	金子　芳樹	春秋	水1	2	2	全	87
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （Japanese Language and Literature: Past, Present, and Future）	J. N. ウェンデル	春秋	水2	2	2	全	88
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （ディズニーと世界情勢）	竹田　いさみ	春秋	水2	2	2	全	89
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （アメリカ現代詩）	関根　路代	春秋	水3	2	2	全	90

※3・4年生対象（2年生は履修不可）

学科共通科目「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名（副題）	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （実践的な英語の聴解・発音教育）	中田　ひとみ	春秋	水4	2	2	全	91
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （国際関係論）	山越　裕太	春秋	水4	2	2	全	92
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （英国ユダヤ人史）	佐藤　唯行	春秋	木1	2	2	全	93
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （Diplomacy and International Relations）	伊藤　兵馬	春秋	木2	2	2	全	94
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （国際関係）	佐野　康子	春秋	木2	2	2	全	95
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （英語で学ぶ国際関係論）	堀　芳枝	春秋	木2	2	2	全	96
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （ハリウッド映画の社会学：初期からWW2まで ／ ハリウッド映画の社会学：20世紀後半から現在まで）	山口　誠	春秋	木2	2	2	全	97
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （Multicultural Education & Social Justice）	E. 本橋	春秋	木3	2	2	全	98
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ ※ （The History of Language）	J. J. ダゲン	春秋	木3	2	2	全	99
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （ツーリズムの現状と課題 ／ 航空の現状と歴史）	井上　泰日子	春秋	木3	2	2	全	100
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （小さき人々の歴史―ベストセラー、Small Islandを読む）	上野　直子	春秋	木3	2	2	全	101
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （Topical Songs and Liberalism）	遠藤　朋之	春秋	木3	2	2	全	102
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （認知言語学）	小早川　暁	春秋	木3	2	2	全	103
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （通訳訓練のための原書講読）	柴原　早苗	春秋	木3	2	2	全	104
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （ツーリズム研究の基礎概念）	鈴木　涼太郎	春秋	木3	2	2	全	105
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (Deconstructing “Japaneseness”)	須永　和博	春秋	木3	2	2	全	106
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ）	水本　義彦	春秋	木3	2	2	全	107
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （オーストラリアの詩）	国見　晃子	春秋	木4	2	2	全	108
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （ヨーロッパをめざす移民・難民 ／ 移民・難民について考える）	高橋　雄一郎	春秋	木4	2	2	全	109
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （Research interviewing: Intercultural learning ‘at home’）	工藤　和宏	春秋	金1	2	2	全	110
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ （国際取引契約法入門Ⅰ ／ 国際取引契約法入門Ⅱ）	花本　広志	春秋	金1	2	2	全	111
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （Reading & Writing Stories）	片山　亜紀	春秋	金2	2	2	全	112
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	杉山　晴信	春秋	金2	2	2	全	113
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （現代イギリス小説）	東郷　公徳	春秋	金2	2	2	全	114
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ （Conflict and Development）	石川　幸子	春秋	金3	2	2	全	115

※3・4年生対象（2年生は履修不可）

学科共通科目

科目名		担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語の世界Ⅱ		大澤　舞	秋	火1	2	2		116
観光英語Ⅰ		落合　康男	春	火4	2	2	英	117
観光英語Ⅱ		落合　康男	秋	火4	2	2	英	117
通訳案内士の英語Ⅰ		落合　康男	春	水3	2	2	英	118
通訳案内士の英語Ⅱ		落合　康男	秋	水3	2	2	英	118
Business Writing		各担当教員	春		2	2	英	119
Business Writing		各担当教員	秋		2	2	英	119
2013年度以降入学者	Advanced Writing（Research）	E. J. ナオウミ	春	火2	2	3	全	120
	Advanced Writing（Research）	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	3	全	120
	Advanced Writing（Business）	D. ブラドリー	春	火3	2	3	全	121
	Advanced Writing（Business）	D. ブラドリー	秋	火3	2	3	全	121
	Advanced Writing（Research）	K. エラ	春	火4	2	3	全	122
	Advanced Writing（Research）	K. エラ	秋	火4	2	3	全	122
	Advanced Writing（Creative）	B. D. タッチャー	春	火5	2	3	全	123
	Advanced Writing（Creative）	E. 本橋	春	水2	2	3	全	124
	Advanced Writing（Creative）	J. J. ダゲン	秋	火5	2	3	全	124
	Advanced Writing（Research）	M. L. ボイル	春	金2	2	3	全	125
	Advanced Writing（Research）	M. L. ボイル	秋	金2	2	3	全	125
	Advanced Writing（Research）	A. マグズ	春	金3	2	3	全	126
	Advanced Writing（Research）	A. マグズ	秋	金3	2	3	全	126
	Advanced Writing（Research）	K. フォード	春	金4	2	3	全	127
	Advanced Writing（Research）	K. フォード	秋	金4	2	3	全	127
2012年度以前入学者	Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	全	120
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	全	120
	Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	全	121
	Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	全	121
	Academic Writing	K. エラ	春	火4	2	2	全	122
	Academic Writing	K. エラ	秋	火4	2	2	全	122
	Academic Writing	B. D. タッチャー	春	火5	2	2	全	123
	Academic Writing	E. 本橋	春	水2	2	2	全	124
	Academic Writing	J. J. ダゲン	秋	火5	2	2	全	124
	Academic Writing	M. L. ボイル	春	金2	2	2	全	125
	Academic Writing	M. L. ボイル	秋	金2	2	2	全	125
	Academic Writing	A. マグズ	春	金3	2	2	全	126
	Academic Writing	A. マグズ	秋	金3	2	2	全	126
	Academic Writing	K. フォード	春	金4	2	2	全	127
	Academic Writing	K. フォード	秋	金4	2	2	全	127
翻訳Ⅰ		高田　宣子	春	火5	2	2	全	128
翻訳Ⅰ		高田　宣子	秋	火5	2	2	全	128
翻訳Ⅰ		上野　直子	秋	水2	2	2	全	129
翻訳Ⅰ		山中　章子	春	水5	2	2	全	130
翻訳Ⅰ		山中　章子	秋	水5	2	2	全	130
翻訳Ⅰ		柴田　耕太郎	春	木3	2	2	全	131
翻訳Ⅰ		柴田　耕太郎	秋	木3	2	2	全	131
翻訳Ⅰ		柴田　耕太郎	春	木4	2	2	全	132
翻訳Ⅰ		柴田　耕太郎	秋	木4	2	2	全	132
翻訳Ⅱ		P. ネルム	春	水4	2	2	全	133
翻訳Ⅱ		P. ネルム	秋	水2	2	2	全	133
翻訳Ⅱ		白川　貴子	春	水3	2	2	全	134
翻訳Ⅱ		白川　貴子	秋	水3	2	2	全	134
College Grammar		河原　宏之	春	月3	2	2	全	135
College Grammar		河原　宏之	秋	月3	2	2	全	135
College Grammar		鈴木　英一	春	月3	2	2	全	136
College Grammar		鈴木　英一	秋	月3	2	2	全	136
College Grammar		河原　宏之	春	月5	2	2	全	137
College Grammar		河原　宏之	秋	月5	2	2	全	137
College Grammar		倉林　秀男	春	月5	2	2	全	138
College Grammar		倉林　秀男	秋	月5	2	2	全	138
College Grammar		府川　謹也	春	火3	2	2	全	139
College Grammar		府川　謹也	秋	火3	2	2	全	139
College Grammar		水口　学	春	水4	2	2	全	140
College Grammar		水口　学	秋	水4	2	2	全	140
College Grammar		水口　学	春	水5	2	2	全	141
College Grammar		水口　学	秋	水5	2	2	全	141
College Grammar		田川　憲二郎	春	金3	2	2	全	142
College Grammar		田川　憲二郎	秋	金3	2	2	全	142

学科共通科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
2013年度以降入学者	Communication Skills	K. フォード	春	月1	2	2	全	143
	Communication Skills	K. フォード	秋	月1	2	2	全	143
	Communication Skills	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	全	144
	Communication Skills	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	全	144
	Communication Skills	M. ダーリン	春	月3	2	2	全	145
	Communication Skills	M. ダーリン	秋	月3	2	2	全	145
	Communication Skills	R. ダラム	春	火1	2	2	全	146
	Communication Skills	R. ダラム	秋	火1	2	2	全	146
	Communication Skills	R. J. バロウズ	春	火2	2	2	全	147
	Communication Skills	R. J. バロウズ	秋	火2	2	2	全	147
	Communication Skills	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	全	148
	Communication Skills	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	全	149
	Communication Skills	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	全	149
	Communication Skills	D. M. ヴァンヴィーレン	春	水4	2	2	全	150
	Communication Skills	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	水4	2	2	全	150
	Communication Skills	J. スネール	春	木2	2	2	全	151
	Communication Skills	J. スネール	秋	木2	2	2	全	151
	Communication Skills	R. ダラム	春	木2	2	2	全	152
	Communication Skills	R. ダラム	秋	木2	2	2	全	152
	Communication Skills	R. ダラム	春	木3	2	2	全	153
	Communication Skills	R. ダラム	秋	木3	2	2	全	153
	Communication Skills	P. マッケビリー	春	金1	2	2	全	154
	Communication Skills	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	全	154
2012年度以前入学者	Communicative English	K. フォード	春	月1	2	2	全	143
	Communicative English	K. フォード	秋	月1	2	2	全	143
	Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	全	144
	Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	全	144
	Communicative English	M. ダーリン	春	月3	2	2	全	145
	Communicative English	M. ダーリン	秋	月3	2	2	全	145
	Communicative English	R. ダラム	春	火1	2	2	全	146
	Communicative English	R. ダラム	秋	火1	2	2	全	146
	Communicative English	R. J. バロウズ	春	火2	2	2	全	147
	Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火2	2	2	全	147
	Communicative English	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	全	148
	Communicative English	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	全	149
	Communicative English	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	全	149
	Communicative English	D. M. ヴァンヴィーレン	春	水4	2	2	全	150
	Communicative English	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	水4	2	2	全	150
	Communicative English	J. スネール	春	木2	2	2	全	151
	Communicative English	J. スネール	秋	木2	2	2	全	151
	Communicative English	R. ダラム	春	木2	2	2	全	152
	Communicative English	R. ダラム	秋	木2	2	2	全	152
	Communicative English	R. ダラム	春	木3	2	2	全	153
	Communicative English	R. ダラム	秋	木3	2	2	全	153
	Communicative English	P. マッケビリー	春	金1	2	2	全	154
	Communicative English	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	全	154
	Discussion	P. マッケビリー	春	月2	2	2	全	155
	Discussion	P. マッケビリー	秋	月2	2	2	全	155
	Discussion	L. K. ハーキンス	春	月2	2	2	全	156
	Discussion	L. K. ハーキンス	秋	月2	2	2	全	156
	Discussion	J. E. マジャール	春	火1	2	2	全	157
	Discussion	J. E. マジャール	秋	火1	2	2	全	157
	Discussion	N. H. ジョスト	春	火1	2	2	全	158
	Discussion	N. H. ジョスト	秋	火1	2	2	全	158
	Discussion	E. J. ナオウミ	春	水4	2	2	全	159
	Discussion	E. J. ナオウミ	秋	水4	2	2	全	159
	Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	全	160
	Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	全	160
	Public Speaking Ⅰ	D. マッキー	春	水2	2	2	全	161
	Public Speaking Ⅰ	D. マッキー	秋	水2	2	2	全	161
	Public Speaking Ⅰ	J. N. ウェンデル	春	月3	2	2	全	162
	Public Speaking Ⅱ	J. N. ウェンデル	秋	月3	2	2	全	162
	Debate Ⅰ	N. H. ジョスト	春	月4	2	2	全	163
	Debate Ⅱ	N. H. ジョスト	秋	月4	2	2	全	163

学科共通科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
2013年度以降入学者	Academic Lecture	A. ゾーリンジャー	春	火4	2	2	全	164
	Academic Lecture	A. ゾーリンジャー	秋	火4	2	2	全	164
	Academic Lecture	伊藤　兵馬	春	木4	2	2	全	165
	Academic Lecture	伊藤　兵馬	秋	木4	2	2	全	165
	Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	春	水3	2	2	全	166
	Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	秋	水3	2	2	全	166
	Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	春	水5	2	2	全	167
	Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	秋	水5	2	2	全	167
	英語の音声	青柳　真紀子	春	火4	2	2	全	168
	英語の音声	青柳　真紀子	秋	火4	2	2	全	168
	通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	水1	2	2	全	169
	通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	水1	2	2	全	169
	通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	水2	2	2	全	170
	通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	水2	2	2	全	170
	通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	木1	2	2	全	171
	通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	木1	2	2	全	171
	通訳Ⅱ	柴原　早苗	春	木2	2	2	全	172
	通訳Ⅱ	柴原　早苗	秋	木2	2	2	全	172
	英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	水3	2	2	全	173
	英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	水3	2	2	全	173
	英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	水4	2	2	全	174
	英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	水4	2	2	全	174
	英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	春	木1	2	2	全	175
	英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	秋	木1	2	2	全	175
	英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	春	木2	2	2	全	176
	英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	秋	木2	2	2	全	176
	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木3	2	2	全	177
	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木3	2	2	全	177
	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木4	2	2	全	178
	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木4	2	2	全	178
	英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	春	金1	2	3	全	179
	英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	秋	金1	2	3	全	179
	メディア英語Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2	全	180
	メディア英語Ⅰ	A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2	全	180
	メディア英語Ⅰ	A. ジェネス	春	月4	2	2	全	181
	メディア英語Ⅰ	関根　路代	春	水2	2	2	全	182
	メディア英語Ⅰ	国見　晃子	春	木2	2	2	全	183
	メディア英語Ⅰ	国見　晃子	秋	木2	2	2	全	183
	メディア英語Ⅰ	土川　孝	春	木3	2	2	全	184
	メディア英語Ⅰ	土川　孝	秋	木3	2	2	全	184
	メディア英語Ⅰ	P. ネルム	春	金1	2	2	全	185
	メディア英語Ⅰ	P. ネルム	秋	金1	2	2	全	185
	メディア英語Ⅰ	P. ネルム	秋	金2	2	2	全	186
	メディア英語Ⅱ	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	全	187
	メディア英語Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	全	187
	メディア英語Ⅱ	関根　路代	秋	水2	2	2	全	188
	メディア英語Ⅱ	P. ネルム	春	金2	2	2	全	189
	メディア英語Ⅱ	東郷　公徳	秋	金3	2	2	全	189
	シネマ英語	A. ジェネス	春	月2	2	2	全	190
	シネマ英語	高田　宣子	春	火3	2	2	全	191
	シネマ英語	高田　宣子	秋	火3	2	2	全	191
	シネマ英語	高田　宣子	春	火4	2	2	全	192
	シネマ英語	高田　宣子	秋	火4	2	2	全	192
	シネマ英語	国見　晃子	春	木3	2	2	全	193
	シネマ英語	国見　晃子	秋	木3	2	2	全	193

学科専門科目

ツーリズム

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ツーリズム交流論	鈴木　涼太郎	秋	木5	2	2		194
ツーリズム・リスク論	竹田　いさみ	秋	月3	2	2	全	195
ツーリズム文化論	鈴木　涼太郎	秋	火3	2	2	外	196
ツーリズム特殊講義 （ツーリズム・メディア論）（2013年度以降入学者）／ ツーリズム・メディア論（2012年度以前入学者）	山口　誠	秋	金1	2	2	全	197
ツーリズム・マネジメント論	鈴木　涼太郎	春	火3	2	2	外	198
国際会議・イベント事業論	井上　泰日子	秋	月1	2	2	外	199
ツーリズム政策論	井上　泰日子	秋	月3	2	2	外	200
旅行・宿泊産業論	井上　泰日子	秋	木4	2	2	外	201
航空産業論	井上　泰日子	春	月3	2	2	外	201
サステイナブル・ツーリズム論	2018年度不開講						
地域開発論（2013年度以降入学者）／ 市民参加のまちづくり論（2012年度以前入学者）	中野　美季	秋	木5	2	2	外・経	202
オルタナティブ・ツーリズム論	須永　和博	秋	木4	2	2	外	203
ツーリズム人類学	須永　和博	春	木4	2	2	外	203
ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論） （2013年度以降入学者）／ ツーリズム地誌論（2012年度以前入学者）	須永　和博	秋	水2	2	2	全	204
フィールドワーク論	須永　和博	春	水2	2	2	全	204
インターンシップ	井上　泰日子	春	木4	4	2	全	205
ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門） （2013年度以降入学者）	花本　広志	春	月3	2	2	全	206
ツーリズム特殊講義 （交流文化の思想を読み解く）（2013年度以降入学者）	山口　誠	秋	水2	2	2	全	206

トランスナショナル文化

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
トランスナショナル文化論	高橋　雄一郎	春	木5	2	2		207
トランスナショナル・メディア論	山口　誠	春	木1	2	2	英	208
メディア・ライティング論	2018年度不開講						
トランスナショナル文化特殊講義 （パフォーマンス研究）（2013年度以降入学者）／ パフォーマンス研究（2012年度以前入学者）	高橋　雄一郎	秋	木2	2	2	全	209
表象文化論	高橋　雄一郎	春	木2	2	2	外	209
開発文化論	2018年度不開講						
トランスナショナル社会学	2018年度不開講						
食の文化論	中野　美季	秋	木4	2	2	外	210
トランスナショナル文化特殊講義 （移民・難民と日本社会）（2013年度以降入学者）	高橋　雄一郎	秋	火4	2	2	全	211
トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと子ども）（2013年度以降入学者）	堀　芳枝	春	水2	2	2	全	212
トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー）（2013年度以降入学者）	堀　芳枝	秋	水2	2	2	全	212
トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）（2013年度以降入学者）	山口　誠	秋	木1	2	2	全	213
トランスナショナル文化特殊講義 （東南アジアのナショナリズム、民主主義と平和） （2013年度以降入学者）	堀　芳枝	春	金1	2	2	全	214
トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論）（2013年度以降入学者）	花本　広志	秋	木3	2	2	全	214
英語圏のエリア・スタディーズa	佐藤　唯行	春	火2	2	2	全	215
英語圏のエリア・スタディーズb	P. ネルム	秋	水4	2	2	全	215
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏の思想 a）	工藤　達也	春	月3	2	2	全	216
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏の思想 b）	工藤　達也	秋	月3	2	2	全	216
ヨーロッパの文化（フランスの音楽Ⅰ）	松橋　麻利	春	木2	2	2	全	217
ヨーロッパの文化（フランスの音楽Ⅱ）	松橋　麻利	秋	木2	2	2	全	217
ヨーロッパの文化（フランスの美術Ⅰ）	阿部　明日香	春	木3	2	2	全	218
ヨーロッパの文化（フランスの美術Ⅱ）	阿部　明日香	秋	木3	2	2	全	218
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏の歴史 a）	伊豆田　俊輔	春	金3	2	2	全	219
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏の歴史 b）	伊豆田　俊輔	秋	金3	2	2	全	219

グローバル社会

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
グローバル社会論a	竹田　いさみ	春	火3	2	2	全	220
グローバル社会論a	竹田　いさみ	秋	火3	2	2	全	220
グローバル社会論b	水本　義彦	春	火3	2	2	全	221
グローバル社会論b	水本　義彦	秋	火3	2	2	全	221
国際協力論	金子　芳樹	春	火2	2	2	全	222
国際開発論	竹田　いさみ	春	月3	2	2	全	223
国際交流論	石川　幸子	春	金2	2	2	全	224
国際NGO・ボランティア論	金子　芳樹	秋	火2	2	2	全	225
英語圏の国際関係a	永野　隆行	春	月2	2	2	全	226
英語圏の国際関係b	永野　隆行	秋	月2	2	2	全	226
グローバル・ヒストリーa（2013年度以降入学者）	水本　義彦	春	木2	2	2	全	227
グローバル・ヒストリーb（2013年度以降入学者）	水本　義彦	秋	木2	2	2	全	227
グローバル社会特殊講義（2013年度以降入学者）	永野　隆行	春	火1	2	2	全	228
グローバル社会特殊講義（2013年度以降入学者）	佐野　康子	秋	木3	2	2	全	228
グローバル社会特殊講義（2013年度以降入学者）	石川　幸子	秋	金2	2	2	全	229
グローバル社会文献セミナー（2013年度以降入学者）	佐野　康子	春	木3	2	3	全	230
グローバル社会文献セミナー（2013年度以降入学者）	石川　幸子	秋	金4	2	3	全	231
グローバル社会文献セミナー（2013年度以降入学者）	石川　幸子	春	金4	2	3	全	231
ヨーロッパの社会（ドイツ語圏の政治・経済 a）	大重　光太郎	春	月3	2	2	全	232
ヨーロッパの社会（ドイツ語圏の政治・経済 b）	大重　光太郎	秋	月3	2	2	全	232
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅰ）	廣田　愛理	春	月3	2	2	全	233
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅱ）	廣田　愛理	秋	月3	2	2	全	233
ヨーロッパの社会（ドイツ語圏の地域・環境問題 a）	岡村　りら	春	火1	2	2	全	234
ヨーロッパの社会（ドイツ語圏の地域・環境問題 b）	岡村　りら	秋	火1	2	2	全	234
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅰ）	尾玉　剛士	春	火2	2	2	全	235
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅱ）	尾玉　剛士	秋	火2	2	2	全	235

第二外国語（英語プラス1言語）

言語	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ語	ドイツ語(Ia 総合1)	S. ヴィーク	春	火4	1	1	全	237
	ドイツ語(Ib 総合1)	S. ヴィーク	秋	火4	1	1	全	237
	ドイツ語(Ia 総合2)	S. ヴィーク	春	木2	1	1	全	238
	ドイツ語(Ib 総合2)	S. ヴィーク	秋	木2	1	1	全	238
	ドイツ語(Ia 総合3)	辻本　勝好	春	金4	1	1	全	239
	ドイツ語(Ib 総合3)	辻本　勝好	秋	金4	1	1	全	239
	ドイツ語(IIa 総合1)	H. J. トロル	春	月2	1	2	全	240
	ドイツ語(IIb 総合1)	H. J. トロル	秋	月2	1	2	全	240
	ドイツ語(IIa 総合2)	H. J. トロル	春	金2	1	2	全	241
	ドイツ語(IIb 総合2)	H. J. トロル	秋	金2	1	2	全	241
	ドイツ語(IIa 総合3)	井村　行子	春	火2	1	2	全	242
	ドイツ語(IIb 総合3)	井村　行子	秋	火2	1	2	全	242
	ドイツ語(IIIa 応用)	S. メルテンス	春	火1	1	3	全	243
	ドイツ語(IIIb 応用)	S. メルテンス	秋	火1	1	3	全	243
フランス語	フランス語(Ia 総合1)	横地　卓哉	春	月1	1	1	全	244
	フランス語(Ib 総合1)	横地　卓哉	秋	月1	1	1	全	244
	フランス語(Ia 総合2)	M. デルヴロワ	春	金4	1	1	全	245
	フランス語(Ib 総合2)	M. デルヴロワ	秋	金4	1	1	全	245
	フランス語(Ia 応用)	林　ゆき	春	木2	1	1	全	246
	フランス語(Ib 応用)	林　ゆき	秋	木2	1	1	全	246
	フランス語(IIa 総合1)	平井　康和	春	金2	1	2	全	247
	フランス語(IIb 総合1)	平井　康和	秋	金2	1	2	全	247
	フランス語(IIa 総合2)	F. X. レット	春	金3	1	2	全	248
	フランス語(IIb 総合2)	F. X. レット	秋	金3	1	2	全	248
	フランス語(IIa 応用)	竹内　久雄	春	月2	1	2	全	249
	フランス語(IIb 応用)	竹内　久雄	秋	月2	1	2	全	249
	フランス語(IIIa 応用)	C. ラビニャス	春	木1	1	3	全	250
	フランス語(IIIb 応用)	C. ラビニャス	秋	木1	1	3	全	250
スペイン語	スペイン語(Ia 総合1)	小橋　さおり	春	金4	1	1	全	251
	スペイン語(Ia 総合1)	矢田　陽子	春	火4	1	1	全	251
	スペイン語(Ib 総合1)	小橋　さおり	秋	金4	1	1	全	251
	スペイン語(Ib 総合1)	矢田　陽子	秋	火4	1	1	全	251
	スペイン語(Ia 総合2)	櫻井　道子	春	木2	1	1	全	252
	スペイン語(Ia 総合2)	高橋　陸	春	金4	1	1	全	252
	スペイン語(Ib 総合2)	櫻井　道子	秋	木2	1	1	全	252
	スペイン語(Ib 総合2)	高橋　陸	秋	金4	1	1	全	252
	スペイン語(Ia 会話)	G. ベギリスタイン	春	月1	1	1	全	253
	スペイン語(Ia 会話)	P. ラゴ	春	月1	1	1	全	253
	スペイン語(Ib 会話)	G. ベギリスタイン	秋	月1	1	1	全	253
	スペイン語(Ib 会話)	P. ラゴ	秋	月1	1	1	全	253
	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	金2	1	2	全	254
	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	火2	1	2	全	254
	スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	金2	1	2	全	254
	スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	火2	1	2	全	254
	スペイン語(IIa 会話2)	P. ラゴ	春	月2	1	2	全	255
	スペイン語(IIa 会話2)	G. ベギリスタイン	春	金3	1	2	全	255
	スペイン語(IIb 会話2)	P. ラゴ	秋	月2	1	2	全	255
	スペイン語(IIb 会話2)	G. ベギリスタイン	秋	金3	1	2	全	255
	スペイン語(IIa 総合)	髙橋　睦	春	金3	1	2	全	256
	スペイン語(IIa 総合)	北岸　団	春	月2	1	2	全	256
	スペイン語(IIb 総合)	髙橋　睦	秋	金3	1	2	全	256
	スペイン語(IIb 総合)	北岸　団	秋	月2	1	2	全	256
	スペイン語(IIIa 応用)	荒沢　千賀子	春	木1	1	3	全	257
	スペイン語(IIIa 応用)	和田　佳浦	春	火1	1	3	全	257
	スペイン語(IIIb 応用)	荒沢　千賀子	秋	木1	1	3	全	257
	スペイン語(IIIb 応用)	和田　佳浦	秋	火1	1	3	全	257

言語	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
中国語	中国語(Ia 講読・文法)	丸山　貴士	春	木2	1	1	全	258
	中国語(Ib 講読・文法)	丸山　貴士	秋	木2	1	1	全	258
	中国語(Ia 会話1)	張　亜紅	春	月1	1	1	全	259
	中国語(Ib 会話1)	張　亜紅	秋	月1	1	1	全	259
	中国語(Ia 会話2)	蔡　暁軍	春	金4	1	1	全	260
	中国語(Ib 会話2)	蔡　暁軍	秋	金4	1	1	全	260
	中国語(IIa 講読・文法)	明田川　聡士	春	火2	1	2	全	261
	中国語(IIb 講読・文法)	明田川　聡士	秋	火2	1	2	全	261
	中国語(IIa 会話1)	星野　芳欣	春	月2	1	2	全	262
	中国語(IIb 会話1)	星野　芳欣	秋	月2	1	2	全	262
	中国語(IIa 会話2)	秦　敏	春	金2	1	2	全	263
	中国語(IIb 会話2)	秦　敏	秋	金2	1	2	全	263
	中国語(IIIa 応用)	近藤　光雄	春	木1	1	3	全	264
	中国語(IIIb 応用)	近藤　光雄	秋	木1	1	3	全	264
韓国語	韓国語(Ia 総合1)	森　勇俊	春	月1	1	1	全	265
	韓国語(Ib 総合1)	森　勇俊	秋	月1	1	1	全	265
	韓国語(Ia 総合2)	柳　蓮淑	春	火4	1	1	全	266
	韓国語(Ib 総合2)	柳　蓮淑	秋	火4	1	1	全	266
	韓国語(Ia 応用)	沈　元燮	春	木2	1	1	全	267
	韓国語(Ib 応用)	沈　元燮	秋	木2	1	1	全	267
	韓国語(IIa 総合1)	柳　蓮淑	春	火2	1	2	全	268
	韓国語(IIb 総合1)	柳　蓮淑	秋	火2	1	2	全	268
	韓国語(IIa 総合2)	沈　元燮	春	月2	1	2	全	269
	韓国語(IIb 総合2)	沈　元燮	秋	月2	1	2	全	269
	韓国語(IIa 応用)	白　寅英	春	金3	1	2	全	270
	韓国語(IIb 応用)	白　寅英	秋	金3	1	2	全	270
	韓国語(IIIa 応用)	羅　一等	春	火1	1	3	全	271
	韓国語(IIIb 応用)	羅　一等	秋	火1	1	3	全	271

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合講座	柿田　秀樹	春	水3	2	1	養・経・法	273
総合講座	A. ゾーリンジャー	秋	水3	2	1	養・経・法	273
総合講座	木村　佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	274
総合講座	木村　佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	274
情報科学概論a	呉　浩東	春	月2	2	1	養・経・法	275
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	月3	2	1	養・経・法	276
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	月4	2	1	養・経・法	276
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	木3	2	1	養・経・法	276
(情報処理演習)[英語]	黄　海湘	春	金1	2	1	養・経・法	277
(情報処理演習)[英語]	黄　海湘	秋	金1	2	1	養・経・法	277
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	木1	2	1	養・経・法	278
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	春	木2	2	1	養・経・法	278
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金2	2	1	養・経・法	278
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	木1	2	1	養・経・法	278
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	秋	木2	2	1	養・経・法	278
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金2	2	1	養・経・法	278
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	279
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	279
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	280
(Word中級)	松山　恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	281
(Word中級)	松山　恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	281
(Word中級)	金子　憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	281
(Word中級)	金子　憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	281
(Office中級)	松山　恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	282
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)【2015年度以前入学者】/(コーパス言語学a)【2016年度以降入学者】	羽山　恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	283
(言語情報処理2)【2015年度以前入学者】/(コーパス言語学b)【2016年度以降入学者】	羽山　恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	283
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子　憲一	春	月5	2	1	養・経・法	284
(HTML初級)	金子　憲一	春	木4	2	1	養・経・法	285
(HTML中級)	金子　憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	285
経済原論a	野村　容康	春	木3	2	2	養・経・法	286
経済原論b	野村　容康	秋	木3	2	2	養・経・法	286
社会心理学a	樋口　匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	287
社会心理学b	樋口　匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	287
社会心理学b	樋口　匡貴	秋	金3	2	2	養・経・法	288

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。
※「情報科学各論(情報処理演習)」は言語が異なる場合でも重複履修はできません。

2018 年度

交流文化学科シラバス

09 年度以降	交流文化概論 i	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、交流文化学科での学びに関する基本的な視座を身につけるための入門科目であり、学科の全教員によるオムニバス形式で行われる。交流文化学科では、「人と文化の越境現象＝ツーリズム」という理解に基づき、国家や民族、宗教や言語の壁を越えて交流する文化について研究していく。そのなかで本科目では、ツーリズムが学科の学びの基礎である語学教育を含めた多様な学問分野といかにかかわっているのかについて講義を行う。本講義の目的は、①ツーリズムをみる多様な視点の存在を知ること、②現実を理解し、知を生み出す作法としてのディシプリン（学問分野）について理解すること、③本学科の学びにおける「ツーリズム」と「語学」の意義と範囲について理解すること、④ツーリズムという現象を通して、国内外を問わず人間社会における文化的営みや政治経済の諸相について思考する態度を養うことである。	1、オリエンテーション（鈴木涼太郎） 2、キャリア／学びとしてのツーリズム（鈴木涼太郎） 3、外国人からみたツーリズム（N.H.ジョスト） 4、ツーリズムと文化①（鈴木涼太郎） 5、ツーリズムと文化②（須永和博） 6、ツーリズムとメディア（山口誠） 7、ツーリズムと文学（島田啓一） 8、ツーリズムと言語（大澤舞） 9、ツーリズムとジェンダー（堀芳枝） 10、ツーリズムと移民・難民（高橋雄一郎） 11、ツーリズムと外交・国際関係（永野隆行） 12、ツーリズムと法（花本広志） 13、ツーリズムと観光産業（井上泰日子） 14、ツーリズムと航空産業（井上泰日子） 15、まとめ（鈴木涼太郎）

到達目標	広範な領域にわたるツーリズム関連科目を学ぶ者の入門編として、ツーリズムに関する基礎知識を習得し、人間の基本的欲求としての旅と観光行為の意味を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各教員の指示に従い各自が必要な予習復習を行うこと。
テキスト	授業内で適宜紹介する。
参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業ごとに行われる小レポートおよび小テスト（100%） 欠席回数が 4 回以上の者は単位認定の資格を失う。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	交流文化概論 ii	担当者	須永　和博 山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
「トランスナショナル（越境的）」な視点で現代の社会や文化を捉える能力や態度は、これからの地球時代を生きる私たちにとっての重要なリテラシーのひとつです。「文化」「国家」「社会」など自明だとされてきた前提を離れて、異なる視点から複眼的に物事を理解するためのいくつかのヒントを提供することが本授業のねらいです。特に、人類学と社会学の理論や方法論に依拠しつつ、いくつかのトピックスをとりあげ、大学での学びにおいて必須となる基礎的な概念の理解と思考の方法について習得します。 前半は、文化人類学という学問を参照枠としながら、「異文化」を理解するための基本的な視点や感性を身につけることを目指します。 後半は、社会学の考え方を土台として、「交流」「文化」「国家」など重要概念の成り立ちと、その誕生の理由を歴史的に理解し、今後の大学生活において各自が応用できる「知の種」を手に入れることを試みます。	1. ガイダンス・人類学的思考とは（須永） 2. 自己紹介―人類学・観光・タイ（須永） 3. トランスナショナル文化とは1（須永） 4. トランスナショナル文化とは2（須永） 5. グローバリゼーションズ―ハラール産業の事例（須永） 6. 多文化社会としての日本1（須永） 7. 多文化社会としての日本2（須永） 8. 自己紹介―違和感と社会学（山口） 9. 文化とは：交流×文化＝？（山口） 10. 国家とは：ナショナルな想像力と共同体（山口） 11. 自由とは：個人主義と民主主義（山口） 12. ジェンダーとは：性別、家族、恋愛（山口） 13. 近代とは：モダンとポストモダン（山口） 14. メディアとは：「現実」と「虚構」（山口） 15. まとめ・期末試験対策（須永・山口）

到達目標	トランスナショナル研究の役割と重要性など、トランスナショナル研究に関する基礎知識を習得し、トランスナショナルを分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の授業で示す事例や重要概念について図書館などでさらに調べ、より深く学ぶこと。
テキスト	特に定めません。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	交流文化概論 iii	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
交流文化学科の専門科目分野のひとつである「グローバル社会」領域の導入科目です。当該分野には多様かつ有益な科目群が用意されていますが、この概論iii は「交流文化学科での学び」という文脈性を意識して、国際関係、国際政治、国際開発、平和学等の基礎知識を習得することを目的とします。 私たちが生きるグローバル化された社会は、国際機関、各国政府、企業やNGO等非国家行為主体、市民社会等の様々な行為主体の相互交渉、条約等の決まり事（制度的枠組み）によって「運営」されています。にもかかわらず、戦争、紛争、貧困、環境、人権等の問題は後をたちません。 グローバル社会に生きる一員として、これらの問題群について主体的に思考し分析するための基礎的要素を養います。	1. ガイダンス（予習・復習など） 2. 国際関係における主要なアクター 3. 現実主義（リアリズム） 4. 自由主義（リベラリズム） 5. 構成主義（コンストラクティビズム） 6. マルクス主義的アプローチ 7. 平和研究・平和学 8. 国際関係論におけるジェンダー 9. 国際政治とNGO 10. 国際文化論 11. トランスナショナル―移民・難民を中心に 12. 国連と人権 13. 新自由主義とグローバリゼーション 14. オルタナティブアプローチ：持続可能な開発など 15. 今学期のまとめと質疑応答

到達目標	国際関係研究の役割、および国際関係時事に関する基礎知識を習得し、グローバル社会を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	資料の指定された部分を事前に読むこと、授業中にレビューポイントが示された場合は、それに従って復習し、理解を深める（詳細は全体ガイダンスにおいて説明する）。
テキスト	授業で指示
参考文献	授業で指示
評価方法	リアクションペーパー（大福帳）15%、期末テスト 85%。ただし、欠席 4 回以上は対象外。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
大学は受験勉強のように知識をつめこむのではなく、自分で疑問に思った社会の常識や規範が「本当にそうなのか」を考え、文献調査やフィールドワークをしながら、自分の価値観・ひいては人生観を作る場所です。自立して考え、行動する大人になるためにも、大学で学ぶ土台をこの授業で作っていけたらと思います。 方法としては、まずみなさんの関心を聞いたうえでテキストを輪読しながら、レジメの作り方、論点の出し方、プレゼンテーションについて学びます。また、自分とは異なるバックグラウンドで育ったほかの学生からの意見を聞くことで、多様な意見や価値を知り、自分の考えを相対化させていけるように指導していきます。 また、個人の関心にそって、レポート作成にもチャレンジします。	1. ガイダンスおよび自己紹介など 2. 図書館研修 3. レジメ、レポート、論文の違いなど 4. レジメを作成して発表し議論してみよう① 5. レジメを作成して発表し議論してみよう② 6. レジメを作成して発表し議論してみよう③ 7. レジメを作成して発表し議論してみよう④ 8. レジメを作成して発表し議論してみよう⑤ 9. レジメを作成して発表し議論してみよう⑥ 10. レジメを作成して発表し議論してみよう⑦ 11. レジメを作成して発表し議論してみよう⑧ 12. 個人テーマ発表① 13. 個人テーマ発表② 14. 個人テーマ発表③ 15. 個人テーマ発表④

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習はテキストを事前に読んで授業に臨むこと。復習は授業で指示された課題を行うこと。
テキスト	授業で指示
参考文献	授業で指示
評価方法	授業参加・発言など 40%、レジメ発表 30%、レポート課題 30%

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
2年次以降の専門科目を受講するにあたっての基礎知識を補強していきたいと思います。そのため、ツーリズム、トランスナショナルやグローバリゼーションなどに関する分野の本を輪読していきます。内容については、参加者の問題意識を大事にして、それを伸ばせるように選書していきたいと思います。また、自分の気になるツーリズムや国際社会の問題について調べ、発表し、まとめる力も身につけるための時間も設定します。	1. ガイダンス（予習・復習について） 2. 専門書の輪読① 3. 専門書の輪読② 4. 専門書の輪読③ 5. 専門書の輪読④ 6. 専門書の輪読⑤ 7. 専門書の輪読⑥ 8. 専門書の輪読⑦ 9. 専門書の輪読⑧ 10. 専門書の輪読⑨ 11. 個人発表① 12. 個人発表② 13. 個人発表③ 14. 個人発表④ 15. 個人発表⑤

到達目標	「基礎演習 I 」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習はテキストを事前に読んで授業に臨むこと。復習は授業で指示された課題をおこなうこと。
テキスト	授業で指示します。
参考文献	授業で指示します。
評価方法	授業参加・発言など 40%、レジメ発表 30%、レポート課題 30%

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
大学での「学び」と何でしょうか。それは高校とは違い、学生の自発的、積極的な取り組みが求められるものです。大学生は、ただ教師から与えられ、教えられる知識、そしてそれをもとに出来上がっている世界を盲目的に受け入れるのではなく、それらを「批判的」に受け止める姿勢を持つことが大切です。 そして大学での「学び」を通じて、これまで当たり前だ、常識だと教えられてきた世界に疑問を持ち、真実とは何かを見極める力を身につけて欲しいと思っています。大学での「学び」を通じて獲得した能力や姿勢は、卒業後の人生にとっても大いに役立つものです。 授業では、テキスト、もしくはコピー資料を使用しながら、大学で講義を聞くこと、疑問に思うこと、調べること、読むこと、考えをまとめること、書くこと、発表することとは何かを理解し、秋学期の実践編に備えます。この授業を通じて、これから３ないし４年間の大学生活が、少しでも有意義なものとなるように願っています。 なお4月、5月、6月、7月にそれぞれ課題を設定し、レポートの提出を義務づけます。	1. ガイダンス ～この授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 図書館の利用について 3. テキストについての講義と討論①＆新聞切り抜き発表① 4. テキストについての講義と討論②＆新聞切り抜き発表② 5. レジメ作成指導＆新聞切り抜き発表③ 6. テキストについての講義と討論③＆新聞切り抜き発表④ 7. テキストについての講義と討論④＆新聞切り抜き発表⑤ 8. 草加国際村一番地レポート発表会＆新聞切り抜き発表⑥ 9. テキストについての講義と討論⑤＆新聞切り抜き発表⑦ 10.テキストについての講義と討論⑥＆新聞切り抜き発表⑧ 11.レポート読み比べ 12.個人研究テーマ指導 13.個人研究テーマ発表① 14.個人研究テーマ発表② 15.個人研究テーマ発表③

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト指定箇所を事前に読み、疑問点については、他の文献などを参考にクリアにしておくこと。また授業後は、学んだことを改めて思い起こして、内容を整理しておくこと。
テキスト	佐藤望、湯川武ほか『アカデミック・スキルズ(第２版)――大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2012 年。
参考文献	第一回目のガイダンスで参考文献リストを配布予定。
評価方法	授業の参加度（40%）、課題の提出状況（60%）による。 なお欠席 4 回以上で「不可」。なお遅刻 2 回で欠席 1 回と計算します。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、春学期に学んだことをもとにより実践に近い形で授業を進めます。自ら問題提起を行い、それについて調査し、結果を口頭で発表し、最終的に文章にしたためます。大学生としてふさわしい一連の知的作業を行います。	1. ガイダンス～この授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 読書レポートの発表① 3. 読書レポートの発表② 4. 読書レポートの発表③ 5. 個人研究テーマ発表ガイダンス 6. 個人研究発表と質疑応答①＆新聞切り抜き発表① 7. 個人研究発表と質疑応答②＆新聞切り抜き発表② 8. 個人研究発表と質疑応答③＆新聞切り抜き発表③ 9. 個人研究発表と質疑応答④＆新聞切り抜き発表④ 10. 個人研究発表と質疑応答⑤＆新聞切り抜き発表⑤ 11. 個人研究発表と質疑応答⑥＆新聞切り抜き発表⑥ 12. 個人研究発表と質疑応答⑦＆新聞切り抜き発表⑦ 13. 個人研究発表と質疑応答⑧＆新聞切り抜き発表⑧ 14. 個人研究発表と質疑応答⑨＆新聞切り抜き発表⑨ 15. 最終レポート作成指導

到達目標	「基礎演習 I 」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト指定箇所を事前に読み、疑問点については、他の文献などを参考にクリアにしておくこと。また授業後は、学んだことを改めて思い起こして、内容を整理しておくこと。
テキスト	佐藤望、湯川武ほか『アカデミック・スキルズ(第２版)――大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2012 年。
参考文献	第一回目のガイダンスで参考文献リストを配布予定。
評価方法	①読書レポート（10 点）、②読書レポート発表（10 点）、③個人研究テーマ発表（30 点）、④個人研究レポート（40 点）、⑤授業への参加度・貢献度（10 点）

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では､大学生に求められる基本的な考え方とスキルを学びます。第一に、「勉強」と「研究」は異なるため、大学では「研究」の考え方を習得し、卒業後も持続して成長できる「思考」の基盤をつくることを目指して、その基本的な部分を本演習で身につけます。 第二に、大学レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の4スキルを意識し､それぞれの具体的な技法を実践的な課題によって学びます。たとえば本やデータを「読む」ことは、誰でも自然とできるわけではなく､大学で学ぶべきレベルの｢読み方｣と、それを「思考」につなげる具体的なスキルを習得する必要があります。他の「書く」「聞く」「話す」も同じであり、本演習ではレポートの作成・情報の収集方法・グループ討論・プレゼンテーションの方法などアカデミック･スキルの基礎を実践的に学びます。 第三に、春学期では「書く」ことを重要テーマとし、作文などの文章執筆によって「思考」を明確にし、また深めていく方法を重点的にトレーニングして、秋学期の演習につなげます。	1. ガイダンス：授業の進め方について、自己紹介 2. クリティカル・リーディング①：読解の基礎 3. クリティカル・リーディング②：「比較」と「連想」 4. メディア・リテラシー①：「読む」と「読み解く」 5. 文章実習①：「書く」とは何か 6. 文章実習②：ノートテイキングと「聞く」思考 7. メディア・リテラシー②：「伝える」とは何か 8. 文章実習③：作文の合評会（「良い文章」とは？） 9. 文章実習④：「読む」と「書く」の連動に向けて 10. レジュメを作る①：レポートとレジュメの違い 11. レジュメを作る②：全員で同じ文献のレジュメを作る 12. 図書館の活用方法（本と論文だけではない図書館術） 13. グループ研究①（英文記事から思考する） 14. グループ研究②（「話す」の基礎） 15. グループ研究③（口頭プレゼンテーション・マッチ）

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の予習と課題に取り組み、図書館などを活用して主体的に予習と復習に取り組んでください。 詳細は初回のガイダンスで指示します。
テキスト	世界思想社編集部『大学生　学びのハンドブック（4 訂版)』世界思想社、2018 年
参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	授業の参加度、課題の提出状況、期末レポートにより総合的に評価します。 なお 4 回以上の欠席（遅刻 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定資格を失います。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では、春学期に学んだ「読む」「書く」「聞く」「話す」の4スキルを高度化し、さらに「調べる」と「考える」の2スキルを加えて、2年次以降の大学生活において自由に思考するための基礎知力を習得し養成することを目指します。 具体的には、①アクティブ・リーディングの技法を学び、②それをグループで選定した文献において実践し､③レジュメと口頭でプレゼンテーションして他の履修者と討論し､④さらに関連する論や情報を調べてコンパクトな研究発表に挑戦する、というプログラムによって、上記の6スキルを組み合わせて実践することに取り組みます。 また春学期の「書く」ことに引き続き、秋学期では「映像分析の方法（基礎)」や「取材の方法（思考に結び付ける取材の方法)」を取り入れ、「書く」ことで「思考」するスキルの応用と高度化にも試みます。 春学期と比べてグループでの自由研究が増えるため､授業時間外での研究活動を積極的におこなうことが求められます。	1. アクティブ・リーディング①：批判的思考の基礎 2. 「調べる」と「考える」：要約、解説、論説の検討 3. アクティブ・リーディング②：批判的思考の応用 4. アクティブ・リーディング③：グループ研究の方法 5. グループ・プレゼンテーションと討論① 6. グループ・プレゼンテーションと討論② 7. グループ・プレゼンテーションと討論③ 8. グループ・プレゼンテーションと討論④ 9. グループ・プレゼンテーションと討論⑤ 10. 映像分析の方法（基礎） 11. 自由研究発表と討論① 12. 自由研究発表と討論② 13. 自由研究発表と討論③ 14. 自由研究発表と討論④ 15. 評論文合評会、まとめ

到達目標	「基礎演習 I 」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の予習と課題に取り組み、図書館などを活用して主体的に予習と復習に取り組んでください。 詳細は初回のガイダンスで指示します。
テキスト	特に指定しません。
参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	授業の参加度、課題の提出状況、期末レポートにより総合的に評価します。 なお 4 回以上の欠席（遅刻 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定資格を失います。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学びに必要とされる基本的な知識やスキルを習得する。また大学で学んだことが将来とどのように関連するのかについて各自が考え、学生生活における学習活動をより有意義にすることを目指す。 春学期の基礎演習では、講義と演習を織り交ぜながら図書館を利用した文献検索の方法や、レポートやレジュメなどを用いた研究発表などの基本的な作法について学ぶ。授業順は使用施設の都合などにより入れ替わることがある。	1、ガイダンス 2、大学での学びのマナー 3、大学での学びとキャリア 4、研究の倫理 5、図書館ガイダンス 6、レポートの書き方① 7、レポートの書き方② 8、レジュメの作り方 9、クリティカルリーディングとは 10、レジュメを使った発表① 11、レジュメを使った発表② 12、レジュメを使った発表③ 13、レジュメを使った発表④ 14、レジュメを使った発表⑤ 15、まとめ

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表準備には授業外で図書館などを活用した学修が必要となる。授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内小課題 60%　期末課題 40% 4 回以上の欠席は単位認定の資格を失う。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学びに必要とされる基本的な知識やスキルを習得する。また大学で学んだことが将来とどのように関連するのかについて各自が考え、学生生活における学習活動をより有意義にすることを目指す。 秋学期の基礎演習では、春学期の作業を踏まえながらグループ、個人で大テーマのもと課題を各自設定し、研究プロジェクトに取り組む。文献・資料の収集からプレゼンテーションの準備までを行い、授業後半ではクラス内で発表を行う。	1、ガイダンス 2、研究テーマの設定 3、研究のための調査 4、研究のためのプレゼンテーション 5、課題発表① 6、課題発表② 7、課題発表③ 8、課題発表④ 9、課題発表⑤ 10、課題発表⑥ 11、課題発表⑦ 12、課題発表⑧ 13、課題発表⑨ 14、課題発表⑩ 15、まとめ

到達目標	「基礎演習 I 」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表準備には授業外で図書館などを活用した学修が必要となる。授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内小課題 60%　期末課題 40% 4 回以上の欠席は単位認定の資格を失う。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本演習は、1. グループ・ワークによる小研究（＝実践的な学習）を通じて、大学で勉強・研究するための基礎的な考え・技法を身につけること、2. グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況のなかでの文化の動態について学問的に分析する能力を養うこと、を目的としている。 本演習ではまず、担当者が数回、文献資料収集やフィールドワーク技法、プレゼンテーション技法、レポート作成法等について講義を行なう。そしてこの講義をふまえた上で、後半はグループごとに指定した課題（世界の食文化）に関する小研究を行なってもらう。 小研究の詳細については、初回授業で説明する。	1. 自己紹介 2. 趣旨説明・グループ分け 3. 講義1：研究とは何か 4. 講義2：文献資料収集の作法 5. 講義3：文献資料の読解・引用の流儀 6. 講義4：フィールドワークの技法 7. 講義5：プレゼンテーション・レポート作成技法 8. 発表・議論 9. 発表・議論 10. 発表・議論 11. 発表・議論 12. 発表・議論 13. 発表・議論 14. 発表・議論 15. まとめ

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞等で、ツーリズムや移民、難民、戦争などグローバルな諸現象について情報収集をすること。
テキスト	佐藤望ほか（編）2012『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会
参考文献	授業時に適宜、参考文献リストを配布する。
評価方法	小レポート・小研究の成果発表、学期末レポートの成果をふまえ、総合的な評価をする。 ただし、4 回以上欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、グループごとの小研究・プレゼンテーションを毎回行なう。 自分で調べたことをクラスメートの前で発表し、議論することを通じて、大学で勉強する際に必要なアカデミック・スキルを磨くと同時に、研究を行なうための感性や想像力を養う。	1. ガイダンス 2. 発表・議論 3. 発表・議論 4. 発表・議論 5. 発表・議論 6. 発表・議論 7. 発表・議論 8. 発表・議論 9. 発表・議論 10. 発表・議論 11. 発表・議論 12. 発表・議論 13. 発表・議論 14. 発表・議論 15. まとめ

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞等で、ツーリズムや移民、難民、戦争などグローバルな諸現象について情報収集をすること。
テキスト	特に定めない。
参考文献	授業時に適宜、参考文献リストを配布する。
評価方法	小レポート・小研究の成果発表、学期末レポートの成果をふまえ、総合的な評価をする。 ただし、4 回以上欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
英語圏の文学・文化の多様性ついて歴史的な視座から理解を深め、名作の英語表現に親しみます。主要な作家、思想家による作品を読み、背景となる文化、歴史について講義します。	1. （導入）英語を媒体とする文学・文化の世界的な多様性 2. （中世）ヨーロッパ・キリスト教中心の世界観 3. （17世紀）イギリス・ルネッサンス（シェイクスピアの時代） 4. （17-18世紀）大航海時代の文学と社会背景 5. （18世紀）理性と啓蒙の時代の文学者、思想家たち 6. （19世紀）産業革命と都市化、北米への移民 7. 中産階級と小説の勃興 8. ロマンティシズム 9. 植民地の展開 10. （20世紀）２つの世界大戦とモダニズム 11. フェミニズム、公民権運動 12. 先住民、少数民族、LGBT 13. ポストコロニアリズム 14. 多文化主義 15. （まとめ）21世紀への展望

到達目標	英語圏の文学史と文化史の基礎知識を習得し、基本的な手法をもって文学作品を鑑賞のうえ批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを十分に読み込んで予習し、事後はテクストだけでなく、歴史、文化、社会的側面についても復習をする。
テキスト	Shakespeare, *Hamlet*　ほか
参考文献	『はじめて学ぶイギリス文学史』、『はじめて学ぶアメリカ文学史』（共にミネルヴァ書房）ほか
評価方法	小レポート 2 回（50%）、学期末レポート（50%）

09 年度以降	英語の世界 I	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的： （1） 英語の文法に関する基礎的な知識を身につける。 （2） 英語と日本語を比較対照し，両者における共通点と相違点を捉えられるようになる。 （3） 日英語の比較から，英語が有する言語的特徴に関する理解を深める。 概要： 　標準英語の文法的特徴を学び，当該言語がどのような仕組みで成り立っているかを理解する。学んだ文法知識を応用し，文法的に適格な表現と不適格な表現を判別できるようになるための演習を行う。加えて，英語を日本語と比較し，両言語の文法的異同を考察する。	1.　オリエンテーション 2.　学習英文法と記述英文法 3.　動詞（1）：一致，本動詞／助動詞 4.　動詞（2）：時制・相・法 5.　日英語比較対照：英語の時制と日本語の時制 6.　主語と述部 7.　主要部，補部，付加部 8.　名詞と名詞句 9.　可算／不可算と定／不定 10.　日英語比較対照：代名詞 11.　形容詞，副詞 12.　日英語比較対照：形容詞と程度副詞 13.　前置詞と前置詞句 14.　日英語比較対照：前置詞句を使った表現 15.　まとめ

到達目標	英語学の視点をもって、単語の意味・イントネーション・語法・構文などに関する基礎知識を習得し、英語を的確に用いることができるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストを読み、理解できなかったところや疑問点をまとめておく。 復習：授業内容を整理し、改めて疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付するハンドアウト
参考文献	Huddleston and Pullum (2005), *A Student's Introduction to English Grammar*. Cambridge University Press.
評価方法	小テスト（40%）と期末試験（60%）で評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	English for Business I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
小学校高学年で英語の授業が必修となり、また、大学では学生の海外への短期留学を増加させるために、或いは、世界各国から優秀な人材を集め、競争に勝ち抜くために、４学期制を実施・検討している大学もあるようです。更に、社内公用語を英語に変更する企業が出現した現状を考えると、教育界等でも、実務に則った実践的英語慣熟及び習熟が重要課題となっております。 本講義では、ビジネス場面における基礎レベルの英語運用能力を幅広く習得します。Writing では、ビジネス英文メールの中でよく使用される独特な英語表現を勉強し、実践的な学習となるよう指導していきます。Reading では、英字新聞などに使用されているビジネスに関する基本的な語彙と語彙の説明やビジネス英語独特の表現などを学び、英文ビジネス記事の基本的な読み方を学習いたします。	１．　講義概要（詳細は各担当教員が説明します） ２．　Ｃ１：ビジネス英文メールの形式 ３．　Ｃ２：世界主要支社長会議のお知らせ＆練習問題 ４．　Ｃ３：同上への出席通知＆同上 ５．　Ｃ４：販売本部長の営業報告＆同上 ６．　Ｃ５：宣伝部長報告＆同上 ７．　Ｃ６：企画部長報告＆同上 ８．　中間試験と復習 ９．　Ｃ７：議事録送付＆練習問題 １０．Ｃ８：カリフォルニアワインの見本輸入＆同上 １１．Ｃ９：見本商品の発送通知＆同上 １２．Ｃ１０：引き合い＆同上 １３．Ｃ１１：オファー＆同上 １４．Ｃ１２：カウンター・オファー＆同上 １５．まとめ

到達目標	初学者を対象に、ライティング、リーディングを問わずビジネス場面において基礎レベルの英語を運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの予習・復習が大切。
テキスト	Writing：海老沢達郎・功力義雄著『English for Business』（DTP 出版、2014 年）Reading: プリント使用
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

09 年度以降	English for BusinessⅡ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「English for BusinessⅡ」では、「English for BusinessⅠ」の「講義目的・講義概要」で書かれた、WritingとReadingの続きを行い、段階的にWritingとReadingの更なる能力向上に努めます。ビジネス英文メールの書き方の習得と同時に、企業内のさまざまなことも学び、異文化への理解増進、外国への留学手続き、国際的に活躍する企業への就職活動、そして就職してからの業務遂行に役立つことができるよう指導致します。国際社会に対応できるように、WritingとReadingを関連させて総合的なビジネス英語の基本を学んでいきます。	１．　講義概要（詳細は各担当教員が説明します） ２．　Ｃ１３：カウンター・オファー受託通知＆練習問題 ３．　Ｃ１４：信用状開設準備＆同上 ４．　Ｃ１５：船積通知＆同上 ５．　Ｃ１６：クレーム＆同上 ６．　Ｃ１７：クレームの解決＆同上 ７．　Ｃ１８：国際展示会及び営業会議招待＆同上 ８．　中間試験と復習 ９．　Ｃ１９：国際展示会及び会議出席通知＆練習問題 １０．Ｃ２０：宿泊などの申し込み＆同上 １１．Ｃ２１：有力販売店主の工場視察＆同上 １２．Ｃ２２：ホテルへの苦情＆同上 １３．Ｃ２３：顧客のホテル苦情への返信＆同上 １４．Ｃ２４：有力販売店主の工場長宛礼状＆同上 １５．まとめ

到達目標	「English for Business I」の学習成果のうえに、簡単なビジネス通信文の読み書き、日常的なビジネス文書の読み書き、電話、面談等による簡単な商談、社交会話において、英語を運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの予習・復習が大切。
テキスト	Writing：海老沢達郎・功力義雄著『English for Business』（DTP 出版、2014 年）Reading: プリント使用
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

09 年度以降	Listening & Speaking（火１）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will work on developing listening comprehension skills. Listening activities will be followed by guided conversations and discussions on the topics introduced in the listenings in order to increase fluency in spoken English. One component of the course is to study online with English Central. The course plan contains a list of topics which may be changed according to the response of the students.	1. Introduction to the course 2. Talking about work 3. Some national stereotypes 4. London 5. Living in the country 6. Wales 7. General knowledge quiz 8. Roleplay 9. TV sitcom 10. A famous author 11. Discussion 12. In the year I was born 13. Emigrants 14. Review 15. Feedback

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	
評価方法	Grades will be based on class performance (30%), classroom exercises (30%) and test results (40%).

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®（火１）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
We will continue the form of lesson established in the Listening and Speaking class, this time expanding the materials to include reading matter to help students build their English skills so that they can think and respond in English on the topics covered. One component of the course will be to study online with Dokkyo Lingua Porta. The list of topics in the course plan may be changed according to the response of the students.	1. Consolidation 2. Travel and national preconceptions 3. Language learning 4. The media 5. Health 6. Health and alternative remedies 7. Phrasal verbs 8. General knowledge quiz 9. TV sitcom 10. Tourism in the Lake District 11. TV sitcom 12. Festivals 13. Seasonal topic 14. Review 15. Feedback

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	
評価方法	Grades will be based on class performance (30%), classroom exercises (30%) and test results (40%).

09 年度以降	Listening & Speaking（火２）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will work on developing listening comprehension skills. Listening activities will be followed by guided conversations and discussions on the topics introduced in the listenings in order to increase fluency in spoken English. One component of the course is to study online with English Central. The course plan contains a list of topics which may be changed according to the response of the students.	1. Introduction to the course 2. Talking about work 3. Some national stereotypes 4. London 5. Living in the country 6. Wales 7. General knowledge quiz 8. Roleplay 9. TV sitcom 10. A famous author 11. Discussion 12. In the year I was born 13. Emigrants 14. Review 15. Feedback

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	
評価方法	Grades will be based on class performance (30%), classroom exercises (30%) and test results (40%).

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®（火２）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
We will continue the form of lesson established in the Listening and Speaking class, this time expanding the materials to include reading matter to help students build their English skills so that they can think and respond in English on the covered. One component of the course will be to study online with Dokkyo Lingua Porta. The list of topics in the course plan may be changed according to the response of the students.	1. Consolidation 2. Travel and national preconceptions 3. Language learning 4. The media 5. Health 6. Health and alternative remedies 7. Phrasal verbs 8. General knowledge quiz 9. TV sitcom 10. Tourism in the Lake District 11. TV sitcom 12. Festivals 13. Seasonal topic 14. Review 15. Feedback

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	
評価方法	Grades will be based on class performance (30%), classroom exercises (30%) and test results (40%).

09 年度以降	Listening & Speaking	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
音声教材を用い、発音と聞き取りの演習を行う。 1. 単音 英語の母音・子音を学ぶ。特に母語にないものや別の音で 代用しがちな音を理解し、その聴覚印象と調音方法を習得 する。 2. 音連続 音の連結による変化を学ぶ。主に、単音の連続による同化や脱落などの音変化を理解・習得する。3. 語アクセント 語アクセントを学ぶ。卓立性（強さ）を理解・習得し、さらに強音節での子音強化や弱音節での母音弱化など、音節の強弱に付随する母音・子音の特徴を学習する。 4. リズムとイントネーション 句や文のリズムとイントネーションを学ぶ。	1．Orientation 2．Lesson 1 3．Lesson 2 4．Lesson 3 5．Lesson 4 6．Lesson 5 7．Lesson 6 8．Lesson 7 9．Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 14 15. まとめ

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：予習と毎回の単語テストに備えて学習する。 事後学修：復習とオンライン学習を進める。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	初回に指示します。
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で英語音の特徴を理解し、身に付けたことを実践に生かし、プレゼンテーションやニュース、アナウンスの英語が理解できるようにする。また、リスニング力を生かし、TOEIC®で高得点が取れるように学習する。	1．Orientation 2．Lesson 1 3．Lesson 2 4．Lesson 3 5．Lesson 4 6．Lesson 5 7．Lesson 6 8．Lesson 7 9．Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 14 15. まとめ

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：予習と毎回の単語テストに備えて学習する。 事後学修：復習とオンライン学習を進める。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	初回に指示します。
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Listening & Speaking（月２）	担当者	Ｌ．Ｇ．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on developing listening and speaking skills. Controlled short conversations and listening exercises will be used to help build confidence among the students. After working in controlled situations, students will be encouraged each lesson to practice speaking and paired conversations beyond the controlled topics while developing and advancing their speaking and listening skills. Listening practices will focus on various “kinds” of English. Short reading and writing exercises will also be incorporated to enhance students’ overall English ability.	1. Orientation and Course Guidance 2. Introductions 3. My home 4. My daily life 5. My neighborhood 6. My Work and Occupations 7. Free time 8. Mid-term assessment 9. Food and Drink 10. Travel 11. Education 12. Health 13. Numbers and prices 14. People 15. End-term assessment and review

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to make a word and idiom notebook for each lesson. On-line listening will also be assigned for each unit. Assignments from Education Central will also be given.
テキスト	Alastair Graham-Marr. World Voices 2. Abax ELT Publishers.
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%) and end-term assessment (30%).

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®（月２）	担当者	Ｌ．Ｇ．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
Students will continue to develop their listening and speaking skills in this course. The main focus of this course will be developing listening skills and strategies. From these strategies, students will further develop conversation strategies to be used in various situations. Topics presented will be thematic in nature so students can continue to build their vocabulary and use idiomatic phrases correctly. Various types of listening activities will be incorporated throughout the course to give students a good overall exposure to English used around the world and throughout society.	1. Orientation and Course Guidelines / Review 2. Vacation 3. Japanese Festivals 4. Sports 5. Shopping / Consumerism 6. The Weather Report 7. Tweets and Snaps 8. Mid-term assessment 9. Environmental Issues 10. Gender roles 11. IT and Society 12. Marriage and families 13. Future dreams; Future Worries 14. Consolidation and Review 15. End-term assessment and future study goals

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to make a word and idiom notebook throughout the course. Assignments from Education Central will also be given.
テキスト	There will be no textbook used during this course. Handouts will be distributed each week.
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%) and end-term assessment (30%).

09 年度以降	Listening & Speaking（月３）	担当者	Ｌ．Ｇ．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on developing listening and speaking skills. Controlled short conversations and listening exercises will be used to help build confidence among the students. After working in controlled situations, students will be encouraged each lesson to practice speaking and paired conversations beyond the controlled topics while developing and advancing their speaking and listening skills. Listening practices will focus on various “kinds” of English. Short reading and writing exercises will also be incorporated to enhance students’ overall English ability.	1. Orientation and Course Guidance 2. Introductions 3. My home 4. My daily life 5. My neighborhood 6. My Work and Occupations 7. Free time 8. Mid-term assessment 9. Food and Drink 10. Travel 11. Education 12. Health 13. Numbers and prices 14. People 15. End-term assessment and review

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to make a word and idiom notebook for each lesson. On-line listening will also be assigned for each unit. Assignments from Education Central will also be given.
テキスト	Alastair Graham-Marr. World Voices 2. Abax ELT Publishers.
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%) and end-term assessment (30%).

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®（月３）	担当者	Ｌ．Ｇ．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
Students will continue to develop their listening and speaking skills in this course. The main focus of this course will be developing listening skills and strategies. From these strategies, students will further develop conversation strategies to be used in various situations. Topics presented will be thematic in nature so students can continue to build their vocabulary and use idiomatic phrases correctly. Various types of listening activities will be incorporated throughout the course to give students a good overall exposure to English used around the world and throughout society.	1. Orientation and Course Guidelines / Review 2. Vacation 3. Japanese Festivals 4. Sports 5. Shopping / Consumerism 6. The Weather Report 7. Tweets and Snaps 8. Mid-term assessment 9. Environmental Issues 10. Gender roles 11. IT and Society 12. Marriage and families 13. Future dreams; Future Worries 14. Consolidation and Review 15. End-term assessment and future study goals

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to make a word and idiom notebook throughout the course. Assignments from Education Central will also be given.
テキスト	There will be no textbook used during this course. Handouts will be distributed each week.
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%) and end-term assessment (30%).

09 年度以降	Grammar for TOEFL®＆TOEIC® I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英語の語法と文法の知識を身につけてもらうことにあります。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから学習し始めると、次第に英語ということばの学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語母語話者のモノの見方がどのような表現となって表れているのだろうかと探っていく習慣を身につけていくことができるようになります。そしてこの学習方法こそが、結局は英語を身に付ける効率の良い方法であることがわかるようになります。 授業では、テキストを基にした講義から、文法表現にはその形式に伴うそれなりの意味が有ることがわかるようになり、ネイティブ・スピーカーが英語を理解しているとき、その頭の中で何が起こっているのかを感じ取ることができるようになります。	1. モノの捉え方の違いを示す(1)―不定冠詞＆複数語尾 vs.はだか名詞 2. モノの捉え方の違いを示す(2)―不定冠詞＆複数語尾 vs.はだか名詞 3. ＜情報構造＞からモノを捉える―定冠詞の用い方 4. 数量を表現する―(a) little、all、some、any、no、both、each と every、ほか 5. 前置修飾と後置修飾―<修飾>形式による意味の違い、関係詞節とは何か 6. 関係詞節の制限的用法と非制限的用法、関係詞 which と that の違い 7. モノの代わりになる代名詞―人称代名詞・再帰代名詞、'it'と'that'の違い 8. 名詞の代わりになる表現―名詞節、I like to swim/swimming.の違い 9. コトを時間の関係で捉える―時制と相(1) 10. コトを時間の関係で捉える―時制と相(2) 11. コトの未来を語る―未来時制はない!?、will と be going to の使い分け 12. 動詞あれこれ(1)―自動詞と他動詞、原形・現在/過去分詞形、ほか 13. 動詞あれこれ(2)―get と have と be の世界、-ing の力 14. 話し手の態度を示す ―法助動詞（can、may、must & have to、will & shall、ほか） 15. 豊かな意味を生み出す副詞的表現―時・場所・頻度・様態・付帯状況・目的などを表す表現

到達目標	「英語の世界Ｉ」の学習成果のうえに、英語の語法・文法に対する知識をさらに深め、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習をしっかり行う。
テキスト	田中茂範著『わかるから使えるへ　表現英文法［増補改訂第２版］』（コスモピア）
参考文献	授業で適宜提示する
評価方法	定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。

09 年度以降	Grammar for TOEFL®＆TOEIC®Ⅱ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英語の語法と文法の知識を身につけてもらうことにあります。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから学習し始めると、次第に英語ということばの学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語母語話者のモノの見方がどのような表現となって表れているのだろうかと探っていく習慣を身につけていくことができるようになります。そしてこの学習方法こそが、結局は英語を身に付ける効率の良い方法であることがわかるようになります。 授業では、テキストを基にした講義から、文法表現にはその形式に伴うそれなりの意味が有ることがわかるようになり、ネイティブ・スピーカーが英語を理解しているとき、その頭の中で何が起こっているのかを感じ取ることができるようになります。	1. 空間関係を表す基本前置詞 (1)―at、in、on、off、の意味世界 2. 同 (2)―about と around、across、along、などの意味世界 3. 同 (3)―over と above、with、to、for、などの意味世界 4. 視点から捉える態 (1)―能動態と受動態の意味・機能と使い分け 5. 同 (2)―get 受動態と be 受動態の使い分け、中間態の意味・機能 6. 同 (3)―受動態と感情表現、形容詞的な疑似受動態と前置詞、ほか 7. 事態表現における動詞との共演者 (α) (1)―α の義務的表現 8. 同 (2)―α の任意的表現 9. コトを取り巻く状況世界(1) ―時・場所・頻度・様態の副詞的表現の機能と位置 10. 同 (2)―付帯状況・目的・結果・理由の副詞的表現の機能 11. 情報の配列の仕方 (1)―典型的な語順、情報の流れと語順の原則 12. 同 (2)―文の接続方法（and、when、because ほか、談話標識などの使い方） 13. 報を表す文のタイプ(1) ―疑問文、命令文、感嘆文、there 構文、倒置構文、省略文 14. 同 (2)―比較構文、モノとコトの否定構文、話法、ほか 15. 仮想の状況設定―条件文との違い、 仮定法現在・過去・過去完了、その他の仮定法表現

到達目標	「英語の世界Ｉ」の学習成果のうえに、英語の語法・文法に対する知識をさらに深め、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習をしっかり行う。
テキスト	田中茂範著『わかるから使えるへ　表現英文法［増補改訂第２版］』（コスモピア）
参考文献	授業で適宜提示する
評価方法	定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
Students enrolled in this course are expected to increase the ability to think in English, and increase English vocabulary. Furthermore, students are expected to deepen the understanding of foreign cultures and literatures. The course is also designed to prepare basic English skills for students considering to pursue academics in English speaking countries in the future. This course is conducted using a textbook or other reading materials selected by the instructor. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination/ Reading and Discussion (7) 9. Reading and Discussion (8) 10. Reading and Discussion (9) 11. Reading and Discussion (10) 12. Reading and Discussion (11) 13. Reading and Discussion (12) 14. Reading and Discussion (13) 15. Course Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is as above. Students are expected to further improve the skills acquired in the spring semester, by reading advanced reading materials. This course is conducted using a textbook or other reading materials selected by the instructor. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination/ Reading and Discussion (7) 9. Reading and Discussion (8) 10. Reading and Discussion (9) 11. Reading and Discussion (10) 12. Reading and Discussion (11) 13. Reading and Discussion (12) 14. Reading and Discussion (13) 15. Course Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標： 　英語の語彙を増やしながら、最終的には日本語を介さず英語でテキストを理解する能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。 授業概要： 　短編小説を中心に、毎週、指示された範囲を予習してきてもらい、パラグラフごとに日本語や英語で要約したり、精読が必要な箇所は、和訳してもらいます。 　時間の許す限り、RL R練習（Read, Look Up, and Repeat: テキストの英文を意味のまとまりごとに声を出して読み、テキストから目を離して、その箇所をリピートし、徐々にリピートできる範囲を長くする練習）を用いて、英語の総合力アップを図りたいと思います。	1. 授業のやり方、評価方法などの説明、RLR練習の実習など 2. 約2ページから4ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 3-15. 同上。随時、Web上の課外読み物についても学習したい。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前までに、指定された範囲の課題（語彙調べ、内容理解、キーセンテンスの発見など）を完了させる。 授業後は、学習した範囲の音読と書き取り、重要箇所の和訳などをノートにまとめる。
テキスト	テプリントを使用の予定
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、輪読（プレゼン）の質や授業への貢献度 20%

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標： 　“Reading Strategies I ”に引き続き、英語の語彙力をつけながら、直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。“Reading Strategies I ”で身につけた基礎的な読解技能を定着させ、発展させる。 授業概要： 　春学期の該当箇所を参照してください。	1. 約2ページから4ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 2-15. 同上。随時、Web上の課外読み物についても学習したい。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前までに、指定された範囲の課題（語彙調べ、内容理解、キーセンテンスの発見など）を完了させる。 授業後は、学習した範囲の音読と書き取り、重要箇所の和訳などをノートにまとめる。
テキスト	テプリントを使用の予定
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、輪読（プレゼン）の質や授業への貢献度 20%

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は，「外国の文化を理解する力をつける．将来，英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する」ことを目標としています．このため，英文を「精確に読む」技術と姿勢を身につけます．「読む≠訳す」を徹底的に意識します． 英文を精確に読むには，英文の構造，指示語や指示対象，修飾・被修飾の関係，動詞句の解釈などを正しく理解しなければなりません．また，内容を「理解して学習する」ことが目的なので，記述の背景や筆者の意図などを意識しながら読んでいきます． 「読む」行為において，書かれているものが日本語であるか外国語であるかを区別することなく，「英語を日本語のように読む」ことを目指してください．「読む」行為は，あくまでも何かを学ぶための手段でしかありません．	1.　授業オリエンテーション 2.　「読む」とは何か（訳す≠読む） 3.　Chapter 1　：英文の構造と諸概念の把握 4.　Chapter 1　：動詞句の解釈（時制，態） 5.　Chapter 1　：動詞句の解釈（相） 6.　Chapter 2　：動詞句の解釈（法助動詞） 7.　Chapter 2　：準動詞（不定詞と分詞・動名詞） 8.　Chapter 2　：接続詞 9.　中間試験と前半の総括 10.　Chapter 3　：分詞構文 11.　Chapter 3　：指示語（代名詞，指示形容詞） 12.　Chapter 3　：名詞句構造と意味 13.　Chapter 4　：動詞句と直後の名詞節 14.　Chapter 4　：副詞節構造・前置詞句構造と意味 15.　Chapter 4　：名詞節・形容詞節構造と意味

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された箇所の英文や語句・背景について十分に予習すること．また，既習箇所を繰り返し読み返して，自動化を図るべく徹底して復習すること．
テキスト	Becker, C. (2012). American and English Ideals (rev. ed.). 英宝社.
参考文献	Jaybee Choi. (2018). 『英語はぜったい逆から読むな』，IBC パブリッシング.
評価方法	中間試験・期末試験（50%），授業レポート（20%），授業内評価（20%），ポートフォリオ（10%）で評価します.

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は，「『Reading Strategies I 』に引き続き，外国の文化を理解する力をつける．『Reading Strategies I 』で身につけた基礎的な読解技能を定着させ，発展させる」ことを目標にしています．春学期の学習を踏まえ，短時間により多くの量の英文を読むための技術と能力を身につけます． まず，パラグラフの構造を理解した上で，精確に読むべき箇所とscanningやskimmingの技術を使って読む箇所を判断し，要約することを目指します． 次に，エッセイ全体の構造を理解し，「意味段落」を意識しながら要約して説明することを目指します． 最終的には，「英語を日本語のように読」み，その内容を簡潔に，自分の言葉で，分かり易く説明できるようになることを目指します．	1.　エッセイの構造とパラグラフの構造 2.　要約の意義と方法 3.　Chapter 5 4.　Chapter 5 5.　Chapter 6 6.　Chapter 6 7.　Chapter 7 8.　Chapter 7 9.　中間試験と前半の総括 10.　Chapter 8 11.　Chapter 9 12.　Chapter 10 13.　Chapter 11 14.　Chapter 12 15.　Chapter 13

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された箇所の英文や語句・背景について十分に予習すること．また，既習箇所を繰り返し読み返して，自動化を図るべく徹底して復習すること．
テキスト	Becker, C. (2012). American and English Ideals (rev. ed.). 英宝社.
参考文献	
評価方法	中間・期末試験（50%），授業レポート（20%），授業内評価（20%），ポートフォリオ（10%）で評価します.

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的：英文読解力の素地を養うために，以下の力を身につける。 （1） 語彙や文法の知識を活用し，英語で書かれた文章を正確に読んで理解する力 （2） 文章全体を視野にいれて，それぞれの文や段落を読んで理解する力 概要： 受講者にとって、生きていく上でのヒントになるような文章や，最新の一般向け科学記事など，英語で書かれた生のテキストを読む。テキストに関する様々な「なぜ？」を共に考えながら，上記の力を段階的に身につけていく。	1. オリエンテーション 2. 「読む」とはどういうことか：読み手の責任 3. 「読む」とはどういうことか：解釈 4. 論理的に捉える：一文レベル 5. 前提と解釈：否定の表現 6. 文と文のつながり 7. 意味のまとまりと音読 8. 段落と主題（1） 9. 段落と主題（2） 10. 論理的に捉える：段落レベル 11. 文章における段落の位置づけ（1） 12. 文章における段落の位置づけ（2） 13. 論理的に捉える：文脈レベル 14. 文章構成を把握する 15. まとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストを読み，語句や一般知識（固有名詞など）について調べておく。また，読んで理解できなかったことをまとめておく。／復習：授業内容を整理し，改めて疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付する
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	小テスト（40%）と期末試験（60%）で評価する。

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的：「Reading Strategies I」で身につけた（1）と（2）の力を向上させながら，さらに（3）の力を身につける。 （1） 語彙や文法の知識を活用し，英語で書かれた文章を正確に読んで理解する力 （2） 文章全体を視野にいれて，それぞれの文や段落を読んで理解する力 （3） 正確に読み取った内容に関して自らの考えを持ち，クリティカル（ロジカル）に思考する力 概要： 受講者にとって、生きていく上でのヒントになるような文章や，最新の一般向け科学記事など，英語で書かれた生のテキストを読む。テキストに関する様々な「なぜ？」を共に考えながら，論理的に思考していく。	1. オリエンテーション 2. 「読み手」と「書き手」の責任 3. 思考と言語の関係 4. 書き手の立場になる：情報抽出の適切性 5. 書き手の立場になる：解釈と言語形式の関係 6. 「行間」を読むということ 7. 「行間」の上限 8. 文法（言語形式）と文脈（1） 9. 文法（言語形式）と文脈（2） 10. 文法（言語形式）と曖昧性 11. 文法（言語形式）と根拠 12. 文章構成と論理関係（1） 13. 文章構成と論理関係（2） 14. 思考のアウトプットと論理関係 15. まとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストを読み，語句や一般知識（固有名詞など）について調べておく。また，読んで理解できなかったことをまとめておく。／復習：授業内容を整理し，改めて疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付する
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	小テスト（40%）と期末試験（60%）で評価する。

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、英語の語彙を増やしながら、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。1. Vocabulary Building: 文脈や接辞を利用して知らない単語や句の意味を推測し、語の用法を学び、語彙を増やす。 2. Reading aloud: 文章の区切り目や抑揚にも注意を払うことによって、意味の単位をしっかりと把握する。3. Previewing and Predicting: どのような内容のものを読もうとしているのか、本の表や目次、挿絵などを見て予測し、すでに持っている関連した知識や経験と結びつけることによって、これから読もうとする本の内容理解への準備をする。 また、個人やグループでのプレゼンテーション及び、ディスカッションを行う。	1.　オリエンテーション 2.～7.　Gone with the Wind『風と共に去りぬ』 8.　プレゼンテーション 9.～13. Little Women『若草物語』 14.　プレゼンテーション 15.　Review ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習、またオンライン学習を行ってください。
テキスト	*American Spirits in Movies*　Seibido
参考文献	
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。 全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に学習した、Reading Strategies I の技法を生かして、さらに英文読解力を向上させる。1. Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測し、語の用法を学び、使える語彙を増やす。 2. Previewing and Predicting: どのような内容のものを 読もうとしているのか、本の表や目次、挿絵などを見て予測し、関連した知識や経験と結びつけることによって、これから読もうとする本の内容理解への準備をする。 3. Recognizing patterns of text organization: 原因と結果、比較、時間の経過など、文章構成の型に気づく。 4. Making inferences: 文章としてはっきりとは書かれていないが、そこに含まれる内容を推測する。 5. Outlining: 文章を構成している各パラグラフで、主題を読み取り、文章全体の構成の中での位置づけを把握する。	1　.オリエンテーション 2.～7.　The Wizard of Oz『オズの魔法使い』 8.　プレゼンテーション 9.～13. To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』 14.　プレゼンテーション 15.　Review ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習、またオンライン学習を行ってください。
テキスト	*American Spirits in Movies*　Seibido
参考文献	
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。 全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、Reading Strategies Ⅰ、Ⅱで学習した内容を踏まえ、英文読解の方略をさらに向上させることを目的とする。 1. Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 2. Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3. Faster reading: ScanningやSkimmingの技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 4. Effective reading: 読む目的に合わせて精読したり、速読したりして、読み方を切り替えて用いる柔軟さを身に付ける。また、個人やグループでのプレゼンテーション及び、ディスカッションを行う。	1.　オリエンテーション 2.～7.　Gone with the Wind『風と共に去りぬ』 8.　プレゼンテーション 9.～13. Little Women『若草物語』 14.　プレゼンテーション 15.　Review ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習、またオンライン学習を行ってください。
テキスト	*American Spirits in Movies*　Seibido
参考文献	
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。 出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、Reading StrategiesⅢに引き続き、英文読解 の方略をさらに向上させることを目的とする。 1. Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 2. Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3. Faster reading: ScanningやSkimmingの技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 4. Effective reading: 読む目的に合わせて精読したり、速読したりして、読み方を切り替えて用いる柔軟さを身に付ける。また、個人やグループでのプレゼンテーション及び、ディスカッションを行う。	1.　オリエンテーション 2.～7.　The Wizard of Oz『オズの魔法使い』 8.　プレゼンテーション 9.～13. To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』 14.　プレゼンテーション 15.　Review ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習、またオンライン学習を行ってください。
テキスト	*American Spirits in Movies*　Seibido
参考文献	
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。 出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading：ScanningやSkimmingの技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 オンライン学習プログラム：交流文化学科のカリキュラムの一環として、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。これに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映される。	第1回 導入 第2回～第14回 初回授業にて指示します。 第15回 まとめ ※ 上記内容が変更する場合もあります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。 出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading：ScanningやSkimmingの技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 オンライン学習プログラム：交流文化学科のカリキュラムの一環として、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。これに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映される。	第1回 導入 第2回～第14回 初回授業にて指示します。 第15回 まとめ ※ 上記内容が変更する場合もあります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。 出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、Reading Strategies Ⅰ，Ⅱで学習したことを踏まえ、さまざまな文章や文体を以下の活動を通して、戦略的に読むことを目的とする。 1) Vocabulary Building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測し、単語の用法を学ぶ。 2) Intensive Reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3) Faster Reading: scanningやskimmingの技法も含め、短時間に多くの文を読む。 4) Effective Reading: 読む目的に合わせて精読したり速読したりして、柔軟に読む方法を身につける。 また、毎回の授業で個人やグループでのプレゼンテーション及び、ディスカッションを行う。	第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 初回授業にて指示する。 第15回 まとめ

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト	初回の授業にて指示する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表と参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)、オンライン学習プログラム(30%)

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
春に引き続き本講義では、さまざまな文章や文体を以下の活動を通して、戦略的に読むことを目的とする。 1) Vocabulary Building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測し、単語の用法を学ぶ。 2) Intensive Reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3) Faster Reading: scanningやskimmingの技法も含め、短時間に多くの文を読む。 4) Effective Reading: 読む目的に合わせて精読したり速読したりして、柔軟に読む方法を身につける。 また、毎回の授業で個人やグループでのプレゼンテーション及び、ディスカッションを行う。	第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 初回授業にて指示する。 第15回 まとめ

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト	初回の授業にて指示する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表と参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)、オンライン学習プログラム(30%)

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ（水２）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この講義では語彙を増やし、目的に応じて多角的に英文を読みとる力を養います。 講義概要 　テキストを読み、わかったつもりから確かな理解へと読解力を磨いていきます。発表や小テスト、ディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。 　辞書は毎回必ず持参すること。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10.　リーディング演習 11.　リーディング演習 12.　リーディング演習 13.　リーディング演習 14.　リーディング演習 15.　総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ、適宜プリントを配布します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ（水２）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた読解力を定着させ、発展させることを目指します。 講義概要 　具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。オリエンテーションには必ず出席してください。 　毎回必ず辞書を持参すること。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10.　リーディング演習 11.　リーディング演習 12.　リーディング演習 13.　リーディング演習 14.　リーディング演習 15.　総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ、適宜プリントを配布します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ（水１）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この講義では語彙を増やし、目的に応じて多角的に英文を読みとる力を養います。 講義概要 　テキストを読み、わかったつもりから確かな理解へと読解力を磨いていきます。発表や小テスト、ディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。 　辞書は毎回必ず持参すること。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10.　リーディング演習 11.　リーディング演習 12.　リーディング演習 13.　リーディング演習 14.　リーディング演習 15.　総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ、適宜プリントを配布します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ（水１）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた読解力を定着させ、発展させることを目指します。 講義概要 　具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。オリエンテーションには必ず出席してください。 　毎回必ず辞書を持参すること。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10.　リーディング演習 11.　リーディング演習 12.　リーディング演習 13.　リーディング演習 14.　リーディング演習 15.　総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ、適宜プリントを配布します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標：英語の語彙を増やしながら、最終的には日本語を介さず英語でテキストを理解する能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような読解技能を学習する。 授業概要：短編小説を中心に、毎週、指示された範囲を予習してきてもらい、パラグラフごとに日本語や英語で要約したり、精読が必要な箇所は、和訳してもらいます。	1. 授業のやり方、評価方法などの説明、RLR練習の実習など 2. 約2ページから4ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 3-15. 同上。随時、Web上の課外読み物についても学習したい。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前までに、指定された範囲の課題(語彙調べ、内容理解、キーセンテンスの発見など)を完了させる。 授業後は、学習した範囲の音読と書き取り、重要箇所の和訳などをノートにまとめる。
テキスト	テプリントを使用の予定
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、輪読（プレゼン）の質や授業への貢献度 20%

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標：“Reading StrategiesⅢ”に引き続き、英語の語彙力をつけながら、直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。“Reading StrategiesⅢ”で身につけた基礎的な読解技能を定着させ、発展させる。 授業概要：春学期の該当箇所を参照してください。	1. 約2ページから4ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 2-15. 同上。随時、Web上の課外読み物についても学習したい。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前までに、指定された範囲の課題(語彙調べ、内容理解、キーセンテンスの発見など)を完了させる。 授業後は、学習した範囲の音読と書き取り、重要箇所の和訳などをノートにまとめる。
テキスト	テプリントを使用の予定
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、輪読（プレゼン）の質や授業への貢献度 20%

09 年度以降	Writing Strategies Ⅰ （火２）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The main purpose of this course is to help students write English sentences using correct grammar. Furthermore, the course makes students aware of commonly made mistakes and at the same time, it introduces self-help strategies to help students analyze problems and revise their writing. This course is conducted using a textbook or other materials selected by the instructor. Students enrolled in this course are expected to engage in various exercises and other activities suggested by the instructor. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Writing and Discussion (1) 3. Writing and Discussion (2) 4. Writing and Discussion (3) 5. Writing and Discussion (4) 6. Writing and Discussion (5) 7. Writing and Discussion (6) 8. Midterm Examination/ Writing and Discussion (7) 9. Writing and Discussion (8) 10. Writing and Discussion (9) 11. Writing and Discussion (10) 12. Writing and Discussion (11) 13. Writing and Discussion (12) 14. Writing and Discussion (13) 15. Course Review

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Writing StrategiesⅡ （火２）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students write a coherent paragraph, which is a necessary process in composing most forms of academic, business, professional and general-purpose writing in English. The course will focus on various aspects of good writing such as how to organize paragraph structures and use certain paragraph patterns. This course is conducted using a textbook or other materials selected by the instructor. Students enrolled in this course are expected to engage in various exercises and other activities suggested by the instructor. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Writing and Discussion (1) 3. Writing and Discussion (2) 4. Writing and Discussion (3) 5. Writing and Discussion (4) 6. Writing and Discussion (5) 7. Writing and Discussion (6) 8. Midterm Examination/ Writing and Discussion (7) 9. Writing and Discussion (8) 10. Writing and Discussion (9) 11. Writing and Discussion (10) 12. Writing and Discussion (11) 13. Writing and Discussion (12) 14. Writing and Discussion (13) 15. Course Review

到達目標	「Writing Strategies Ⅰ」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Writing Strategies Ⅰ （月４）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The main purpose of this course is to help students write English sentences using correct grammar. Furthermore, the course makes students aware of commonly made mistakes and at the same time, it introduces self-help strategies to help students analyze problems and revise their writing. This course is conducted using the textbook indicated below. Students enrolled in this course are expected to engage in textbook exercises and various other activities. This course is taught in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO before the first class.	1. Introduction 2. Social Relationships (1) 3. Social Relationships (2) 4. Social Relationships (3) 5. Science and Detection (1) 6. Science and Detection (2) 7. Science and Detection (3) 8. Midterm Examination/ City Solutions (1) 9. City Solutions (2) 10. City Solutions (3) 11. City Solutions (4) 12. Danger Zones (1) 13. Danger Zones (2) 14. Danger Zones (3) 15. Course Review

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	Vargo, Mari, and Laurie Blass, *Pathways 3: Reading, Writing, and Critical Thinking* (Boston: National Geographic Learning, 2014).
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Writing StrategiesⅡ （月４）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students write a coherent paragraph, which is a necessary process in composing most forms of academic, business, professional and general-purpose writing in English. The course will focus on various aspects of good writing such as how to organize paragraph structures and use certain paragraph patterns. This course is conducted using the textbook indicated below. Students enrolled in this course are expected to engage in textbook exercises and various other activities. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Global Appetites (1) 3. Global Appetites (2) 4. Global Appetites (3) 5. Medical Innovators (1) 6. Medical Innovators (2) 7. Medical Innovators (3) 8. Midterm Examination/ World Languages (1) 9. World Languages (2) 10. World Languages (3) 11. World Languages (4) 12. Survival Instinct (1) 13. Survival Instinct (2) 14. Survival Instinct (3) 15. Course Review

到達目標	「Writing Strategies Ⅰ」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	Vargo, Mari, and Laurie Blass, *Pathways 3: Reading, Writing, and Critical Thinking* (Boston: National Geographic Learning, 2014).
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Writing Strategies I	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to master basic paragraph structuring to through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week 1: Course Introduction Week 2: Beginning to Work Week 3: Giving & Receiving Presents Week 4: A Favourite Place Week 5: An Exceptional Person Week 6: Trends & Fads Week 7: White Lies Week 8: Explanations & Excuses Week 9: Problems Week 10: Strange Stories Week 11: Differences Week 12: Difficult Decisions Week 13: Finding Answers Week 14: Timed Reports Week 15: Course Review

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Exercises from the text book will be set as homework (30 minutes) Report preparation (30 minutes+)
テキスト	*'Writing Paragraphs'* by Dorothy Zemach & Carlos Islam
参考文献	An electronic or smartphone dictionary will be required at all classes
評価方法	30% Class work, 40% Homework Reports 30% Final Report

09 年度以降	Writing StrategiesⅡ	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted. In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week 1: Process & Pre-Writing Week 2: The Structure of a Paragraph Week 3: The Development of a Paragraph Week 4: Descriptive & Process Paragraphs Week 5: Opinion Paragraphs Week 6: Comparison & Contrast Paragraphs Week 7: Problem/Solution Paragraphs Week 8: The Structure of an Essay Week 9: Outlining an Essay Week 10: Introductions &Conclusions Week 11: Unity & Coherence Week 12: Footnotes, References & Citations Week 13: Essays for Examinations Week 14: Plagiarism Week 15: Course Review

到達目標	「Writing Strategies I 」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Exercises from the text book will be set as homework (30 minutes) Report preparation (30 minutes+)
テキスト	*'Writing Essays'* by Dorothy Zemach & Lisa Ghulldu
参考文献	An electronic or smartphone dictionary will be required at all classes
評価方法	30% Class work, 40% Homework Reports 30% Final Report

09 年度以降	Writing Strategies I	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to provide a basic introduction to the process of paragraph writing with an emphasis on grammatical accuracy and cohesion. Students will learn various methods of pre-writing and then put their ideas into sentences. In addition, students will gain an awareness of common grammatical problems in writing made by Japanese students. To help develop fluency with their writing, students will be asked to write a journal. Each journal page will be approximately one page. Topics will be determined by class discussion and announced in class on a weekly basis. Ten minutes of class time will be set aside for students to exchange their journals and write comments to each other. Students should have a positive attitude to improving their writing and a sincere willingness to learn.	Week 1: Course Introduction Week 2: Unit 1 – Writing simple sentences Week 3: Unit 2 – Recognizing common errors in writing Week 4: Unit 3 – Writing compound sentences Week 5: Unit 3 – Writing complex sentences Week 6: Unit 4 – Understanding paragraphs Week 7: Unit 4 – Writing a paragraph Week 8: Unit 4 – Eliminating irrelevant sentences Week 9: Unit 5 – Brainstorming Week 10: Unit 5 – Developing ideas and narrowing topic Week 11: Unit 6 – Making a questionnaire Week 12: Unit 6 – Conduct survey Week 13: Unit 6 – Writing a survey summary Week 14: Journal writing & revise summaries Week 15: Review & feedback

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the contents of the textbook covered in each lecture. Students will make weekly entries in their journal which will be read and shared in class.
テキスト	The English Course – Writing Book 1 Gary Ireland Kabushikigaisha The English Company 978-4-49902962-3-0
参考文献	None
評価方法	Writing Assignments 50% Journal Writing 20% Quizzes 10% Participation 20%

09 年度以降	Writing StrategiesⅡ	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to provide a basic introduction to the process of paragraph writing with an emphasis on grammatical accuracy and cohesion. Students will learn various methods of pre-writing and then put their ideas into sentences. In addition, students will gain an awareness of common grammatical problems in writing made by Japanese students. To help develop fluency with their writing, students will be asked to write a journal. Each journal page will be approximately one page. Topics will be determined by class discussion and announced in class on a weekly basis. Ten minutes of class time will be set aside for students to exchange their journals and write comments to each other. Students should have a positive attitude to improving their writing and a sincere willingness to learn.	Week 1: Unit 7 – Movie genres Week 2: Unit 7 – Writing a movie review Week 3: Unit 7 – Writing a restaurant review Week 4: Unit 8 – Writing about personal experiences Week 5: Unit 8 – Writing a biography Week 6: Unit 8 – Time sequence words and phrases Week 7: Unit 9 – Writing about future plans Week 8: Unit 9 – Expressing probability Week 9: Unit 9 – Writing predictions Week 10: Unit 10 – Planning a narrative Week 11: Unit 10 – Writing a narrative Week 12: Unit 11 – Writing a formal letter Week 13: Unit 11 – Indirect questions Week 14: Unit 11 – Journal writing Week 15: Review & Feedback

到達目標	「Writing Strategies I 」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the contents of the textbook covered in each lecture. Students will make weekly entries in their journal which will be read and shared in class.
テキスト	The English Course – Writing Book 1 Gary Ireland Kabushikigaisha The English Company 978-4-49902962-3-0
参考文献	None
評価方法	Writing Assignments 50% Journal Writing 20% Quizzes 10% Participation 20%

09 年度以降	Writing Strategies I	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to give students a solid understanding of how to write a well-structured paragraph through a variety of academic-style writing tasks.　The students will be taught several strategies to generate and organize their writing ideas. Emphasis will be placed on composition, organization, and content of writing, however, some grammar and vocabulary building will also be covered. Overall Objectives 1. To teach how to write a well-structured paragraph. 2. To help students write about their own ideas and experiences. 3. To teach the skills necessary for students to revise their work effectively. 4. To increase student computer literacy skills.	1. Introduction 2. Opinion Paragraph / Recognizing Factors 3. The Topic Sentence 4. Paragraph Overview / Concluding Sentence 5. Revising / Avoiding Overgeneralizations 6. Descriptive Paragraph / Sense Detail 7. Cutting and Adding Detail / Mind Map 8. Concluding Sentences / Since and Because 9. Sentence Variety / Comma Splices 10. Writing Workshop 11. Narrative Paragraph / Spider Map 12. Analyzing a Topic Sentence / Present Perfect 13. Concluding a Narrative / Demonstratives 14. Self-evaluation / Punctuation 15. Review and Wrap-up

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read text and handouts assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (brainstorming, writing drafts, doing exercises, etc.).
テキスト	Pavlic & Segal, *Interaction 2 Writing, Silver Edition.* McGraw Hill
参考文献	
評価方法	Assignments–70%　　In-class Participation –30%

09 年度以降	Writing Startegies Ⅱ	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to give students an understanding of how to write more complex compositions. Students will move from writing one-paragraph compositions to complete essays through a gradual step-by-step process. As before, emphasis will be placed on composition, organization, and content of writing, however, some grammar and vocabulary building will also be covered. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of short essay organization. 2. To make the students more aware of the editing process through peer-review. 3. To teach the skills necessary for students to revise their work effectively. 4. To increase student computer literacy skills.	1. Introduction / Narrative Essay (Anecdotes) 2. Topic and Introduction Sentence / Timeline Organizer 3. Using Two Paragraphs / Past Perfect 4. Identifying Omissions / Identifying Digressions 5. Writing Workshop 6. Argument Essay / Generating Ideas Via Discussion 7. Making Arguments – Reasons and Supporting Detail 8. Organization an Argument / Editing for Grammar 9. Revising / Writing Workshop 10. Compare and Contrast Essay / Choose a Topic 11. Venn Diagrams / Introductory Paragraph 12. Concluding Paragraph / Comparatives 13. Revising / Peer Evaluation 14. Writing Workshop 15. Review and Wrap-up

到達目標	「Writing Strategies I 」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read text and handouts assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (brainstorming, writing drafts, doing exercises, etc.)
テキスト	Pavlic & Segal, *Interaction 2 Writing, Silver Edition.* McGraw Hill
参考文献	
評価方法	Assignments–70%　　In-class Participation –30%

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The course will have as its foundation a set textbook. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. Additionally, we will look at a number of TED Talks, which will serve as a platform for discussion & presentation. As there will be student-centred, group learning activities, it is important for all students to maintain a friendly learning relationship with others.	Week 1: Course introduction Week 2: If only: The Way Things Should Be Week 3: If only: The Way Things Should Be Week 4: Travel: Making my Way in the World Week 5: Travel: Making my Way in the World Week 6: Life's Choices: Discussion Week 7: Life's Choices: Discussion Week 8: A Look into the Future: Views Week 9: A Look into the Future: Views Week 10: Preparation for Presentations Week 11: Graded Presentations Week 12: Graded Presentations Week 13: Graded Presentations Week 14: Course Review Week 15: Final Class: Summations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for class discussion, read material, and maintain notebook.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The course will have as its foundation a set textbook. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. Additionally, we will look at a number of TED Talks, which will serve as a platform for discussion & presentation. As there will be student-centred, group learning activities, it is important for all students to maintain a friendly learning relationship with others.	Week 1: Course introduction Week 2: If only: The Way Things Should Be Week 3: If only: The Way Things Should Be Week 4: Travel: Making my Way in the World Week 5: Travel: Making my Way in the World Week 6: Life's Choices: Discussion Week 7: Life's Choices: Discussion Week 8: A Look into the Future: Views Week 9: A Look into the Future: Views Week 10: Preparation for Presentations Week 11: Graded Presentations Week 12: Graded Presentations Week 13: Graded Presentations Week 14: Course Review Week 15: Final Class: Summations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for class discussion, read material, and maintain notebook.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Comprehensive English I （火３）	担当者	C．芦沢

講義目的、講義概要	授業計画
The overall objective of this course is to give students maximum opportunity to communicate using English. Through a variety of weekly activities and tasks that focus on the four skills, students will build confidence in their communicative English-language ability and develop the study skills that they need to be successful English learners throughout their college life.	Weeks 1-2: Introductions Week 3: Conversation and Active Listening Practice Week 4: Conversation and Active Listening Practice Week 5: Conversation and Active Listening Practice Week 6: Conversation and Active Listening Practice Week 7: Mid-Term Assessment Preparation Week 8: Mid-Term Assessment (group role-play) Week 9: Small-group Discussion Practice Week 10: Small-group Discussion Practice Week 11: Small-group Discussion Practice Week 12: Small-group Discussion Practice Week 13: Final Assessment Preparation Week 14: Final Assessment (group discussion) Week 15: Wrap-Up / Class Evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Most of the activities will be conducted within the 90-minute class period. When homework is assigned, students are expected to complete it fully by the deadline.
テキスト	Materials will be provided by the instructor.
参考文献	Bring course materials, a pen/pencil, and a notebook to every class.
評価方法	Active Participation/HW = 40%, Mid-Term Assessment = 30%, Final Assessment = 30%

09 年度以降	Comprehensive English II （火３）	担当者	C．芦沢

講義目的、講義概要	授業計画
The overall objective of this course is to develop in the students a good grounding in the organization skills of speech communication and writing. Students will be given many opportunities to practice their speech delivery and writing skills, with the aim of bolstering their confidence when speaking in front of a group.	Weeks 1-2: Welcome Back/Summer Share Week 3: The Story Message Week 4: The Story Message Week 5: The Story Message/Mini-Speech 1 Week 6: The Physical Message Week 7: The Physical Message Week 8: The Physical Message/Mini-Speech 2 Week 9: The Visual Message Week 10: The Visual Message Week 11: The Visual Message Weeks 12-15: Final Speeches

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Most of the activities will be conducted within the 90-minute class period. When homework is assigned, students are expected to complete it fully by the deadline.
テキスト	Harrington, D. & LeBeau, C. (2008). *Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners*. MacMillan.
参考文献	Bring the textbook, a pen/pencil, and a notebook to every class.
評価方法	Active Participation/HW = 40%, Mini-Speeches = 20%, Final Speech = 40%

09 年度以降	Comprehensive English I （金２）	担当者	C．芦沢

講義目的、講義概要	授業計画
The overall objective of this course is to give students maximum opportunity to communicate using English. Through a variety of weekly activities and tasks that focus on the four skills, students will build confidence in their communicative English-language ability and develop the study skills that they need to be successful English learners throughout their college life.	Weeks 1-2: Introductions Week 3: Conversation and Active Listening Practice Week 4: Conversation and Active Listening Practice Week 5: Conversation and Active Listening Practice Week 6: Conversation and Active Listening Practice Week 7: Mid-Term Assessment Preparation Week 8: Mid-Term Assessment (group role-play) Week 9: Small-group Discussion Practice Week 10: Small-group Discussion Practice Week 11: Small-group Discussion Practice Week 12: Small-group Discussion Practice Week 13: Final Assessment Preparation Week 14: Final Assessment (group discussion) Week 15: Wrap-Up / Class Evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Most of the activities will be conducted within the 90-minute class period. When homework is assigned, students are expected to complete it fully by the deadline.
テキスト	Materials will be provided by the instructor.
参考文献	Bring course materials, a pen/pencil, and a notebook to every class.
評価方法	Active Participation/HW = 40%, Mid-Term Assessment = 30%, Final Assessment = 30%

09 年度以降	Comprehensive English II （金２）	担当者	C．芦沢

講義目的、講義概要	授業計画
The overall objective of this course is to develop in the students a good grounding in the organization skills of speech communication and writing. Students will be given many opportunities to practice their speech delivery and writing skills, with the aim of bolstering their confidence when speaking in front of a group.	Weeks 1-2: Welcome Back/Summer Share Week 3: The Story Message Week 4: The Story Message Week 5: The Story Message/Mini-Speech 1 Week 6: The Physical Message Week 7: The Physical Message Week 8: The Physical Message/Mini-Speech 2 Week 9: The Visual Message Week 10: The Visual Message Week 11: The Visual Message Weeks 12-15: Final Speeches

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Most of the activities will be conducted within the 90-minute class period. When homework is assigned, students are expected to complete it fully by the deadline.
テキスト	Harrington, D. & LeBeau, C. (2008). *Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners*. MacMillan.
参考文献	Bring the textbook, a pen/pencil, and a notebook to every class.
評価方法	Active Participation/HW = 40%, Mini-Speeches = 20%, Final Speech = 40%

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication. 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution. Lessons will include practice understanding authentic spoken English, plus topic-based guided Pair and Group and group discussion, and journal writing.	Week 1 ：Course introduction and requirements Week 2 ：Interview and introduce another student. Week 3 ：Families Week 4 ：Best friends Week 5 ：House and Home Week 6 ：Time Week 7 ：School Week 8 ：Numbers Week 9 ：Money Week 10 ：Transportation Week 11 ：Books, magazines, internet, news Week 12 ：Fears Week 13 ：Beliefs Week 14 ：Opinions Week 15 ：Review, Feedback

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be asked to keep a weekly journal
テキスト	Materials will be provided by the teacher.
参考文献	
評価方法	Assessment will be based on class participation 40%, short quizzes 30%, and Journal keeping 30%.

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. <u>Overall Objectives</u> 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context.	Week 1 & 2 ：course introduction, Public-Speaking basics, self-introduction speech. Week 3 & 4 ：Interview and introduce another person Week 5 & 6 ：Demonstration - teach how to do something Week 7 & 8 ：Layout speech - describing shape and location Week 9 & 10：Book or movie review, telling and evaluating a story Week 11&12：Show and tell - presenting and explaining data Week 13&14：Presenting and accepting an award Week 15 ：Review, Feedback

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have homework preparing, and practicing presentations, also reviewing others' performances.
テキスト	"Getting Ready for Speech", LeBeau and Harrington, published by Language Solutions Inc. ISBN 1-929274-45-9
参考文献	
評価方法	Students will be continuously assessed. Assessment will be based on work done in class preparing and delivering a number of short speeches.

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is topic-based We study 1 topic over 2 weeks Students work together in small groups Objectives: Improve speaking confidence and fluency Improve listening Vocabulary for TOEFL /TOEIC There is one poster presentation (graded)and a speaking test in each semester	Week 1 Course introductions / foreign countries 1 2 Foreign countries 2 3 Education 1 4 Education 2 5 Health 1 6 Health 2 7 Technology 1 8 Technology 2 9 Intelligence & Talents 1 １０ Poster presentation １１ Intelligence & Talents 2 １２ Arts 1 １３ Arts 2 １４ Test topics / time / format explained / movies 1 １５ Test

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post lesson review will be explained when necessary
テキスト	No textbook / teacher materials provided
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort　30% presentation　40% end of semester test

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
The objective are the same as semester 1 Topics and vocabulary levels are a little more challenging There is one poster presentation (graded)and a speaking test in each semester	Week 1 Tourism 1 2 Tourism 2 3 Japanese social issues 1 4 Japanese social issues 2 5 Work & money 1 6 Work & money 2 7 Media issues 1 8 Media issues 2 9 Global living trends 1 １０ Global living trends 2 １１ Poster presentation １２ Crime 1 １３ Crime 2 １４ Test groups, times , topics explained/ environment 1 １５ Test

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post lesson review will be explained when necessary
テキスト	No textbook / teacher materials provided
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort　30% presentation　40% end of semester test

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	D．ベイカー

講義目的、講義概要	授業計画
This course has 3 overall objectives - to give students maximum opportunities to communicate - to build students' confidence in interpersonal communication - to develop basic study skills needed for English-language courses at university level	1 First impressions 1 2 First impressions 2 3 Cultural awareness 4 Communicative awareness 5 Icebreakers 6 Wh questions 7 Y/N questions 8 Roundtable 1: food & drink 9 Roundtable 2: music & feelings 10 Roundtable 3: books & films 11 Study skills 12 Group project preparation 13 Group project practice 14 Group presentations 15 Self evaluations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before - extensive writing for short speeches (20 mins) After - review previous week's classes (20 mins)
テキスト	No set text
参考文献	
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attendance, attentiveness & attitude 50% (2) assignments 25% (3) review quizzes 25%

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	D．ベイカー

講義目的、講義概要	授業計画
This course has three overall objectives: - to give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills - to build students' organizational skills in writing for public-speaking - to develop students' confidence in speech communication from small to larger groups.	1 Overview of the creative process 2 Choosing your topic & researching 3 Outlining & drafting 4 Editing & practicing 5 Presentation week 1 6 Remember the 5th of November 7 Rule of 3：Number 5 8 Number 5：Letter V 9 V for vocabulary：Back to the Future 10 Presentation week 2 11 Presentation feedback 12 Love Actually 13 Love Actually 14 Presentation week 3, actually 15 Self evaluations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before - presentation preparation & practice (30-60mins) After - editing (20 mins)
テキスト	No set text
参考文献	
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attendance, attentiveness & attitude 50% (2) 1 presentations 50%

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Introduction 2. Memories and keepsakes 3. Opinions about food 4. Crimes and mysteries 5. Trends 6. Errands 7. Postgraduate plans 8. Celebrations 9. Fairy tales and folk stories 10. The world of work 11. Telecommunications 12. Technology today 13. Travel preparation 14. Destinations 15. Test- Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト	To be announced.
参考文献	
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), presentations (30%) and tests (30%).

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Summer vacation 2. Imagination,dreams,and rules 3. Career plans 4. Media 5. Men and women 6. Cultural differences 7. Big business 8. Health 9. Sports and hobbies 10. Social issues 11. Wealth 12. Honesty and lies 13. Our earth 14. Developing countries 15. Test- Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト	To be announced.
参考文献	
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), presentations (30%) and tests (30%).

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
This course will encourage students to: communicate a LOT, in natural, spoken, Modern English; build confidence in natural interpersonal communication in English; and develop basic study skills that are necessary to study and learn English at a four-year university.	* Note: This is a ***tentative*** weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions. Note-taking exercises. Asking *student suggestions for* **INTERNATIONAL** *topics/themes which they would like to learn & study*. Replies to the question, "How's it going?" Week 3: 'What are your plans for Golden Week?': explaining Future activities, in Modern English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment. Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with note-taking, & discussion thereof. Week 5: Student hobbies, and explaining thereof, in Modern English. Pair practice. Continuous assessment. Mother's Day song and/or discussion. Week 6: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Note-taking in English. Ongoing student assessment. Week 7: Preparations for making presentations & discussions. International vs. Domestic etiquette and manners ('EQ'): asking and replying, politely. Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment. Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of --- do you like?': explaining preferences, in Modern English. Pair practice. Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listening exercise. Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos: stating your opinions clearly, in English. Presentations. Week 12: Further student presentations & class discussion. Video and/or song listening & discussion exercise. Week 13: Final presentations. 'What do you think of ----?': Giving your opinions about various topics. Week 14: Giving opinions, part two: *elaborating*. Final presentations. Ongoing assessment. Week 15: Final presentations. If time remains: discussing & explaining future plans for the Summer.

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. ***IF*** a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***summarize & present*** your topic; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be *tentatively* & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes***, for **any** reason.

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
This course will encourage students to: communicate a LOT, in natural, spoken, Modern English; build confidence in natural interpersonal communication in English; and develop basic study skills that are necessary to study and learn English at a four-year university.	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your Summer Break, using modern English. Week 2: Asking and giving train directions, in English. Continuous assessments. Week 3: Start of researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video. Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone; and how to politely decline invitations. Week 5: Practice with polite telephone invitations. Hallowe'en discussion, and/or video. Week 6: Restaurant ordering, in English, at a sit-down restaurant. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening & discussion. Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (& recommendations) of those short presentation 'intros'. Week 8: Thanksgiving: history; and usual Thanksgiving customs & dates. 'What are you thankful for?' Further short 'demo' presentations; peer-assessment & recommendations, re: those 'demo' presentations. Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations. Week 10: Asking for, and giving, street directions, in English. Pair practice of that. Student presentations begin. Week 11: Class presentations & discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video. Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations. Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations. Week 14: Discussing & pair-practicing 'prognosticating' [predicting future News stories] for 2018. Last opportunity for class presentations. Week 15: English discussion of a current topic of interest. *If* time remains: discussion of your future plans (for the February & March Break).

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***summarize & present*** your topic; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be *tentatively* & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes***, for **any** reason.

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	Week 1－Teacher and Student Interviews and Introductions Week 2－UNIT 1 One Laptop Per Child-Part One Week 3－UNIT 1One Laptop Per Child-Part Two Week 4－UNIT 2 Green Profits- Part One Week 5－UNIT 2 Green Profit- Part Two Week 6－UNIT 3 Well-loved Profits - Part One Week 7－UNIT 3 Well-loved Profits - Part Two Week 8－Midterm Evaluations Week 9－UNIT 4 Italy's Fashion Kings - Part One Week 10－UNIT 4 Italy's Fashion Kings - Part Two Week 11－UNIT 5 Viral Marketing- Part One Week 12－UNIT 5 Viral Marketing- Part Two Week 13－Final Presentation Preparations Week 14－Final Presentations Week 15－Final Presentations (Subject to change due to circumstances)

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト	Reading Pass (2)
参考文献	
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation Daily classroom participation and special group projects

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Week 1－Teacher and student reviews of first term activities Week 2－UNIT 6 The NBA goes Global－ Part One Week 3－UNIT 6－The NBA goes global--Part Two Week 4－UNIT 7－The Gossip Media- Part One Week 5－UNIT 7－The Gossip Media -Part Two Week 6－UNIT 8－Replanting the World's Forests (1) Week 7－UNIT 8－Replanting the World's Forest-(2) Week 8－Midterm Evaluations Week 9－UNIT 9－Adventure Tourism- Part One Week 10－UNIT 9－Adventure Tourism -Part Two Week 11－UNIT 10－The Cannes Film Festival- (1) Week 12－UNIT 10－The Cannes Film Festival-(2) Week 13－Final Presentation Preparations Week 14－Final Presentations Week 15－Final Presentations (Subject to change due to circumstances)

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト	Reading Pass (2)
参考文献	
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	J．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
This introductory course will help students develop their essential English skills by engaging in communicative activities addressing important everyday issues. Students are introduced to vocabulary and scenarios, and encouraged to share their opinions on key issues such as animal rights, fashion and relationships. There will be a number of projects assigned and students should complete these tasks in order to get a good grade. There will be opportunities for pair and group work, and students will work in teams to prepare a presentation on one of the topics covered in class.	1. Introduction 2. Health habits 3. Health & safety 4. Animal rights 5. Endangered species 6. Fashion 7. Eating disorders 8. Raising children 9. Family relationships 10. Cultural misunderstandings 11. Traditional culture 12. Building strong relationships 13. Choosing a suitable partner 14. Presentations 15. Presentations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Textbook exercises, project work. Approx. 90 minutes/week.
テキスト	'*Topic Talk Issues*' by Kirsty McLean. EFL Press.
参考文献	To be provided.
評価方法	Participation 50%, Presentations 50%

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	J．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
This course builds upon the work done in Comprehensive English I, and will help students to further develop their English skills by engaging in communicative activities addressing interesting and important everyday issues. Students are encouraged to share their opinions on key issues such as gender, the environment and fame. There will be a number of projects assigned and students should complete these tasks in order to get a good grade. There will be opportunities for pair and group work, and students will work in teams to prepare a presentation on one of the topics covered in class.	1. Introduction 2. Applying for jobs 3. Men's/women's roles 4. Consumerism 5. The environment 6. The school system 7. Problems at school 8. TV and movies 9. Fame 10. Respecting nature 11. Environmental problems 12. Review 13. Presentations 14. Presentations 15. Presentations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Textbook exercises, project work. Approx. 90 minutes/week.
テキスト	'*Topic Talk Issues*' by Kirsty McLean. EFL Press.
参考文献	To be provided.
評価方法	Participation 50%, Presentations 50%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ（木３）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Tourism topic #1, reading, listening & discussion 3. Tourism topic #2, reading, listening & discussion 4. Tourism topic #3, reading, listening & discussion 5. Tourism topic #4, reading, listening & discussion 6. Tourism topic #5, reading, listening & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 1 9. Tourism topic #6, reading, listening & discussion 10. Presentations, reading, listening & discussion 11. Presentations, reading, listening & discussion 12. Presentations, reading, listening & discussion 13. Presentations, reading, listening & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 2

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Individual topic and country research, weekly e-journal and final presentation preparation
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities, e-journal & library research tasks = 50% , 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ（木３）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Tourism topic #1, reading, listening & discussion 3. Tourism topic #2, reading, listening & discussion 4. Tourism topic #3, reading, listening & discussion 5. Tourism topic #4, reading, listening & discussion 6. Tourism topic #5, reading, listening & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 1 9. Tourism topic #6, reading, listening & discussion 10. Presentations, reading, listening & discussion 11. Presentations, reading, listening & discussion 12. Presentations, reading, listening & discussion 13. Presentations, reading, listening & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 2

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Individual topic and country research, weekly e-journal and final presentation preparation
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities, e-journal & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ	担当者	Ｔ．ダニー

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to give students a grounding in the fundamentals of giving an effective Presentation on a range of topics. Students will be given several opportunities to give a Presentation in front of the class and their Instructor. Besides receiving feedback from their teacher, students will be encouraged to self evaluate as well as evaluate each other's Presentations. In order to facilitate this process, Presentations will be videoed. Overall Objectives: 1. To teach the fundamental areas of giving an effective Presentation 2. To teach the techniques necessary to deliver a Presentation as effectively as possible 3. To work supportively with one's classmates when preparing a Presentation 4. Students will learn the importance of critiquing their own and their classmate's Presentations.	1. Introduction to the course and first Assignment will be set 2. Preliminary Presentations: Self Introductions 3. Unit 1: Posture & Eye Contact 4. Unit 2: Gestures 5. Unit 3: Voice Inflection 6. Unit 4: Effective Visuals 7. Unit 5: Explaining Visuals 8. Unit 6: The Introduction 9. Unit 7: The Body 10. Unit 8: The Conclusion 11. Review Quiz & Announcement of Final Presentations 12. Final Presentation Preparation & Practice 13. Final Presentations Group 1 14. Final Presentations Group 2 15. Self Evaluation & Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other handouts and complete all assignments before beginning of the following class. After class, students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend about 90 minutes per week in preparation
テキスト	Speaking of Speech New Edition, David Harrington/Charles Le Beau (Macmillan ISBN 978 0 2307 26017)
参考文献	—
評価方法	Final Grades will be based on: In-class Participation 30% Mid Term Presentation 30% Final Presentation 40%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ	担当者	Ｔ．ダニー

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to consolidate and increase the students capacity to give an effective Presentation on a range of topics. Students will study the main components of Presentation: The Physical Message; The Visual Message and The Story Message. With this course, particular emphasis will be placed on the technical aspects of Presentations, new comparative DVD examples of effective and non-effective Presentations and a more detailed look at the relationship between the Presenter and his/her audience. Overall Objectives: 1. To increase and develop Presentation skills 2. To facilitate an understanding of the Audience/Presenter relationship 3. To broaden knowledge of the technical aspects of Presentations 4.Students will learn the importance of critiquing their own and their classmate's Presentations.	1. Introduction to the course & Unit 1 (Pages 1-5) 2. Unit 1: What are the options? (Pages 6-11) 3. Unit 2: Performance - The Option Presentation 4. Unit 3: Job Hunting 5. Unit 4: Performance - The Proposal Presentation 6. Unit 5: Have I got your interest? 7. Unit 6: Performance - The Sales Presentation 8. Unit 7: Technical problems; technical solutions 9. Unit 8: Performance - The Technical Presentation 10. Unit 9: Cite your source 11. Unit 10: Performance - The Academic Presentation 12. Unit 10: The Academic Presentation - continued 13. Unit 11: Creative Innovations 14. Unit 12: Performance: The Team Presentation 15. Unit 12: Performance: The Team Presentation – continued

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other handouts and complete all assignments before beginning of the following class. After class, students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend about 90 minutes per week in preparation
テキスト	Speaking of Speech Level 2, Charles LeBeau (Macmillan ISBN 978 1 7863 20766)
参考文献	—
評価方法	Final Grades will be based on: In-class Participation 30% Mid Term Presentation 30% Final Presentation 40%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is topic-based We study 1 topic over 2 weeks Students work together in small groups Objectives: Improve speaking confidence and fluency Improve listening Vocabulary for TOEFL /TOEIC There is one poster presentation (graded)and a speaking test in each semester	Week 1 Course introductions + foreign countries 1 2 Foreign countries 2 3 Education 1 4 Education 2 5 Health 1 6 Health 2 7 Arts 1 8 Arts 2 9 Poster presentation １０ Technology 1 １１ Technology 2 １２ Intelligence & Talents 1 １３ Intelligence & Talents 2 １４ test topics, times format explained / movies 1 １５ test

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post lesson review will be explained when necessary
テキスト	No textbook / teacher materials provided
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort　30% presentation　40% end of semester test

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
The objective are the same as semester 1 Topics and vocabulary levels are a little more challenging There is one poster presentation (graded) and a speaking test in each semester	Week 1 Tourism 1 2 Tourism 2 3 Work / money issues 1 4 Work / money issues 2 5 Media issues 1 6 Media issues 2 7 Rights 1 8 Rights 2 9 Global living trends 1 １０ Global living trends 2 １１ Poster presentation １２ Crime 1 １３ Crime 2 １４ Test topics , times explained / ecology 1 １５ Test

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post lesson review will be explained when necessary
テキスト	No textbook / teacher materials provided
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort　30% presentation　40% end of semester test

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ（木１）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Tourism topic #1, reading, listening & discussion 3. Tourism topic #2, reading, listening & discussion 4. Tourism topic #3, reading, listening & discussion 5. Tourism topic #4, reading, listening & discussion 6. Tourism topic #5, reading, listening & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 1 9. Tourism topic #6, reading, listening & discussion 10. Presentations, reading, listening & discussion 11. Presentations, reading, listening & discussion 12. Presentations, reading, listening & discussion 13. Presentations, reading, listening & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 2

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Individual topic and country research, weekly e-journal and final presentation preparation
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities, e-journal & library research tasks = 50% , 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ（木１）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Tourism topic #1, reading, listening & discussion 3. Tourism topic #2, reading, listening & discussion 4. Tourism topic #3, reading, listening & discussion 5. Tourism topic #4, reading, listening & discussion 6. Tourism topic #5, reading, listening & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 1 9. Tourism topic #6, reading, listening & discussion 10. Presentations, reading, listening & discussion 11. Presentations, reading, listening & discussion 12. Presentations, reading, listening & discussion 13. Presentations, reading, listening & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 2

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Individual topic and country research, weekly e-journal and final presentation preparation
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities, e-journal & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are to promote critical thinking and to have extensive discussion about a variety of interesting and important contemporary issues. Students will learn the skills necessary for effective group discussions. Furthermore, students will be taught how to prepare and lead a class presentation/discussion. The typical class will consist of small group discussions on a unit from the textbook To build their vocabulary, students will be required to study the vocabulary regularly. Students will be exposed to authentic listening in each unit. Students should be eager to speak in English and take responsibility for their own learning.	Week 1: Course Introduction Week 2: Unit 1 – Technology – discussion & listening Week 3: Unit 1 – Researching a technology Week 4: Unit 1 – Presentations Week 5: Unit 2 – Discussing overseas travel Week 6: Unit 2 – Discussing types of travel Week 7: Unit 3 – Discussion - culture Week 8: Unit 3 – Listening & note taking Week 9: Unit 3 – Researching the culture of a country Week 10: Unit 4 – Volunteering – discussion & listening Week 11: Unit 4 – Researching a volunteer organization Week 12: Unit 4 – Presentations Week 13: Unit 5 – Beliefs – discussion & listening Week 14: Unit 5 – Mini debate & vocabulary quiz Week 15: Review & feedback

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read and listen to the conversation for each unit before class. After class study the vocabulary section for that unit.
テキスト	The English Course – Discussion Book 2 Gary Ireland Kabushikigaisha The English Company 978-4-9902962-6-1
参考文献	None
評価方法	Quizzes 40% Presentations 40% Participation 20%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are to promote critical thinking and to have extensive discussion about a variety of interesting and important contemporary issues. Students will learn the skills necessary for effective group discussions. Furthermore, students will be taught how to prepare and lead a class presentation/discussion. The typical class will consist of small group discussions on a unit from the textbook To build their vocabulary, students will be required to study the vocabulary regularly. Students will be exposed to authentic listening in each unit. Students should be eager to speak in English and take responsibility for their own learning.	Week 1: Unit 7 – Fake news Week 2: Unit 7 – news discussions in groups Week 3: Unit 8 – Studying abroad Week 4: Unit 8 – Culture shock Week 5: Unit 9 – Ecotourism Week 6: Unit 9 – Tourism in Japan Week 7: Unit 10 – Education in Japan Week 8: Unit 10 – Presentation preparation Week 9: Unit 10 – Presentations Week 10: Unit 11 – The Environment Week 11: Unit 11 – Poster preparation Week 12: Unit 11 – Poster Presentations Week 13: Unit 12 – International marriage Week 14: Unit 12 – Mini debate & vocabulary quiz Week 15: Review & feedback

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read and listen to the conversation for each unit before class. After class study the vocabulary section for that unit.
テキスト	The English Course – Discussion Book 2 Gary Ireland Kabushikigaisha The English Company 978-4-9902962-6-1
参考文献	None
評価方法	Quizzes 40% Presentations 40% Participation 20%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This reading focused course seeks to develop students' ability to: a) enjoy & understand articles within a time limit b) employ a variety of reading techniques to improve speed & comprehension c) understand & discuss the writer's opinion d) learn how to find the outline of, & summarize an article In addition to regular reading practice, students will have ample opportunity to widen their vocabulary knowledge, practice various reading skills and find & discuss the author's opinion.	1. Course Introduction 2. Fiction & Non-Fiction Reading 3. Dictionary Usage 4. Vocabulary Acquisition 5. Meaning from Context 6. Word Parts 7. Collocations 8. Structure & Reference 9. Scanning & Previewing 10. Making Inferences 11. Understanding Paragraphs 12. Identifying Patterns 13. Skimming 14. Evaluation 15. Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic & vocabulary preview – 30 minutes Post-reading practice assignments – 30 -45 minutes
テキスト	*More Reading Power 3* by Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky
参考文献	An electronic or smartphone dictionary will be required at every class
評価方法	Classwork 30%, Homework 30%, Final Evaluation 40%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course seeks to develop students' ability to: a) present their ideas & opinions to an audience b) methodically prepare formal presentations with visual aids c) question & discuss their own & other class members' ideas In addition to skills development, students will have a number of opportunities to present their ideas & opinions on topics of interest to them, to other class members	1. Course Introduction 2. Body Language I & self-introductions 3. Notes, timing & prompt cards 4. Body Language II & show + tell 5. Timing, questions & public speaking fears 6. Book/Movie Reviews 7. Final Presentation Topics 8. Facts vs Opinions 9. Transitions & Useful Expressions 10. Persuasive Speech Techniques 11. Visual Aids I 12. Visual Aids II 13. Final Presentation & Discussion I 14. Final Presentation & Discussion II 15. Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preview – topic presentation, data gathering & slide preparation 30 – 60 minutes Review – instructor's feedback, evaluation & student questions 30 minutes
テキスト	Since there is no textbook for this course, students will be expected to provide an A4/B4 binder in order to keep the photocopies handed out by the instructor at the start of each class.
参考文献	An electronic or smartphone dictionary will be required at every class
評価方法	Classwork 30%, Homework 30%, Final Presentation 40%

09 年度以降	E-learning I	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的：英語の聴き取り能力と発音を上達させるために，必要な知識を理解しながら，実践的に練習する。 （1）単語やフレーズなど意味のまとまりを識別できるようになる。（2）個々の音は現れる位置によって違って聞こえることを知る。（3）英語には英語のリズムがあることを知る。（4）日本語と英語では音節構造が異なることを知る。（5）英語圏における多様な英語（Englishes）の音に慣れる。（6）文強勢とイントネーションの重要性を理解する。 概要：聴き取るということは，語彙力，構文解析力だけではなく世界に対する常識などあらゆる能力と知識を総動員する知的作業である。授業時には上記 6 点の基礎的知識を身につけ，課外では各自Web学習により実践的トレーニングを積んでいく。	1. Web教材ガイダンス（1） 2. Web教材ガイダンス（2） 3. 何が英語を聴き取りにくくしているのか 4. 強勢拍子の英語 vs. 音節拍子の日本語 5. 文強勢が置かれる位置 6. 弱く発音される単語と要素 7. 文強勢の有無で変わる音 8. 英語と日本語の音節構造の違い 9. イントネーションの重要性 10. 断定を避けるイントネーション 11. 母音の多様性 12. 日本語と英語の子音 13. 紛らわしい子音 14. 聴き取りにくい子音 15. まとめ

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	指示された教材の範囲を毎日 30 分以上自主学習することを習慣づけ、毎週 180 分以上の事前、事後学習により授業内小テストの準備をする。
テキスト	English Central の Web 学習教材と授業で配付するハンドアウト
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	小テスト（３０％）と課題（４０％）および期末試験（３０％）により評価する。重要な変更がある場合には初回の授業時に告知する。

09 年度以降	E-learning II	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的：「E-learning I」の学習を継続し，英語の聴き取り能力と発音を上達させるために，必要な知識を理解しながら，実践的に練習する。 （1）単語やフレーズなど意味のまとまりを識別できるようになる。（2）個々の音は現れる位置によって違って聞こえることを知る。（3）英語には英語のリズムがあることを知る。（4）日本語と英語では音節構造が異なることを知る。（5）英語圏における多様な英語（Englishes）の音に慣れる。（6）文強勢とイントネーションの重要性を理解する。 概要：聴き取るということは，語彙力，構文解析力だけではなく世界に対する常識などあらゆる能力と知識を総動員する知的作業である。授業時には上記 6 点の基礎的知識を身につけ，課外では各自Web学習により実践的トレーニングを積んでいく。	1. Web教材ガイダンス 2. w と y に母音が続く語 3. 語頭の破裂音／摩擦音に r や l が続く語 4. 語末においてs, z, r, l に子音が続く語 5. 子音で終わる語の聴き取りと発音 6. 語末の聴き取りにくい音（1） 7. 語末の聴き取りにくい音（2） 8. 語末の鼻音 9. 単語と単語を連続させた発音 10. 聴き取りにくくない子音連続 11. 変化する「ラ」の音／化ける「ン」の音 12. 慣用的な省略・短縮表現 13. 機能語の聴き取りと発音 14. 多様な英語（Englishes）における発音 15. まとめ

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	指示された教材の範囲を毎日 30 分以上自主学習することを習慣づけ、毎週 180 分以上の事前、事後学習により授業内小テストの準備をする。
テキスト	English Central の Web 学習教材と授業で配付するハンドアウト
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	小テスト（３０％）と課題（４０％）および期末試験（３０％）により評価する。重要な変更がある場合には初回の授業時に告知する。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （Cool Japan: 1900-1960）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information (2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary (3) build students' confidence by contributing to group work Attendance Policy: 1. If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Course Introduction 2. Japan in the World (Exhibitions) 3. Meiji: to be or not to be (Japanese) 4. Moga 5. Modern Tokaido [Reserch Paper Topic Due] 6. Issei, Nisei, Sansei [RP Outline Due] 7. Nippon (magazine) 8. Department Store Miracle [RP Introduction Due] 9. Chiune Sugihara [RP Body Paragraph I Due] 10. Shashin Shuho [RP Body Paragraph II Due] 11. Transport: rush to the city [RP Body Paragraph III Due] 12. Made in Japan [RP Conclusion Due] 13. Protest or Compliance [Research Paper Final Due] 14. Final Exam 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, (5) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （Cool Japan: 1960-2016）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information (2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary (3) build students' confidence by contributing to group work Attendance Policy: 1. If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Course introduction 2. Made in Japan and admired 3. The Bubble 4. Western Japan - Eastern Japan 5. Japanese in the world [Research Paper Topic Due] 6. The world in Japan [RP Outline] 7. Images of Japan 8. Manga [RP Introduction Due] 9. J-pop [RP Body Paragraph I Due] 10. 21st century Japonism [RP Body Paragraph II Due] 11. Ryugaku [RP Body Paragraph III Due] 12. Japan First [RP Conclusion Due] 13. Final Exam [Research Paper Final Due] 14. Review 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, ,(5) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （生成文法理論と英語統語論）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：世界的に著名な言語学者である Noam Chomsky が1975年に公刊した画期的な著書の一章を読み，英語の読解力を伸ばしながら，生成文法理論の神髄を理解する．あわせて言語学における説明の美しさも感じ取りたい． **講義概要**：まず，文を生成する規則は意味や語彙に依存するのではなく構造に依存するというChomskyの1955年来の基本的な立場が述べられる．次に，1965年に提案された生成文法の標準理論が説明され，特に，文の基本的な構造である句構造標識とそれを生成する基底部と中心的な概念である「深層構造」が説明される．深層構造に規則が適用されて文が派生されるが，規則の適用には厳しい制限があることが明らかにされ，その制限を形式化した「下接の原理」は人間言語を特徴づける普遍的特性であると提案される．	1. Structure Dependence of Grammatical Rules 2. Base Component and Phrase Markers (1) 3. Base Component and Phrase Markers (2) 4. Standard Theory and Notion of “Deep Structure” 5. Transformational Component and Surface Structures (1) 6. Transformational Component and Surface Structures (2) 7. Domains of Transformations and Cyclic Category **〈中間試験〉** 8. Subjacency; Condition on Transformations 9. Conditions on Wh-Movement (1) 10. Conditions on Wh-Movement (2) 11. Universal Grammar and Language Faculty 12. Two Arguments about Language Acquisition (1) 13. Two Arguments about Language Acquisition (2) 14. Subjacency Principle as a Principle of Universal Grammar 15. Recapitulation **《期末試験》**

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習すること．授業開始前に，鈴木英一（1990）『統語論』8章「生成統語論概説」(pp.318-71)を読むことを勧めます．なお，授業の中で適宜，生成文法理論の要点を説明します．
テキスト	Noam Chomsky (1975) “Some General Features of Language,” *Reflections on Languages*. Pantheon.
参考文献	安井稔（編）(1996)『コンサイス英文法辞典』(三省堂)，鈴木英一（1990）『統語論』（開拓社）
評価方法	出席は単位認定の前提とし，授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する．

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （生成文法理論と英語統語論）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：世界的に著名な言語学者である Noam Chomsky が1975年に公刊した画期的な著書の一章を読み，英語の読解力を伸ばしながら，生成文法理論の神髄を理解する．あわせて言語学における説明の美しさも感じ取りたい． **講義概要**：疑問詞としてWh語を含むWh疑問文が詳細に分析され，要素が移動される際にその要素の元に位置に痕跡(trace)が残されるという，「移動の痕跡理論」が提案される．生成文法に痕跡理論が組み込まれたのが，生成文法理論の発展の中でもっとも注目される理論の一つ《修正拡大標準理論》である．痕跡を用いることによって，表層構造が豊かになり，表層構造によって全ての意味解釈がなされると考えられる．痕跡理論が素晴らしい点は，移動規則によって残される痕跡がほかの言語要素特に再帰代名詞や相互代名詞といった照応形と同じ制約によって説明されるということである．	1. Syntax or Semantics? Explanation of Wh-Questions (1) 2. Syntax or Semantics? Explanation of Wh-Questions (2) 3. Trace Theory of Movement Rules 4. Motivations for Trace Theory 5. Wh-Movement and Interpretation of Pronouns (1) 6. Wh-Movement and Interpretation of Pronouns (2) 7. Enriched Surface Structures **〈中間試験〉** 8. Semantic Interpretation of Enriched Surface Structures 9. Specified Subject Condition and Trace Theory (1) 10. Specified Subject Condition and Trace Theory (2) 11. Reformulation of Passive Rule 12. Traces and Binding Quantifiers 13. Binding Principles and Conditions on Transformations (1) 14. Binding Principles and Conditions on Transformations (2) 15. Recapitulation **《期末試験》**

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習すること．授業開始前に，鈴木英一（1990）『統語論』8章「生成統語論概説」(pp.318-71)を読むことを勧めます．なお，授業の中で適宜，生成文法理論の要点を説明します．
テキスト	Noam Chomsky (1975) “Some General Features of Language,” *Reflections on Languages*. Pantheon.
参考文献	安井稔（編）(1996)『コンサイス英文法辞典』(三省堂)，鈴木英一（1990）『統語論』（開拓社）
評価方法	出席は単位認定の前提とし，授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する．

09 年度以降	英語専門講読 I （Readings on Japan I）	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this reading course is to investigate the cultural, social & economic condition of Japan during the 1990s. During that period of modern history, Japan experienced numerous changes, and it can be argued that those changes have had an influence on the Japan of today. The course will center on reading articles printed in various journals and newspapers. The reading load for this course will be 10 -15 pages per class. The material will be challenging as it written for a foreign audience...in English. Students considering this course should keep in mind 1) it will be conducted fully in English; 2) there will be regular reflection papers & quizzes; 3) the course will allow time for group discussions in English; and, 4) a high level of motivation & participation is expected.	Week 1: Introduction to course Week 2: Article # 1 & Discussion Week 3: Article # 1 & Discussion Week 4: Article # 2 & Discussion Week 5: Article # 2 & Discussion Week 6: Article # 3 & Discussion Week 7: Article # 3 & Discussion Week 8: Article # 4 & Discussion Week 9: Article # 4 & Discussion Week 10: Article # 5 & Discussion Week 11: Article # 5 & Discussion Week 12: Article # 6 & Discussion Week 13: Article # 6 & Discussion Week 14: Collect Journals Final Discussion Week 15: Final Class: Summations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for class discussion, read material, and maintain notebook.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	英語専門講読 II （Readings on Japan II）	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this reading course is to investigate the cultural, social & economic condition of Japan during the 1990s. During that period of modern history, Japan experienced numerous changes, and it can be argued that those changes have had an influence on the Japan of today. The course will center on reading articles printed in various journals and newspapers. The reading load for this course will be 10 -15 pages per class. The material will be challenging as it written for a foreign audience...in English. Students considering this course should keep in mind 1) it will be conducted fully in English; 2) there will be regular reflection papers & quizzes; 3) the course will allow time for group discussions in English; and, 4) a high level of motivation & participation is expected.	Week 1: Introduction to course Week 2: Article # 7 & Discussion Week 3: Article # 7 & Discussion Week 4: Article # 8 & Discussion Week 5: Article # 8 & Discussion Week 6: Article # 9 & Discussion Week 7: Article # 9 & Discussion Week 8: Article # 10 & Discussion Week 9: Article # 11 & Discussion Week 10: Article # 12 & Discussion Week 11: Article # 12 & Discussion Week 12: Article # 13 & Discussion Week 13: Article # 14 & Discussion Week 14: Collect Journals Final Discussion Week 15: Final Class: Summations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for class discussion, read material, and maintain notebook.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English.* You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Reflecting on your own learning 3. Approach, method, and technique 4. An eclectic approach 5. Teaching by principles 6. Motivation in the classroom 7. Teaching across age levels 8. Overall discussion 9. Teaching across proficiency levels 10. Sociopolitical and institutional contexts 11. Techniques, textbooks, and technology 12. Interactive language teaching 13. Sustaining interaction through group work 14. Classroom management 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル
テキスト	PORTA とハンドアウト使用
参考文献	Teaching by Principles, H.D. Brown, Longman
評価方法	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(40%), self evaluation (10%)

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English.* You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Integrating the four skills 3. Teaching listening 4. Teaching speaking 5. Teaching reading 6. Teaching writing 7. Teaching vocabulary 8. Overall discussion 9. Teaching pronunciation 10. Form-focused instruction 11. Language assessment I 12. Language assessment II 13. Strategies-based instruction 14. An all-English approach 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル
テキスト	PORTA とハンドアウト使用
参考文献	Teaching by Principles, H.D. Brown, Longman
評価方法	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(40%), self evaluation(10%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （アメリカの広告概史）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカの広告概史の講読を通じて、文化的現実の変遷などを理解することを目指します。 2017年の春学期に開講されたⅠでは、アメリカの文化生産の軌跡を理解するため、「ポストモダニズム」を巡るアート思想史に関する諸論文を読みました。かなり難解な文章の連続でしたので、この授業では難易度の低い読書課題を選定しました。しかし、内容的には専門知識を獲得する講読教材として遜色のないものですので、アメリカの広告に関心のある学生やメディア産業に関心のある学生に役立つ読書の機会を提供できればと思います。 通常の授業は、広告の実例を話題にしながら、学生によるファシリテーションと教員を交えたインタラクションで進行していきます。	1. Course Overview 2. Introduction 3. A Brief History 4. Aims of Advertising 5. The Target Audience 6. Ad Review: 20th Century Ads 7. Strategies of Advertising 8. What Do Ads Reveal or Conceal About an Era? 9. Model Interpretation 10. Ad Review: 21st Century Ads 11. Contemporary Ad Campaigns: UNICEF, etc. 12. Contemporary Ad Campaigns: American Legacy, etc. 13. Contemporary Ad Campaigns: Red Bull, etc. 14. Impromptu Ad Review 15. Presentations; Take-home exam due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。
テキスト	プリント等を配布して使用する予定です。
参考文献	必要に応じて授業で紹介します。
評価方法	授業中のインタラクション（発言・通常の発表等）：30%、最終発表：30%、take-home exam：40%

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （ナーサリー・ライムズの世界）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ナーサリー・ライムズ（Nursery Rhymes）、マザー・グース（Mother Goose）等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって600以上とも、1000以上とも言われている。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。 この授業では、それらの童謡／伝承童謡に加え、英国・米国の国歌等の有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。	1. Orientation 2. As I was Going to Saint Ives 他 3. Frère Jaques 他 4. Here We Go Around the Mulberry Bush 他 5. Hickory Dickory Dock 他 6. Hot Cross Buns 他 7. Humpty Dumpty 他 8. Jack and Jill 他 9. Jack Sprat 他 10. The Lion and Unicorn 他 11. Little Boy Blue 他 12. Little Miss Muffet　他 13. London Bridge Is Falling Down 他 14. Mary had a Little Lamb　他 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、要約（提出）。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をする。凡そ４時間分、或いはそれ以上の学修時間になる。
テキスト	Albert Jack. *Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes*. Perigee Trade, 2009
参考文献	授業で紹介する。
評価方法	プレゼンテーションおよび授業貢献度 50%、毎回提出する課題 50%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （ナーサリー・ライムズの世界）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ナーサリー・ライムズ（Nursery Rhymes）、マザー・グース（Mother Goose）等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって600以上とも、1000以上とも言われている。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。 この授業では、それらの童謡／伝承童謡に加え、英国・米国の国歌等の有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。	1. Orientation 2. Old King Cole 他 3. The Owl and the Pussycat 他 4. Pop Goes the Weasel 他 5. Pussy Cat, Pussy Cat 他 6. Rain, Rain, Go Away 他 7. Rock-a-Bye, Baby 他 8. Sing a Song of Sixpence 他 9. Three Blind Mice 他 10. Twinkle, Twinkle, Little Star 他 11. Who Killed Cock Robin? 他 12. God Save the Queen 他 13. The Star-Spangled Banner 他 14. Yankee Doodle Dandy 他 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、要約（提出）。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をする。凡そ４時間分、或いはそれ以上の学修時間になる。
テキスト	Albert Jack. *Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes*. Perigee Trade, 2009
参考文献	授業で紹介する。
評価方法	プレゼンテーションおよび授業貢献度 50%、毎回提出する課題 50%

09 年度以降	英語専門講読 I （戦後国際政治史）（月４）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお毎週、英文和訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に２年生は注意して欲しい。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。 ＊なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも５ページ分は読んでおくこと。	1. 授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 8. 前半の総括と質疑応答 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫ 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。
テキスト	Robert J. McMahon, Cold War: A Very Short Introduction, Oxford: Oxford University Press, 2003.
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	評価は次の２点による。①授業の参加度・貢献度（30%）、②小テスト（70%）。 欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

09 年度以降	英語専門講読 II （戦後国際政治史）（月４）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠になる。なお毎週、和文英訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は要注意。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。 ＊なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも５ページ分は読んでおくこと。	1. 授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 8. 前半の総括と質疑応答 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫ 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。
テキスト	Robert J. McMahon, Cold War: A Very Short Introduction, Oxford: Oxford University Press, 2003.
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	評価は次の２点による。①授業の参加度・貢献度（30%）、②小テスト（70%）。 欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （イギリス児童文学）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
*Mary Poppins*を読む *Mary Poppins*を精読しながら、イギリスらしい表現や背景となるイギリスの階級社会への理解を深めることを目的とする。 Mary Poppinsはディズニー製作のミュージカル版でよく知られているが、原作者Pamela Traversは映画化に強く反対していた。原作のMaryは映画とはかなり異なった人物造形がなされており、そこにはイギリス独特の階級制度が反映している。英語の表現への理解を深めるとともに、イギリスの歴史についての知識を広げることを、この授業では目指す。	1. イントロダクション 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. まとめ 15. 課題

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、決められた範囲を読んでくること。 事後には授業中に指定された参考文献を読むこと。
テキスト	P. L. Travers, Mary Poppins (Collins Modern Classecs). ISBN: 0007286414
参考文献	新井潤美（2005）『不機嫌なメアリー・ポピンズ』、他は授業中に指示する。
評価方法	毎回の小テストによる。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （イギリス児童文学）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
*Peter and Wendy*を読む 大人になろうとしない少年としてPeter Panという人物名はよく知られているが、James Barrieの原作を読んでいる人は決して多くない。原作は1904年の戯曲であるが、この授業ではそれをもとにした小説Peter and Wendyを読む。ディズニー映画を通して物語はよく知られているが、原作を読むことでイギリスらしい表現についての理解を深め、舞台となる20世紀初頭のイギリスの社会についての知識を深めることを目指す。	1. Chapter I 2. Chapter II 3. Chapter III 4. Chapter IV 5. Chapter V 6. Chapter VI 7. Chapter VII & Chapter VIII 8. Chapter IX 9. Chapter X 10. Chapter XI 11. Chapter XII &Chapter XIII 12. Chapter XIV 13. Chapter XV 14. Chapter XVI 15. Chapter XVII

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	決められた範囲を丹念に読んでくること。
テキスト	J. M. Barrie, Peter Pan: Peter and Wendy (Penguin Classics). ISBN: 014243793X
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	毎回の小テストによる。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （シンボルを読み解く）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、米国の表象文化におけるシンボルを読み解いていく。とくに、短編小説、詩、歌のリリックスなどのテキストを用いて、シンボルや暗黙的前提を見つけながら、それらについて歴史、社会、宗教、ポピュラーカルチャー、消費主義などさまざまな視点から検討していく。 まずは “*Holes*” Louis Sachar から読んでいく。	1. ガイダンス 2. 身の周りのシンボル 3. 小説におけるシンボル 4. Holes 1 5. Holes 2 6. Holes 3 7. Holes 4 8. Holes 5 9. 映画/音楽のなかのシンボル 10. お話しのなかのシンボル 1 11. お話しのなかのシンボル 2 12. グループプレゼンテーション 1 13. グループプレゼンテーション 2 14. グループプレゼンテーション 3 15. Wrap-Up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。予習必須です。
テキスト	“*Holes*” Louis Sachar・Turtleback Books　各自用意しておいてください。
参考文献	
評価方法	授業への参加度 30%　プレゼンテーション 20%　試験 50%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （表象文化のシンボルを読み解く）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期も、春学期と同様のトピックを扱う。	1. ガイダンス 2. 身の周りのシンボル 3. 小説におけるシンボル 4. アフリカ系アメリカ文化におけるシンボル 1 5. アフリカ系アメリカ文化のシンボル 2 6. ラティーノのシンボル 1 7. ラティーノのシンボル 2 8. 映画/音楽のなかのシンボル 1 9. 映画/音楽のなかのシンボル 2 10. お話しのなかのシンボル 1 11. お話しのなかのシンボル 2 12. グループプレゼンテーション 1 13. グループプレゼンテーション 2 14. グループプレゼンテーション 3 15. Wrap-Up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。予習必須です。
テキスト	プリント配布
参考文献	
評価方法	授業への参加度 30%　グループプレゼンテーション 20%　試験 50%

09 年度以降	英語専門講読 I （現代国際関係）（月５）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
オーストラリアで最も著名な国際政治学者の一人であるコーラル・ベル（Coral Bell）教授（1923-2012年）による国際関係論の小論を通して、オーストラリアから見た現代国際関係とはどのようなものかを考える。 日本外交・安全保障にとってオーストラリアは極めて重要なパートナーであるが、両国の国際関係認識が常に一致するとは限らず、相手との違いに配慮しながら、安定的な関係を構築する必要がある。その意味で、ベルによる小論は有用であろう。 初回授業で発表の担当箇所ならびに順番を決定するので、必ず出席すること。欠席する場合は、初回の授業開始前までに担当教員に必ず連絡し、発表担当箇所に関する指示を受けること。連絡のない場合には、単位取得に不可欠な発表の機会を逃すので注意すること。 なお履修人数によっては、複数回の担当となる。 ＊テキストは下記テキスト名をグーグル検索すればダウンロード可能。	1. オリエンテーション＆発表担当者の決定 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 8. 前半の総括と質疑応答 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫ 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された英文を事前に読み、内容を理解し、疑問点を明確にしておくこと。授業後は授業内容を復習し、理解できなかった部分を翌週の授業で提示し、疑問点を解消しておくこと。
テキスト	Coral Bell, The End of the Vasco da Gama Era: The Next Landscape of World Politics, Lowy Institute for Internatioal Policy, 2007.
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	①発表担当（50%）、②最終レポート（50%）、欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

09 年度以降	英語専門講読 II （現代国際関係）（月５）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
CSCAPが毎年発行する“Regional Security Outlook 2018”を輪読していく。アジア太平洋安全保障協力会議（The Council for Security Cooperation in the Asia Pacific, CSCAP）は、アジア太平洋地域の安全保障協力のあり方を検討するための恒常的な枠組みを提供することを目的に設立された民間の国際組織である。この文献輪読を通じて、アジア太平洋地域の国際関係の現状を理解していきたい。 初回授業で発表の担当箇所ならびに順番を決定するので、必ず出席すること。欠席する場合は、初回の授業開始前までに担当教員に必ず連絡し、発表担当箇所に関する指示を受けること。連絡のない場合には、単位取得に不可欠な発表の機会を逃すので注意すること。 なお履修人数によっては、複数回の担当となる。 テキストは下記テキスト名をグーグル検索すればダウンロード可能。	1. オリエンテーション＆発表担当者の決定 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読①（イントロ） 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読②（米国） 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③（中国） 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④（日本） 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤（ロシア） 7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥（インド） 8. 前半の総括と質疑応答 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦（韓国） 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧（インドネシア） 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨（オーストラリア） 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩（タイ） 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪（フィリピン） 14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫（ミャンマー） 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された英文を事前に読み、内容を理解し、疑問点を明確にしておくこと。授業後は授業内容を復習し、理解できなかった部分を翌週の授業で提示し、疑問点を解消しておくこと。
テキスト	CSCAP Regional Security Outlook 2018
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	①発表担当（50%）、②最終レポート（50%）、欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
『怒りの葡萄』(The Grapes of Wrath, 1939)、『エデンの東』(The East of Eden, 1952) の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞したJohn Steinbeck (1902-1968) は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、1932年に発表された『天の牧場』(The Pastures of Heaven, 1932) を読解してゆく。 毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。 ＊授業には予習をして臨んで下さい。	1:　Introduction: 作家John Steinbeckと代表作品を紹介 2:　小説を読む楽しみについて／修辞法解説 3:　The Pastures of Heaven　Introduction 4:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 1 5:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 1 6:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 2 7:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 2 8:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 3 9:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 3 10:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 4 11:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 4 12:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 5 13:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 5 14:　Review 15:　レポート回収／期末テスト

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：テキストの予習　／　事後学習：授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる。
テキスト	John Steinbeck, *The Pastures of Heaven* (Penguin Twentieth-Century Classics)
参考文献	スタインベック全集１（大阪教育図書）
評価方法	授業参加度（30%）、提出物（10%）、期末レポート（30%）、期末テスト（30%）を総合的に評価。 全体の 2/3 の出席が不可欠。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、*The Pastures of Heaven* を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。 ＊授業には予習をして臨んで下さい。	1:　前期レポートについてグループ発表 2:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 6 3:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 6 4:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 7 5:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 7 6:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 8 7:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 8 8:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 9 9:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 9 10:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 10 11:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 10 12:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 11 13:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 11 14:　Review 15:　レポート回収／期末テスト

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：テキストの予習　／　事後学習：授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる。
テキスト	John Steinbeck, *The Pastures of Heaven* (Penguin Twentieth-Century Classics)
参考文献	スタインベック全集１（大阪教育図書）
評価方法	授業参加度（30%）、提出物（10%）、期末レポート（30%）、期末テスト（30%）を総合的に評価。 全体の 2/3 の出席が不可欠。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （芝居の台本を読んで観る）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、 vocabularyをbuild up する。 　生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。 　さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらう。 講義概要 　ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。 　どの台本も最初の10～15ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。	1.　導入とテキスト精読 2.　テキスト精読 3.　テキスト精読 4.　テキスト精読 5.　テキスト精読 6.　テキスト精読 7.　テキスト精読 8.　テキスト精読 9.　テキスト精読 10.　テキスト精読 11.　テキスト精読 12.　テキスト精読 13.　テキスト精読 14.　テキスト精読 15.　テキスト精読とまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。
参考文献	授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の vocabulary と comprehension のテストで 60%、観劇レポート（500～600 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末定期試験なし。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （芝居の台本を読んで観る）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、 vocabularyをbuild up する。 　生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。 　さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらう。 講義概要 　ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。 　どの台本も最初の10～15ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。	1.　導入とテキスト精読 2.　テキスト精読 3.　テキスト精読 4.　テキスト精読 5.　テキスト精読 6.　テキスト精読 7.　テキスト精読 8.　テキスト精読 9.　テキスト精読 10.　テキスト精読 11.　テキスト精読 12.　テキスト精読 13.　テキスト精読 14.　テキスト精読 15.　テキスト精読とまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。
参考文献	授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の vocabulary と comprehension のテストで 60%、観劇レポート（500～600 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末定期試験なし。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
第2言語（英語）を習得すること（second language acquisition: SLA）は、なぜこんなに難しいのでしょうか？どのような学習方法・教授方法が効果的なのでしょうか？第2言語習得に長けている人と苦労する人は、一体何が違うのでしょうか？このような疑問に答えるべく、調査や実験を行うのが、「実証研究」です。この授業では、英語で書かれたSLA実証研究論文を講読していきます。 実証研究論文は「科学的」です。「研究課題」（Research questions）があり、「研究方法」（Research method）があり、得られた「結果」（Results）は図や表と共に数値で表されます。多くの受講生の皆さんにとっては、初めて読むタイプの文書だと思いますが、どのように読み解いて行くのかという基本的なことを講義します。その後、読んだ内容を基に、ディスカッションやリサーチデザイン案を立ててみる活動を中心とした、活発な演習を行って頂きます。	1. ガイダンス 2. 練習論文 3. 論文1-1. 語彙習得について→内容確認（1） 4. 論文1-2. 語彙習得について→内容確認（2） 5. 論文1-3. 語彙習得について→内容確認（3） 6. 論文1-4. 語彙習得について→議論・デザイン練習 7. 論文2-1. 学習者要因について→内容確認（1） 8. 論文2-2. 学習者要因について→内容確認（2） 9. 論文2-3. 学習者要因について→内容確認（3） 10. 論文2-4. 学習者要因について→議論・デザイン練習 11. 論文3-1. 効果的な学習方法とは→内容確認（1） 12. 論文3-2. 効果的な学習方法とは→内容確認（2） 13. 論文3-3. 効果的な学習方法とは→内容確認（3） 14. 論文3-4. 効果的な学習方法とは→議論・デザイン練習 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め配布される質問紙に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。
テキスト	日本国内で出版された、日本人英語学習者を対象とした研究論文。
参考文献	Saville-Troike, M. (2012). *Introducing Second Language Acquisition (Second Edition)*. CUP.
評価方法	毎回の授業中での活動（60%）、学期末レポート（40%）

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
春学期同様、SLA実証研究論文を講読します。秋学期は、日本国外で出版された、日本人英語学習者以外を対象としたSLA研究に触れ、世界で第2言語の学習・教授がどのように行われているのかについて知ることも目的の1つになります。 また、秋学期は、読んだ内容の要約、議論などの授業内活動を英語で行って頂きます。最終レポートも英語で書いて頂きます。これらを通じ、研究論文で仕様されている高度でアカデミックな英語表現を身につけることを目指します。	1. ガイダンス 2. 練習論文 3. 論文1-1. リスニングプロセス→内容確認（1） 4. 論文1-2. リスニングプロセス→内容確認（2） 5. 論文1-3. リスニングプロセス→内容確認（3） 6. 論文1-4. リスニングプロセス→議論・デザイン練習 7. 論文2-1. 言語テストと評価→内容確認（1） 8. 論文2-2. 言語テストと評価→内容確認（2） 9. 論文2-3. 言語テストと評価→内容確認（3） 10. 論文2-4. 言語テストと評価→議論・デザイン練習 11. 論文3-1. コミュニケーション意欲→内容確認（1） 12. 論文3-2. コミュニケーション意欲→内容確認（2） 13. 論文3-3. コミュニケーション意欲→内容確認（3） 14. 論文3-4. コミュニケーション意欲→議論・デザイン練習 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め配布される質問紙に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。
テキスト	日本国外で出版された、日本人英語学習者を対象とした研究論文。
参考文献	Saville-Troike, M. (2012). *Introducing Second Language Acquisition (Second Edition)*. CUP.
評価方法	毎回の授業中での活動（60%）、学期末レポート（40%）

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （言語研究のさまざまな知見を巡る）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
言語研究と聞くと、音声学や音韻論、統語論、意味論などがイメージされ、学習経験者も多いと思われる。しかし、本授業では、これらの中核ではなく、触れる機会が少ないかもしれない関連領域を中心に、その基礎について一般人向けに書かれた読み物を通して学ぶ。トピックには、言語ファミリー、言語の誕生と死、言語知覚と生成、脳と言語、文字などが含まれる。 指定テキストは平易な英文で読みやすい。毎週、程よい分量を継続して読むことで、英語を読むことへの慣れを促し、また、内容を詳細に読む練習により、正確な読解力と分析的な視点を養う。適宜、より専門性の高い文献も参照することにより、内容や記述の段階的な変化を感じ取ることも目指す。	1. Introduction 2. Ch 10-1 Historical Linguistics（言語ﾌｧﾐﾘｰ, 祖先, “歴史”） 3. Ch 10-2 … why language changes（なぜことばは変わる?） 4. Ch 10-3 Reconstructing Indo-European（印欧語のご祖先様） 5. Ch 10-4 Surveying the World’s Lang families（一族発見法） 6. Ch 11-1 Linguistic Typology（一族の特徴, “類型”） 7. Ch 11-2 Organizing sounds into larger groups（音のタイプ） 8. Ch 11-3 Word formation（いく-たい-ない-た = いきたくなかった） 9. Ch 11-4 Observing sentence structure（SVO, SOV, VOS…?） 10. Supplemental Reading 11. Ch 12-1 Language Birth and Lang Death（言語の誕生と死） 12. Ch 12-2 Finding signs of complex language（複雑, simple） 13. Ch 12-3 Losing languages（絶滅危機言語） 14. Ch 12-4 What dies with a language?（言語のレスキュー） 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	学生は毎週の事前の読み課題や事前/事後のまとめ課題等をこなし、論点や疑問点と共に授業に臨むことが求められる。
テキスト	Burton, Déchaine & Vatikiotis-Bateson. (2011) *Linguistics for Dummies*. Wiley and Sons Canada, Ltd. (ISBN: 978- 1-118-09169-2, ebook ISBN: 978-1-118-10157-5)
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・クイズ/課題）：約 30%, 発表 30%, まとめ課題/試験：約 40%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （言語研究のさまざまな知見を巡る）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、言語にまつわるさまざまなトピックを読む。	1. Introduction 2. Ch 14-1 Perceiving Language （言語音の”知覚”） 3. Ch 14-2 Constructing sound patterns（音は羅列で聞かない ） 4. Ch 14-3 Attending to speech（音声モード） 5. Ch 14-4 Creating meaning with gesture（gesture, 手話, 読唇） 6. Ch 15-1 Producing Language（言語音の”生成”） 7. Ch 15-2 Breathing takes the lead in syllables（肺から始まる） 8. Ch 15-3 Shaping speech with vocal tract（音を作るﾒｶﾆｽﾞﾑ ） 9. Ch 15-4 Making speech visible & touchable（音を見て触れる） 10. Supplemental Reading 11. Ch 16-1 Neurolinguistics （脳とことば, ”神経言語学”） 12. Ch 16-2 Storing language in the brain（記憶, ﾐﾗｰﾆｭｰﾛﾝ） 13. Ch 16-3 Changing the structure of the brain（脳損傷と言語） 14. Ch 16-4 Responding to oddball paradigms（脳科学的実験） 15. Ch 17 Writing（形の違いだけでない世界の文字）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	学生は毎週の事前の読み課題や事前/事後のまとめ課題をこなし、論点や疑問点をもって授業に臨むことが求められる。
テキスト	Burton, Déchaine & Vatikiotis-Bateson. (2011) *Linguistics for Dummies*. Wiley and Sons Canada, Ltd. (ISBN: 978- 1-118-09169-2, ebook ISBN: 978-1-118-10157-5)
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・クイズ/課題）：約 30%, 発表 30%, まとめ課題/試験：約 40%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （異文化コミュニケーションの基礎）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は，コミュニケーション論分野の基礎的な文献を読み，コミュニケーションの諸概念や仕組みを理解することを目的とします． 授業形式は，3～4人のグループによるプレゼンテーションです．学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して，文献の内容に関する理解の共有を図ります．また，学んだことを実践することも求められます． この授業は，「学生の，学生による，学生のための授業」です．学生諸君の活発な議論を通して，活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてください．そして，日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり，新しい発見をしたりしながら，毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います．	1.　授業オリエンテーション 2.　英語文献の読み方 3.　プレゼンテーションとは何か（準備と方法） 4.　グループの決定 5.　グループプレゼンテーション（1） 6.　グループプレゼンテーション（2） 7.　グループプレゼンテーション（3） 8.　グループプレゼンテーション（4） 9.　グループプレゼンテーション（5） 10.　グループプレゼンテーション（6） 11.　グループプレゼンテーション（7） 12.　グループプレゼンテーション（8） 13.　グループプレゼンテーション（9） 14.　グループプレゼンテーション（10） 15.　春学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する．プレゼンターは資料等の準備，プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく．学習内容に基づき，日常のコミュニケーション現象を観察・分析する．
テキスト	授業で読む文献はコピーとして配布する．
参考文献	適宜，コミュニケーション論，心理学，社会学，統計学に関する辞典・文献．Reading Assignment あり（別途指示）．
評価方法	グループワークの評価（30%），授業への貢献度（10%），学期末レポート（40%），ポートフォリオ（20%）により評価する．

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （異文化コミュニケーションの理論）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は，春学期の内容を踏まえ，特に「異文化」に焦点を当てながら理論に関する文献を読み，その内容を理解することを目的とします．また，特殊講義として，ムスリムの文化を扱う文献を読みます． 授業形式は，3～4人のグループによるプレゼンテーションです．学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して，文献の内容に関する理解の共有を図ります．また，学んだことを実践することも求められます． この授業は，「学生の，学生による，学生のための授業」です．学生諸君の活発な議論を通して，活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてください．そして，日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり，新しい発見をしたりしながら，毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います．	1.　Reading Assignment意見交換 2.　イスラーム・ムスリムの文化（1） 3.　イスラーム・ムスリムの文化（2） 4.　イスラーム・ムスリムの文化のまとめ 5.　グループプレゼンテーション（1） 6.　グループプレゼンテーション（2） 7.　グループプレゼンテーション（3） 8.　グループプレゼンテーション（4） 9.　グループプレゼンテーション（5） 10.　グループプレゼンテーション（6） 11.　グループプレゼンテーション（7） 12.　グループプレゼンテーション（8） 13.　グループプレゼンテーション（9） 14.　グループプレゼンテーション（10） 15.　秋学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する．プレゼンターは資料等の準備，プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく．学習内容に基づき，日常のコミュニケーション現象を観察・分析する．
テキスト	授業で読む文献はコピーとして配布する．
参考文献	適宜，コミュニケーション論，心理学，社会学，統計学に関する辞典・文献．
評価方法	グループワークの評価（30%），授業への貢献度（10%），学期末レポート（40%），ポートフォリオ（20%）により評価する．

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （日英語の受動文の比較）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
大学生の英作文でもappearなどの自動詞を受動文にする(2)のような間違いが散見されるが、(2)をフランス語に置き換えた(3) は文法的であり、(1)とほぼ同じ能動文となる。 (1)　John appeared sad. (2) *John was appeared sad. (3)　John est apparu triste. また、日本語の受動文は(4)のように他動詞に「られ」をつけて表すが、(5)のように自動詞「死ぬ」にも「られ」をつけることができる。これを英語に置き換えた(6)は非文法的であり、フランス語でも同様である。 (4)　花子は（子供に）裏切られた。 (5)　花子は子供に死なれた。 (6) *Hanako was died by her child. (4)はどの言語でも受動文として可能であるが、他の例に見られる言語間の差はどこから来るのだろうか。この授業では、言語間の差はそれぞれの言語の語彙の限られた部分（機能範疇）から導けるという生成文法の考え方に基づいて、Jaeggli (1986)に関する個別の問いにグループで取り組み、論旨をまとめてもらう。	1. 授業の概要とグループ分け 2. 英語のシンタクスに関する基礎：必須要素と修飾要素 3. 英語のシンタクスに関する基礎：節構造と格付与 4. 受動文の典型的性質 5. 受動文における格付与と意味役割付与 6. 非人称受動文 7. 二重目的語構文 8. 動作主句の意味役割 9. 受動名詞句 10. 動作主句なしの受動文 11. Jaeggli (1986)のまとめ提出とグループ討議 12. 日本語の受動文：「に」と「によって」 13. 日本語の間接受動文 14. 日本語の所有者受動文 15. 全体のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。
テキスト	Jaeggli, O. A. (1986) “Passive.” *Linguistic Inquiry* 17:587-622.
参考文献	Freiden, R. (2012) *Syntax: Basic Concepts and Applications* (CUP), 中村捷・他　(1989)『生成文法の基礎』(研究社)
評価方法	毎回の授業での言語分析及び論文のまとめ（70%）、学期末試験（30%）

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （動詞派生形容詞などについて）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
英語専門講読Iでは受動文を扱ったが、動詞の受動形はwell-knownなど形容詞としても使われる場合が多い。agedも形容詞として使われるが、2つの意味と発音（aged (eɪdʒd) wineとaged (eɪdʒɪd) father）がある。動詞の受動形と形容詞にはどのような関連があるのだろうか。また、openには動詞と形容詞の用法があるが、openの受動形と形容詞openはどのように使い分けられるのだろうか。 (1)　The door was opened. (2)　The door was open. (1)の”Someone opened the door”という意味に加え、(1)(2)ともドアが開いているという状態を表すが、状態読みに関して(3)の副詞による修飾や(4)の結果構文に差が現れる。 (3)　The package remained carefully opened/*open. (4)　John kicked the door *opened/open. (1)-(4)はすべてopenという語根を含むが、日本語の「暖かい」「暖まる」「暖める」などもatataという共通部分がある。この授業では以上のような語と統語構造の関係について考察する。授業の進め方はIと同様グループ作業が中心となる。	1. 授業の概要とグループ分け 2. 他動詞の受身形と形容詞 3. イベント的受動形 4. 状態的受動形 5. 語根と派生 6. 形容詞から派生した動詞(dark/darkenなど) 7. (4)などの結果構文 8. 複雑な結果句 9. Levin & Rappaport (1986, 1995) の直接目的語制約 10. 疑似目的語構文と結果句 11. Embick (2004)のまとめ提出とグループ討議 12. 「暖かい」「暖まる」「暖める」の統語構造 13. 「見る」「見せる」「見させる」の統語構造 14. 日本語の動詞派生名詞 15. 全体のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。
テキスト	Embick, D. (2004) “Structure of resultative participles in English” *Linguistic Inquiry* 35:355–392.
参考文献	Freiden, R. (2012) *Syntax: Basic Concepts and Applications* (CUP), 中村捷（他）(1989)『生成文法の基礎』(研究社)
評価方法	毎回の授業での言語分析及び論文のまとめ（70%）、学期末試験（30%）

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ （文法と文脈の関係）	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的： （1）言語学の分野における「語用論」に注目し，英語で書かれた文献を読むことを通じて当該分野の基礎的知識を身につける。 （2）テキストに書かれている内容を正確に把握することができるようになる。 （3）テキストの内容を正確に理解した上で，関連する言語データを収集できるようになる。 概要： 言語学の「語用論」と呼ばれる分野について書かれた英語文献を講読することを通じて，語用論の基礎的事項を学ぶ。そして，実際の言語活動において，それらの事項がどのように反映されているかを観察する。	1. オリエンテーション 2. 語用論とは 3. 協調の原理と会話の含意（1） 4. 協調の原理と会話の含意（2） 5. 有標と無標（1） 6. 有標と無標（2） 7. presupposition と entailment（1） 8. presupposition と entailment（2） 9. 発話行為（1） 10. 発話行為（2） 11. ポライトネス（1） 12. ポライトネス（2） 13. 情報構造（1） 14. 情報構造（2） 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストの指定箇所を事前に読む。報告を担当する場合は，書かれている内容を簡潔にまとめて発表の準備をする。／復習：授業内容を整理し，疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付する
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	授業内での発表（２０％）と言語データの収集（２０％）と期末レポート（６０％）で評価する。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （文法と文脈の関係）	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的： （1）英語で書かれた論文を読めるようになる。 （2）論文に書かれている内容を正確に把握し，把握したことを他者に分かりやすく伝えることができるようになる。 （3）英語学的アプローチを習得し，規則や原理などによるメカニズムの解明の仕方を理解できるようになる。 概要： 「英語専門講読Ⅰ」で学んだ基礎的知識を活用し，語用論について英語で書かれた専門文献（論文）を講読する。そして，実際の語用論研究がどのようなものであるかを知る。	1. オリエンテーション 2. 文法における語用論の役割 3. 語用論的制限を受ける構文Ⅰ：（1） 4. 語用論的制限を受ける構文Ⅰ：（2） 5. 語用論的制限を受ける構文Ⅱ：（1） 6. 語用論的制限を受ける構文Ⅱ：（2） 7. 語用論的制限を受ける構文Ⅱ：（3） 8. 語用論的制限を受ける構文Ⅱ：（4） 9. 語用論的制限を受ける構文Ⅱ：（5） 10. 語用論的制限を受ける構文Ⅲ：（1） 11. 語用論的制限を受ける構文Ⅲ：（2） 12. 語用論的制限を受ける構文Ⅲ：（3） 13. 語用論的制限を受ける構文Ⅲ：（4） 14. 語用論的制限を受ける構文Ⅲ：（5） 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストの指定箇所を事前に読む。報告を担当する場合は，書かれている内容を簡潔にまとめて発表の準備をする。／復習：授業内容を整理し，疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付する
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	授業内での発表（２０％）と言語データの収集（２０％）と期末レポート（６０％）で評価する。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （現代東南アジアの政治・経済・社会）（火４）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は以下の３点です。 ①東南アジア諸国の経済・政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。 ②東南アジアの地域研究（area studies）のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。 ③プレゼンテーションとディスカッションのスキル収得。 これら目的のために、テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、ディスカッション、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答，討論、さらにフォローアップ（翌週）を行います。 ①ISEAS, *ISEAS Monitor Series*, ISEAS. ②Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2017*, ISEAS, 2017。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。
テキスト	ISEAS, *ISEAS Monitor Series,*　Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2017*
参考文献	ISEAS, *ISEAS Monitor Series*（テキストとして使用しない他の号など）
評価方法	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （現代東南アジアの政治・経済・社会）（火４）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は以下の３点です。 ①東南アジア諸国の経済・政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。 ②東南アジアの地域研究（area studies）のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。 ③プレゼンテーションとディスカッションのスキル習得。 これら目的のために、テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、ディスカッション、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答，討論、さらにフォローアップ（翌週）を行います。 ①ISEAS, *ISEAS Monitor Series*, ISEAS. ②Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2017*, ISEAS, 2017。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。
テキスト	ISEAS, *ISEAS Monitor Series,*　Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2017*
参考文献	ISEAS, ISEAS *Monitor Series*（テキストとして使用しない他の号など）
評価方法	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。

09 年度以降	英語専門講読 I （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標：第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に質問表にもとづく質疑応答・討論により作品理解を深めることを目的とします。 講義概要：20世紀最大のアメリカ作家と言われるWilliam Faulknerの最高傑作*The Sound and the Fury*（1929)に挑戦し、第1章を中心に読みます。難解な小説と言われていますが、100%理解できなくても十分楽しめ、人間の想像力の素晴らしさを味わうことが出来る作品です。アメリカ南部が舞台ですが、家族崩壊、初恋、兄弟間の愛憎など現代の学生諸君にも十分理解・自己投影できる普遍性をもった作品と考えます。 　質問表は教師が用意し、教師が討論の司会をします。授業で積極的に発言して、討論・意見交換に参加する学生の受講を希望します。	1.　授業の進め方などについての説明と質問表にもとづく質疑応答・討論による体験授業を行います。 2-13.　質問表にもとづく同様な方法でテキストの第1章を毎回平均ほぼ5～10ページずつ読んでいく。 14-15.　質問表にもとづく同様な方法でテキストの第2章を毎回平均ほぼ5～10ページずつ読んでいく。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習。授業後は、授業内容をまとめ、各質問で話題となったポイントを整理しておく。
テキスト	William Faulkner, *The Sound and the Fury* (Vintage International, 1990)
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%

09 年度以降	英語専門講読 II （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標：春学期を参照してください。 講義概要：第2章を中心に読みます。他は、春学期を参照してください。	1.　春学期定期試験問題の返却と講評。春学期と同じく、質問表による討論。第2章の続き。 2-11.　質問表による討論。第2章の残り部分。毎週平均ほぼ5から10ページ程度読んでいく予定 12-15.　第3章と4章の指定された部分についての質問表にもとづく質疑応答･討論。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習。授業後は、授業内容をまとめ、各質問で話題となったポイントを整理しておく。
テキスト	William Faulkner, *The Sound and the Fury* (Vintage International, 1990)
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （世界ブランドとグローバル社会）（火４）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、２つのテーマとして設定しています。 ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。 グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。 プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての２年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。	1　オリエンテーション、グループの編成 2　世界ブランド 3　世界ブランド 4　世界ブランド 5　世界ブランド 6　グローバル社会 7　同上 8　同上 9　同上 10　世界ブランド 11　世界ブランド 12　世界ブランド 13　世界ブランド 14　世界ブランド 15　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	*E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010)* など。
参考文献	テキストの続き：Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &Sons,2006) など。参考文献は授業中にお知らせします。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （世界ブランドとグローバル社会）（火４）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、２つのテーマとして設定しています。 ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。 グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。 プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての２年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。	1　オリエンテーション、グループの編成 2　世界ブランド 3　世界ブランド 4　世界ブランド 5　世界ブランド 6　グローバル社会 7　同上 8　同上 9　同上 10　世界ブランド 11　世界ブランド 12　世界ブランド 13　世界ブランド 14　世界ブランド 15　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	*E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010)* など。.
参考文献	テキストの続き：Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &Sons,2006) など。参考文献は授業中にお知らせします。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （比較統語論）	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
＊生成文法統語論の基礎知識をある程度前提にしているため、「シンタクスa, b」の既修もしくは並行履修が望ましい。 さまざまな言語データに基づいて、データからどのように記述的一般化を行えば良いのか、一般化を理論的に説明することによってどのような理論的予測が得られるのか、さらには理論的予測の検証をどのようなデータに基づいて行えば良いのかなど、科学的な言語研究の方法論を自分で実際に体験することによって習得してもらいます。 授業の基本的構成は、前半に講師による講義および学生自身によるデータ分析を、後半でグループミーティングを行います。グループミーティングでは、学期末のグループプレゼンテーションのためのディスカッションを行ってもらいます。グループプレゼンテーションでは、英語で書かれた入門書の一部の内容をまとめて発表してもらいます（発表自体は日本語で良い）。 ＊統語論は積み上げ式の学問なので授業には毎回出席すること。１度でも授業を欠席するとそれ以降の授業についていくのが難しくなります。	1. オリエンテーション 2. 原理とパラメーターアプローチ導入 3. that-trace effects 4. 空主語 5. 意味役割 6. 束縛理論１ 7. 縛理論２ 8. 階層性１：ワルピリ語 9. 階層性２：英語 10. 階層性３：日本語 11. 下接の条件 12. CEDとECM 13. グループプレゼンテーション１ 14. グループプレゼンテーション２ 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	グループミーディングのための課題論文（英文）の精読、および授業内容の復習をすること
テキスト	ハンドアウトを毎回配布します。
参考文献	Carnie, Andrew (2013) Syntax: A generative introduction (3rd ed.). Wiley-Blackwell
評価方法	期末試験あるいはプレゼン（７０％）＋授業への参加度・貢献度（３０％）

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （比較統語論）	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
＊生成文法統語論の基礎知識をある程度前提にしているため、「シンタクスa, b」の既修もしくは並行履修が望ましい。 ＊また同一講師の英語専門講読Ⅰ（春学期）も前提としているので、連続して履修してください。 講義目的および講義概要は英語専門講読Ⅰ（春学期）を参照してください。 春学期のグループプレゼンテーションでは入門書の一部を読みますが、秋学期はより本格的なリサーチペーパーを読んでもらいます。 ＊統語論は積み上げ式の学問なので授業には毎回出席すること。１度でも授業を欠席するとそれ以降の授業についていくのが難しくなります。	1. オリエンテーション 2. X-bar理論 3. 虚辞 4. A移動１：述部内主語仮説 5. A移動２：繰り上げ構文とコントロール構文 6. A移動３：日本語の繰り上げ構文 7. 主要部移動１：英語とフランス語 8. 主要部移動２：主要部移動制約と否定辞 9. 日本語の主要部移動１：動詞残留型動詞句省略 10. 日本語の主要部移動２：付加詞脱落 11. 日本語の主要部移動３：動詞句前置 12. 日本語の主要部移動４：まとめ 13. グループプレゼンテーション１ 14. グループプレゼンテーション２ 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	グループミーディングのための課題論文（英文）の精読、および授業内容の復習をすること
テキスト	ハンドアウトを毎回配布します。
参考文献	Carnie, Andrew (2013) Syntax: A generative introduction (3rd ed.). Wiley-Blackwell
評価方法	期末試験あるいはプレゼン（７０％）＋授業への参加度・貢献度（３０％）

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （映画『スターウォーズ』批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、コミュニケーション研究において重要な批判的・哲学的概念について、映画スターウォーズ・シリーズの批評を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とします。 映像が理論的・哲学的概念を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を読み込み理解していきます。この講義の目的は、映画から始めて哲学や理論の探究という今まできちんと意識してこなかったかもしれない「読み」を行うことです。 授業では、①グループでレジュメを作成して発表し、②全体で討論するという手順で行います。履修者には主体的に課題に取り組むこと、また積極的に関連資料の収集や調査、そして討論に参加することが必要とされます。 テクストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め各自で観ておくことが必須となります。 履修者は文献をきちんと理解し発表する為に、参考文献を図書館等で入手し活用することも求められます。積極的に授業に取り組み、他の受講生の知的好奇心を刺激する発言をすることに意欲的な方の受講を大いに歓迎します。 **第１回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。**	1. Course Orientation 2. “You cannot Escape your Destiny” (Or can you?): Freedom and Predestination in the Skywalker Family 3. “You cannot Escape your Destiny” (Or can you?): Freedom and Predestination in the Skywalker Family 4. Moral Ambiguity in a Black-and-White Universe 5. Moral Ambiguity in a Black-and-White Universe 6. The Aspiring Jedi’s Handbook of Virtue 7. The Aspiring Jedi’s Handbook of Virtue 8. Send in the Clones: The Ethics of Future Wars 9. Send in the Clones: The Ethics of Future Wars 10. A Technological Galaxy: Heidegger and the Philosophy of Technology in *Star Wars* 11. A Technological Galaxy: Heidegger and the Philosophy of Technology in *Star Wars* 12. “If Droids could Think. . .”: Droids as Slaves and Persons 13. “If Droids could Think. . .”: Droids as Slaves and Persons 14. Review of chapters 15. Wrap up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。
テキスト	*Star Wars and Philosophy: More Powerful than You can Possibly Imagine*. ed. By Kevin S. Decker and Jason T. Eberl. (Chicago: La Salle, Il: Open Court, 2005)
参考文献	
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （映画『スターウォーズ』批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ **第１回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。**	1. Course Orientation 2. “Size Matters Not”: The Force as the Causal Power of the Jedi 3. “Size Matters Not”: The Force as the Causal Power of the Jedi 4. The Force is with *Us*: Hegel’s Philosophy of Spirit Strikes Back at the Empire 5. The Force is with *Us*: Hegel’s Philosophy of Spirit Strikes Back at the Empire 6. “What is Thy Bidding, My Master?”: *Star Wars* and the Hegelian Struggle for Recognition 7. “What is Thy Bidding, My Master?”: *Star Wars* and the Hegelian Struggle for Recognition 8. By Any Means Necessary: Tyranny, Democracy, Republic, ad Empire 9. By Any Means Necessary: Tyranny, Democracy, Republic, ad Empire 10. Humanizing Technology: Flesh and Machine in Aristotle and *The Empire Strikes Back* 11. Humanizing Technology: Flesh and Machine in Aristotle and *The Empire Strikes Back* 12. “A Certain Point of View”: Lying Jedi, Honest Sith, and the Viewers who Love Them 13. “A Certain Point of View”: Lying Jedi, Honest Sith, and the Viewers who Love Them 14. Review of chapters 15. Wrap up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。
テキスト	*Star Wars and Philosophy: More Powerful than You can Possibly Imagine*. ed. By Kevin S. Decker and Jason T. Eberl. (Chicago: La Salle, Il: Open Court, 2005)
参考文献	
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （アジア太平洋地域の国際関係・政治経済）（水１）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は３つあります。第１に、国際関係論や地域研究（area studies）にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第２に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第３に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。 上記の目的に沿って、テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとにテキストの指定されたパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、英語専門講読（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）Ⅰ（春）と同Ⅱ（秋）は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 ・テキスト：下記のシリーズの最新の articles 中から選択して順次取り上げる。 ISEAS, *ISEAS Perspective Series*, ISEAS. （http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード） ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。 ・担当者が初回の授業時に取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。
テキスト	ISEAS, *ISEAS Perspective Series*（2017～2018 年の号から選択）
参考文献	CIA, *The World Factbook* (https://www.cia.gov/ library/publications/the-world-factbook/) など。
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （アジア太平洋地域の国際関係・政治経済）（水１）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、英語専門講読（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）Ⅰ（春学期）と同Ⅱ（秋学期）は継続性が強いため、本授業（Ⅱ）の履修については春学期のⅠを履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 ・テキスト：下記のシリーズの最新のarticles中から選択して順次取り上げる。 ISEAS, ISEAS Perspective Series, ISEAS. （http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード） ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。 ・担当者が初回の授業時に取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。
テキスト	ISEAS, *ISEAS Perspective Series*（2017～2018 年の号から選択）
参考文献	CIA, *The World Factbook* (https://www.cia.gov/ library/publications/the-world-factbook/) など。
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 (Japanese Language and Literature: Past, Present, and Future)	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Think about it: How will Japanese language and literature fare in a world that is flooded by English? What are the prospects? Minae Mizumura, in her book *The Fall of Language in the Age of English,* (Japanese title: *日本語が亡びるとき:英語の世紀の中で*) has made a significant contribution to the debate about the predicament of the planet's languages and literatures in today's world where English is the uncontested standard for international communication. Whereas Mizumura's main concern is Japanese, we will also evaluate the historical development and prospects for other languages and literatures including French and Turkish.	1. Orientation 2. Preface & Introduction 3. Preface & Introduction 4. Chapter 1 5. Chapter 1 6. Chapter 1 7. Chapter 2 8. Chapter 2 9. Chapter 2 10. Chapter 3 11. Chapter 3 12. Chapter 3 13. Chapter 3 14. Review 15. Test

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Come to every class having completed assignments. (Homework: about 4 hours each week.)
テキスト	*The Fall of Language in the Age of English*, Minae Mizumura, 2015, Colombia University Press
参考文献	Reference materials will be distributed in class.
評価方法	Essays = 30%, Notebooks = 40%, Participation = 30%.

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 (Japanese Language and Literature: Past, Present, and Future)	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
A continuation of the first semester. We will continue to examine the predicament of languages (especially Japanese, French, and Turkish) in a world dominated by English.	1. Orientation 2. Chapter 4 3. Chapter 4 4. Chapter 4 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 5 8. Chapter 5 9. Chapter 6 10. Chapter 6 11. Chapter 6 12. Chapter 7 13. Chapter 7 14. Review 15. Test

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Come to every class having completed assignments. (Homework: about 4 hours each week.)
テキスト	*The Fall of Language in the Age of English*, Minae Mizumura, 2015, Colombia University Press
参考文献	Reference materials will be distributed in class.
評価方法	Essays = 30%, Notebooks = 40%, Participation = 30%.

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （ディズニーと世界情勢）（水２）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパークを米国や海外に展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニー（旧名称はウォルト・ディズニー・プロダクション）に注目します。 この授業では、ディズニー映画やアニメ作品のＤＶＤ、企業のＰＲ動画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画やアニメ作品そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展の歴史を辿ります。 映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネージメントなどに注目します。世界的な有力企業（例えば、フォーシーズンズ・ホテル）との比較も行います。	第１週　オリエンテーション、グループの編成 第２週～１５週 毎回の授業では、以下のメニューが用意されています。 ①　モーニング・ボイス・トレーニング テキストの音読を全員で行います ②　グループによるプレゼン ③　ディズニー作品やディズニーＰＲ動画、 ディズニー・ドキュメンタリー・フィルムの鑑賞 ④　グループ・ディスカッション

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	B. Capodagli & L.Jackson, The Disney Way,(2007); J. Wasko, Understanding Disney (2001) など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （ディズニーと世界情勢）（水２）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパークを米国や海外に展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニー（旧名称はウォルト・ディズニー・プロダクション）に注目します。 この授業では、ディズニー映画やアニメ作品のＤＶＤ、企業のＰＲ動画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画やアニメ作品そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展の歴史を辿ります。 映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネージメントなどに注目します。世界的な有力企業（例えば、フォーシーズンズ・ホテル）との比較も行います。	第１週　オリエンテーション、グループの編成 第２週～１５週 毎回の授業では、以下のメニューが用意されています。 ①　モーニング・ボイス・トレーニング テキストの音読を全員で行います ②　グループによるプレゼン ③　ディズニー作品やディズニーＰＲ動画、 ディズニー・ドキュメンタリー・フィルムの鑑賞 ④　グループ・ディスカッション

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	B. Capodagli & L.Jackson, The Disney Way,(2007); J. Wasko, Understanding Disney (2001) など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （アメリカ現代詩）	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカ現代詩を鑑賞し分析する。アメリカには詩を「ソング」と呼ぶ伝統がある。そのような「詩／ソング」は詩人の肉声と、読者の肉声が混じり合う「場所／テクスト」である。 アメリカは建国当初、「歴史」がないゆえに「文学」や「芸術」もないと揶揄された。そのような中で、人々はアメリカ独自の「文学」や「芸術」を発展させようと四苦八苦した。 個々の作品は、これまでわたしたちが見たことのないアメリカの姿を映し出している。作品を鑑賞し分析することで、アメリカの文化やそれに付随する諸問題を多面的に捉える能力を養うのが本講義の目的である。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	1. イントロダクション 2. Walt Whitman 3. Emily Dickinson 4. William Carlos Williams 5. Ezra Pound 6. Marianne Moore 7. T. S. Eliot 8. Langston Hughes 9. Elizabeth Bishop 10. Robert Lowell 11. Allen Ginsberg 12. Denise Levertov 13. Kenneth Koch 14. Frank O'Hara 15. John Ashbery

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分の訳を作り、声に出して作品を味わってくること。授業で読んだ作品を読み直し、イメージを膨らませること。
テキスト	Rita Dove, editor. *The Penguin Anthology of Twentieth-Century American Poetry*. Penguin, 2011.
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表（30%）、参加度（30%）、レポート（40%）

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （アメリカ現代詩）	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続きアメリカ現代詩を鑑賞し分析する。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	1. イントロダクション 2. Adrienne Rich 3. Gary Snyder 4. Silvia Plath 5. Mark Strand 6. Robert Pinsky 7. Robert Hass 8. Kay Ryan 9. Leslie Marmon Silko 10. Rita Dove 11. Naomi Shihab Nye 12. Li-Young Lee 13. Sherman Alexie 14. Natasha Trethewey 15. Mitsuye Yamada

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分の訳を作り、声に出して作品を味わってくること。授業で読んだ作品を読み直し、イメージを膨らませること。
テキスト	Rita Dove, editor. *The Penguin Anthology of Twentieth-Century American Poetry*. Penguin, 2011.
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表（30%）、参加度（30%）、レポート（40%）

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （実践的な英語の聴解・発音教育）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。 概要 春学期は、主に教科書を中心に第二外国語としての英語リスニング・発音指導の問題点や課題、そして提案されている解決策を学習する。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. Introduction（教科書 viii-xv）： いわゆる「アクセント」とは何か？等 3. Unit 1：シラブル（音節）とは 4. Unit 2：母音のルール 5. Unit 3：強勢と母音長との関係１ 6. Unit 4：強勢と母音長との関係２ 7. Unit 1 - 4 のまとめ 8. ＜中間テスト＞ 9. Unit 5：語強勢のさまざまなパターン 10. Unit 6：内容語の文における役割 11. Unit 7：機能語の役割（音としては弱いが重要） 12. 教材作成タスク　① 13. 教材作成タスク　② 14. ＜期末テスト＞ 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認
テキスト	『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher's Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press
参考文献	必要に応じて学習者用テキストからのコピー等を配布する
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （実践的な英語の聴解・発音教育）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。 概要 第二外国語としての英語リスニング・発音の研究資料、あるいはウェブ教材なども参考にしながら、実践的な教授法を学習する。後半はグループワークで「英語音を習得するための効果的な教材の作成」に取り組む予定。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. Unit 8：文のなかで強調される部分 3. Unit 9：機能語をあえて強調する 4. Unit 10：英語の /s/と/t/ 5. Unit 11：英語の /r/と/d/, /l/と/d/ 6. Unit 12：有声音・無声音について 7. Unit 8 ～12 のまとめ 8. ＜中間テスト＞ 9. Unit 13：シラブルの長さと有声・無声音との関係 10. Unit 14：‘Sibilants’ 11. Lecture for Listening Practice 12. 教材作成（グループワーク）① 13. 教材作成（グループワーク）② 14. ＜期末テスト＞ 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認
テキスト	『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher's Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press
参考文献	必要に応じて学習者用テキストからのコピー等を配布する
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （国際関係論）	担当者	山越　裕太

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 新聞やテレビで見聞きする「国連」や「国家」、「テロリズム」、「環境問題」などの国際関係論の用語や状況をテキストを読み、考えていきます。 春学期は①上記などの国際関係論の基礎知識や概念の理解、②専門的文献の読解力の向上(要約レポート作成)、③専門的文献を読み通す経験を積むことを目的とします。 **講義概要** 初回授業でより具体的な概要説明を行うので必ず出席してください。 この講義では各自、事前に毎回テキスト(全137頁)の約9ページを精読し、段落ごとにまとめた要約レポートを作成します。授業ではレポートを基に段落ごとに輪読、内容確認、質疑を行い、国際関係論の理解を深めていきます。 ※テキストは各自購入もしくは図書館でコピーすること。	1. 講義オリエンテーション 2. テキストの2~11頁、輪読、内容確認、質疑、まとめ。 3. 以下、同様の方法でテキストの12~20頁。 4. テキスト20~29頁。　5. テキスト29~40頁。 6. テキスト41~50頁。　7. テキスト50~61頁。 8. テキスト61~71頁。　9. テキスト72~81頁。 10.テキスト81~89頁。　11.テキスト89~98頁。 12.テキスト98~106頁。　13.テキスト106~115頁。 14.テキスト115~127頁。　15.テキスト127~137頁。 **テキストの目次は以下の通りです。** Introduction(p.1-), Ch.1 States(p.12-), Ch.2 Non-states(p.58-), Ch.3 Intergovernmental organizations(p.79-), Ch.4 Problems and challenges(p.105-), Conclusion(p.135-137)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：毎週、指定範囲の要約(パラグラフ単位)レポートの作成(レポートは授業の最初に提出)。 事後：専門用語、概念の復習や参考文献の併読。
テキスト	Paul Wilkinson, *International Relations: A Very Short Introduction* (NY: Oxford Univ. Pr., 2007)
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	①要約レポート 60%、②授業への参加・貢献度 40%の 2 点を基に評価します。 理由の如何を問わず欠席が 4 回になった時点で評価は不可とします(遅刻は 2 回で欠席 1 回と見做す)。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （国際関係論）	担当者	山越　裕太

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 国際関係論の重要な課題の一つである安全保障(Security)について、国連の役割とは何か、武力紛争の性質など、テキストを読み、考えていきます。 秋学期は①上記などの安全保障分野の基礎知識や概念の理解、②専門的文献の読解力の向上(要約レポート作成)、③専門的文献を読み通す経験を積むことを目的とします。 **講義概要** 初回授業でより具体的な概要説明を行うので必ず出席してください。 この講義では各自、事前に毎回テキスト(全117頁)の約8ページを精読し、段落ごとにまとめた要約レポートを作成します。授業ではレポートを基に段落ごとに輪読、内容確認、質疑を行い、国際関係論の理解を深めていきます。 ※テキストは各自購入もしくは図書館でコピーすること。	1. 講義オリエンテーション 2. テキストの5~12頁、輪読、内容確認、質疑、まとめ。 3. 以下、同様の方法でテキストの12~19頁。 4. テキスト20~30頁。　5. テキスト30~37頁。 6. テキスト37~46頁。　7. テキスト46~54頁。 8. テキスト54~60頁。　9. テキスト60~68頁。 10.テキスト68~76頁。　11.テキスト77~85頁。 12.テキスト85~93頁。　13.テキスト93~100頁。 14.テキスト100~108頁。　15.テキスト108~117頁。 **テキストの目次は以下の通りです。** Ch.1 Introduction(p.1-), Ch.2 A contested nature(p.5-), Ch.3 The problem of war(p.18-), Ch.4 The United Nations(p.33-), Ch.5 The Changing nature of armed conflict(p.47-), Ch.6 Human Security and development(p.62-), Ch.7 Resources, climate change, and capitalism(p.77-), Ch.8 Saviours or sinners?(p.91-), Ch.9 The politics of fear and control(p.104-117)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：毎週、指定範囲の要約(パラグラフ単位)レポートの作成(レポートは授業の最初に提出)。 事後：専門用語、概念の復習や参考文献の併読。
テキスト	Christopher S. Browning, *International Security: A Very Short Introduction* (GB: OUP, 2013)
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	①要約レポート 60%、②授業への参加・貢献度 40%の 2 点を基に評価します。 理由の如何を問わず欠席が 4 回になった時点で評価は不可とします(遅刻は 2 回で欠席 1 回と見做す)。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。 使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。	1. *Jews of Britain* 1~5 ページを講読 2. 同上 6～10 ページを講読 3. 同上 11～15 ページを講読 4. 同上 16～20 ページを講読 5. 同上 21～25 ページを講読 6. 同上 26～30 ページを講読 7. 同上 31～35 ページを講読 8. 同上 36～40 ページを講読 9. 同上 41～45 ページを講読 10. 同上 46～50 ページを講読 11. 同上 51～55 ページを講読 12. 同上 56～60 ページを講読 13. 同上 61～65 ページを講読 14. 同上 66～70 ページを講読 15. 同上 まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	高価なため、コピーを配布します。
参考文献	
評価方法	毎回出席をとります。授業日数の１／３以上欠席された方は単位をあげません。 遅刻２回で欠席１回にカウント。（筆記試験が 70%、平常点が 30%）

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
英国ユダヤ人史の概説書を使用します。 講義目的、講義概要は春学期と同じです。	1. *Jews of Britain* 71～75ページを講読 2. 同上 76～80ページを講読 3. 同上 81～85ページを講読 4. 同上 86～90ページを講読 5. 同上 91～95ページを講読 6. 同上 96～100ページを講読 7. 同上 101～105ページを講読 8. 同上 106～110ページを講読 9. 同上 111～115ページを講読 10. 同上 116～120ページを講読 11. 同上 121～125ページを講読 12. 同上 126～130ページを講読 13. 同上 131～135ページを講読 14. 同上 136～140ページを講読 15. 同上 まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同じ
テキスト	春学期と同じ
参考文献	
評価方法	春学期と同じ

09 年度以降	英語専門講読 I (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
Diplomacy is one of the central aspects in the study of international relations. By examining the nature of diplomacy from various historical perspectives, this course attempts to understand diplomacy, which serves as an essential factor in shaping contemporary international politics today. In the spring semester, the focus will be placed on the evolution of diplomacy, along with some historical events. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments periodically. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO **before the first class.**	1. Introduction 2. Evolution of Diplomacy (1) 3. Evolution of Diplomacy (2) 4. Evolution of Diplomacy (3) 5. Diplomacy of the American Revolution (1) 6. Diplomacy of the American Revolution (2) 7. Diplomacy of the American Revolution (3) 8. Midterm Examination/ Diplomacy of the American Revolution (4) 9. Diplomacy of the American Revolution (5) 10. Diplomacy of the American Revolution (6) 11. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (1) 12. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (2) 13. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (3) 14. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (4) 15. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (5)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	Siracusa, Joseph M., *Diplomacy: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010).
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	英語専門講読 II (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is as above. In the fall semester, the focus will be placed on more historical events and the changing nature of diplomacy in the age of globalization and beyond. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments periodically. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English.	1. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (1) 2. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (2) 3. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (3) 4. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (4) 5. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (5) 6. The ANZUS Treaty (1) 7. The ANZUS Treaty (2) 8. Midterm Examination/ The ANZUS Treaty (3) 9. The ANZUS Treaty (4) 10. The ANZUS Treaty (5) 11. Diplomacy in the Age of Globalization (1) 12. Diplomacy in the Age of Globalization (2) 13. Diplomacy in the Age of Globalization (3) 14. Diplomacy in the Age of Globalization (4) 15. Course Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	Siracusa, Joseph M., *Diplomacy: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010).
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （国際関係）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションとはどのような現象で私たちの生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。 一般的にグローバリゼーションとは、ヒト、モノ、カネ、サービスの国境・地域などの境界を越えての移動と説明される。グローバリゼーションの進展は世界の貧困削減に貢献したのだろうか。または伝統文化の破壊をもたらしているだろうか。さまざまな解釈があるなか、この授業では政治、経済、文化、環境、イデオロギーを多方面からグローバリゼーションを捉え直す。 テキストは、オックスフォード大学出版局のShort IntroductionシリーズのGlobalization（第4版）を用いる。授業への積極的な参加を求めるので、テキストの指定箇所の予習を怠らないこと。	1. 授業概要の説明 2.～14. テキストに沿って進める 15. 授業総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読んだ上で授業に臨むこと。
テキスト	Manfred B. Steger. *Globalization: A Very Short Introduction.* Oxford Univ. Press, 2017.（第４版）
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	課題 20%、授業貢献度 30%、学期末試験 50%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （国際関係）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションとはどのような現象で私たちの生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。 一般的にグローバリゼーションとは、ヒト、モノ、カネ、サービスの国境・地域などの境界を越えての移動と説明される。グローバリゼーションの進展は世界の貧困削減に貢献したのだろうか。または伝統文化の破壊をもたらしているだろうか。さまざまな解釈があるなか、この授業では政治、経済、文化、環境、イデオロギーを多方面からグローバリゼーションを捉え直す。 テキストは、オックスフォード大学出版局のShort IntroductionシリーズのGlobalization（第4版）を用いる。授業への積極的な参加を求めるので、テキストの指定箇所の予習を怠らないこと。	1. 授業概要の説明 2.～14. テキストに沿って進める 15. 授業総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読んだ上で授業に臨むこと。
テキスト	Manfred B. Steger. *Globalization: A Very Short Introduction.* Oxford Univ. Press, 2017.（第４版）
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	課題 20%、授業貢献度 30%、学期末試験 50%

09 年度以降	英語専門講読 I （英語で学ぶ国際関係論）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：国際関係における様々な理論（リアリズム、リベラリズム、批判理論、構成主義、戦争、国際政治経済、トランスナショナル・アクター、国連、ジェンダー）について、英語の文献講読を通じて、専門用語に慣れ親しむと同時に、国際関係論についても理解する。 講義概要：欧米の大学の学部の授業で広く使用されている国際関係論のテキストを読解してゆく。単に訳をおこなうだけでなく、内容について理解し、質疑応答や討論をしてゆく。春・秋継続しておこなうことで、専門用語や内容、国際関係論の考え方について慣れて行ってほしいと思います。	1. Introduction 2. Realism 3. Liberalism 4. Contemporary approaches: neo-realism and neo-liberalism 5. Marxist theories of international relations 6. Social Constructivism 7. The changing character of war 8. International and Global Security 9. International Political Economy in an age of globalization 10. Gender in World Politics 11. International Regimes 12. The United Nations 13-14. Transnational Actors and International Organizations in Global Politics 15. Assessment

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの予習と復習。関連文献を自分で読んで理解する。プレゼンテーションの準備。
テキスト	Baylis, John, *The Globalization of World Politics: An introduction to International Relations*, Oxford.
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	講義への出席、発言や受講姿勢　30%、プレゼンテーションの内容　40%、期末課題　30%

09 年度以降	英語専門講読 II （英語で学ぶ国際関係論）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：国際関係の歴史と英語の文献講読を通じて、環境、テロ、ナショナリズム、地域主義、貿易と金融、貧困と発展、人間の安全保障といった具体的なイシューについて英語の文献を講読することで、専門用語に慣れ親しむと同時に、国際関係の歴史と今日的課題についても理解する。 講義概要：欧米の大学の学部の授業で広く使用されている国際関係論のテキストを読解してゆく。単に訳をおこなうだけでなく、内容について理解し、質疑応答や討論をしてゆく。春・秋継続しておこなうことで、専門用語や内容、国際関係論の考え方について慣れて行ってほしいと思います。	1. Introduction 2. The evolution of international society 3. International history 1900-99 4. From the end of the cold war to a new global era? 5. Rising Powers and the emerging global order 6. Environmental Issues 7. Terrorism and Globalization 8. Nationalism 9. Regionalism in international affairs 10. Global trade and global finance 11. Poverty, development and hunger 12. Human security 13. Human rights 14. Humanitarian intervention in world Politics 15. Assessment

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの予習と復習。関連文献を自分で読んで理解する。プレゼンテーションの準備。
テキスト	Baylis, John, *The Globalization of World Politics: An introduction to International Relations*, Oxford.
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	講義への出席、発言や受講姿勢　30%、プレゼンテーションの内容　40%、期末課題　30%

09 年度以降	英語専門講読 I （ハリウッド映画の社会学：初期から WW2 まで）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
ハリウッドは、最初から「ハリウッド」だったわけではありません。この授業では、アメリカ映画の代表格、あるいは大衆娯楽映画の代名詞になった「ハリウッド」が、いつ、どのようにして誕生し、いかなる特徴の映画を世界へ発信するようになったのかについて、社会学の視点から考えます。ハリウッドの歴史と現状を論じた書籍を読解し、また必要に応じて映画作品の一部を観て議論することで、現代社会における映画メディアの魅力と課題を考えます。 授業は①指定テキストの担当箇所について個人単位で英文要約レジュメを作成して口頭発表し、②担当箇所について2～3問のクイズを作成して出題し、③全員でクイズに回答した後に討論する、というスタイルを採ります。 履修者には、主体的に課題に取り組み、かつ積極的に討論に参加することを期待します。	1.　ガイダンス：授業内容の説明、担当箇所の決定 2.　講義①：ハリウッドと「ハリウッド」 3.　講義②：映画産業の歴史と映画研究の位置付け 4.～14.　発表と読解、クイズ、討論 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定個所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。 また授業後に 1 回は指定個所を読み返してください。詳細は初回と第 2 回の授業で説明します。
テキスト	Decherney, P., 2016, *Hollywood: A Very Short Introduction*, Oxford University Press.　ほか
参考文献	授業で適宜提示します。
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読 II （ハリウッド映画の社会学 : 20 世紀後半から現在まで）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、前期の「英語専門講読 I （ハリウッド映画の社会学：初期からWW2まで）」で取り組んだ方法を応用して、①指定テキストの後半を講読するとともに、②関連する学術論文をあわせて読解し、③「ハリウッド」が映し出す現代社会のメカニズムを考えることを試みます。 前期と同様に、英文要約の発表、クイズの出題と回答、全体討論の3部で授業を構成し、必要に応じて有名・無名のハリウッド映画の一部を鑑賞します。出席は毎回確認し、要約発表とクイズ出題に工夫を求めますが、充実した授業を求めるタイプの学生が楽しめるよう、履修者の意見を取り入れて教員も工夫を重ねて改良していきます。 映画が好きな方はもちろん、これまで映画をあまり観なかった方やハリウッド映画が嫌いな方を含めて、映画メディアの歴史から我々が生きる現代社会を考える社会学に意欲的な受講生を歓迎します。	1.　ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け 2.　講義①：「ハリウッド」と日本 3.　講義②：「ハリウッド」以外の映画界 4.～14.　発表と読解、クイズ、討論 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定個所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。 また授業後に 1 回は指定個所を読み返してください。詳細は初回と第 2 回の授業で説明します。
テキスト	Decherney, P., 2016, *Hollywood: A Very Short Introduction*, Oxford University Press.　ほか
参考文献	授業で適宜提示します。
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （Multicultural Education & Social Justice）	担当者	Ｅ．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
Multicultural education is not just about exploring various cultures in the classroom. It is also about addressing inequities, stereotypes, and the ways they influence both the way teachers teach and students learn and engage in/with, or resist, their lessons and the school culture. In this course we will examine the ways that various teaching practices and socio-cultural perspectives impact the learning environment. By building awareness of a variety of perspectives, students will better understand how schools both reflect and reproduce social inequities that exist outside of the classroom and school and consider the ways in which a shift toward a social justice oriented education can begin to address these inequities.	Week 1 Introduction to Course-What is Social Justice? Week 2 Theories of Social Justice & Education Week 3 Morality vs. Ethicality in Education Week 4 Doing the Right Thing (Considering Moral/Ethical Behavior) Week 5 Social Justice & Education (What is the Link?) Week 6 Educational Inequality – What is the Gap? Week 7 Educational Inequality – Global Inequality Week 8 Educational Inequality – Race & Education Week 9 Educational Inequality – Gender Inequality Week 10 Educational Inequality – Social Class & Inequality Week 11-12 Linguistic/Cultural Difference & Learning Week 13 Multiple Intelligences – What Counts as Knowledge? Week 14 Poster Presentations Week 15 Wrap Up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	There is no text for this course
参考文献	Materials will be provided by the instructor
評価方法	In-class participation & homework (40%), Reflective Responses /Article Summary (20%), Mid-term presentations (20%), Final Poster Presentation (20%)

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （Multicultural Education & Social Justice）	担当者	Ｅ．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
The fall term of the course continues with an exploration of how social inequalities are reflected and reproduced within educational institutions and how a social justice oriented education can address these issues. The main topics of study include social mobility and educational stratification; human & social capital; social & cultural reproduction; the affect of race, ethnicity, gender, class, etc. on the type and quality of education individuals receive.	Week 1 Equal Opportunity & Education Week 2 Purposes of Public Education – Is it really Equal? Week 3 Considering Equality and Equity Week 4 Aims & Objectives of a Social Justice Education Week 5 Types of Social Justice Education Week 6 Social Justice Case Studies – How Does It Work? Week 7 Globalization, Human Capital & Schooling Week 8 Global Disparity & Education Week 9 Colonization & Schooling Week 10-11 Deculturalization & Education Week 12-13 Schooling the World Week 14 Final Presentations Week 15 Final Presentations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	There is no text for this course
参考文献	Materials will be provided by the instructor
評価方法	In-class participation & homework (40%), Reflective Responses x2　(20%), Mid-term presentations (20%), Final Presentations (20%)

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （The History of Language）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the history of the English language, from its obscure Sanskrit origins to the role in Europe in the Middle Ages. By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.	Week 1: Introduction Week 2: The Common Tongue: V&D Week 3: The Common Tongue: Video & Reading (V&R) Week 4: The Great Escape: V&D Week 5: The Great Escape: V&R Week 6: Conquest: Vocabulary & Discussion (V&D) Week 7: Conquest: V&R Week 8: Quiz I. Journals due. Week 9: Holding On: V&D Week 10: Holding On: V&R Week 11: The Speech of Kings: V&D Week 12: The Speech of Kings: V&R Week 13: Chaucer: V&D Week 14: Chaucer: V&R Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 90 minutes) in preparation for class participation.
テキスト	Bragg, M. *The Adventure of English: The Biography of a Language*. (Sceptre)
参考文献	Presented in class on a case-by-case basis.
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （The History of Language）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the history of the English language, from its role in Europe in the Middle Ages to the years prior to its spread to New World. By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.	Week 1: Introduction Week 2: God's English: Vocabulary & Discussion (V&D) Week 3: God's English: Video & Reading (V&R) Week 4: English and the Language of the State: V&D Week 5: English and the Language of the State: V&R Week 6: William Tyndale's Bible: V&D Week 7: William Tyndale's Bible: V&R Week 8: Quiz I. Journals due Week 9: A Renaissance of Words: V&D Week 10: A Renaissance of Words: V&R Week 11: Preparing the Ground: V&D Week 12: Preparing the Ground: V&R Week 13: Shakespeare's English: V&D Week 14: Shakespeare's English: V&R Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 90 minutes) in preparation for class participation.
テキスト	Bragg, M. *The Adventure of English: The Biography of a Language*. (Sceptre)
参考文献	Presented in class on a case-by-case basis.
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	英語専門講読 I （ツーリズムの現状と課題）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国を訪問する外国人旅行者数は大きく伸びているが、我が国のツーリズムはいまだ発展途上である。本講義は、英語文献を通して、我が国のツーリズムの現状を理解すること、さらに、英語によるプレゼンテーション手法を習得することを目的としている。 講義概要： 　本講義は、ツーリズム関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション＋ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。	１．Orientation ２．Tourism in Japan(1) ３．Tourism in Japan(2) ４．Presentation & Discussion(1) ５．Presentation & Discussion(2) ６．Presentation & Discussion(3) ７．Presentation & Discussion(4) ８．Japan’s World Heritage Sites(1) ９．Japan’s World Heritage Sites(2) １０．Culture of Japan(1) １１．Culture of Japan(2) １２．Final Presentation & Discussion(1) １３．Final Presentation & Discussion(2) １４．Final Presentation & Discussion(3) １５．Final Presentation & Discussion(4)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。
テキスト	テキストを適宜配布する。
参考文献	特に指定無し
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画７０％、プレゼンテーションとレポート３０％

09 年度以降	英語専門講読 II （航空の現状と歴史）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　本講義においては、航空事業の歴史と現状について学習する。航空事業は外から見ると華やかな産業であるが故に、その背景にある様々な重要な出来事や歴史を忘れがちである。よって、航空事業の現状に至る経緯や、現在の航空事業を支える基礎には何があるのかを中心に考えることを目的としている。 講義概要： 　本講義は、航空産業関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション＋ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。	１．Orientation ２．The History of The Airline Business(1) ３．The History of The Airline Business(2) ４．The History of The Airline Business(3) ５．Presentation & Discussion (1) ６．Presentation & Discussion (2) ７．Presentation & Discussion (3) ８．The Airline Business in Japan(1) ９．The Airline Business in Japan(2) １０．The Airline Business in Japan(3) １１．The Airline Business in Japan(4) １２．Final Presentation & Discussion (1) １３．Final Presentation & Discussion (2) １４．Final Presentation & Discussion (3) １５．Final Presentation & Discussion (4)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	特に指定無し
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画７０％、プレゼンテーションとレポート３０％

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （小さき人々の歴史―ベストセラー、Small Island を読む）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
2004年の英国のベストセラーのひとつ、Andrea Levyの*Small Island*（全439頁）を読みます。この小説は、出版の年にWhitebread Book of the YearとOrange Prize、翌年にCommonwealth Writers' Prizeを受賞。2007年には、史上最大規模のReading Projectが英国全土で展開されました。100年後には古典となっているかもしれません。 読んでおもしろい長編小説に取り組み、Readingの力をつけるのが第一の目的です。さらに、英国の現代史のダイナミックな転換期を、人種・ジェンダー・階級の異なる複数の語り手の視点から語った物語りを読むことで、次の三つを身に付けてほしいと思います。（1）多人種・多文化社会へと変化せざるをえなかった英国の歴史の概観をつかむ。（2）（生きられた）歴史とは何かを考える。（3）複眼的な見方を養う。 （以下で作品紹介をします）	1. Introduction -小さき人々の戦争 2. Prologue–I thought I'd been to Africa. 3. <1948> chap1+2–幻滅のロンドン(1) 4. <Before>chap3-5–Hortenseのジャマイカ、成長と失恋 5. chap6-8–GilbertとHortense 6. <1948>chap9&10–幻滅のロンドン(2) 7. <Before> chap11-14–英国空軍軍人Gilbertの夢と失望 8. chap15-17–GilbertとQueenieの出会い、差別と友情 9. chap18-19–Gilbertの再出発 10. <1948> chap20-22–それぞれの1948。Hortense, Gilbert &Queenie 11. <Before> chap23-24–Queenieの幼年時代と青春 12. chap25-27–QueenieとBernard 出会い、結婚、すれ違う二人、そして戦争へ 13. chap28-29–戦場へと去るBerardとQueenieの恋 14. まとめの講義１ 15. まとめの講義２＋レポートガイダンス

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストの指定箇所を事前にかならず読んでおくこと。
テキスト	Andrea Levy, *Small Island*（版を統一するために一括購入。版を確認後、used copy の個人購入も OK。）
参考文献	授業時に紹介します。
評価方法	授業への貢献度　20%、プレゼンテーション　30%、レポート　50%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （小さき人々の歴史―ベストセラー、*Small Island* を読む）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
物語りは、四人の登場人物によって語られます。おもしろい構成をしていて、1948とBeforeと題されたセクションが交互に登場します。各セクションの章のひとつひとつには、四人の登場人物、すなわちQueenie, Hortense, Gilbert, Bernardの名前がついています。 HortenseとGilbertのはジャマイカ生まれの黒人カップルで、1948年、英国の戦後の大量移民が始まった年に、ロンドンにやってきます。白人のQueeniはイングランドの田舎のブッチャーの娘、Gilbertはロンドン生まれの銀行員。この二人は戦前のロンドンで出会い、結婚します。その後、第二次世界大戦と戦後の移民という歴史の動きが、大西洋を隔てた場所にそれぞれ異なる背景をもって生まれた四人の人生を交差させるのです。 小さな人間たちの生きた物語りが、英国の歴史を書き換えるポストコロニアル小説です。	1. レポートへのコメント 2. <1948>chap30-32–日常の闘い：現実を知るGilbertと強気の新参者Hortense 3. chap33-34–三日目のロンドン：Hortense&数年ぶりのロンドン：行方不明のBernardの帰還 4. <Before>chap35-38–Bernardの戦争 5. chap39-42–Bernardの戦争 6. chap43-45–Bernardの戦争 7. <1948> chap46-48–癒えぬ戦争の傷 8. chap49-51–Hortenseの挫折 9. chap52-53–衝撃の事実：Queenieの恋の結果 10. chap54-55–誤解・告白・理解 11. chap56-57–誤解・告白・理解 12. chap58-59–それぞれの出発 13. 講義 Changing Britannia (1) 14. 講義 Changing Britannia (2) 15. 講義 過去を語るとは、歴史とは？

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストの指定箇所を事前にかならず読んでおくこと。
テキスト	春学期と同じ。
参考文献	授業時に紹介します。
評価方法	授業への貢献度　20%、プレゼンテーション　30%、レポート　50%

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （Topical Songs and Liberalism）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、“Topical Song” あるいは “Protest Song” と呼ばれる20世紀半ば以降のポピュラーソングの流れを、アメリカ文学のリベラリズムの流れへと位置付けることを目標とする。扱うのは、アメリカのフォークソングの始祖とみなされる Woody Guthrie に始まり、 Bob Dylan、そして Bruce Springsteen まで。そこに、 Pragmatism の始祖のひとりである John Dewey、そして小説家の John Steinbeck までを視野に入れていきたい。音楽といえば J-Pop だけで満足している学生にこそ、取ってもらいたい。ポピュラー音楽、哲学、そして政治までもが混然一体となったアメリカの状況を、太平洋のこちら側から見てみたい。そして、トランプ政権、安倍政権に対して不満を持つ学生よ、取るべし。 なお、昨年度の筆者の授業と重なる部分があること、付記しておく。	1) Introduction 2) Guthrie, “This Land Is Your Land,” “Deportee” 3) “Dust Bowl” についての発表 4) Guthrie, “Vigilante Man” 5) Guthrie, “Pretty Boy Floyd” 6) Guthrie, “Tom Joad—Part 1” 7) Guthrie, “Tom Joad—Part 2” 8) Guthrie, “Do Re Mi” 9) Guthrie, “Dusty Old Dust” 10) Dylan, “Song to Woody” 11) Dylan, “Blowin’ in the Wind” 12) Dylan, “Masters of War” 13) Dylan, “A Hard Rain’s A-Gonna Fall” 14) Dylan, “Oxford Town” 15) まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	詩の一語は「物（ブツ）」。「ブツ」は見るものによってはじめて意味を与えられる。「ブツ」に意味を与えようとすること。詩は、英語を日本語に置き換え、そこに読者が意味を与えようとして始まる。
テキスト	プリントを配布、あるいは受講者にダウンロードして印刷して持ってきてもらう。
参考文献	適宜、紹介する。
評価方法	レポートと授業への参加度。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （Topical Songs and Liberalism）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、“Topical Song” 、あるいは “Protest Song” を読む。秋学期は Bruce Springsteen の作品が中心となる。ここでも核にあるのは、リベラリズムである。トランプ政権下の現代アメリカの社会状況と、John Dewey を結びつけながら、日本の安倍政権とも切り結びつつ、授業は展開していく。そこにあるのは、「詩」というメディアが、いかに現在に対して機能していくべきなのか、という問題である。とはいえ、「メッセージ」と「詩」は違う、だが、「詩」は現状と切り結ぶことができる、そのことをアメリカの実例を読み解きながら考えていきたい。	1) 春学期のレポート返却 2) Dylan, “Who Killed Davey Moore?” 3) Dylan, “The Lonesome Death of Hattie Carroll” 4) Dylan, “Only A Pawn in Their Game” 5) Dylan Movie 6) Springsteen, “Born in the U.S.A” 7) Springsteen, “The River” 8) Springsteen, “Nebraska” 9) Springsteen, “Reason to Believe” 10) Springsteen, “The Line” 11) Springsteen, “Galveston Bay” 12) Springsteen, “American Skin (41 Shots)” 13) Steinbeck, *The Grapes of Wrath* Chap. 28 14) Allen Ginsberg, “The Supermarket in California” 15) まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同様。
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	適宜、紹介する。
評価方法	レポートと授業への参加度。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （認知言語学）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、認知言語学の基本的な考え方を身につけること、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、認知言語学の言語観を紹介する書物である。 授業では、下記テキストの１章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. E-language and I-language 1 3. E-language and I-language 2 4. E-language and I-language 3 5. Studying E-language—not such a simple matter! 1 6. Studying E-language—not such a simple matter! 2 7. Studying E-language—not such a simple matter! 3 8. Corpora and their representativeness 1 9. Corpora and their representativeness 2 10. The BNC and linguistic experience 1 11. The BNC and linguistic experience 2 12. The World Wide Web 1 13. The World Wide Web 2 14. 春学期の講義のまとめ 15. 春学期の講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	Taylor, John R. (2012) *The Mental Corpus*. Oxford University Press.（購入は要しない）
参考文献	斎藤純男・田口善久・西村義樹（編）(2015)『明解言語学辞典』東京：三省堂．他
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （認知言語学）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、認知言語学の基本的な考え方を身につけること、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、認知言語学の言語観を紹介する書物である。 授業では、下記テキストの２章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. A rule-based approach to linguistic knowledge 1 3. A rule-based approach to linguistic knowledge 2 4. A rule-based approach to linguistic knowledge 3 5. The generative model in relation to data 1 6. The generative model in relation to data 2 7. The lexicon 1 8. The lexicon 2 9. The lexicon 3 10. Compositionality 1 11. Compositionality 2 12. Compositionality 3 13. In Conclusion 14. 秋学期の講義のまとめ 15. 秋学期の講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	Taylor, John R. (2012) *The Mental Corpus*. Oxford University Press.（購入は要しない）
参考文献	斎藤純男・田口善久・西村義樹（編）(2015)『明解言語学辞典』東京：三省堂．他
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （通訳訓練のための原書講読）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることを目指します。 講義概要： 　1テーマを2週かけて取り上げます。各テーマに関する英字新聞やウェブサイト記事など幅広い素材を扱います。語彙力強化のため毎回単語テストなどを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回指示します。初回授業で詳細を説明しますので、必ず出席して下さい。継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。「通訳Ⅰ」および「通訳Ⅱ」の授業に応用できる訓練を行いますので、同時履修により学習効果の向上を期待します。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　政治 3.　政治 4.　技術 5.　技術 6.　犯罪 7.　犯罪 8.　IT通信 9.　IT通信 10.　産業 11.　産業 12.　医療厚生 13.　医療厚生 14.　期末テスト 15.　春学期の総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください
テキスト	適宜資料を配布します
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （通訳訓練のための原書講読）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることを目指します。 講義概要： 　春学期に学んだ方法を応用しながら1テーマを2週かけて取り上げます。各テーマに関して幅広い素材を扱います。語彙力強化のため毎回単語テストなどを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回指示します。初回授業で詳細を説明しますので、必ず出席して下さい。継続学習の重要性から春学期から続けて履修することが望ましいです。「通訳Ⅰ」および「通訳Ⅱ」の授業に応用できる訓練を行いますので、同時履修により学習効果の向上を期待します。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　教育 3.　教育 4.　国際関係 5.　国際関係 6.　環境 7.　環境 8.　軍事 9.　軍事 10.　医学 11.　医学 12.　経済 13.　経済 14.　期末テスト 15.　秋学期の総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください
テキスト	適宜資料を配布します
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	英語専門講読 I （ツーリズム研究の基礎概念）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究における主要な概念や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。 Sageの*key concepts in tourist studies*およびRoutledgeの*Tourism the key concepts*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。このほか毎回コメント担当者が、当該トピックにかかわる問題提起を行い、それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要個所をコピーして配布する。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Mass Tourism 4、Mobility 5、Hospitality 6、Experience Economy 7、Economics of Tourism 8、Transportation 9、Tour Operations 10、Accommodation Providers 11、Planning Tourism 12、Carrying Capacity 13、Urban Tourism 14、総合討論 15、まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。
テキスト	Smith,　M.、N. Macleod and M. Robertson (2010) *key concepts in tourist studies.* Sage. Robinson, P. ed. (2012) *Tourism the key concepts.* Routledge
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内発表 20%　授業内小課題 40%　期末試験 40% ※ただし授業内発表を行わない場合は単位を認めない

09 年度以降	英語専門講読 II （ツーリズム研究の基礎概念）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究の対象となる諸事象について、基礎的な理解を得ることを目的とする。とくに、春学期に学んだ観光研究の基礎概念をもとに、近年関心が寄せられている主要な観光形態について批判的に考察することを目指したい。 Sageの*key concepts in tourist studies*およびRoutledgeの*Tourism the key concepts*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。 各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。このほか毎回コメント担当者が、当該トピックにかかわる問題提起を行い、それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要個所をコピーして配布する。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Tourist Gaze 4、Self and Other 5、Authenticity 6、Post Tourism 7、Sustainable Tourism 8、Eco Tourism 9、Heritage Tourism 10、Film and TV Tourism/ Literary Tourism 11、Sex / LGBT Tourism 12、Dark Tourism 13、Ethical Tourism 14、総合討論 15、まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。
テキスト	Smith,　M.、N. Macleod and M. Robertson (2010) key concepts in tourist studies. Sage. Robinson, P. ed. (2012) Tourism the key concepts. Routledge
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内発表 20%　授業内小課題 40%　期末試験 40% ※ただし授業内発表を行わない場合は単位を認めない

09 年度以降	英語専門講読 I （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本の社会や文化について、エスニシティやジェンダー、地域文化などを題材に考えてみたいと思います。 従来、日本社会についての諸研究は「日本人らしさ」や「国民性」などを所与のものとして扱うものが主流でしたが、この授業ではこうした視点を批判的に検討し、マルチカルチュラルな視点から現代日本の現状をとらえることを目指します。 教材として扱うのは、社会学者によって書かれた日本研究の基本的な（＝海外で日本研究を専攻する大学生向け）文献です。 授業の進め方は、受講生数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。 なお、教材については、各自アマゾン等で購入するか、図書館で必要な箇所をコピーしてください。	1. 趣旨説明・グループ分け(初回授業で発表スケジュール等を決めるので、必ず出席すること。万が一、出席できない場合は、メールで履修の意思を担当教員に伝えること。) 2. 本授業で扱うテーマについての解説1（講義） 3. 本授業で扱うテーマについての解説2（講義） 4~14. テキストの内容紹介・ディスカッション 15. まとめ ※ この授業では、テキストの中から、以下の5つの章を扱います。 1. Japan Phenomenon and the Social Sciences 3. Geographical and Generational Variations 6. Gender Stratification and the Family System 7. Minority Groups: Ethnicity and Discrimination 9. Popular Culture and Everyday Life

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	一定の社会学的素養が求められるので、日本語で書かれた社会学の基本文献等を併せて読むことが望ましい。
テキスト	Sugimoto, Yoshio 2014. An Introduction to Japanese Society (Forth Edition). Cambridge University Press.
参考文献	随時、文献リストを配布する。
評価方法	授業における発表・議論（50%）、期末レポート（50%）。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語専門講読 II （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
長期間のフィールドワークにもとづいて書かれた民族誌（エスノグラフィ）の読解・議論を通じて、現代日本における多文化共生の可能性や課題について考えます。 班ごとにテーマを決め、在日コリアンやムスリム、日系ブラジル人、フィリピン人女性などについて書かれたテキストの内容紹介をしてもらいます。その上で、首都圏近郊のエスニック・タウンにて、プチ・フィールドワークを行ない、その成果を学期末に報告をしてもらいます。 授業の進め方は、受講者数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。また、英語文献を教材として扱いますが、英文読解力の向上にとどまらず、グローバル化が加速化している今日的状況を「文化」という視点から考えるための文化人類学的・社会学的思考を養うことを目的とします。	1.　講義 2~14. テキストの内容紹介・ディスカッション 15.　総合討論・まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	日本の移民や難民を取り巻く状況について、新聞記事等で情報収集をしておくこと。
テキスト	初回の授業で、論文リストを配布するので、担当グループは各自図書館でコピーすること。
参考文献	随時、文献リストを配布する。
評価方法	授業における発表・議論（50%）、期末レポート（50%）。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （21 世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。課題文献のテーマは、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　文献１New York Times－① 2　文献１New York Times－② 3　文献１New York Times－③ 4　文献２NGO（OXFAM）報告書－① 5　文献２NGO（OXFAM）報告書－② 6　文献２NGO（OXFAM）報告書－③ 7　文献３UNHCR報告書－① 8　文献３UNHCR報告書－② 9　文献３UNHCR報告書－③ 10　文献４シンクタンク（CSIS）レポート－① 11　文献４シンクタンク（CSIS）レポート－② 12　文献４シンクタンク（CSIS）レポート－③ 13　文献５国連報告書－① 14　文献５国連報告書－② 15　文献５国連報告書－③

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題の事前学習（和訳レポートの作成）
テキスト	指定しない。プリントを配布する。
参考文献	課題文献のプリントを配布する。
評価方法	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が４回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （21 世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。課題文献のテーマは、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　文献１Washington Post－① 2　文献１Washington Post－② 3　文献１Washington Post－③ 4　文献２NGO（Human Rights Watch）報告書－① 5　文献２NGO（Human Rights Watch）報告書－② 6　文献２NGO（Human Rights Watch）報告書－③ 7　文献３トランプ大統領演説－① 8　文献３トランプ大統領演説－② 9　文献３トランプ大統領演説－③ 10　文献４シンクタンク（Brookings）レポート－① 11　文献４シンクタンク（Brookings）レポート－② 12　文献４シンクタンク（Brookings）レポート－③ 13　文献５Foreign Affairs－① 14　文献５Foreign Affairs－② 15　文献５Foreign Affairs－③

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題の事前学習（和訳レポートの作成）
テキスト	指定しない。プリントを配布する。
参考文献	課題文献のプリントを配布する。
評価方法	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が４回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
変化が目まぐるしい状況の中で、「**詩を学ぶ**」ことは、時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、**詩を学ぶことも実用的**だと言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「**言葉の力」を体感**することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「**詩を学ぶ＝生き方を学ぶ**」と言えるかもしれません。 詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れしたイメージがあるとしたら、詩を一面的にみているのではないでしょうか。詩は、案外、もっと生活に密接していることを思い出していただきたいと思っています。（↓に続きます。）	1.　講義の概要 2.　履修確定の学生との確認、 グループ＆担当箇所の決定、講義 3-4.　オーストラリアの歴史①② 5-6.　アボリジニの歴史①② 7-8.　アボリジニの神話・伝説①② 9-10.　英訳されたアボリジニの詩①② 11-14.　英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤ 15.　講義のまとめ **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。**

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、関連項目に関して各個人で資料を探し、議論できる状態にしておいてください。 ＊事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。
テキスト	テキストはプリントして配布します。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介いたします。
評価方法	＊提出物（レポート）70%、授業内での発表＆発言 30%　＊遅刻３回（30 分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。　**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
「**オーストラリアを学ぶ**」意義ですが、まず交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにも関わらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しいのではないでしょうか。 また、比較対象があって初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会にしたいと考えています（例えば「オーストラリア人とは誰を指すか？」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。） 講義目的をまとめて書くと、「**言葉の力を体感する**」「**オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す**」「**オーストラリアを通して己を考える**」また、発表形式の授業ですので「**自分の言葉で考え、語る**」ことになります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「**自分の意見を他人に正確に伝える**」ことも学んでほしい大事なことです。	春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。 秋学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。 春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。 1.　講義の概要 2～14.　オーストラリアの詩、精読 15.　講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、関連項目に関して各個人で資料を探し、議論できる状態にしておいてください。 ＊事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。
テキスト	テキストはプリントして配布します。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介いたします。
評価方法	＊提出物（レポート）70%、授業内での発表＆発言 30%　＊遅刻３回（30 分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。　**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	英語専門講読 I （ヨーロッパをめざす移民・難民）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の発表によれば、2015年に地中海を越えて海路ヨーロッパを目指した移民・難民は100万人を超え、そのうち4000人が溺死したとみられています。 www.unhcr.org/news/latest/2015/12/5683d0b56/million-sea-arrivals-reach-europe-2015.html（2018年１月22日最終アクセス） この授業では、合衆国（*The New York Times*）と連合王国（*The Guardian*）を代表するジャーナリストによるルポルタージュを教材に、ヨーロッパをめざす移民・難民について考えていきます。 （テクスト）　Anemona Hartocolis, “A Family Swept Up in the Migrant Tide” 22 October, 2015 NYT. Patrick Kingsley, *The New Odyssey: the Story of Europe's Refugee Crisis*. Guardian Books, 2016. ＊ディスカッション形式なので授業への積極的参加が必要です。	1. From Syria to Turkey 2. From Turkey to Greece 3. From Greece to Germany 4. Aquerius Rescue 5. A Birthday Interrupted 6. The Second Sea 7. Trading in Souls 8. SOS 9. Shipwreck 10. Promised Land? 11. Between the Woods and Water 12. To Sweden 13. A Gate Slangs Shut 14. Status Pending 15. Epilogue

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを精読し、毎授業前に英文の抄訳を作成すること。授業後にクラスのフェイスブック・グループに意見を投稿すること。社会歴史的背景について幅広く調べておくこと。
テキスト	*The New Odyssey* は購入、“A Family Swept Up in the Migrant Tide”は新聞社サイトからダウンロード
参考文献	パトリック・キングズレー（藤原朝子訳）『シリア難民』（ダイヤモンド社、2016）、他は適宜紹介します。
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（70%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）。

09 年度以降	英語専門講読 II （移民・難民について考える）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、元連合王国（イギリス）外相で、難民支援の国際NGOを率いるDavid Milibandと、日本でもよく知られている社会学者Zygmunt Baumanの著作を読み、移民・難民について考えます。 Milibandは*Rescue: Refugees and the Political Crisis of Our Time* (TED Books, 2017)で、難民支援への新しいアプローチを提唱しています。授業では彼のTED Talk （2017年6月）の映像、スクリプトと組み合わせて議論していきます。 Baumanの*Strangers at Our Door* (Polity, 2016)は哲学的な部分がやや難解ですが、日本語訳（『自分とは違った人たちとどう向き合うか』）が出ているので、比較、検討しながら進めます。 昨年、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）は世界の難民の数が6500万人を超えたと発表しました。難民は遠い国々の出来事のように考える傾向も日本にはありますが、全ての人々の安全と権利を守るため、私たちみんなが取り組むべきイシューです。 ＊ディスカッション形式なので授業への積極的参加が必要です。	1. イントロダクション 2. Miliband, Introduction 3. The Crisis 4. Why We Should Care 5. The Renewal of Rescue 6. Refugees Welcome 7. Miliband, TED Talk 8. Miliband, Conclusion 9. Bauman, Introduction 10. Migration Panic and its (Mis)uses 11. Together and Crowded 12. Troublesome, Annoying, Unwanted: Inadmissible 13. Floaing Insecurity in Search of an Anchor 14. On Strongmen's (or Strongwomen's) Trail 15. まとめのディスカッション

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを精読し、毎授業前に英文の抄訳を作成すること。授業後にクラスのフェイスブック・グループに意見を投稿すること。社会歴史的背景について幅広く調べておくこと。
テキスト	*Rescue* は購入してください。*Strangers at Our Door* は使用箇所だけコピーして使うことも可能です。
参考文献	ジグムント・バウマン（伊藤茂訳）『自分とは違った人たちとどう向き合うか』（青土社、2017）他は適宜紹介します。
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（70%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （Research interviewing: Intercultural learning ‘at home’）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
【本講義は英語で行います。】 This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to *conduct a small research project* on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the spring semester include: internationalisation of the student experience ‘at home’; paradigms of qualitative and quantitative research; the place of the literature in qualitative research; pros and cons of interviewing; writing a research proposal; and ethics in human research. This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with ‘the other’.	1. Introduction to course: ‘Why can’t we become friends?’ 2. Internationalisation of the student experience ‘at home’ 3. Qualitative and quantitative research 4. ‘Us’ and ‘them’ separatism in the classroom 5. The use of the literature in qualitative research 6. Friendship networks of university students 7. Research interviewing: Pros and cons 8. Intercultural relationships 1: Critical incidents 9. Writing a research proposal 10. Intercultural relationships 2: A longitudinal approach 11. Ethics in human research 12. Intercultural friendship formation 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up 【受講生は毎週の課題として、5,000 語程度の英文資料を読み、200 語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基にさまざまな学習活動が展開されます。】

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （Research interviewing: Intercultural learning ‘at home’）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
【本講義は英語で行います。】 This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to *conduct a small research project* on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the fall semester include: keeping a research diary; interview variations; conducting an interview; transcribing an interview; data analysis; and writing up. This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with ‘the other’.	1. Introduction to course 2. Keeping a research diary 3. Interview variations 4. Conducting an interview 5. Transcribing an interview 6. Using the literature 1 7. Using the literature 2 8. Data analysis 9. Using the literature 3 10. Writing up 11. Using the literature 4 12. Tutorial 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up 【受講生は毎週の課題として、5,000 語程度の英文資料を読み、200 語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基にさまざまな学習活動が展開されます。】

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ （国際取引契約法入門Ⅰ）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
国際取引契約において、アメリカ契約法は参照されることも多く、重要な位置を占めます。そこで、この授業では、国際取引契約に関する法の入門編として、アメリカ契約法の入門書である下記テキストのうち、「第２章　契約の成立」の部分（pp.25-194）を講読していきます（コピー配布）。もっとも、科目の性質上、この授業の目的は、アメリカ契約法に関する専門的な知識を修得することよりも、法律英語を読んでみてその特徴をつかむことと、契約法をめぐる日米での発想や考え方の違いに気が付いたり、意外な共通点を発見したりするなど、「法という文化現象」の彼我での現れ方を考察することに置きたいと思います。 第１回のオリエンテーションでは、授業の運営方法や成績評価の方法・基準などについて詳しく説明します。また、テキストを読むうえで必要なアメリカ法の基礎知識について講義をしますので、受講希望者は、できるだけ第１回の授業に出席するようにしてください。	1.　オリエンテーション、アメリカ法の基礎知識（講義） 2. ～ 14.　テキストの内容について報告と質疑 15.　まとめと振り返り

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テキストの指定箇所を読むことと、各自に割り当てられた役割（内容報告係、法律用語調査係、日本法調査係など）に応じて準備をすること、事後には授業日誌を書くことを求めます（詳細はオリエンテーションで説明します）。
テキスト	Rohwer, C. D., Skrocki, A. M., Contracts in a Nutshell 8th ed., West Academic 2017.
参考文献	シェーバー／ローワー著／内藤加代子訳『アメリカ契約法』（木鐸社、2001 年）（上記テキスト第３版の翻訳書）
評価方法	出席率、宿題提出率、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は、複雑でこの欄に書き切れないため、第１回目のオリエンテーションで説明します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （国際取引契約法入門Ⅱ）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
春学期のⅠに引き続き、アメリカ契約法の入門書である下記テキストのうち、「第６章　免責事由」～「第９章　救済」の部分（pp.339-493）を講読します（コピー配布）。ただし、春学期のⅠで、「第２章　契約の成立」を読了していない場合は、その続きからとします。 授業の目的は、Ⅰと同様ですが、Ⅰで学習する内容が前提となることがありますので、できるだけ、Ⅰを履修してからⅡを履修するようにしてください。	1.　オリエンテーション 2. ～ 14.　テキストの内容について報告と質疑 15.　まとめと振り返り

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テキストの指定箇所を読むことと、各自に割り当てられた役割（内容報告係、法律用語調査係、日本法調査係など）に応じた準備をすること、事後には授業日誌を書くことを求めます（詳細はオリエンテーションで説明します）。
テキスト	Rohwer, C. D., Skrocki, A. M., Contracts in a Nutshell 8th ed., West Academic 2017.
参考文献	シェーバー／ローワー著／内藤加代子訳『アメリカ契約法』（木鐸社、2001 年）（上記テキスト第３版の翻訳書）
評価方法	出席率、宿題提出率、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は、複雑でこの欄に書き切れないため、第１回目のオリエンテーションで説明します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （Reading & Writing Stories）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】英米の短編小説を味わいながら読み、テクニックを学び、自分でも英語で物語を書く。そうすることで作家のテクニックを体感してみる。 【講義概要】最初にイギリスの作家 Fay Weldon が書いた短編小説を読む。この小説は、一人称の語り手が何やら憑かれたように話し続けるという形式であり、その語りの中身をゆっくり吟味して読みたい。毎回、１ページ程度の訳文を各自作成してきて、授業中は訳文を検討したり、フレーズを取り出したり、ストーリーのディテールについて議論しあったりする。訳出が終わったら、それぞれ一人称の語り手を使って、自分でストーリーを英語で書いてみる。	1. イントロダクション 2. Fay Weldon, “Horrors of the Road” ① 訳出とディスカッション 3. -- ② 訳出とディスカッション 4. -- ③ 訳出とディスカッション 5. -- ④ 訳出とディスカッション 6. -- ⑤ 訳出とディスカッション 7. -- ⑥ 訳出とディスカッション 8. -- ⑦ 訳出とディスカッション 9. -- ⑧ 訳出とディスカッション 10. -- ⑨ 訳出とディスカッション 11. -- ⑩ 訳出とディスカッション 12. 中間まとめ 13. 創作をしてみよう 14. 作品を推敲する 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：授業の進度にしたがい、訳出や創作を行う。 復習：訳文や創作を見直す。
テキスト	プリントを配布。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	創作約３割、試験３割、その他の授業内外の課題約４割。 ただし欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象としない。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （Reading & Writing Stories）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】英米の短編小説を味わいながら読み、テクニックを学び、自分でも英語で物語を書く。そうすることで作家のテクニックを体感してみる。 【講義概要】 イギリスの作家 Penelope Lively と、アメリカの作家 James Thurber の二作品を読む。どちらも三人称の物語だが、前者はリアリズム風、後者は寓話風と、かなり書き方に違いがあるところを味わいたい。毎回、１ページ程度の訳文を各自作成してきて、授業中は訳文を検討したり、フレーズを取り出したり、ストーリーのディテールについて議論しあったりする。訳出が終わったら、リアリズム風か寓話風か、どちらかのスタイルで、三人称の物語を英語で書いてみる。	1. イントロダクション 2. Penelope Lively, “Next Term, We’ll Mash You” ① 3. -- ② 訳出とディスカッション 4. -- ③ 訳出とディスカッション 5. -- ④ 訳出とディスカッション 6. -- ⑤ 訳出とディスカッション 7. -- ⑥ 訳出とディスカッション 8. 中間まとめ 9. James Thurber, “The Tigress and Her Mate” ① 10. -- ② 訳出とディスカッション 11. 中間まとめ 12. 創作をしてみよう 13. 作品を推敲する 14. 作品をシェアする 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：授業の進度にしたがい、訳出や創作を行う。 復習：訳文や創作を見直す。
テキスト	プリントを配布。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	創作約３割、試験３割、その他の授業内外の課題約４割。 ただし欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象としない。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
インコタームズ®（Incoterms®）とは、国際商業会議所が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の初版以来、数次の改訂を経ながら長年にわたり貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。現在、現行最新版のIncoterms®2010と旧版のIncoterms®2000がもっぱら実務に使用されています。この授業では、米国で出版された下記のテキストを使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件を徹底的に学習することにより、実践的な貿易条件の知識とスキルを身につけることを目的とします。春学期は、Incoterms®2000が規定する4類型・13条件について、売主と買主の手続き義務、費用負担の範囲（採算条件）、危険負担の分岐点（引渡し条件）適用可能な運送手段などの観点から詳細かつ正確に学習し、主要な貿易条件を用いた輸出価格および輸入価格の積算訓練も行います。	1. 春学期の授業内容と授業計画の説明 2. Incoterms®2000が規定する4類型・13条件の概略 3. E類型（出荷地条件）の概略とEXWの詳細 4. F類型（主要運賃買主負担条件）の概略 5. F類型の各貿易条件（FAS、FOB、FCA）の詳細 6. C類型（主要運賃売主負担条件）の概略 7. C類型の貿易条件のうち、CFRとCIFの詳細 8. C類型の貿易条件のうち、CPTとCIPの詳細 9. D類型（到着地条件）の概略 10. D類型の貿易条件のうち、DAF、DES、DEQの詳細 11. D類型の貿易条件のうち、DDUとDDPの詳細 12. Incoterms®2000と改正米国貿易定義（1941）の比較 13. 主要貿易条件を用いた輸出価格の積算 14. 主要貿易条件を用いた輸入価格の積算 15. 春学期の総復習と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。
テキスト	**Catherine J. Petersen** (2011); *Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010:* , **Global Training Center**
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
（上欄から続く） 秋学期は、Incoterms®2010が規定する2分類・11規則について、Incoterms®2000からの変更点を確認した後、各々の規則（貿易条件）を詳細かつ正確に学習します。各規則の学習が一通り終わった後には、売主と買主の立場から各々の貿易条件の長所と短所を検討し、いわゆるロジスティクス（logistic）の観点から、自社に有利な貿易条件を選択する戦略を考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。 この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクス等に興味があり、これらの業界への就職や就活を考えている学生諸君に対して、以上に有益で興味深い情報を提供できるものと確信しています。その反面、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くないと履修を継続するのが難しいかもしれません。	1. 秋学期の授業内容と授業計画の説明 2. Incoterms®2000からIncoterms®2010への主な変更点 3. Incoterms®2010が規定する2分類・11規則の概略 4. “Rules for Any Mode(s) of Transport”の概略 5. Rules for Any Mode(s)のうち、EXWとFCAの詳細 6. Rules for Any Mode(s)のうち、CPTとCIPの詳細 7. Rules for Any Mode(s)のうち、DAPとDATの詳細 8. Rules for Any Mode(s)のうち、DDPの詳細 9. 在来船専用の規則（貿易条件）の概略 10. 在来船専用の規則のうち、FASとFOBの詳細 11. 在来船専用の規則のうち、CFRとCIFの詳細 12. 各規則（貿易条件）の長所と短所の検討 13. 貿易条件の誤用事例の検討 14. ロジスティクス戦略と貿易条件の選択 15. 秋学期の総復習と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。
テキスト	**Catherine J. Petersen** (2011); *Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010:* , **Global Training Center**
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、英国の作家ジョージ･オーエルの小説 Nineteen Eighty-four（1948年作品）を読む。 ここで描かれているのは、ビッグ･ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は３つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。 人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。受講生と共に、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。 **受講を希望する学生は初回の授業に必ず出席すること。**	初回の授業はイントロダクション、その後は１５回目まで、毎回講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子をみて決定、調整する。 学期末課題を課す。 第１回　イントロダクション 第２回～１５回 上記の授業内容を毎回行う

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。
テキスト	George Orwell, *Nineteen Eighty-Four*. Penguin.
参考文献	特になし
評価方法	授業参加　４０％　期末課題　６０％　欠席が５回を越えると原則として単位は付与しない。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続き	春学期の続き。初回から通常の授業を行う。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。
テキスト	George Orwell, *Nineteen Eighty-Four*. Penguin.
参考文献	特になし
評価方法	授業参加　４０％　期末課題　６０％　欠席が５回を越えると原則として単位は付与しない。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ【３・４年生対象】 （Conflict and Development）	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発、特に冷戦終焉後の国内紛争と国際社会の関与に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題への理解を深めることを目的とします。 1. 授業は、英語または日本語のプレゼンテ―ションと討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ作業によってプレゼンの準備・発表を行います。 授業は、グループ分け・プレゼン内容（章）の決定⇒グループ準備作業⇒授業でのプレゼン⇒ディスカッションのサイクルで行います。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。 紛争と開発、平和構築に対する関心と意欲のある学生を歓迎します。	1. Orientation 2. Introduction chapter 3. The evolution of development theory 4. The evolution of conflict theory 5. Poverty, profit and the political economy of conflict 1 6. Poverty, profit and the political economy of conflict 2 7. Poverty, profit and the political economy of conflict 3 8. Institutions: hardware and software 1 9. Institutions: hardware and software 2 10. Institutions: hardware and software 3 11. People: participation, civil society and gender 1 12. People: participation, civil society and gender 2 13. People: participation, civil society and gender 3 14. Review of the studied chapters 1 15. Review of the studied chapters 2

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	MacGinty and Williams (2016) *Conflict and Development*. Oxon. Routledge. 詳細は授業で説明します。
参考文献	適宜、授業内で紹介します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表４０％　&　授業中討論への参加度６０％

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ【３・４年生対象】 （Conflict and Development）	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発、特に冷戦終焉後の国内紛争と国際社会の関与に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題への理解を深めることを目的とします。 1. 授業は、英語または日本語のプレゼンテ―ションと討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ作業によってプレゼンの準備・発表を行います。 授業は、グループ分け・プレゼン内容（章）の決定⇒グループ準備作業⇒授業でのプレゼン⇒ディスカッションのサイクルで行います。授業の最後には学生にスピーチを課します。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。紛争と開発、平和構築に対する関心と意欲のある学生を歓迎します。	1. Orientation 2. Review of the spring semester 3. Conflict transformation and development 1 4. Conflict transformation and development 2 5. Conflict transformation and development 3 6. Post-conflict reconstruction and democratization 1 7. Post-conflict reconstruction and democratization 2 8. Post-conflict reconstruction and democratization 3 9. Development, aid and violent conflict 1 10. Development, aid and violent conflict 2 11. Development, aid and violent conflict 3 12. Conclusion 13. Review of the studied chapters 14. Speech on related topics 1 15. Speech on related topics 2

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	MacGinty and Williams (2016) *Conflict and Development*. Oxon. Routledge. 詳細は授業で説明します。
参考文献	適宜、授業内で紹介します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表４０％　&　授業中討論への参加度（スピーチを含む）６０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	英語の世界Ⅱ	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的： （1）英語の文法に関する知識を身につける。 （2）英語の言語的特徴に関する理解を深める。 （3）言語を文法的観点から観察・分析できるようになる。 概要： 「英語の世界Ⅰ」に引き続き，標準英語の文法的特徴を学び，当該言語がどのような仕組みで成り立っているかを理解する。学んだ文法知識を応用し，文法的に適格な表現と不適格な表現を判別し，さらに，なぜそのような結果になるのかを論理的に説明できるようになるための演習を行う。	1.　オリエンテーション 2.　否定 3.　日英語比較対照：名詞句否定と述部否定 4.　文のタイプと発話行為 5.　従属節 6.　関係節 7.　比較 8.　日英語比較対照：比較表現 9.　非定形節 10.　等位接続（1）：基本的特徴 11.　等位接続（2）：等位接続を用いた表現 12.　情報構造と文（1）：受動文，外置文，存在文、分裂文 13.　情報構造と文（2）：転移文，前置・後置文，簡略表現 14.　日英語比較対照：情報構造 15.　まとめ

到達目標	英語学に関して基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。
事前・事後 学修の内容	予習：テキストを読み、理解できなかったところや疑問点をまとめておく。／復習：授業内容を整理し、改めて疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付するハンドアウト
参考文献	Huddleston and Pullum (2005), *A Student's Introduction to English Grammar*. Cambridge University Press.
評価方法	小テスト（４０％）と期末試験（６０％）で評価する。

09 年度以降	観光英語Ⅰ	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
国際化の時代、海外に旅行したり滞在している日本人や海外から来日する外国人の数が急激に増えています。この講義は、将来、観光業、旅行業、エアライン業、ホテルレストラン業などの各種業界で自分の語学力、特に英語を活かして活躍を考えている人を対象としています。このような業界では、英語の一般的能力ばかりでなく、その業界の専門用語や独特の言い回しを身につけなければなりません。そこで、この講義では、主として観光や旅行の仕事で役立つ観光英語を習得することを目的とし、「観光英語検定試験」２級合格程度の実力を目指します。 観光英語Ⅰでは、海外の世界遺産や観光地の話題を取り上げて、観光と旅行の分野に関する用語や表現を学びながら、文化の違いなども研究することを目標とします。また、観光に関する最新のニュースがある場合は、授業の中に随時取り入れていきます。	１．　オリエンテーション ２．　観光英語検定試験２級の問題研究（１） ３．　観光英語検定試験２級の問題研究（２） ４．　ヨーロッパの世界遺産や観光地の研究（１） ５．　ヨーロッパの世界遺産や観光地の研究（２） ６．　ヨーロッパの世界遺産や観光地の研究（３） ７．　北米・南米の世界遺産や観光地の研究（１） ８．　通常授業＋小テスト（３０分） ９．　北米・南米の世界遺産や観光地の研究（２） １０．　北米・南米の世界遺産や観光地の研究（３） １１．　中東・アフリカの世界遺産や観光地の研究（１） １２．　中東・アフリカの世界遺産や観光地の研究（２） １３．　アジア・豪州の世界遺産や観光地の研究（１） １４．　アジア・豪州の世界遺産や観光地の研究（２） １５．　春学期の講義のまとめ

到達目標	ツーリズム業界の専門用語や独特の言い回しなど、海外旅行、および観光・旅行業務に必要な中級レベルの英語を習得し、観光英語として運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト	テキスト：なし、プリントを使用
参考文献	観光英検に関する語彙集や問題集（研究社、三修社など）
評価方法	定期試験（５０％）、課題・小テスト（４０％）、授業貢献度（１０％）

09 年度以降	観光英語Ⅱ	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
2019年のラグビーワールドカップ､2020年の東京オリンピックの開催、日本への外国人訪問客数2000万人突破という話題は、少子化による日本経済の先細りが心配されている中、観光業への波及効果の期待はとても大きなものになっています。来日する外国人旅行者は、もちろんいろいろな言葉を使いますが、英語のグローバル性を考慮すれば、英語がその中心的役割を果たすことは間違いありません。そこで、この講義では、主として観光や旅行の仕事で役立つ観光英語を習得することを目的とし、「観光英語検定試験」１級合格程度の実力を目指します。 観光英語Ⅱでは、国内の自然景観、文化遺産、伝統工芸、行事、祭りなどに加えて、日本の文化・観光に貢献してくれた外国人を取り上げます。また、観光に関する最新のニュースがある場合は、授業の中に随時取り入れていきます。	１．　オリエンテーション ２．　観光英語検定試験１級の問題研究（１） ３．　観光英語検定試験１級の問題研究（２） ４．　国内の観光・文化・歴史に関する問題（１） ５．　国内の観光・文化・歴史に関する問題（２） ６．　国内の観光・文化・歴史に関する問題（３） ７．　英語による日本の世界遺産・観光名所案内（１） ８．　通常授業＋小テスト（３０分） ９．　英語による日本の世界遺産・観光名所案内（２） １０．　英語による日本の世界遺産・観光名所案内（３） １１．　日本の観光・文化に貢献した外国人（１） １２．　日本の観光・文化に貢献した外国人（２） １３．　英語による国内の行事・祭り・土産品の紹介（１） １４．　英語による国内の行事・祭り・土産品の紹介（２） １５．　秋学期の講義のまとめ

到達目標	ツーリズム業界の専門用語や独特の言い回しなど、海外旅行、および観光・旅行業務に必要な中級レベルの英語を習得し、観光英語として運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト	テキスト：なし、プリントを使用
参考文献	観光英検に関する語彙集や問題集（研究社、三修社など）
評価方法	定期試験（５０％）、課題・小テスト（４０％）、授業貢献度（１０％）

09 年度以降	通訳案内士の英語Ⅰ	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
通訳案内士制度が改正され、2018年1月4日より、免許を所持していない人であっても、有償で通訳案内業務が可能となりました。しかし、大手の旅行・観光関連の会社では、高度な会話能力と観光知識のある人材を求めて、通訳案内士への需要は以前とあまり変化はありません。そこで、この講義では、来日する外国人に英語で日本を紹介することに興味のある人にプロのガイドを目指していただけるよう、通訳案内士試験の第１次試験合格のための実力養成を目標とします。 「通訳案内士の英語Ⅰ」では、非常に広範囲に及ぶ項目を多角的に研究して、数多くの問題に当たりながら、第１次試験合格のために英文読解や英作文のレベル向上を目指します。	１．　オリエンテーション ２．　英語通訳案内士第１次試験問題研究（１） ３．　英語通訳案内士第１次試験問題研究（２） ４．　日本の伝統文化を英語で伝える（１） ５．　日本の伝統文化を英語で伝える（２） ６．　日本の伝統文化を英語で伝える（３） ７．　日本の年中行事を英語で伝える（１） ８．　通常授業＋小テスト（３０分） ９．　日本の年中行事を英語で伝える（２） １０．　日本の年中行事を英語で伝える（３） １１．　日本の観光名所（寺院・神社など） １２．　日本の観光名所（城・庭園など） １３．　日本の観光名所（温泉・祭りなど） １４．　日本の地理（気候・地形など） １５．　春学期のまとめ

到達目標	中級レベル英語の読解力、説明力、語彙力等を総合的に習得し、通訳案内士として実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト	テキスト：なし、プリントを使用
参考文献	通訳案内士試験に関する語彙集や問題集（研究社、三修社、語研など）
評価方法	定期試験（５０％）、課題・小テスト（４０％）、授業貢献度（１０％）

09 年度以降	通訳案内士の英語Ⅱ	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
「通訳案内士の英語Ⅰ」は、第１次の筆記試験対策となっています。そして、「通訳案内士の英語Ⅱ」では、第２次の口述試験対策となります。この講義では、「通訳案内士の英語Ⅰ」で習得した英文読解や英作文の実力に加えて、面接試験のために必要な実践的コミュニケーション能力を高めて、通訳案内士第２次口述試験合格のための実力養成を目的とします。 第２次試験合格のためには、日本の伝統文化、宗教、食べ物、風物、行事、娯楽、政治、経済などすべての日本事象を面接委員に流暢に伝えなければなりません。そのために、「通訳案内士の英語Ⅱ」の授業では、口述試験のあらゆる問題に対応できるように、数行の英作文を暗記していく練習を定期的に取り入れていきます。	１．　オリエンテーション ２．　英語通訳案内士第２次試験問題研究（１） ３．　英語通訳案内士第２次試験問題研究（２） ４．　日本の宗教と精神を英語で伝える（１） ５．　日本の宗教と精神を英語で伝える（２） ６．　日本の武道を英語で伝える ７．　日本の文学を英語で伝える ８．　通常授業＋小テスト（３０分） ９．　日本の伝統料理を英語で伝える（１） １０．　日本の伝統料理を英語で伝える（２） １１．　日本の住生活を英語で伝える（１） １２．　日本の住生活を英語で伝える（２） １３．　日本の政治・産業を英語で伝える（１） １４．　日本の政治・産業を英語で伝える（２） １５．　秋学期のまとめ

到達目標	「通訳案内士の英語Ⅱ」の学習成果のうえに、中級レベル英語の読解力、説明力、語彙力等を総合的に向上させ、通訳案内士試験の第２次口述試験を合格するのに必要な、実践的なコミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト	テキスト：なし、プリントを使用
参考文献	通訳案内士試験に関する語彙集や問題集（研究社、三修社、語研など）
評価方法	定期試験（５０％）、課題・小テスト（４０％）、授業貢献度（１０％）

09 年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本科目はビジネス英語上級編の位置付けです。 English for Business Ⅰ & Ⅱ 習得に基づき Business Writingを履修すれば実業界等で十分に通用するビジネス英語を総合的に学習することになります。 具体的には教科書に則り時系列的に商取引：引き合い・料金提示・受諾・出荷・支払い・クレーム・解決等の講義及び本格的な英文ビジネスレターの書き方を学びます。 対外文書の特徴である簡潔明瞭で丁寧なビジネスレターの書き方を指導し、外資系企業、航空業界、国際物流業界、製造業の輸出入担当部門、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を駆使して活躍したい学生を対象に講義を進めて行きます。 業務遂行に役立つ実践的な講義であり且つアカデミックな講義を目指します。	１．　講義概要（詳細は各担当教員が説明します） ２．　ビジネスレターの形式&練習問題 ３．　効果的なビジネスレターの書き方（１）&同上 ４．　同上（２）&同上 ５．　取引の申し込み&同上 ６．　申し込みに対する応答&同上 ７．　引き合い（具体的な問い合わせ）&同上 ８．　中間試験と復習 ９．　オファー（売り手からの申し込み）&同上 １０．オファーに対する応答&練習問題 １１．信用状&同上 １２．積み出し&同上 １３．クレーム申し出&同上 １４．クレームに対する応答&同上 １５．まとめ

到達目標	ビジネスに必要な電子メール、英文レター&ファックスや各種報告書などの英文を、パラグラフ単位で作成できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの予習・復習が肝要。
テキスト	海老沢達郎著　「Business Writing―英文ビジネスレター入門」（金星堂：2007 年・2011 年重版）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

09 年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本科目はビジネス英語上級編の位置付けです。 English for Business Ⅰ & Ⅱ 習得に基づき Business Writingを履修すれば実業界等で十分に通用するビジネス英語を総合的に学習することになります。 具体的には教科書に則り時系列的に商取引：引き合い・料金提示・受諾・出荷・支払い・クレーム・解決等の講義及び本格的な英文ビジネスレターの書き方を学びます。 対外文書の特徴である簡潔明瞭で丁寧なビジネスレターの書き方を指導し、外資系企業、航空業界、国際物流業界、製造業の輸出入担当部門、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を駆使して活躍したい学生を対象に講義を進めて行きます。 業務遂行に役立つ実践的な講義であり且つアカデミックな講義を目指します。	１．　講義概要（詳細は各担当教員が説明します） ２．　ビジネスレターの形式&練習問題 ３．　効果的なビジネスレターの書き方（１）&同上 ４．　同上（２）&同上 ５．　取引の申し込み&同上 ６．　申し込みに対する応答&同上 ７．　引き合い（具体的な問い合わせ）&同上 ８．　中間試験と復習 ９．　オファー（売り手からの申し込み）&同上 １０．オファーに対する応答&練習問題 １１．信用状&同上 １２．積み出し&同上 １３．クレーム申し出&同上 １４．クレームに対する応答&同上 １５．まとめ

到達目標	ビジネスに必要な電子メール、英文レター&ファックスや各種報告書などの英文を、パラグラフ単位で作成できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの予習・復習が肝要。
テキスト	海老沢達郎著　「Business Writing―英文ビジネスレター入門」（金星堂：2007 年・2011 年重版）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	E．J．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills to produce longer papers. There will be in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 600 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students as well as the teacher, so time will be given in class for this.	1 Introduction to the course 2 Workshop – what is academic writing? 3 Library and internet-based research skills 4 Paraphrase and summary skills 1 5 Paraphrase and summary skills 2 6 Narrowing the topic -mid-term paper 7 The structure of a longer paper 8 Citation and reference skills 9 Editing and proofreading a longer essay 10 Combining sources –final paper 11 Making a questionnaire/ case study 12 Revisiting introductions and conclusions 13 Editing and proofreading 14 Presenting research 15 Sharing the final product

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students must review materials before and after class, submit assignments by the deadlines and revise them
テキスト	Materials will be provided by the instructor
参考文献	Reference materials will be introduced on the first day of class
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 30%; mid-term paper 30%; final paper and presentation 40%

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	E．J．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills to produce longer papers. There will be in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 600 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students as well as the teacher, so time will be given in class for this.	1. Introduction to the course 2. Workshop – what is academic writing? 3. Library and internet-based research skills 4. Paraphrase and summary skills 1 5. Paraphrase and summary skills 2 6. Narrowing the topic – the mid-term paper 7. The structure of a longer paper 8. Citation and reference skills 9. Editing and proofreading a longer essay 10. Combining sources - the final paper 11. Making a questionnaire/ case study 12. Revisiting introductions and conclusions 13. Editing and proofreading 14. Presenting research 15. Sharing the final product

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students must review materials before and after class, submit assignments by the deadlines and revise them
テキスト	Materials will be provided by the instructor
参考文献	Reference materials will be introduced on the first day of class
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 30%; mid-term paper 30%; final paper and presentation 40%

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to provide opportunities to practice business writing skills to help students in their future workplace. We will use a course book in business English with reading and writing materials to give context and introduce genre-specific vocabulary so that students can learn to write the kinds of communications needed in business situations. By the end of the course you will have put together a folder of memos, emails, letters and reports which will be used for assessment. We will do half the units in the book in the spring term.	1. Introduction to the course 2. Consolidation 3. Newspaper business page 4. Mergers: writing a press release 5. Meetings: writing a memo 6. Technology: writing a formal email 7. Negotiating: writing a letter 8. Review and writing a report 9. Investment: writing a letter 10. Company finance: writing a recommendation 11. Banking: writing a policy choice letter 12. Consulting: writing a formal email 13. Business quiz and writing a report 14. Review 15. Feedback

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.
テキスト	*Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate* by Tonya Trappe and Graham Tullis.
参考文献	
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are the same as in the spring course and the procedures largely similar. It will in effect be a parallel course using the half of the textbook not used in the spring. For anyone wanting to do a whole year they can get extensive practice without repeating the same material	1. Introduction to the course 2. Consolidation 3. Newspaper business page 4. Projects: writing an informal email 5. Information: writing a letter 6. Advertising: writing a fax 7. Brands: writing a formal email 8. Review and writing a report 9. Energy: writing an email 10. Competition: writing a press release 11. Company training: writing an email 12. Review and writing a report 13. Business quiz 14. Review 15. Feedback

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.
テキスト	*Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate* by Tonya Trappe and Graham Tullis.
参考文献	
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
The goals of the Research Writing course are to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses in order to write academic essays by enhancing reading, critical thinking, and research skills.　Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revisions will be emphasized. APA style will be used. (one semester course)	1. Course Introduction 2. Paragraph/Essay Review 3. Introduction to the Research Essay 4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining 5. Gathering Sources, Draft Writing 6. Summarizing and Paraphrasing 7. Plagiarism 8. Using Citations 9. Draft Writing and Revision 10. The Reference Page 11. Draft Writing and Revision 12. Draft Writing and Revision 13. Draft Writing and Revision 14. Research Essay due 15. Course wrap-up

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of Steps to Research Writing
テキスト	*Academic Writing Skills,* Book 3 Chin, Peter, et.al., Cambridge, 2013
参考文献	
評価方法	Classwork, Homework, and Essays

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
The goals of the Research Writing course are to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses in order to write academic essays by enhancing reading, critical thinking, and research skills.　Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revisions will be emphasized. APA style will be used. (one semester course)	1. Course Introduction 2. Paragraph/Essay Review 3. Introduction to the Research Essay 4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining 5. Gathering Sources, Draft Writing 6. Summarizing and Paraphrasing 7. Plagiarism 8. Using Citations 9. Draft Writing and Revision 10. The Reference Page 11. Draft Writing and Revision 12. Draft Writing and Revision 13. Draft Writing and Revision 14. Research Essay due 15. Course wrap-up

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of Steps to Research Writing
テキスト	*Academic Writing Skills,* Book 3 Chin, Peter, et.al., Cambridge, 2013
参考文献	
評価方法	Classwork, Homework, and Essays

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course will offer students an opportunity to look at and produce creative writing. We will look at some examples of creative writing, considering the features of various genres and the benefits of writing creatively. The class will workshop students' own pieces, refining and improving their style, while working towards a final piece of written work.	1. Introductions and course outline 2. Getting to know you - conversation activities 3. Writing and you. The creative process. 4. Creative space. 5. Narratives. 6. Forms of creative writing. 7. Workshop - peer review. 8. Aspects of genre. 9. The creative process 2. 10. Workshop - peer review. 11. Building ideas. 12. First draft peer review. 13. Second draft peer review. 14. Final portfolio submission and course review. 15. Exam period.

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write at home before classes, and review and edit after classes.
テキスト	None
参考文献	
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and a final portfolio of work (80%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
The course is designed to provide students the opportunity to write in a variety of genres, including poetry, narratives, short stories, memoir, autobiography, and descriptive pieces. Students will learn about characterization, descriptive writing techniques and figurative language, style and point of view. The students will be provided opportunities to produce multiple kinds of creative writing with an emphasis on revision and editing skills. There is also a cooperative aspect to the course, therefore students should expect to do pair/group work.	Week 1 Introduction to Course/Why Creative Writing? Week 2 Types of Creative Writing Week 3 Starting with Yourself (Memoir) Week 4 Descriptives & Figurative Language Week 5 Enriching Your Memoir Week 6 Types of Poetry Week 7 Poetry (cont'd) Week 8 Where I Am From Poem Week 9 Where I am From Poem Presentation Week 10 Narrative Structure Week 11 Characterization Week 12 Point of View Week 13 Scripted Language/Writing Dialogues Week 14 Reader's Theater Week 15 Reader's Theater Performances

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	There is no text for this course
参考文献	Materials will be provided by the instructor
評価方法	Homework and In-class participateon (40%), Revisions of Writing Projects (20%), Mid-term and Final Writing Assignments (40%)

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	J．J．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is intended as a broad-based introduction to various forms of creative writing, such as short fiction, nonfiction, and poetry. Students are also given an opportunity to write in these genres and explore their creative strengths. The class is usually comprised of technique and style discussions, reading assignments and writing exercises. Students will be introduced to the concept of a writing workshop, wherein they share pieces with peers in order to give and receive feedback.	Week 1: Introduction. Week 2: The concept of creativity. Week 3: Where and how to get ideas. Week 4: Short fiction readings. Week 5: Short fiction writing. Week 6: Rewriting a story. Week 7: Proper formatting. Week 8: Nonfiction readings. Week 9: Nonfiction writing. Week 10: Editing writing. Week 11: Text organization. Week 12: Appreciating poetry. Week 13: Creating poetry. Week 14: Sharing poetry. Week 15: Review and consolidation.

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete any assigned reading and/or written homework (approximately 90 minutes) in preparation for class participation.
テキスト	Handouts
参考文献	Presented on a case-by-case basis
評価方法	Grades are based on in-class participation (20%) and weekly assigned work (20%), and submission of final portfolio of work (60%).

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating, and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.	1. Course Introduction 2. What is research? 3. Introduction to first research topic. 4. Sourcing Information 5. Draft 1 mid-term paper – sharing and critiquing. 6. Avoiding plagiarism: Citing and Quoting Sources. 7. Mid-term paper due. Choosing a new topic. 8. Introductions and Conclusions 9. Writing the body 10. Citations and bibliography 11. Draft 1 final-paper – sharing and critiquing. 12. Grammar checks and preparing for presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Final paper due. Longer term research projects 15. Final paper evaluations and course review.

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) *Basic Steps to Writing Research Papers,* Cengage Learning K.K
参考文献	
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating, and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.	1. Course Introduction 2. What is research? 3. Introduction to first research topic. 4. Sourcing Information 5. Draft 1 mid-term paper – sharing and critiquing. 6. Avoiding plagiarism: Citing and Quoting Sources. 7. Mid-term paper due. Choosing a new topic. 8. Introductions and Conclusions 9. Writing the body 10. Citations and bibliography 11. Draft 1 final-paper – sharing and critiquing. 12. Grammar checks and preparing for presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Final paper due. Longer term research projects 15. Final paper evaluations and course review.

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) *Basic Steps to Writing Research Papers,* Cengage Learning K.K
参考文献	
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one semester only course. You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words　using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay. Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class. Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence	1　Course introduction / review of the basics 2　Essay 1 select topic / general v specific information 3　Introduction & conclusion technique 4　Introduction to internet research (part 1) 5　How to write the body / referencing 6　Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 7　Editing essay 1 draft 8　Internet research (part2) / essay 1 final due 9　Paraphrasing, summarizing & plagiarism 10　How to write an essay plan page in note style 11　How to write a bibliography 12　Essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 13　Editing essay 2 draft 14　Essay 2 final due / problem areas discussion 15　Essay 2 – collect essay / man-to man　: final review of strong & weak points of essay 2

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments
テキスト	No textbook . All materials provided by the teacher.
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one semester only course. You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words　using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay. Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class. Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence	1　Course introduction / review of the basics 2　Essay 1 select topic / general v specific information 3　Introduction & conclusion technique 4　Introduction to internet research (part 1) 5　How to write the body / referencing 6　Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 7　Editing essay 1 draft 8　Internet research (part2) / essay 1 final due 9　Paraphrasing, summarizing & plagiarism 10　How to write an essay plan page in note style 11　How to write a bibliography 12　Essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 13　Editing essay 2 draft 14　Essay 2 final due / problem areas discussion 15　Essay 2 – collect essay / man-to man　: final review of strong & weak points of essay 2

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments
テキスト	No textbook . All materials provided by the teacher.
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Developing body paragraphs 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Developing body paragraphs 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)

09 年度以降	翻訳 I	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。 授業では、主として新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。 また、履修人数にもよりますが、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。	第1回　ガイダンス　辞書について 第2回　翻訳の難しさと面白さについて 第3回　機械翻訳の可能性について 第4回　翻訳の実例比較検討 第5回　復習テスト 第6～8回　翻訳テキスト分析と発表内容チェック 第9~14回　学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換 第15回　まとめと復習テスト

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成
テキスト	プリント配布
参考文献	
評価方法	分析コメント２０％、プレゼンテーション２０％、翻訳実習３０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	翻訳 I	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。 なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。 また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。	第1回　前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第2回　日英および英日翻訳の実例検討　その１ 第3回　日英および英日翻訳の実例検討　その２ 第4～5回　翻訳テキスト分析および発表のテーマ設定検討 第6回　復習テストと発表内容確認 第7～9回　翻訳テキスト分析および発表内容チェック 第10~14回　学生による翻訳プレゼンテーションおよびディスカッション 第15回　まとめと復習テスト

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成
テキスト	プリント配布
参考文献	
評価方法	分析コメント２０％、プレゼンテーション２０％、翻訳実習３０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	翻訳 I	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。 問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたうえで、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。 受講生に求める英語力のレベルは、たとえば *Guardian* 紙のトップ記事が、辞書を使って単語を調べれば理解できること。特に文法的な構造がしっかりと理解できること。(時事的な内容が理解できなくても、文章を「翻訳」できなくてもかまいません）そこに達していない方は、「翻訳」を勉強する前に基礎英語力をつけてください。授業内では原則として基礎的な文法の指導は行いません。	＊授業はひとつの教材について次の流れで行います。 教材の紹介（授業 1）→教材を読んで不明点を洗い出す＋翻訳開始（課題 1）→不明点を解決する（授業 2）→訳了＋提出（課題 2）→添削返却＋解説（授業 3）。 ＊ひとつの教材について 3 回の授業で完了となります。3 回目以降は、上記の(授業 1)、（授業 2）、（授業 3）の三つのプロセスが同時進行します。 ＊紙幅の都合によりここに提示できない詳細については、1 回目の授業で説明します。 ＿＿＿＿＿＿15 回の授業は以下のとおり＿＿＿＿＿ 1. 導入とトライアル（短い教材を対象に、上記の全プロセスの作業を行う）＋教材 1 の紹介 2～15. 様々な性質のテクスト（ニュース、使用説明書、学術書、短編小説など）を教材としてとりあげ、徹底した読解と訳文解説を行います。

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	実際に読み、翻訳に取り組む授業ですので、事前学習が必須です。また翻訳力をつけるには、授業後にポータルに掲載されるモデル文などを使い復習してください。
テキスト	ハンドアウトを用意します。
参考文献	
評価方法	授業への貢献　20%、課題の総合　80%

09 年度以降	翻訳 I	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいわけではありません。適切な英文読解に加え、作品自体を味わい、文化的背景を読み込む必要もあります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。課題文には短編小説や長編小説中の短いチャプターを使用します。まず全体に目を通してから翻訳に取り掛かってください。授業中も一語一語しつこく丁寧に読んでいきます。 授業では、事前提出してもらう翻訳課題をセレクトした抜粋資料を配布します。自分の翻訳と読み比べより良い翻訳を模索するために、積極的な参加と発言が求められます。学期の中盤からグループまたはペアで発表します。その際俳句の英訳も行い、母語から外国語への翻訳感覚を味わいます。言葉のブラッシュアップを楽しみましょう。	1　イントロダクション 2　演習 3　演習 4　演習 5　演習 6　演習 7　演習 8　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 9　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 10　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 11　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 12　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 13　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 14　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 15　演習（ペア・グループによる共訳の発表）

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修として、課題を提出し疑問点などをリストアップする。事後学修として、返却された課題を読み直しリバイズする。
テキスト	課題作品を授業時に配布。
参考文献	*Longman Dictionary of Contemporary English*. Pearson. (2014) 978-1447954200
評価方法	課題・授業参加度（25%）、発表（25%）、レポート（50%）通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。

09 年度以降	翻訳 I	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいわけではありません。適切な英文読解に加え、作品自体を味わい、文化的背景を読み込む必要もあります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。課題文には短編小説や長編小説中の短いチャプターを使用します。まず全体に目を通してから翻訳に取り掛かってください。授業中も一語一語しつこく丁寧に読んでいきます。 授業では、事前提出してもらう翻訳課題をセレクトした抜粋資料を配布します。自分の翻訳と読み比べより良い翻訳を模索するために、積極的な参加と発言が求められます。学期の中盤からグループまたはペアで発表します。その際俳句の英訳も行い、母語から外国語への翻訳感覚を味わいます。言葉のブラッシュアップを楽しみましょう。	1　イントロダクション 2　演習 3　演習 4　演習 5　演習 6　演習 7　演習 8　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 9　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 10　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 11　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 12　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 13　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 14　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 15　演習（ペア・グループによる共訳の発表）

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修として、課題を提出し疑問点などをリストアップする。事後学修として、返却された課題を読み直しリバイズする。
テキスト	課題作品を授業時に配布。
参考文献	*Longman Dictionary of Contemporary English*. Pearson. (2014) 978-1447954200
評価方法	課題・授業参加度（25%）、発表（25%）、レポート（50%）通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。

09 年度以降	翻訳Ｉ（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 （1）掛かり方を示す構文分析　（2）一語一句おろそかにしない解説　（3）英文和訳での正解となる「原文に即した訳」　（4）原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」（5）一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検１級、通訳ガイド試験、TOEIC®高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年（春、秋×2）かけて全100題を終了します。今・春学期は51番から75番を扱います。	１　翻訳という仕事① ２　イギリス人① ３　イギリス人② ４　イギリス人③ ５　イギリス人④ ６　中年の思いごと ７　目の見える有難さ ８　機械と人間 ９　忘れっぽさ １０　友情論 １１　幸福論 １２　外国語を学ぶ効用① １３　外国語を学ぶ効用② １４　日本人論 １５　翻訳のための文法① ＊各回、他に1題を扱います

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。
参考文献	参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ｉ（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 （1）掛かり方を示す構文分析　（2）一語一句おろそかにしない解説　（3）英文和訳での正解となる「原文に即した訳」　（4）原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」（5）一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検1級、通訳ガイド試験、TOEIC®高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。　二年（春、秋×2）かけて全100題を終了します。今・秋学期は76番から100番を扱います。	１　翻訳という仕事② ２　試練に立つ文明 ３　文体と内容 ４　技師の親指 ５　過激の効用 ６　正確さへのこだわり ７　独立独歩 ８　詩人の役割 ９　文化の伝達 １０　孤独の楽しさ １１　若者への教訓 １２　偏愛の危険 １３　歴史の皮肉 １４　自分なりの価値基準 １５　翻訳のための文法② ＊各回とも上記ほか1編を扱う

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。
参考文献	参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ⅰ（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。 今回から文章力練磨のため、市販の翻訳書の誤訳・悪訳部分を訂正する訓練を取り入れます。 木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。 秋学期同時限（木４）の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。	1、英語の規則　① 2、英語の規則　② 3、訳文校正　① 4、訳文校正　② 5、訳文校正　③ 6、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅰ 7、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅱ 8、子供百科「フクロウの目」 9、子供百科「恐竜」 10、子供百科「宇宙」 11、ミュージカル「オクラホマ」 12、詩「虹の歌」 13、小説「マダム・ロゼット」 14、歴史「トロイ戦争」 15、歴史「ミノタウロス」

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。
参考文献	参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』（青弓社、2012 年）。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤読みやすい日本語か、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ⅰ（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分（600ワード程度）を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の受講を期待します。 木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。 抽選に落ちた学生でも、意欲のある人は歓迎します。聴講を希望する方は相談してください。	1、辞書の引き方 2、小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」① 3、小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」② 4、スポーツ「1959年合衆国アマチュアチャンピオン」 5、美術「古代の芸術」 6、ゴルフ「ジャック・ニコラウス自伝」 7、ドキュメンタリー「生き残りし者」 8、科学「重力の問題」 9、造形「心の庭」 10、音楽「オーケストラを指揮する」 11、評伝「二都物語」 12、動物「人間と動物の絆」 13、歴史「そして水は引かなかった」 14、観光「コルシカへの招待」 15、アンドとカンマ

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。
参考文献	参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』（青弓社、2012 年）。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤読みやすい日本語か、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ⅱ（水４）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from English to Japanese. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include poems (by Robert Frost, et al.), novels (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.)newspaper and magazine articles (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-language movies (Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1 Introduction 2 Document #1 (see list at left for examples) 3 Document #2 4 Document #3 5 Document #4 6 Document #5 7 Document #6 8 Document #7 9 Document #8 10 Document #9 11 Document #10 12 Document #11 13 Document #12 14/15 Final Examination and Self-Evaluation

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	翻訳Ⅱ（水２）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from Japanese to English. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include English translations of novels and essays by famous Japanese authors (including Matsuo Basho, NatsumeSoseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with movies based on those authors' works, and Japanese animated features(looking at the English and Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1 Introduction 2 Author #1 (see list at left for examples) 3 Author #2 4 Author #3 5 Author #4 6 Author #5 7 Author #6 8 Author #7 9 Author #8 10 Author #9 11 Author #10 12 Author #11 13 Author #12 14/15 Final Examination and Self-evaluation

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　翻訳と英語学習で使われている英文和訳とは、大きく違います。翻訳はその違いをしっかりと認識することから始まります。この講義では目的に応じて等価の翻訳をするための枠組みを学び、実践に役立つ翻訳の基本姿勢を身につけます。 講義概要 　パソコンを活用して多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。 　テキストはオリエンテーションで指示しますので必ず出席してください。	1.　オリエンテーション 2.　翻訳演習 3.　翻訳演習 4.　翻訳演習 5.　翻訳演習 6.　翻訳演習 7.　翻訳演習 8.　翻訳演習 9.　翻訳演習 10.　翻訳演習 11.　翻訳演習 12.　翻訳演習 13.　翻訳演習 14.　翻訳演習 15.　総括

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、指示に従って指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。原則として、訳文は次回授業時に提出してください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ適宜プリントを配布します。
評価方法	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する。（期末レポート 30%）

09 年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　英文和訳と翻訳とはどう違うのか。翻訳の心がまえを学び、概念としての理解にとどまらず、実践的に翻訳に取り組む力を養います。 講義概要 　パソコンを活用して多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。 　テキストはオリエンテーションで指示しますので必ず出席してください。	1.　オリエンテーション 2.　翻訳演習 3.　翻訳演習 4.　翻訳演習 5.　翻訳演習 6.　翻訳演習 7.　翻訳演習 8.　翻訳演習 9.　翻訳演習 10.　翻訳演習 11.　翻訳演習 12.　翻訳演習 13.　翻訳演習 14.　翻訳演習 15.　総括

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、指示に従って指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。原則として、訳文は次回授業時に提出してください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ適宜プリントを配布します。
評価方法	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する。（期末レポート 30%）

09 年度以降	College Grammar（月３）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be動詞の機能（１） 13・Be動詞の機能（２） 14・Be動詞の機能（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。 ※　同一学期内同一教員の重複履修不可。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar（月３）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC構文の下位区分（１） ６・SVOC構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・情報構造（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。 ※　同一学期内同一教員の重複履修不可。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎となっている英語の文の仕組みとしての英文法をきちんと身に付けることを目的とする. **講義概要**: 英文法を学習する際に, トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である. 文全体から句, 句から語という方式をとりながら, 春学期ではまず, 英文法の基本的な事項のうち, 文とはどのようなものがあるかを考える. 文は基本的な文, 拡張的な文, 派生的な文の三種類に分けられ, 基本的な文は5文型によって説明され, 拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語＋述語)を含む文から構成される重文や複文として学習する. さらに, 文の種類として, 疑問文, 感嘆文, 命令文などを学習する. それを踏まえて, 文を構成する要素として, 名詞, 形容詞, 副詞などを扱う.	1. 文(1) :主部を欠く文,「主部 ＋ 述部」, 節・句・語 2. 文(2) :主部の要素と述部の要素 3. 文型 :5文型, 5文型の拡張, 7文型 4. 述語動詞(1) :述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 5. 述語動詞(2) :自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部 6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文 7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文 8. 名詞の種類(1) : 可算名詞, 不可算名詞 **〈中間試験〉** 9. 名詞の種類(2) : 集合名詞, 名詞の所有格 10. 代名詞の種類(1) : 人称代名詞, 再帰代名詞 11. 代名詞の種類(2) : 指示代名詞, 不定代名詞 12. 形容詞(1) : 形容詞の種類と用法 13. 形容詞(2) : 形容詞の語順, 数詞 14. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 15. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置**《期末試験》**

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために, 英語例文の日本語訳を含め, 必ず予習すること.
テキスト	安井稔（1986）*A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社）
参考文献	安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』（開拓社）
評価方法	出席は単位認定の前提とし, 授業での発表（10%）と中間試験（45%）と期末試験（45%）に基づいて評価する.

09 年度以降	College Grammar	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎となっている英語の文の仕組みとしての英文法をきちんと身に付けることを目的とする. **講義概要**: 秋学期ではまず, 文を構成する要素のなかの助動詞, 関係代名詞, 関係副詞を学習する. 次に, 時制を含まない節として, 不定詞・分詞・動名詞を学習する. 不定詞と動詞のing分詞(いわゆる現在分詞)いずれにも, 名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する. また, 英語の文の構成に重要な, 時制, 比較表現, 否定表現, 強調表現, 仮定法の用法を学習する. さらに, 複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する. 最後に, 強調・省略・挿入といった言語表現の情報構造に関わる構文を学習する.	1. 助動詞, 助動詞として用いられる語 2. 不定詞, 分詞, 動名詞(1) 3. 不定詞, 分詞, 動名詞(2) 4. 関係代名詞, 関係副詞 5. 時制(1) :現在時制の用法 6. 時制(2) :過去時制の用法 7. 現在完了の用法, 過去完了の用法, 進行形の用法 8. 能動態と受動態 **〈中間試験〉** 9. 呼応と時制の一致 10. 仮定法, 直説法と仮定法 11. to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現 12. 話法, 直接話法と間接話法 13. 比較, 原級の用法, 比較級の用法, 最上級の用法 14. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 15. 文の主語と情報構造, 強調, 省略・挿入**《期末試験》**

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために, 英語例文の日本語訳を含め, 必ず予習すること.
テキスト	安井稔（1986）*A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社）
参考文献	安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』（開拓社）
評価方法	出席は単位認定の前提とし, 授業での発表（10%）と中間試験（45%）と期末試験（45%）に基づいて評価する.

09 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be動詞の機能（１） 13・Be動詞の機能（２） 14・Be動詞の機能（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。 ※　同一学期内同一教員の重複履修不可。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに準ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC構文の下位区分（１） ６・SVOC構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・情報構造（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。 ※　同一学期内同一教員の重複履修不可。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに準ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar	担当者	倉林　秀男

講義目的、講義概要	授業計画
言語は語からフレーズ、フレーズから文、そして文から文章（そして会話）へと広がる。本巻では、文の構造について認知言語学的方法で分析する。語用論や比較対象言語学へとテーマを広げていく。英語力の基盤となる「文法力」を身につけることを目的としています。そのときに闇雲に文法用語や文法事項を暗記するのではなく、「なるほど」と理解をしながら身につけていくことで、英語という言語の仕組みだけではなく、英語を話している人たちがどのように物事を捉えているかまで理解することができるのです。 授業は授業計画に従って、講義とグループワークを組み合わせて行っていきます。 なお、授業連絡はTwitter @kura_class　にて発信しています。	1.　オリエンテーション 2.　事態把握 3.　アスペクト 4.　因果連鎖とビリヤードモデル 5.　構文の多様性 6.　イディオム 7.　ことばと文化：する型となる型 8.　意味論的意味 9.　行為遂行動詞 10.　テクスト性 11.　情報構造 12.　指示 13.　ダイクシス 14.　現象文 15.　まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業内で出される課題は次回に提出する。
テキスト	テキスト：瀬戸賢一著『解いて学ぶ認知構文論』（大修館書店、2017 年）
参考文献	参考文献：田中茂範著『わかるから使えるへ　表現英文法』（コスモピア、2017 年）
評価方法	定期試験　80 パーセント、授業内課題 20 パーセント

09 年度以降	College Grammar	担当者	倉林　秀男

講義目的、講義概要	授業計画
言語は語からフレーズ、フレーズから文、そして文から文章（そして会話）へと広がる。本巻では、文の構造について認知言語学的方法で分析する。語用論や比較対象言語学へとテーマを広げていく。英語力の基盤となる「文法力」を身につけることを目的としています。そのときに闇雲に文法用語や文法事項を暗記するのではなく、「なるほど」と理解をしながら身につけていくことで、英語という言語の仕組みだけではなく、英語を話している人たちがどのように物事を捉えているかまで理解することができるのです。 授業は授業計画に従って、講義とグループワークを組み合わせて行っていきます。 なお、授業連絡はTwitter @kura_class　にて発信しています。	1.　オリエンテーション 2.　事態把握 3.　アスペクト 4.　因果連鎖とビリヤードモデル 5.　構文の多様性 6.　イディオム 7.　ことばと文化：する型となる型 8.　意味論的意味 9.　行為遂行動詞 10.　テクスト性 11.　情報構造 12.　指示 13.　ダイクシス 14.　現象文 15.　まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業内で出される課題は次回に提出する。
テキスト	テキスト：瀬戸賢一著『解いて学ぶ認知構文論』（大修館書店、2017 年）
参考文献	参考文献：田中茂範著『わかるから使えるへ　表現英文法』（コスモピア、2017 年）
評価方法	定期試験　80 パーセント、授業内課題 20 パーセント

09 年度以降	College Grammar	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
受講者はTOEIC®900点以上の取得者からplay guitarとplay the guitarの使い分けのできない人までさまざまいたかもしれませんが、この授業の狙いは、（認知）言語学の最近の研究成果を踏まえ、英語の母語話者(native speakers)が頭の中に収めている英語の仕組の本当の姿がどのようなものかを探り、それをできるだけ「なるほど！」と理屈のうえで理解できるようしっかり身につけてもらうことにあります。 ということでこの授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそうは言えるのに、こうは言えないの？」という素朴な疑問に対する「納得！」のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。したがって、この授業を受ければ、I will/am going to be 20 next monthの違いや、Love is a/the reason to get marriedの違いや、be surprisedはatをとってもwithは取らないけれど、be pleasedはatもwithもとることが分かるようになります。	1. モノの捉え方と表現の仕方 2. 不定冠詞 vs. はだか名詞 3. 英語の情報構造 4. 情報の新旧と冠詞 5. 前置詞の意味 ① 6. 前置詞の意味 ② 7. 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相） 8. BE 受動文と GET 受動文の使い方 9. 再帰代名詞の使い方 10. 動詞の意味と構文（結果構文） 11. 動詞の意味と構文（二重目的語構文･ほか） 12. 自動詞構文と他動詞構文 13. 否定の意味 14. 助動詞の使い方 15. 存在を表す there 構文とはだか存在文

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（プリントを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習を行う。なお、授業に関する連絡はツイッター（semantics@gamba_dokkyo ）を通じて行います。
テキスト	Google ドライブを通じてダウンロード配付するプリント
参考文献	田中茂範『わかるから使えるへ 表現英文法【増補改訂第 2 版】』コスモピア株式会社
評価方法	定期試験 7 割、小テストと課題および授業における参加度 3 割による。変更のある場合は第 1 回目の授業で説明します。

09 年度以降	College Grammar	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、従来の記憶･暗記型の文法学習から脱却するにはどうすればよいのかという観点から「教育英文法」のあるべき姿を考えます。 「ドアをノックする」を英語で何と言うかと尋ねると、多くの学生が knock the door と回答します。正解は knock on the door ですが、ではなぜそうなるのかと問うと、「そう習ったから」としか答えない学生がほとんです。しかし、実はどうして on が必要なのかというような問い掛けこそが native speaker 並の英語の勘を養う上でとても重要なことなのです。 そしてこの問にたいする答（＝理屈）に「なるほど、そうなのか！」と納得することができれば、英語を学ぶことの知的好奇心を満たすことになり､それがひいては英語学習の強い動機づけにつながります｡そうやって動機づけられた学習者は､｢そういえば､あれも同じ原理なのではないだろうか｣という思考を通じ、例えば、「鉛筆を噛まないで」もDon't chew your pencil.ではなくonが必要になること、「雨に降られた」をIt rained on me.と言うことも自然にわかるようになります。	1. 基本動詞（break/ take/speak/talk/tell/say）の意味世界 2. 前置詞（at/on/ほかの前置詞と句動詞）の意味世界 3. 続き 4. 新しい教育英文法：①make, give, have, be 等 5. 同：② 完了形、have 使役構文と所有の have の共通性 6. 同：③-ing のはたらき、進行相、分詞構文 7. 同：④ to 不定詞と動名詞と that 節 8. 同：⑤冠詞とはだか名詞の意味機能 9. 続き 10. 英文法指導法アラカルト 11. 新しい教育英文法：⑥ 語順と情報構造 12. 続き 13. 同：⑦「それ・あれ」と this、that、it 14. 同：⑧ <スル>的英語―他動性の世界 15. 続き

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（プリントを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習を行う。なお、授業に関する連絡はツイッター（semantics@gamba_dokkyo ）を通じて行います。
テキスト	Google ドライブを通じてダウンロード配付するプリント
参考文献	田中茂範ほか『英語感覚が身につく実践的指導』大修館書店
評価方法	定期試験 7 割、小テストと課題および授業における参加度 3 割による。変更のある場合は第 1 回目の授業で説明します。

09 年度以降	College Grammar（水４）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論などの最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。春学期は文の構成を中心に講義し、大枠となる文の種類、構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 文の構成（1） 3. 文の構成（2） 4. 文の構成（3） 5. 動詞と時制（1） 6. 動詞と時制（2） 7. 動詞と時制（3） 8. 法助動詞（1） 9. 法助動詞（2） 10. 法助動詞（3） 11. 未来表現（1） 12. 未来表現（2） 13. 受動態（1） 14. 受動態（2） 15. 春学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、授業への取り組みを加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar（水４）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論など、最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心に講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、埋め込み構造を理解する上で重要となる要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 仮定法（1） 3. 仮定法（2） 4. 命令法 5. 節構造（1） 6. 節構造（2） 7. 節構造（3） 8. 関係節（1） 9. 関係節（2） 10. 関係節（3） 11. 比較構文（1） 12. 比較構文（2） 13. 否定（1） 14. 否定（2） 15. 秋学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、授業への取り組みを加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar（水５）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論などの最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。春学期は文の構成を中心に講義し、大枠となる文の種類、構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 文の構成（1） 3. 文の構成（2） 4. 文の構成（3） 5. 動詞と時制（1） 6. 動詞と時制（2） 7. 動詞と時制（3） 8. 法助動詞（1） 9. 法助動詞（2） 10. 法助動詞（3） 11. 未来表現（1） 12. 未来表現（2） 13. 受動態（1） 14. 受動態（2） 15. 春学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、授業への取り組みを加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar（水５）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論など、最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心に講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、埋め込み構造を理解する上で重要となる要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 仮定法（1） 3. 仮定法（2） 4. 命令法 5. 節構造（1） 6. 節構造（2） 7. 節構造（3） 8. 関係節（1） 9. 関係節（2） 10. 関係節（3） 11. 比較構文（1） 12. 比較構文（2） 13. 否定（1） 14. 否定（2） 15. 秋学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、授業への取り組みを加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんは中学・高校で英文法の体系を一通り学んできたと思いますが、その過程で「なぜこの単語はこんな意味で使われるのか？」「なぜこんな語順になるのだろう？」といった疑問を数多く抱かれてきたと思います。しかし、受験という大目標を前にして、とりあえず諸用法を丸暗記することでしのいできたのではないでしょうか？　受験から解放されている大学生は、こうした疑問について徹底的に考えることが許されます。本講義では、誰もが抱く英文法の疑問の中から主に動詞に関する問題を取り上げて、解明することを試みます。英和辞典に網羅的に記述されている、英語の様々な文型、表現、語法の例をたたき台にして、「なぜ」について考えていきましょう。英文法の諸現象にはまだ十分に説明されていないものが沢山あります。1語1語について考え抜くことで、皆さんなりの説明を見つけましょう。	1. 主要な文法体系（認知文法、生成文法、伝統文法など） 2. 文のタイプ 3. 自動詞と他動詞 4. アスペクトによる動詞の分類 5. 本動詞、助動詞としての be, do, have 6. 時制 7. 完了形 8. 進行形 9. 法助動詞（can, will） 10. 法助動詞（may, should） 11. 仮定法 12. to 不定詞 13. 過去分詞 14. 現在分詞と動名詞 15. まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現を自分なりに分析し、事後は、授業で提示された説明を批判的に検証すること。
テキスト	教員が作成した教材を教室、または Web 上で配布する。
参考文献	認知言語学に関する文献。特に David Lee, *Cognitive Linguistics: An Introduction* など
評価方法	小テスト（20%）、授業への参加姿勢（20%）、期末試験（60%）の配分で成績を算出する。

09 年度以降	College Grammar	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、英文法について多くの学生が抱きながら、明確な説明を得られないままになっている諸問題について検討し、納得できる説明を得られることを目指します。英和辞典に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、「なぜ」について考えていきたいと思います。たとえば、仮定法ではなぜ時制が過去方向にずれるのでしょうか？　多くの前置詞は、なぜ空間と時間の両方の文脈で用いることができるのでしょうか？　名詞の可算用法と不可算用法はどのように区別されているのでしょうか？　notとnoにはどのような相違があるのでしょうか？　こうした疑問に対して、こちらから特定の説明法を押し付けることはしませんので、授業での解説を鵜呑みにするのではなく、さまざまな文法体系の視点を参考にしながら、皆さんなりの解答を見つけてください。	1. 春学期の内容を概観 2. metaphor 3. metonymy 4. 接続詞 5. 関係詞 6. 前置詞 7. 名詞 8. 冠詞 9. 代名詞 10. 形容詞 11. 副詞 12. 比較 13. 否定（完全否定、部分否定、準否定） 14. 否定（not と no の相違、鯨の構文） 15. まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現を自分なりに分析し、事後は、授業で提示された説明を批判的に検証すること。
テキスト	教員が作成した教材を教室、または Web 上で配布する。
参考文献	認知言語学に関する文献。特に David Lee, *Cognitive Linguistics: An Introduction* など
評価方法	小テスト（20%）、授業への参加姿勢（20%）、期末試験（60%）の配分で成績を算出する。

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions, and logical reasoning effectively in English.	1. Introduction to course and class 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations, book reports (30%), speaking tests (10%)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions, and logical reasoning effectively in English.	1. Introduction to course and class 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations, book reports (30%), speaking tests (10%)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics Weeks 1 - 2　Introduction to the course of studies. Weeks 3 - 6　Why learn English. Weeks 7 - 10　Caring for kids. Weeks 11 - 14　Death from overwork. Week 15　Evaluations. A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	Students will be guided to relevant internet websites for research purposes.
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.	Each topic area will take between 3 to 4 weeks to cover. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics: Weeks 1 - 2　Brief introduction/welcome back to class. Weeks 3 - 6　Computers and society. Weeks 7 - 11　Ageing Society. Weeks 12 -14　The Automobile. Week 15　Evaluations. A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	Students will be guided to internet websites for research purposes.
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this class is to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussions on various topics. Students will also have opportunities to develop their abilities to speak in front of the class by using notes to express their opinions. The typical class will consist of small group discussions on a unit from the textbook To build their vocabulary, students will be required to complete weekly vocabulary exercises for homework. Students who are enthusiastic to improve their speaking skill are welcome.	Week 1: Course Introduction Week 2: Unit 1 – Cosmetic surgery Week 3: Unit 1 continued Week 4: Unit 4 – Parents & teen conflicts Week 5: Unit 4 continued Week 6: Unit 9 – Extreme fashion Week 7: Unit 9 continued Week 8: Presentation preparation Week 9: Presentations Week 10: Unit 10 – Parasite singles Week 11: Unit 10 continued Week 12: Unit 11 – Sexual harassment Week 13: Practice presentation skills Week 14: Presentations Week 15: Review & feedback

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read and listen to the conversation before class. After class make entries on the vocabulary sheet.
テキスト	Impact Issues 3 Richard R. Day Pearson/Longman ISBN 978-962-01-9932-5
参考文献	None.
評価方法	Quizzes 40% Presentations 40% Vocabulary sheets 10% Participation 10%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this class is to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussions on various topics. Students will also have opportunities to develop their abilities to speak in front of the class by using notes to express their opinions. The typical class will consist of small group discussions on a unit from the textbook To build their vocabulary, students will be required to complete weekly vocabulary exercises for homework. Students who are enthusiastic to improve their speaking skill are welcome.	Week 1: Course Introduction Week 2: Unit 1 – Cosmetic surgery Week 3: Unit 1 continued Week 4: Unit 4 – Parents & teen conflicts Week 5: Unit 4 continued Week 6: Unit 9 – Extreme fashion Week 7: Unit 9 continued Week 8: Presentation preparation Week 9: Presentations Week 10: Unit 10 – Parasite singles Week 11: Unit 10 continued Week 12: Unit 11 – Sexual harassment Week 13: Practice presentation skills Week 14: Presentations Week 15: Review & feedback

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read and listen to the conversation before class. After class make entries on the vocabulary sheet.
テキスト	Impact Issues 3 Richard R. Day Pearson/Longman ISBN 978-962-01-9932-5
参考文献	None.
評価方法	Quizzes 40% Presentations 40% Vocabulary sheets 10% Participation 10%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火１） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication?* **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火１） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
参考文献	
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
UK Culture & Society This is an intermediate-level content based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture I 1. Introductory Class 2. Introduction to Britain 3. British Pop 4. London 5. The Train 6. Heathrow Airport 7. William Shakespeare 8. Tea 9. Climbers 10. Sherlock Holmes 11. The Purple Violin 12. British Universities 13. An English Summer 14. Review 15. Evaluation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
UK Culture & Society This is an upper-intermediate content based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 – 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture II 1. Preview 2. The Seven Wonders of Britain 3. Wales 4. BBC World Service 5. The Mini 6. The Village 7. Agatha Christie 8. Charles Dickens 9. The Sea 10. Taxi 11. Public School 12. WOMAD 13. A British Christmas 14. Review 15. Evaluation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required.
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will look at contemporary issues from persuasive perspectives. Students will develop their abilities to form and present cohesive opinions and arguments while responding to the opinions and ideas of others. The discussion topics will be chosen by the teacher and the students and presented in written (article) and verbal form.	1. Introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Narrative fictions - lying and describing. 4. Happiness. 5. Fear. 6. Structuring debates. 7. Persuasive language. 8. Student topics for debates. 9. Analyzing perspectives. 10. Student topics for debates. 11. Sadness. 12. Presentation preparation. 13. Presentations and discussion. 14. Presentations and discussion. 15. Exam period.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.
テキスト	None
参考文献	
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%) and final presentations (50%)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.	Weeks 1. Course introduction 2. Text Unit 1 3. Text Unit 2 4. Discussion Test Prep 5. Discussion Tests 6. Unit 3 7. Unit 4 8. DVD 9. DVD 10. Individual Presentations 11. Group Discussions 12. Group Discussions 13. Discussion Tests 14. Final Presentations 15. Final Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト	Text: Presenting Different Opinions
参考文献	
評価方法	Written reports 30%, Discussion tests 35%, Presentations 35%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.	Weeks 1. Course Introduction 2. Text Unit 7 3. Text Unit 8 4. DVD 5. Group Presentation Preparation 6. Group Presentations 7. Text Unit 9 8. Text Unit 10 9. DVD 10. DVD 11. Text Unit 11 12. Text Unit 12 13. Presentation Preparation 14. Final Presentations 15. Course Review

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト	Text: Presenting Different Opinions
参考文献	
評価方法	Written reports 30%, Presentations 35%, Classroom activities 35%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
Overall Objectives 1. To use persuasive language and communicative skills (assertion of one's opinion or assertion of one's opposition to an opinion/belief) in order to affect a desired outcome 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts 3. To encourage experimentation with advanced visual and multimedia techniques 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas, opinions, and beliefs	1: Orientation 2: Issue 1 & forming/expressing an opinion 3: Issue 2 & forming/expressing an opinion 4: Issue 3 & forming/expressing an opinion 5: Issue 4 & forming/expressing an opinion 6: Issue 5 & debating skills 7: Issue 6 & debating skills 8: Issue 7 & debating skills 9: Issue 8 & debating skills 10: Persuasive presentation 11: Persuasive presentation 12: Persuasive presentation 13: Persuasive presentation 14: Persuasive presentation 15: Course summary & survey

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Homework; Presentation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
Overall Objectives 1. To use persuasive language and communicative skills (assertion of one's opinion or assertion of one's opposition to an opinion/belief) in order to affect a desired outcome 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts 3. To encourage experimentation with advanced visual and multimedia techniques 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas, opinions, and beliefs	1: Orientation 2: To be decided (TBD) 3: TBD 4: TBD 5: TBD 6: TBD 7: TBD 8: TBD 9: TBD 10: TBD 11: TBD 12: TBD 13: TBD 14: TBD 15: Course summary & survey

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Homework; Presentation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	J．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for informing, persuading, and influencing others about current topics that affect society.　A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.	Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Good observation, making pros and cons Week 3: Writer point of view, background influences Week 4: Making effective visual aids Week 5: Good discussion questions Week 6: Small group discussion workshop Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Making effective topic presentations Week 12: Presentation workshop: Student Survey Presentation Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation, likely four hours outside of class preparation
テキスト	No class textbook—handout will be provided by the teacher
参考文献	Explained in class
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	J．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society.　A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. The class structure and goals will be the same as the spring semester, but materials for the fall semester will be different.	Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Good observation, making pros and cons Week 3: Writer point of view, background influences Week 4: Making effective visual aids Week 5: Good discussion questions Week 6: Small group discussion workshop Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Making effective topic presentations Week 12: Workshop: Investigative Research Presentation Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation, likely four hours of preparation outside of class
テキスト	No class textbook—handout will be provided by the teacher
参考文献	Explained in class
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans***. "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
参考文献	
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木３） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木３） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
参考文献	
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one term, semi-elective course aims to further develop and build on language skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster the presentation of one`s own ideas.	Week 1- Course introduction Week 2- How the wealthy hide riches Week 3- Naoki Matayoshi`s literary win Week 4- Russia`s culture of sports cheating Week 5- African refugees enter Europe Week 6- Syrian migrants enter Norway Week 7- Day care and birthrate problems in Japan Week 8- Student presentations Week 9- iPS eye parts are created Week 10- Deep Blue – IBM Supercomputer Week 11- Japan`s multicultural Olympians Week 12- Japanese win Nobel prizes in medicine and physics Week 13- Brexit Week 14- Boko Haram Week 15- Final Examination

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. If an assignment such as a presentation is given to students, they are expected to prepare it before class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson.
テキスト	15 Selected Units of English through the News Media, M. Takahashi, N. Itoh, R. Powell, Asahi Press
参考文献	
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one term, semi-elective course aims to further develop and build on language skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster the presentation of one`s own ideas.	Week 1- Course introduction Week 2- How the wealthy hide riches Week 3- Naoki Matayoshi`s literary win Week 4- Russia`s culture of sports cheating Week 5- African refugees enter Europe Week 6- Syrian migrants enter Norway Week 7- Day care and birthrate problems in Japan Week 8- Student presentations Week 9- iPS eye parts are created Week 10- Deep Blue – IBM Supercomputer Week 11- Japan`s multicultural Olympians Week 12- Japanese win Nobel prizes in medicine and physics Week 13- Brexit Week 14- Boko Haram Week 15- Final Examination

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. If an assignment such as a presentation is given to students, they are expected to prepare it before class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson.
テキスト	15 Selected Units of English through the News Media, M. Takahashi, N. Itoh, R. Powell, Asahi Press
参考文献	
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%

09 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course introduction Week 2- First Impressions Week 3- Traffic Jam Week 4- Who Needs the Local Language Week 5- Getting Ahead Week 6- Forever Single Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- What are Friends For? Week 9- What's for Dinner? Week 10- Cyber Bullying Week 11- Taking Care of Father Week 12- Why Go To School? Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Final Examination Week 15- Final Examination

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. If an assignment such as a presentation is given to students, they are expected to prepare it before class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson
テキスト	Impact Issues – Book 2, Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka,
参考文献	
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination. -40%

09 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course Introduction Week 2- An International Relationship Week 3- Too Little, Too Late Week 4- Ben and Mike Week 5- Government Control Week 6- Living Together Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- Size Discrimination Week 9- Who Will Help Them? Week 10- Finding the Right One Week 11- Dress for Success Week 12- A Mother's Story Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Final Examination Week 15- Final Examination

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. If an assignment such as a presentation is given to students, they are expected to prepare it before class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson
テキスト	Impact Issues – Book 2, Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka
参考文献	
評価方法	It isnecessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class-30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%

09 年度以降	Discussion	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, the students will be provided with ample opportunity to use English and express themselves through a combination of speaking activities, group discussions and presentaions. Students will do plenty of speaking in this class.	Week 1: Introduction Week 2-4: Someone you admire Week 5-8: My passion Week 9-11: Music Presentation Week 12-14: Movie presention Week 15: Summer Discussion

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to do approximately 90 minutes of homework per class.
テキスト	The instructor will provide all materials necessary for this class.
参考文献	
評価方法	Discussions 50% Presentations 50%

09 年度以降	Discussion	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
Same as above	Week 1: Introduction Week 2-4: Travel Week 5-8 : Halloween Week 9-11: Poster Presentation Week 12-14: Christmas/New Year Week 15: Looking Forward/Looking Back

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Same as above
テキスト	Same as above
参考文献	
評価方法	Same as above

09 年度以降	Discussion	担当者	J．E．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English speaking skills: from sentence to presentation (2) improve students' skills in academic speaking strategies: organized and logical (3) build students' confidence in formulating speeches Attendance Policy: 1. If you have four (4) unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three (3) times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Hisaye Yamamoto 2. Hisaye Yamamoto 3. Alice Munro 4. Alice Munro 5. Maxine Hong Kingston 6. Maxine Hong Kingston 7. Bruce Chatwin 8. Midterm Exam 9. Toni Morrison 10. Toni Morrison 11. Kate Chopin 12. Kate Chopin 13. Sylvia Plath 14. Sylvia Plath 15. Final Exam

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

09 年度以降	Discussion	担当者	J．E．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English speaking skills: from sentence to presentation (2) improve students' skills in academic speaking strategies: organized and logical (3) build students' confidence in formulating speeches Attendance Policy: 1. If you have four (4) unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three (3) times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Kazuo Ishiguro 2. Kazuo Ishiguro 3. Ralph Ellison 4. Ralph Ellison 5. Joy Kogawa 6. Joy Kogawa 7. Sherman Alexie 8. Midterm Exam 9. Isabel Allende 10. Isabel Allende 11. Upton Sinclair 12. Upton Sinclair 13. Julian Barnes 14. Julian Barnes 15. Final Exam

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

09 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course designed for those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage.　Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.　Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare Discussion points and conduct prior research.　Post material online.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course designed for those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage.　Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.　Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare Discussion points and conduct prior research.　Post material online.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Discussion	担当者	E．J．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is for students with ideas and a desire to discuss them in English. Students will learn target discussion skills and then practice them in groups. There is a strict English only policy as in the future students will need to interact in situations in which the only common language is English. The course will begin with topics introduced by the teacher but will quickly move to topics introduced by different students each week. The students introducing the topics are expected to summarize the discussion. We will have more practice with topics introduced by the teacher before the second round of student topics. The students introducing the topics are expected to summarize the discussion.	1. Class introduction 2. Discussion skills 1 3. Discussion skills 2 4. Discussion skills 3 5. Student Topics Round 1 6. Student Topics Round 1 7. Student Topics Round 1 8. Common problems 9. Exchanging articles and discussion 10. Exchanging articles and discussion 11. Problem solving 12. Student Topics Round 2 13. Student Topics Round 2 14. Student Topics Round 2 15. Wrap up

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview assigned materials before class and complete tasks assigned by the instructor
テキスト	All materials will be provided by the instructor.
参考文献	
評価方法	In class participation 40%; Individual topics 40%; assignments 20%

09 年度以降	Discussion	担当者	E．J．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is for students with ideas and a desire to discuss them in English. Students will learn target discussion skills and then practice them in groups. There is a strict English only policy as in the future students will need to interact in situations in which the only common language is English. The course will begin with topics introduced by the teacher but will quickly move to topics introduced by different students in the first round of student topics. The students introducing the topics are expected to summarize the discussion. We will have more practice with topics introduced by the teacher before the second round of student topics. The students introducing the topics are expected to summarize the discussion.	1. Class introduction 2. Discussion skills 1 3. Discussion skills 2 4. Discussion skills 3 5. Student Topics Round 1 6. Student Topics Round 1 7. Student Topics Round 1 8. Common problems 9. Exchanging articles and discussion 10. Exchanging articles and discussion 11. Problem solving 12. Student Topics Round 2 13. Student Topics Round 2 14. Student Topics Round 2 15. Wrap up

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview assigned materials before class and complete tasks assigned by the instructor
テキスト	All materials will be provided by the instructor.
参考文献	
評価方法	In class participation 40%; Individual topics 40%; assignments 20%

09 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	1. Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 2. Discussion, listening Topic # 2 3. Discussion, listening Topic # 3 4. Discussion, listening Topic # 4 5. Discussion, listening Topic # 5 6. Discussion, listening Topic # 6 7. Discussion, listening Topic # 7 8. Library research project task 1 9. Discussion, listening Topic # 8 10. Discussion, listening Topic # 9 11. Discussion, listening Topic # 10 12. Discussion, listening Topic # 11 13. Discussion, listening Topic # 12 14. Discussion, listening Topic # 13 15. Library research project task 2

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the internet.
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%

09 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	1. Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 2. Discussion, listening Topic # 2 3. Discussion, listening Topic # 3 4. Discussion, listening Topic # 4 5. Discussion, listening Topic # 5 6. Discussion, listening Topic # 6 7. Discussion, listening Topic # 7 8. Library research project task 1 9. Discussion, listening Topic # 8 10. Discussion, listening Topic # 9 11. Discussion, listening Topic # 10 12. Discussion, listening Topic # 11 13. Discussion, listening Topic # 12 14. Discussion, listening Topic # 13 15. Library research project task 2

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the internet
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.	1. Introduction: Public speaking, why where when. It's not conversation. 2. What listeners need. What speakers do. 3. Topic: Explain a future plan. Ideas, research, homework! 4. Write and edit 5. Decide how to do it, "props", visuals, practice 6. Presentations, evaluation, feedback. 7. Topic： teaching people how to do something. Ideas, research, homework! 8. (as Week 4) 9. (as Week 5) 10. Presentations, evaluation, feedback. 11. Topic: making a persuasive argument. Ideas, research, homework! 12. (as Week 4) 13. (as Week 5) 14. Presentations, evaluation, feedback. 15. Presentations, evaluation, feedback.

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations.
テキスト	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.
参考文献	
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.	1. Introduction: Public speaking, why where when. It's not conversation. 2. What listeners need. What speakers do. 3. Topic: Explain a future plan. Ideas, research, homework! 4. Write and edit 5. Decide how to do it, "props", visuals, practice 6. Presentations, evaluation, feedback. 7. Topic： teaching people how to do something. Ideas, research, homework! 8. (as Week 4) 9. (as Week 5) 10. Presentations, evaluation, feedback. 11. Topic: making a persuasive argument. Ideas, research, homework! 12. (as Week 4) 13. (as Week 5) 14. Presentations, evaluation, feedback. 15. Presentations, evaluation, feedback.

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations.
テキスト	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.
参考文献	
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	J．N．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Speeches This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches. Students will then give their own speeches, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective speeches—examples and discussion 12-14 Student speeches 15 Reflection and summary

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to conduct background research. (4 hours homework each week.)
テキスト	Reading materials will be distributed in class.
参考文献	Distributed in class.
評価方法	Speech preparation and speech delivery = 60%. Participation = 40%

09 年度以降	Public Speaking II	担当者	J．N．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Poster Presentation & Presentation This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of several presentations. Students will then give their own poster presentations and presentations. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1. Effective Public Speaking: skills & strategies 2. Effective Public Speaking: skills & strategies 3. Poster presentations--orientation 4. Poster presentations--analysis 5. Poster presentations--preparation 6. Poster presentations--preparation 7. Poster presentations 8. Individual presentations--orientation 9. Individual presentations--anaylsis 10. Individual presentations--preparation 11. Individual presentations--preparation 12. Individual presentations 13. Individual presentations 14. Individual presentations 15. Reflection and summary

到達目標	様々な形態や状況を想定して、「Public Speaking I」より高いレベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to conduct background research. (4 hours homework each week.)
テキスト	Reading materials will be distributed in class.
参考文献	Distributed in class.
評価方法	Presentation preparation and presentation delivery = 60%. Participation = 40%

09 年度以降	Debate I	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This class is designed with two goals in mind 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues, and 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations

到達目標	討論という状況で、リサーチを基にして、中級レベルの英語で思考し、討論できるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for the debates, conduct research, and complete notebook requirement.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Debate II	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a continuation of Debate I, but will address topics of greater domestic & world importance. It is designed with two goals in mind 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues, and 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations

到達目標	「Debate I 」より高いレベルで、討論という状況で、リサーチを基にして、英語で思考し討論できるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for the debates, conduct research, and complete notebook requirement.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
Japanese Art History This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school（土佐派） 6. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 7. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 8. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 9. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school（文人画・南画） 11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 14. Museum Exhibition Trip 15. Review and Final Assessment

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト	Lecture outlines and supplementary reading materials will be provided by the instructor.
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
Japanese Art History This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school（土佐派） 6. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 7. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 8. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 9. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school（文人画・南画） 11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 14. Museum Exhibition Trip 15. Review and Final Assessment

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト	Lecture outlines and supplementary reading materials will be provided by the instructor.
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
（Understanding International Relations） As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations. As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester.　In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations (1) 5. Theories of International Relations (2) 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination/ The Cold War: A Brief Introduction 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: The 1980s 14. The Cold War: How it ended 15. Course Review

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (40%), and final examination (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
（Understanding International Relations） As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations. As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester.　In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations (1) 5. Theories of International Relations (2) 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination/ The Cold War: A Brief Introduction 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: The 1980s 14. The Cold War: How it ended 15. Course Review

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (40%), and final examination (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水３）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化としてNetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. 『楽曲未定』英語の音変化 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト・録音② 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水３）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化としてNetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. 『楽曲未定』英語の音変化 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト・録音② 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水５）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化としてNetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. 『楽曲未定』英語の音変化 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト・録音② 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水５）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化としてNetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. 『楽曲未定』英語の音変化 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト・録音② 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	英語の音声	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
音声コミュニケーションを考えたときに，音声がどのように作られ，伝わり，聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では，英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について，その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて，英語音声をよりよく理解し，実践できるようになることを目指す。また，音声や言語の様々な面について触れることにより，ことばの知の面白さを紹介し，これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。 ＜メッセージ＞ ・貴方の英語，「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら，音声はそれを運ぶ器のようなもの。 音声について，一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」，「なぜ言えない，聞き取れない?」等，初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声は教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ，この先ずっと知らない「音声」について，今! この機会に学んでほしい。 ・初回(4/10 火４限)から参加してください。特にゼミ検討者,履修を!	1. Lingua Francaとしての英語，学習者/指導者として 2. セグメントとプロソディ、音声が運ぶ情報 3. 第2章　音声算出のメカニズム 4. 第4章　英語の母音（1）　基本母音、母音の分類 5. 　　英語の母音（2）　日本語との比較 6. 第5章　英語の子音（1）　子音の分類 7. 　　英語の子音（2）　日本語との比較 8. 第3章　音素と異音　　日本語の干渉 9. 第6章　音節　　音節構造と強勢と母音 10. 第7章　語強勢　　強勢と母音、第二強勢 11. 　　リズム　　フット、弱化と圧縮 12. 第8章　音縮小、第9章　同時調音 13. 第10章　イントネーション（1）音調核 14. 　　イントネーション（2）意味/文法/意図との関係 15. 音声教育、その他の応用

到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	英語音声学の基礎を学習し，練習する。知識習得には積み重ね学習が重要となる。学生は事前または事後にテキストの指定部分を読み，練習問題などの課題をやってくることが必須となる。
テキスト	佐藤寧・佐藤努（1997）『現代の英語音声学』　金星堂
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・参加）：約 15%，クイズ・課題：約 15%，試験：約 70%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる

13 年度以降	英語の音声	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
音声コミュニケーションを考えたときに，音声がどのように作られ，伝わり，聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では，英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について，その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて，英語音声をよりよく理解し，実践できるようになることを目指す。また，音声や言語の様々な面について触れることにより，ことばの知の面白さを紹介し，これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。 ＜メッセージ＞ ・貴方の英語，「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら，音声はそれを運ぶ器のようなもの。 音声について，一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」，「なぜ言えない，聞き取れない?」等，初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声は教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ，この先ずっと知らない「音声」について，今! この機会に学んでほしい。 ・初回(9/25 火４限)から参加してください。特にゼミ検討者,履修を!	1. Lingua Francaとしての英語，学習者/指導者として 2. セグメントとプロソディ、音声が運ぶ情報 3. 第2章　音声算出のメカニズム 4. 第4章　英語の母音（1）　基本母音、母音の分類 5. 　　英語の母音（2）　日本語との比較 6. 第5章　英語の子音（1）　子音の分類 7. 　　英語の子音（2）　日本語との比較 8. 第3章　音素と異音　　日本語の干渉 9. 第6章　音節　　音節構造と強勢と母音 10. 第7章　語強勢　　強勢と母音、第二強勢 11. 　　リズム　　フット、弱化と圧縮 12. 第8章　音縮小、第9章　同時調音 13. 第10章　イントネーション（1）音調核 14. 　　イントネーション（2）意味/文法/意図との関係 15. 音声教育、その他の応用

到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	英語音声学の基礎を学習し，練習する。知識習得には積み重ね学習が重要となる。学生は事前または事後にテキストの指定部分を読み，練習問題などの課題をやってくることが必須となる。
テキスト	佐藤寧・佐藤努（1997）『現代の英語音声学』　金星堂
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・参加）：約 15%，クイズ・課題：約 15%，試験：約 70%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。

09 年度以降	通訳 I （水 1）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： テキストの題材に基づきながら世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習を通して通訳の基礎技術を習得します。幅広い分野の教材から語彙力強化と英文理解力の向上を目指します。多様な題材を通じて英日両言語で情報収集を行い、効率的なリサーチ方法も獲得していきます。教養を深めることを主眼とし、自立した学習者になることを目標とします。語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。 準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 春学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［春夏］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （水 1）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、テキストの題材に応じて精度のより高い英日・日英通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。春学期同様、効率的なリサーチ方法の習得も目指すと同時に学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［秋冬］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳Ｉ（水２）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： テキストの題材に基づきながら世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習を通して通訳の基礎技術を習得します。幅広い分野の教材から語彙力強化と英文理解力の向上を目指します。多様な題材を通じて英日両言語で情報収集を行い、効率的なリサーチ方法も獲得していきます。教養を深めることを主眼とし、自立した学習者になることを目標とします。語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。 準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 春学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［春夏］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳Ｉ（水２）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、テキストの題材に応じて精度のより高い英日・日英通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。春学期同様、効率的なリサーチ方法の習得も目指すと同時に学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［秋冬］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （木１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： テキストの題材に基づきながら世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習を通して通訳の基礎技術を習得します。幅広い分野の教材から語彙力強化と英文理解力の向上を目指します。多様な題材を通じて英日両言語で情報収集を行い、効率的なリサーチ方法も獲得していきます。教養を深めることを主眼とし、自立した学習者になることを目標とします。語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。 準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 春学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［春夏］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （木１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、テキストの題材に応じて精度のより高い英日・日英通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。春学期同様、効率的なリサーチ方法の習得も目指すと同時に学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［秋冬］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳Ⅱ	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の応用技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。異文化コミュニケーション力を向上させて教養を深め、自立した学習者になることを目指します。 講義概要： テキストの題材に基づきながら世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習を通して通訳の応用技術を習得し、文化的背景も踏まえた訳出法を学びます。幅広い分野の教材から語彙力強化と英文理解力の向上を目指します。多様な題材を通じて英日両言語で情報収集を行い、効率的なリサーチ方法も獲得していきます。教養を深めることを主眼とし、自立した学習者になることを目標とします。語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 春学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	アルク出版編集部『VOA ニュースフラッシュ 2017 年度版』（アルク、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳Ⅱ	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の応用技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。異文化コミュニケーション力を向上させて教養を深め、自立した学習者になることを目指します。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、テキストの題材に応じて効果的なコミュニケーションや文化的背景を踏まえた精度のより高い英日・日英通訳を目指します。語彙力強化のため単語テストを毎回実施します。春学期同様、効率的なリサーチ方法の習得を目指すと同時に学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 21&22 4. News 23&24 5. News 25&26 6. News 27&28 7. News 29&30 8. 前半の総括 9. News 31&32 10. News 33&34 11. News 35&36 12. News 37&38 13. News 39&40 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	アルク出版編集部『VOA ニュースフラッシュ 2017 年度版』（アルク、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1　授業内容と評価方法などのガイダンス 2　ビジネス現場に必要とされる英語力 3　ビジネス現場のコミュニケーション 4　マーケットの特性（クイズ１） 5　日本企業の国際依存度 6　アジア市場の重要性 7　ASEAN等の理解（クイズ２） 8　進化する中国のビジネス展望 9　貿易取引の理解 10　サービス産業（映画、アニメ） 11　国際通貨の理解（クイズ３） 12　国際金融と為替の理解 13　TPP、FTAとは 14　まとめ 15　期末テスト

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴
テキスト	テキストは使用せず、DVD を使用
参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	期末テスト 40%、クイズと課題 30%、授業への参加度 30%

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション （水３）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1　授業内容と評価方法などのガイダンス 2　ビジネス現場に必要とされる英語力 3　ビジネス現場のコミュニケーション 4　マーケットの特性（クイズ１） 5　日本企業の国際依存度 6　アジア市場の重要性 7　ASEAN等の理解（クイズ２） 8　進化する中国のビジネス展望 9　貿易取引の理解 10　サービス産業（映画、アニメ） 11　国際通貨の理解（クイズ３） 12　国際金融と為替の理解 13　TPP、FTAとは 14　まとめ 15　期末テスト

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴
テキスト	テキストは使用せず、DVD を使用
参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	期末テスト 40%、クイズと課題 30%、授業への参加度 30%

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水４）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1　授業内容と評価方法などのガイダンス 2　ビジネス現場に必要とされる英語力 3　ビジネス現場のコミュニケーション 4　マーケットの特性（クイズ１） 5　日本企業の国際依存度 6　アジア市場の重要性 7　ASEAN等の理解（クイズ２） 8　進化する中国のビジネス展望 9　貿易取引の理解 10　サービス産業（映画、アニメ） 11　国際通貨の理解　（クイズ３） 12　国際金融と為替の理解 13　TPP、FTAとは 14　まとめ 15　期末テスト

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴
テキスト	テキストは使用せず、DVD を使用
参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	期末テスト 40%、クイズと課題 30%、授業への参加度 30%

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション （水４）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1　授業内容と評価方法などのガイダンス 2　ビジネス現場に必要とされる英語力 3　ビジネス現場のコミュニケーション 4　マーケットの特性（クイズ１） 5　日本企業の国際依存度 6　アジア市場の重要性 7　ASEAN等の理解（クイズ２） 8　進化する中国のビジネス展望 9　貿易取引の理解 10　サービス産業（映画、アニメ） 11　国際通貨の理解　（クイズ３） 12　国際金融と為替の理解 13　TPP、FTAとは 14　まとめ 15　期末テスト

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴
テキスト	テキストは使用せず、DVD を使用
参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	期末テスト 40%、クイズと課題 30%、授業への参加度 30%

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木１）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。 具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ビジネスレターの形式＆練習問題 3. 効果的なビジネスレターの書き方(1)＆練習問題 4. 効果的なビジネスレターの書き方(2)＆練習問題 5. 取引の申込み＆練習問題 6. 取引申込みに対する応答＆練習問題 7. 引合い（具体的な問い合わせ）＆練習問題 8. 中間試験、復習 9. オファー（売手からの申込み）＆練習問題 10. オファーに対する応答＆練習問題 11. 信用状＆練習問題 12. 積出し＆練習問題 13. クレーム＆練習問題 14. クレームに対する応答＆練習問題 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木１）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。 具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ビジネスレターの形式＆練習問題 3. 効果的なビジネスレターの書き方(1)＆練習問題 4. 効果的なビジネスレターの書き方(2)＆練習問題 5. 取引の申込み＆練習問題 6. 取引申込みに対する応答＆練習問題 7. 引合い（具体的な問い合わせ）＆練習問題 8. 中間試験、復習 9. オファー（売手からの申込み）＆練習問題 10. オファーに対する応答＆練習問題 11. 信用状＆練習問題 12. 積出し＆練習問題 13. クレーム＆練習問題 14. クレームに対する応答＆練習問題 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木２）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心に、ビジネス英語に馴染のない学生に英文Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的には、テキストに沿ってPart1「大手旅行会社の世界支店長会議を想定した社内連絡メールの作成」、Part2「食料品専門商社とアメリカのワインメーカーとの商取引を想定した社外向けメールの作成」、Part3「大手製造業の国際展示会出展の準備を想定した社内外向けメールの作成」を１年を通して習得しますが、春期はそのうちPart1とPart2の前半を学びます。 また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. (Part1) ビジネス英文メールの形式 3. 世界主要支社長会議開催のお知らせ＆練習問題 4. 世界主要支社長会議への出席通知＆練習問題 5. 販売本部長の営業報告＆練習問題 6. 宣伝部長報告＆練習問題 7. 企画部長報告＆練習問題 8. 中間試験、復習 9. 議事録送付 10. (Part2) カリフォルニアワイン見本輸入＆練習問題 11. 見本商品の発送通知＆練習問題 12. 引き合い＆練習問題 13. オファー＆練習問題 14. カウンター・オファー＆練習問題 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。欠席は原則 5 回まで。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木２）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心に、ビジネス英語に馴染のない学生に英文Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的には、テキストに沿ってPart1「大手旅行会社の世界支店長会議を想定した社内連絡メールの作成」、Part2「食料品専門商社とアメリカのワインメーカーとの商取引を想定した社外向けメールの作成」、Part3「大手製造業の国際展示会出展の準備を想定した社内外向けメールの作成」を１年を通して習得しますが、秋期は春期に引き続きPart2の後半とPart3を学びます。 また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. カウンター・オファー受託通知＆練習問題 3. 信用状開設準備＆練習問題 4. 船積通知＆練習問題 5. クレーム＆練習問題 6. クレームの解決＆練習問題 7. (Part3) 国際展示会及び営業会議招待＆練習問題 8. 中間試験、復習 9. 国際展示会及び営業会議への出席通知＆練習問題 10. 営業会議出席者の宿泊等の申し込み＆練習問題 11. 有力販売店主の工場視察＆練習問題 12. ホテルへの苦情＆練習問題 13. 顧客のホテル苦情への返信＆練習問題 14. 有力販売店主の工場長宛礼状練習問題 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回まで。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（春学期は Unit1~12）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	１．春学期の授業内容と授業計画の説明 ２．ビジネス・コミュニケーションの概念、目的等 ３．Unit1（市況） ４．Unit2（取引先の発見） ５．Unit3（取引の申込み） ６．Unit4（信用照会） ７．Unit5（引合い） ８．Unit6（引合いに対する返信） ９．Unit7（オファー） 10．Unit8（カウンター・オファー） 11．Unit9（注文） 12．Unit10（注文の受諾） 13．Unit11（注文の謝絶） 14．Unit12（成約） 15．春学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。
テキスト	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（四訂版)』(三恵社、2016 年)
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（秋学期は Unit13~21）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	１．秋学期の授業内容と授業計画の説明 ２．ビジネス・コミュニケーションの概念、目的等 ３．Unit13（信用状の開設と訂正） ４．Unit14（海上保険） ５．Unit15（輸出手配） ６．Unit16（船積み） ７．Unit17（決済） ８．Unit18（輸入手配） ９．Unit19（クレーム） 10．Unit20（クレーム調整） 11．Unit21の1（会社社交文①：推薦状） 12．Unit21の2（会社社交文②：案内状） 13．Unit21の3（会社社交文③：礼状） 14．Unit21の4（会社社交文④：見舞い状） 15．秋学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。
テキスト	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（四訂版)』(三恵社、2016 年)
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、モノ（貨物）・カネ（決済資金）・カミ（情報）の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「カミ」、すなわち貿易関係書類および関連する英語のビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。 春学期は、契約書等の法律文書に用いられる英語の特徴（法文体、legalese）についての基礎知識を学習した後、レター・オブ・インテント、スポット売買契約書、長期売買契約書などのサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点等、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、仕上げにそれらの書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。また、英語圏（特に米国）のPlain English Actに適合した英文取扱説明書（マニュアル）を作成する方法も検討します。	1. 春学期の授業内容と授業計画の説明 2. 法律英語の文体の特徴 3. レター・オブ・インテントのサンプル検討 4. レター・オブ・インテントの作成演習（1回目） 5. レター・オブ・インテントの作成演習（2回目） 6. スポット売買契約書のサンプル検討（タイプ条項） 7. スポット売買契約書のサンプル検討（裏面約款） 8. スポット売買契約書のサンプル検討（書式の戦い） 9. 長期売買契約書のサンプル検討（実質条項） 10. 長期売買契約書のサンプル検討（一般条項） 11. 長期売買契約書のサンプル検討（定義条項ほか） 12. “Plain English Act”の趣旨と具体的内容 13. 英文取扱説明書作成上の注意点 14. 英文取扱説明書の作成演習 15. 春学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、モノ（貨物）・カネ（決済資金）・カミ（情報）の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「カミ」、すなわち貿易関係書類および関連する英語のビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。 秋学期は、貿易取引の履行および決済の段階に登場する代表的な書類として、商業送り状、船荷証券、保険証券、原産地証明書等の船積書類（Shipping Documents; S/D）、為替手形（draft）、信用状（letter of credit; L/C）などを学びます。また、基本的な通関実務の演習も行い、実際に輸出申告書と輸入（納税）申告書を作成する機会ももうけます。 なお、右記の授業計画は、春学期、秋学期ともに、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 秋学期の授業内容と授業計画の説明 2. 各種の船積書類の意義と目的 3. 商業送り状と包装明細書のサンプル検討 4. 商業送り状と包装明細書の作成演習 5. 船荷証券のサンプル検討 6. 船荷証券の読解演習 7. 保険証券のサンプル検討 8. 保険証券の読解演習 9. 原産地規則の概要と原産地証明書のサンプル検討 10. 輸出通関と輸入通関の基礎知識 11. 輸出申告書のサンプル検討と作成演習 12. 輸入（納税）申告書のサンプル検討と作成演習 13. 荷為替信用状による決済の仕組みの概要 14. 荷為替信用状のサンプル検討とディスクレの対処法 15. 秋学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。 具体的には、春学期は、貿易の基本概念に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に６つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティングの段階、取引関係創設の段階、成約段階）に属するテーマを詳しく学習します。 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 春学期の授業内容および授業計画の説明 2. 貿易の基本概念(1)：貿易の意義、貿易の主体など 3. 貿易の基本概念(2)：貿易実務の遂行手順の概観 4. 貿易の基本概念(3)：種々の貿易形態、貿易関係機関 5. 貿易の基本概念(4)：貿易管理制度、関係法令など 6. 貿易マーケティングの段階(1)：海外市場調査 7. 貿易マーケティングの段階(2)：販売戦略調査 8. 取引関係創設の段階(1)：取引先選定と引合い 9. 取引関係創設の段階(2)：信用照会 10. 成約段階(1)：　一般取引条件の取り決め 11. 成約段階(2)：　オファーと承諾、注文と受注 12. 成約段階(3)：　品質と数量に関する条件 13. 成約段階(4)：　価格と決済に関する条件 14. 成約段階(5)：　船積みと保険に関する条件 15. 春学期の授業の総復習および質疑応答

到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するように努めて下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。 具体的には、秋学期は、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に６つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）に属するテーマを詳しく学習します。 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更あるかもしれません。	1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. 履行段階(1)：”Incoterms® 2010”の各貿易条件の概観 3. 履行段階(2)：外為法に基づく輸出許可と輸出承認 4. 履行段階(3)：輸出通関手続き 5. 履行段階(4)：海上運送に関する実務知識と手続き 6. 履行段階(5)：航空運送に関する実務知識と手続き 7. 履行段階(6)：複合運送に関する実務知識と手続き 8. 履行段階(7)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き 9. 履行段階(8)：輸出 PL 保険に関する実務知識と手続き 10. 履行段階(9)：各種運送書類 11. 履行段階(10)：為替リスクの種々の回避法 12. 決済段階(1)：荷為替信用状による決済の仕組み 13. 決済段階(2)：信用状によらない決済の仕組み 14. クレームおよびクレーム調整の段階：クレームの種類、クレームの予防、クレームの解決法など 15. 秋学期の授業の総復習および質疑応答

到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するように努めて下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE or a movie. Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
参考文献	
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE or a movie. Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
参考文献	
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	A．ジェネス

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to develop critical thinking skills by giving students a chance to study issues related to the media, as they might experience in a media studies course in an English speaking country. Articles discussing themes such as freedom of speech, censorship, advertising, social media, and privacy will be presented, and students will be taught a framework to critically analyze these articles. In addition, students will be expected to research current news topics related to each of these themes, and present them in class. At the end of the course, students will take on the role of investigative journalists in a critical thinking case study.	1. Course introduction 2. Theme 1: Free speech (article analysis) 3. Theme 1: Free speech (research presentations) 4. Theme 2: Privacy (article analysis) 5. Theme 2: Privacy (research presentations) 6. Theme 3: Censorship (article analysis) 7. Theme 3: Censorship (research presentations) 8. Theme 4: Social media (article analysis) 9. Theme 4: Social media (research presentations) 10. Theme 5: Advertising (article analysis) 11. Theme 5: Advertising (research presentations) 12. Critical Thinking Case Study 13. Critical Thinking Case Study 14. Critical Thinking Case Study 15. Final Class (Presentations)

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to read articles before attending class, research and present contemporary news topics, and write a final report.
テキスト	All materials will be provided in class.
参考文献	Provided in class
評価方法	Quizzes 20%, Research presentations 40%, Critical thinking case study & final report 40%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、BBCニュースや*The Guardian*、*The New York Times*から厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	1. オリエンテーション 2. Japan-Themed *Vogue* Shoot 3. Pet Animals Act 4. A Chip under the Skin 5. Using SNS to Relieve Eating Disorders 6. Blurring Gender Lines in Japan 7. English for Muslim Women Immigrants 8. Aging Population 9. AI 10. Paternity Leave 11. Gay Marriage 12. Child Soldiers 13. Home-Schooling 14. Anti-tourism 15. Whaling

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト	初回の授業にて指示する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は、私たちの日々の生活に直接関わる諸問題を、様々な「メディア」を介して検討していきます。今学期では、「テロ」「食」「金融」「エネルギー問題」が主な議題となります。また、２つの国（スイス、南アフリカ）の歴史等、背景知識を学んだ上で、今後日本との関係を検証していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 ＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す （極端な考えに偏らないようにするため） ＊↑をもとに、自分の考えを創りだす ＊自分の考えを他人に正確に伝える ＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 （議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。） ＊行動を起こす それでは、熱意ある方、お待ちしております！	1.　講義の概要 2.　履修決定の学生との確認、グループ作り＆担当箇所決定 3.　9.11：なぜ「歴史的事件」となったのか？ 4-5.　再生可能エネルギーの可能性 6-7.　大企業化①：食品業界 8-9.　大企業化②：金融業界 10-11.　スイス：「平和」とは何か？ 12-13.　南アフリカ：「共存」への道 14.　メディアとの付き合い方を考える 15.　春学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士で議論し、意見を発表していただくこともあります。 **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。** **必ず参加してくださいね。**

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい ＊事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。
テキスト	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）６０％、授業内での発表 ＆ 発言４０％　＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります**

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、「日本」をテーマに授業を進めていきます。主に英語圏の「メディア」からの検証となりますが、海外ではどのように日本の出来事が報道されているのかを学んでいきます。特定の意見のみに偏らないよう、様々な立場からの資料を、学生の皆様と共に出来る限り集め、あらゆる角度から問題を考察していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 ＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す （極端な考えに偏らないようにするため） ＊↑をもとに、自分の考えを創りだす ＊自分の考えを他人に正確に伝える ＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 （議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。） ＊行動を起こす	1. 講義の概要 2. 履修決定の学生との確認、グループ作り＆担当箇所決定 3-4.　3.11：海外ではどう報道されたか？日本との比較 5-6.　日本のアニメと漫画 7-8.　靖国問題 9-10.　国の借金：本当に深刻なのか？ 11.　海外での和食の評価 12-13.　沖縄の歴史 14.　これから日本はどう世界と関わっていくのか？ 15.　秋学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士で議論し、意見を発表していただくこともあります。 **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。** **必ず参加してくださいね！**

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい ＊事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。
テキスト	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）６０％、授業内での発表 ＆ 発言４０％　＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります**

09年度以降	メディア英語Ⅰ	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、Reading力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。 期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ツーリズムに関する英文記事の読解 ① 3. ツーリズムに関する英文記事の読解 ② 4. ツーリズムに関する英文記事の読解 ③ 5. ツーリズムに関する英文記事の読解 ④ 6. ツーリズムに関する英文記事の読解 ⑤ 7. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」Ⅰ 8. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」Ⅱ 9. 航空産業に関する英文記事の読解 ① 10. 航空産業に関する英文記事の読解 ② 11. 航空産業に関する英文記事の読解 ③ 12. 航空産業に関する英文記事の読解 ④ 13. 演習「LCCで行く海外旅行企画」Ⅰ 14. 演習「LCCで行く海外旅行企画」Ⅱ 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習してください。また、2回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしてください。
テキスト	プリントを使用
参考文献	都度、紹介
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則５回まで。

09年度以降	メディア英語Ⅰ	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、Reading力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。 期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ツーリズムに関する英文記事の読解 ① 3. ツーリズムに関する英文記事の読解 ② 4. ツーリズムに関する英文記事の読解 ③ 5. ツーリズムに関する英文記事の読解 ④ 6. ツーリズムに関する英文記事の読解 ⑤ 7. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」Ⅰ 8. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」Ⅱ 9. 航空産業に関する英文記事の読解 ① 10. 航空産業に関する英文記事の読解 ② 11. 航空産業に関する英文記事の読解 ③ 12. 航空産業に関する英文記事の読解 ④ 13. 演習「LCCで行く海外旅行企画」Ⅰ 14. 演習「LCCで行く海外旅行企画」Ⅱ 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習してください。また、2回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしてください。
テキスト	プリントを使用
参考文献	都度、紹介
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則５回まで。

09 年度以降	メディア英語 I （金１）	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　４回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語 I （金１）	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation ※　同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　４回以上の欠席は単位取得を困難にする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	メディア英語Ｉ（金２）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation ※ 同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後 学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　４回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
参考文献	
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
参考文献	
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、毎週、*The New York Times*から最新のニュース記事を読む。 トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	第１回 オリエンテーション 第2回 担当の分担 第3回～第14回 2回めの授業にて指示する。 第15回 まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト	初回の授業にて指示する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

09 年度以降	メディア英語Ⅱ（金２）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
イギリスの公共放送ＢＢＣのニュース映像を教材化した教科書を使って、テレビニュースで使われている生きた英語を学ぶ。毎回、予習をして来たことを確認するための単語テストを行い、その平均点で成績を付ける。主にリスニング力および語彙力の養成を目指す。授業はテキストに従って進める。原則、毎回１章ずつ扱う。不足する１回分については課題を課す。受講生は下記の３点を守ること。15回目の内容については課題を課す。 １．必ず初回の授業に出席すること。 ２．毎回、予習をして来ること。 ３．内職はしないこと。	第1回　オリエンテーション 第2回　ヘイスティングズの戦い 第3回　教室で靴を脱いだら学力向上？ 第4回　女性が活躍する「ヴィンテージDJ」とは？ 第5回　横断歩道をストリート・アートに 第6回　職場でのハイヒール強要に反対運動 第7回　教育現場で「コミュニティ言語」の需要が急増中 第8回　ヴァーチャル・リアリティで対人恐怖症を治療 第9回　養殖サーモンの健康効果は？ 第10回　DNAで社員のルーツを探る 第11回　格差社会がもたらす子供たちの未来への影響 第12回　EU離脱でロンドン市長が懸念を表明 第13回　EU離脱後のイギリス企業の展望は？ 第14回　国民的飲料にも価格上昇の波？ 第15回　イギリス最優秀建築賞の行方は？

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語を調べ、問題をやっておく。事後に映像を繰り返し映像を観て、音読練習をする。
テキスト	『映像で学ぶイギリス公共放送の英語５』　金星堂　２０１８年
参考文献	特になし
評価方法	小テストの平均　９０％　課題　１０％

09 年度以降	シネマ英語	担当者	A．ジェネス

講義目的、講義概要	授業計画
The aim is to give students a course in “film and and American culture”, as they might experience at a university in an English speaking country. The course examines 20th century American culture and society through film. Time will be spent in class watching and critically analyzing films, as a window onto American culture and society. We will cover two themes over the semester: “the American Dream” and “ethnicity and racial identity in the United States”, and watch films from a variety of genres in relation to these themes. Films will be show in class in English without subtitles. The films provided on the schedule are a tentative list and may be changed during the course.	1. Course introduction 2. Theme 1: American dream (An American Tail) 3. Theme 1: American dream (Rain Man) 4. Theme 1: American dream (They live) 5. Theme 1: American dream (American Beauty) 6. Theme 1: American dream (American Beauty) 7. Theme 1: American dream (American Beauty) 8. Theme 2: Racial identity (The Birth of a Nation) 9. Theme 2: Racial identity (Malcolm X) 10. Theme 2: Racial identity (Hairspray) 11. Theme 2: Racial identity (Far from heaven) 12. Theme 2: Racial identity (Do the right thing) 13. Theme 2: Racial identity (Do the right thing) 14. Theme 2: Racial identity (Do the right thing) 15. Final Class: course review

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to make a presentation about a film of their choice. There will be readings assigned and students need to write film reviews and reports for films shown in class.
テキスト	All materials will be provided in class.
参考文献	Provided in class
評価方法	Presentation 20%, Film reviews (x2) 20% Reports (x2) 40%, Class participation 20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	シネマ英語（火３）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。 火曜日３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。 重複受講はできません。	第１回　ガイダンス　サイレントからトーキーへ 第２回　ミュージカル映画について 第３回　映画に見られるテーマと表現分析その１ 第４回　テーマと表現分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テストと発表テーマ確認 第８～１０回　学生プレゼンテーションの内容確認 第１１～１４回　プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト	プリント配布
参考文献	
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火３）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。 火曜３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。 重複受講はできません。	第１回　ガイダンス 第２回　映画に描かれる日本人について 第３回　映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現　分析その１ 第４回　テーマと表現　分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現　分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現　分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テスト　プレゼンテーションのテーマ チェック 第８～１０回　プレゼンテーション内容チェック 第１１～１４回　学生プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト	プリント配布
参考文献	
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火４）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。 火曜日３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。 重複受講はできません。	第１回　ガイダンス　サイレントからトーキーへ 第２回　ミュージカル映画について 第３回　映画に見られるテーマと表現分析その１ 第４回　テーマと表現分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テストと発表テーマ確認 第８～１０回　学生プレゼンテーションの内容確認 第１１～１４回　プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト	プリント配布
参考文献	
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火４）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。 火曜３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。 重複受講はできません。	第１回　ガイダンス 第２回　映画に描かれる日本人について 第３回　映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現　分析その１ 第４回　テーマと表現　分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現　分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現　分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テスト　プレゼンテーションのテーマ チェック 第８～１０回　プレゼンテーション内容チェック 第１１～１４回　学生プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト	プリント配布
参考文献	
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期では、様々なジャンルの映画（「ＳＦ」「ミュージカル」「歴史」「生死」）を取り上げます。テーマは取り扱う映画によって異なりますが、授業では映画を丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。 １回の授業で１本の映画を分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士で議論し、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画を観ます。時間の関係上、授業内で映画１本をノーカットで鑑賞するのは難しく、（断腸の思いで）割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思います。 前に春学期のこの授業を受講して下さった学生の方は、申し訳ありませんが、以前取り上げた映画と数多く重複しておりますので、受講をご遠慮して頂くようお願いいたします。	1. 講義の概要 2. 『*GHOST IN THE SHELL/* 攻殻機動隊』(1995) 3. *The Matrix* (1999)：他メディアからの影響も検証する 4. *Star Wars IV*(1977)：神話学者曰く「現代の神話」 5. *Gattaca* (1997)：自然出産者 vs デザイナーベイビー 6. *Slumdog Millionaire* (2008)：インドの現実？ 7. *Invictus* (2009): 南アフリカでのスポーツと政治 8. *Ten Commandments* (1956)：十戒を学んでみよう 9. *The Truman Show* (1998)：メディアに操られる世界 10. *Chicago* (2002)：殺人事件も娯楽になる？ 11. *Moulin Rouge!* (2001)：ラブソングの変遷を追う 12. *Hedwig and the Angry Inch* (2002)：不完全な私を受け入れるまで 13. *Dead Poet Society* (1989)：「いまを生きる」とは？ 14. 議論の時間 15. 春学期授業のまとめ

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。 ＊事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。
テキスト	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）７０％、授業の参加度３０％　＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	シネマ英語	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では名優たちの映画&ドラマを取り上げます。授業では映画&ドラマを丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。 １回の授業で１本の映画&ドラマを分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画&ドラマを観ます。時間の関係上、授業内で映画１本をノーカットで鑑賞するのは難しく、（断腸の思いで）割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思います。 前に秋学期のこの授業を受講して下さった学生の方は、申し訳ありませんが、以前取り上げた映画と数多く重複しておりますので、受講をご遠慮して頂くようお願いいたします。	1. 講義の概要 2. 履修決定の学生との確認、講義＆ディスカッション 3. *Rain Man* (1988): Dustin Hoffman, Tom Cruise 4. *Blade Runner* (1982): Harrison Ford 5. *Indiana Jones and the Last Crusade* (1989): Harrison Ford 6. *One Flew Over the Cuckoo's Nest* (1975): Jack Nicholson 7. *The Devil Wears Prada* (2006): Meryl Streep *8. Patch Adams* (1998): Robin Williams 9. *Roman Holiday* (1953): Audrey Hepburn 10. *The Shawshank Redemption* (1994): Morgan Freeman 11. *The Great Dictator* (1940): Charlie Chaplin 12. *Good Will Hunting* (1997): Matt Damon, Robin Williams 13. *Friends* (1994-2004): Jennifer Aniston, etc. 14. *The Big Bang Theory* (2007-) 15. 秋学期授業のまとめ

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。 ＊事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。
テキスト	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）７０％、授業の参加度３０％　＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	ツーリズム交流論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムによる国際的な人間の流動は、経済・社会・文化の幅広い領域に関る複合的な現象である。本講義では、ツーリズム全般に関る基礎的な事象や概念を学び、個別のツーリズム関連産業や観光地について理解するために必要な知識や視座を習得する。 講義では、まずツーリズムに関る基礎的な用語や概念について解説し、次に現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて概説する。その上で、ツーリズムが地域社会に与える経済的、社会的・文化的影響について学ぶ。ゲストスピーカーによる授業を行うこともある。	1、ガイダンス：なぜツーリズムを学ぶのか？ 2、ツーリズムとは何か：諸概念の整理 3、ツーリズムの歴史 4、ツーリズムを支える諸産業① 5、ツーリズムを支える諸産業② 6、ツーリズムと情報／メディア 7、ツーリストのまなざし論 8、ツーリストと観光行動 9、ツーリズムとオーセンティシティ 10、ツーリズムの経済効果 11、ツーリズムの社会的文化的インパクト① 12、ツーリズムの社会的文化的インパクト② 13、観光地計画と観光政策① 14、観光地計画と観光政策② 15、まとめ

到達目標	国際収支改善、雇用促進、地域開発等の経済的側面のみならず社会、文化、教育、環境、国際親善など非常に広範囲な分野に強い影響力を及ぼすツーリズム交流について専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内の指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	前田勇編著『新現代観光総論』学文社　岡本伸之編『観光学入門』有斐閣
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20%　期末試験 80%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	ツーリズム・リスク論（ディズニー映画）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
W・ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」を鑑賞しながら、世界史に登場した「海賊（パイレーツ）」の正体に迫ります。 毎回の授業では、前半にディズニー映画などを取り上げ、授業の後半で、テキストを参照して、知識を獲得します。 この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊、パイレーツに光をあてます。世界ブランドになったコーヒー、紅茶、スパイスの世界史も触れます。英国初のブランド・ビジネスは、パイレーツと縁が深いのです。	１　ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」 ２　ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」 ３　ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」 ４　英雄としての海賊 ５　　同上 ６　映画「エリザベス」＜パイレーツ女王＞ ７　海洋覇権のゆくえ――パイレーツの役割 ８　スパイス争奪戦―――パイレーツの「東インド会社」 ９　スパイス争奪戦 １０　ディズニー映画「カリブの海賊＜ワールド・エンド＞」 シンガポール、「東インド貿易会社」 １１　コーヒーから「午後の紅茶」へ １２　コーヒーから「午後の紅茶」へ １３　ディズニー映画「カリブの海賊」関連 １４　　同上 １５　まとめ

到達目標	国際開発に関して専門知識を習得し、開発途上国が直面する課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	ツーリズム文化論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。	1、ガイダンス 2、ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3、おみやげとスーベニア 4、観光みやげの近代 5、「民芸品」をめぐるまなざし 6、観光みやげと「ものがたり」 7、観光みやげのギフト性 8、観光みやげと真正性 9、観光みやげの儀礼的倒錯性 10、こけしと木彫り熊 11、旅するマトリョーシカ① 12、旅するマトリョーシカ② 13、民芸品としてのアジアン雑貨 14、アジアン雑貨が創る旅 15、まとめ

到達目標	各国・各地域の文化・歴史を象徴する名所や遺跡、建造物等について専門知識を習得し、ツーリズムと文化・歴史との関係性、およびツーリズム産業について分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20%　期末試験 80%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降 12 年度以前	ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論） ツーリズム・メディア論	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。 「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにづくり（観光立国）」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。 ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。	1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム 15. まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

09年度以降	ツーリズム・マネジメント論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。	1、ガイダンス 2、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 3、ツーリズム商品の特徴②：イメージ消費と身体的行為 4、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 5、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 6、パッケージツアー③：身体化される団体旅行 7、パッケージツアー④：スピリチュアリティの商品化 8、パッケージツアー⑤：商品企画における「知識の管理」 9、空間の管理とテーマ化 10、テーマ化された空間とハイブリッド消費 11、感情労働 12、テーマ化された空間に暮らす 13、生活とツーリズム 14、「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業 15、まとめ

到達目標	ツーリズム・マネジメントの基本であるツーリズム・マーケティングの専門知識を習得し、観光市場調査、観光行動の分析を行い、観光需要予測、商品企画等ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20%　期末試験 80%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	国際会議・イベント事業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　２０２０年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントの歴史、現状などについて学習する。 講義概要： 　オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。	１．　オリエンテーション ２．　イベント・コンベンションについて① ３．　イベント・コンベンションについて② ４．　国際博覧会 ５．　２０２０年東京オリンピック・パラリンピック ６．　障害者スポーツとパラリンピックについて ７．　国際会議・イベントについての「ディスカッション」 ８．　古代オリンピック ９．　ビジネスの視点からのオリンピック① １０．　ビジネスの視点からのオリンピック② １１．　プレゼンテーション：「２０２０年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① １２．　〃　② １３．　〃　③ １４．　〃　④ １５．　まとめ

到達目標	ツーリズム産業の重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて専門知識を習得し、その現状と将来の課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習
テキスト	適宜個別資料を配布する
参考文献	特に指定無し
評価方法	授業での発言、受講姿勢、講義参画７０％、プレゼンテーションとレポート３０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	ツーリズム政策論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。 講義概要： 　ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。	１．オリエンテーション ２．ツーリズムの基本構造（１） ３．ツーリズムの基本構造（２） ４．マーケティングとは何か？ ５．ツーリズム政策とマーケティング理論 ６．ツーリズム政策の変遷 ７．ツーリズム政策における我が国の課題 ８．（ツーリズム政策に関する）ディスカッション ９．世界のツーリズム政策（シンガポール） １０．世界のツーリズム政策（北欧、ドイツ） １１．世界のツーリズム政策（スイス） １２．世界のツーリズム政策（フランス） １３．日本各地のツーリズム政策（地域振興など） １４．ツーリズムとキャリアデザイン １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	観光政策と行政等、観光に関する政府の具体的な施策、および観光行政組織や「観光立国推進基本法」に関する専門知識を習得し、観光政策や観光立国のあり方などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	新聞などメディアを通して、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと
テキスト	適宜個別資料を配布する
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』(丸善プラネット)
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画３０％、最終試験７０％

09 年度以降	航空産業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているＬＣＣ（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 　本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。タイミングが合えば、航空関係者を招聘し特別講演を実施する。	１．オリエンテーション ２．最近の航空産業の動きなど ３．航空産業とキャリアデザイン ４．航空とは何か ５．航空の歴史 ６．ＬＣＣ（低コスト航空会社）が世界を変える ７．航空事業の特性と運賃 ８．米国チャプター１１（連邦破産法第１１章） ９．ＪＡＬの破綻と復活 １０．規制緩和とオープンスカイ政策 １１．航空機製造ビジネス １２．三菱リージョナルジェット（ＭＲＪ）飛翔 １３．空港 １４．国際航空法 １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	国際航空業の仕組みや成り立ち、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れに関する専門知識を習得し、わが国の空港行政の問題点や航空政策の現状と課題、及びLCCやアライアンス等の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習の実施
テキスト	教科書：『最新・航空事業論（第２版)』（２０１６年１２月、日本評論社）
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』(丸善プラネット)
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画３０％、最終試験７０％

09 年度以降	旅行・宿泊産業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など)、航空事業、クルーズ事業のビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 　旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらにオンライン旅行市場について学習する。宿泊産業においては、ホテル、旅館のビジネスの概要及び課題、さらに将来について学習する。航空事業、及び大きく成長しているクルーズ事業においては、最近の動向を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。	１．オリエンテーション ２．旅行産業について（１） ３．オンライン旅行市場 ４．旅行産業について（２） ５．ホテル、旅館等宿泊産業について（１） ６．ホテル、旅館等宿泊産業について（２） ７．ツーリズム産業におけるキャリアデザイン ８．ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） ９．航空事業の最近の動向 １０．クルーズ事業の最近の動向 １１．プレゼンテーション① １２．プレゼンテーション② １３．プレゼンテーション③ １４．プレゼンテーション④ １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業の歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割などについて専門知識を習得し、現状の問題点と将来の課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。
テキスト	適宜個別資料を配布する。
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』(丸善プラネット)
評価方法	受講姿勢、発言、講義参画７０％、プレゼンテーションとレポート３０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降 12 年度以前	地域開発論 市民参加のまちづくり論	担当者	中野　美季

講義目的、講義概要	授業計画
「食と農によるイタリアの地域振興」 食と農を軸に近年のイタリアの地域振興を概観します。農業の持つ多面的機能を活かしたイタリア農村における経営多角化（アグリツーリズモ、教育農場、社会的農業）、スローフード運動、イタリアの地産地消、新たなフードネットワーク等、近年見られる地域性へと向かう動きを考察します。講義の参加者数、進度によりシラバスに記載の内容・順序は変更されます。	１．講義の概要 ２．イタリアの概要 ３．イタリアの地域性 ４．EUとイタリア ５．イタリアの都市と農村 ６．農業の多面的機能１（アグリツーリズモ） ７．農業の多面的機能２（食育と教育農場） ８．農業の多面的機能３（社会的農業） ９．スローフード運動 １０．イタリアの社会的経済 １１．イタリアの地産地消１ １２．イタリアの地産地消２ １３．フードネットワーク１ １４．フードネットワーク２ １５．まとめと試験対策

到達目標	地域開発に関する専門知識を習得し、各国・地域における観光開発のあり方や課題、問題点などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出する
テキスト	定めない
参考文献	適宜紹介する
評価方法	定期試験（50%）、学期中課題（50%）

09 年度以降	ツーリズム人類学	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムが社会にもたらす影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっています。それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。 本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。 具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思います。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。	1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバリゼーションの民族誌1 4. グローバリゼーションの民族誌2 5. 旅と観光 6. ビデオ上映『深夜特急1』 7. 表象の政治学―情報資本主義と観光 8. メディアと観光―「楽園」ハワイの文化史 9. 植民地主義と観光―「神々の島」バリの誕生 10. 文化装置としてのホテル 11. 世界遺産の窮状―カンボジアの事例 12. セックス・ツーリズム―タイの事例 13. エスニック・ツーリズム―タイの事例 14. 先住民文化の商品化と著作権―北欧サーミの事例 15. 「記憶の場」と観光―広島および西アフリカの事例

到達目標	ツーリズム人類学（観光人類学）における主要な問題・関心について専門知識を習得し、実際の観光現象について文化人類学的視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』『観光人類学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト	特に定めない。
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）、『観光人類学』（新曜社）
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	オルタナティブ・ツーリズム論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害(生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等)を克服するために登場した「新しい」観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズム、場所性を取り入れたリゾートなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学や社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。 本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族などの「第四世界」的状況の事例が中心となります。	1. 趣旨説明 2. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 3. 場所性の商品化―アマンリゾーツの戦略 4. 環境主義の商品化―エコリゾート 5. 世界遺産と観光1―ラオス・ルアンパバンの事例 6. 世界遺産と観光2―中国・麗江の事例 7. 貧困の商品化―都市貧困とツーリズム 8. バックパッカーの歴史と現状 9. 先住民とアート―北米イヌイットの事例 10. 先住民とミュージアム―アイヌの事例 11. エコツーリズムと先住民1 12. エコツーリズムと先住民2 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光 15. まとめ

到達目標	オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光の動向について専門知識を習得し、これらの観光の現場において生じている問題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト	特に定めない。
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）等。
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	フィールドワーク論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、東京の魅力やそれを支える文化的独自性について、実際に東京各所を歩き回ることを通じて考える実践的講義です。 まず、文化人類学や社会学、地理学、歴史学、建築史など様々な視点から書かれた雑多な「東京論」を講義形式で紹介します。その上で、実際に東京各地を縦横無尽に歩きます。 受講生には、担当教員が指定した6つのコースの中から1~2つ選択し、5月から6月の週末を使って、プチ・フィールドワークをしてもらいます（実費負担）。なお担当教員は、これらのプチ・フィールドワークにすべて同行し、基本的な解説を行ないます。しかしただ解説を聞くのではなく、受講生自身が、想像力と五感をフルに使って東京の文化的独自性やその「味わい方」を発見することが求められます。 街歩きにもとづく「発見」の成果については、学期末に班ごとに発表をし、レポートにまとめてもらいます。	1. 趣旨説明・グループ分け(1回) 2. 東京を「読む」ための方法論（講義） 3. コース解説1：山の手と下町（本郷・上野・浅草） 4. コース解説2：ウォーターフロント（深川、佃、月島） 5. コース解説3：「おばあちゃんの原宿」（巣鴨） 6. コース解説4：繁華街の過去・現在・未来（渋谷・原宿） 7. コース解説5：エスニック・タウン（新宿、新大久保） 8. コース解説6：ジブリ映画の舞台・ニュータウン（多摩） 9. 発表・議論1 10. 発表・議論2 11. 発表・議論3 12. 発表・議論4 13. 発表・議論5 14. 発表・議論6 15. まとめ

到達目標	フィールドワークの基本的な理論や技法を習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	雑誌『東京人』等、東京を紹介する各種メディアの記事などを参照する。
テキスト	特に指定しない。
参考文献	随時、プリントや文献リストを配布する。
評価方法	発表・議論への参加度・フィールド実習でのパフォーマンス、学期末レポートなどを踏まえ、総合的に評価します。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

13 年度以降 12 年度以前	ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論） ツーリズム地誌論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における1泊3日の研修旅行を通じて、世界各地の幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指します。 リトルワールドには、世界の30以上の地域・民族の家屋・生活道具が移築・復元されています。受講生は、複数のグループに分かれ、そのなかから1つの地域・民族を選び、それぞれの地域・民族の文化や習慣について、事前に文献資料収集を行ないます。その上で、研修旅行では各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらいます。さらに、これら一連の作業を踏まえた上で、期末レポートとしてミニ・エスノグラフィを作成します。 本講義は、リトルワールドへの研修旅行を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となります。またグループ・ワークなど演習形式の取り組みも多いため、グループ内の議論等に積極的に参加できる人のみ履修を認めます。なお，初回授業時にグループ分け等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。	1. 趣旨説明・グループ分け 2. 講義1：民族誌展示の歴史と現在1 3. 講義2：民族誌展示の歴史と現在2 4. ビデオ上映（国立民族学博物館の取り組み） 5~14. 発表・議論 15. まとめ ※ 研修旅行の日程は、12月中旬の週末を予定しています。詳細は、秋学期開始時までに教務課掲示板にてお知らせします。費用は、往路バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで3万円程度です。

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	リトルワールドに展示されている諸地域・民族集団の民族誌を読むこと。
テキスト	山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣
参考文献	随時、文献リストを配布する。
評価方法	研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえ、総合的に評価する。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	インターンシップ	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　インターンシップを通して自らの専攻、キャリア形成に関連した就業体験を行うことで、働くことの意義や実社会の理解、さらに自己の職業への適応力等を学習する。同時にキャリア形成・就活に何が重要かを学ぶ。 講義概要： 　本科目は教室内での事前学習と、夏期実習、９月に実施する報告会で構成されている。事前学習は、インターンシップの意義を理解し効果的に実習が受けられるようになるためのものである。同時に、将来のキャリア形成と就活をスムーズに進めるための理論と実践的な方法論についても学習する。報告会では、実施報告書、日誌などに基づき、実習で学んだことに関するプレゼンテーションを行い、実習で得た経験、情報を全員で共有する	■事前学習 １．オリエンテーション（授業概要説明） ２．キャリア形成・就活の研究（１） ３．キャリア形成・就活の研究（２） ４．キャリア形成・就活の研究（３） ５．キャリア形成・就活の研究（４） ６．研修先選考のための面談（１） ７～１１．各業界の担当者による解説、マナー講座 １２．研修先選考のための面談（２） １３．インターンシップ実習前準備 １４．研修先企業の研究 １５．インターンシップ実習前の心得 ■夏期休暇中の実習―（約２週間） ■報告会（９月中旬を予定している）

到達目標	ツーリズム業界のインターンシップに必要な知識等を習得し、実習によりツーリズム業界を体験することで、業界の細部や自己の職能・適性等を発見できるようにする。
事前・事後学修の内容	各産業、各企業の研究を事前に行っておくこと。プレゼンテーションの練習を事前、事後に行うこと。
テキスト	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』(丸善プラネット)
参考文献	特に指定無し
評価方法	講義への参画、発言、プレゼン、実施報告書、日誌、報告会での発表などから総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、旅行契約に関わる具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関わる法（主に民法）のあり様と基本的な考え方を学びます。全部で３つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動をしながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表したうえ、それをレポートにまとめて提出します。 この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも１つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭3分、文書1200字程度)、ただし法的思考の作法に従って、解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります)。 具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第１回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第１回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。	1.　オリエンテーション 2.　ＰＢＬガイダンス 3.　ＰＢＬ練習 4.　第１事例（その１） 5.　第１事例（その２） 6.　第１事例（その３） 7.　第２事例（その１） 8.　第２事例（その２） 9.　第２事例（その３） 10.　第３事例（その１） 11.　第３事例（その２） 12.　第３事例（その３） 13.　口頭発表会の準備 14.　口頭発表会 15.　まとめと振り返り

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業３回に２回の割合で「予習メモ」、各事例の検討後は、グループでの検討結果をまとめたメモ（グループメモ）の提出を求めます。全事例の検討後は、受講者各自が授業全体を通じて学習した成果を口頭で発表のうえ、レポートにまとめて提出します。
テキスト	特になし。学習に必要な文献や資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集します。
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介します。
評価方法	出席率、宿題提出率、口頭発表と最終レポート提出の有無、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は複雑でこの欄に書き切れないため、第 1 回目のオリエンテーションで説明します。

13 年度以降	ツーリズム特殊講義 （交流文化の思想を読み解く）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、交流文化の思想を理解するうえで役立つ「古典」の精読を通じて、3・4年次生の研究に資する高度な読解力と思考力を育てるための技法を学びます。 「古典」は、授業や論文で言及されることが多い割に、学生が実際に読む機会は少ないと考えられます。しかし「古典」は「有名な学者が書いた本」ではなく、そこに時代の精神を捉える「問い」が活き活きと描かれているからこそ、多くの人々に読み継がれてきた良書であるといえます。そのため、筆者の「問い」を再現し、その思考を追体験することで、「古典」を精読する楽しみ（ワクワク感）を出席者とともに味わうことを目指します。 この授業は「反転授業」の方法で行います。全員がテキストを読解して出席していることを前提に、教員やレジュメ担当者が一方的に話すのではなく、逆に出席者の「ここが読めなかった」「ここはこういう意味か」等の質問からスタートし、全員で討論して、「われわれの読解」を練り上げることを試みます。 そのためこの授業は定員を30名に設定し、3・4年次での受講を推奨します。難解な文献を他の出席者と協力して積極的に読解し、その思想を深く理解する喜びを求める方の受講を歓迎します。	1.　ガイダンス：読解の方法、各テキストの説明 2.　ポストモダンとは何か①（J.F.リオタール） 3.　ポストモダンとは何か②（J.F.リオタール） 4.　ツーリズムと「まなざし」①（J. アーリ&J. ラースン） 5.　ツーリズムと「まなざし」②（J. アーリ&J. ラースン） 6.　ツーリズムと「まなざし」③（J. アーリ&J. ラースン） 7.　「まなざし」と主体性①（M. フーコー） 8.　「まなざし」と主体性②（M. フーコー） 9.　「まなざし」と主体性③（M. フーコー） 10. オリエンタリズムと文化多様性①（E. サイード） 11. オリエンタリズムと文化多様性②（E. サイード） 12. 「社会」という思想①（見田宗介） 13. 「社会」という思想②（見田宗介） 14. 「社会」という思想③（見田宗介） 15. 総括討論、まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを毎回必ず複数回は精読して理解を深め、論点と疑問点を整理して授業に参加してください。 また授業後に１回はテキストを読み返してください。
テキスト	必要なテキスト（部分）を配布しますが、1～2 冊の文庫・新書は購入してもらう予定です。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	授業参加度 40%、発表 50%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

09 年度以降	トランスナショナル文化論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
人の移動（移民・難民）を通じて文化の多様性を尊重する社会の構築について考えます。ヨーロッパをめざしたシリア難民、日本の難民政策などを事例に、人の移動の諸相を学びます。	1.導入①、移民・難民の定義と現実 2.映画『ル・アーヴルの靴みがき』に描かれた移民・難民 3.ヨーロッパをめざす西アジア、アフリカ各地出身の難民 4.難民の受入れ先（ヨルダン、カナダを例に） 5.アメリカ合衆国（トランプ大統領の政策を中心に 6.サンデル教授の白熱教室①（路面電車と正義） 7.サンデル教授の白熱教室②（国境は必要か） 8.イスラエル・パレスチナと移民、難民 9.移民難民と日本①（在留資格など） 10.移民難民と日本②（労働者の受入れ） 11.移民難民と日本③（コミュニティーと教育） 12.移民難民と日本④（ロヒンギャ人、クルド人など） 13.移民難民と日本⑤（難民認定と保護） 14.移民難民と日本⑥（難民支援の活動） 15.まとめのディスカッション

到達目標	トランスナショナル文化のフローとそれに関する専門知識を習得し、国境を越えた人や物、思想の動きとその重要性などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを十分に予習し、また背景となる歴史や社会状況について調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨みます。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿してください。
テキスト	A.Hartocolis,”A Family Swept Up in the Migrant Tide”, *The New York Times* 22/10/2015 ほか
参考文献	バートベック『トランスナショナリズム』、根本かおる『難民鎖国ニッポンのゆくえ』ほか
評価方法	授業レポートシステムを通じて毎週授業後に提出するレポート（50%）、指定された映画リストの中から一作品を選び記述するレポート（20%）、学期末レポート（30%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	トランスナショナル・メディア論	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。 この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。 メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。	1. ガイダンス:「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①：メディアとしての新約聖書 3. メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①：ジャーナリズムとリテラシーの曙 5. 近代とメディア②:「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③:「日刊新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④：ニューヨーク・タイムズの19世紀 8. 近代日本のトランスナショナル・メディア 9. 20世紀とメディア①：国際プロパガンダと「宣伝」 10. 20世紀とメディア②：ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11. 20世紀とメディア③：湾岸・イラク戦争と”Media War” 12. 国際報道の現在形①:「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②：ネット時代の「ニュース」 14. 国際報道の現在形③：トランスナショナル・メディアと現代 15. まとめ

到達目標	トランスナショナル・メディアに関する専門知識を習得し、様々な規模で見た、メディアを通じた文化、歴史、言語、情報・科学技術、環境、政治、経済、社会現象などのインターフェースについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	表象文化論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本の敗戦から70年以上が経ち、戦争について語られる機会も少なくなりました。この授業では、メディアや学校、ミュージアムなどで、戦争がどのように記憶、表象されているかを調べ、記憶や表象の可能性について、受講生の皆さんと議論していきます。春学期は、2014年に『毎日新聞』に連載された記事「いま靖国から」を題材に、強制連行、慰安婦についても考えていきます。 1945年、秋田県の花岡鉱山で、中国から強制連行されていた人たちが蜂起し、鎮圧されて400人以上が犠牲になりました。蜂起のあった6月30日には毎年、慰霊祭が営まれています。今年は土曜日にあたるので、(ちょっと遠距離ですが) 現地で課外授業をおこない、慰霊祭への参加、平和記念館の見学などをする予定です。 課外授業は、その他に靖国神社、女たちの戦争と平和資料館(wam)などでも実施の予定です。少なくとも1回は課外授業に参加することが、単位取得の条件になります。 ＊昨年の授業とは内容が異なるので重複履修も可能です。	1. イントロダクション 2. 中国人強制連行の政策と思想 3. 花岡事件とは 4. 花岡事件と和解、記憶の継承 5. 課外授業準備 6.「慰安婦」か「性奴隷」か 7.「慰安婦」か「性奴隷」か 8.「慰安婦」か「性奴隷」か 9. いま靖国から 10. いま靖国から 11. いま靖国から 12. 課外授業準備 13. 女たちの戦争と平和資料館 14. 靖国神社と遊就館 15. まとめのディスカッション

到達目標	表象文化に関する専門知識を習得し、社会における表象の重要性や表象によって意味が構築される過程などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを十分に予習し、また背景となる歴史や社会状況について調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。
テキスト	杉原達『中国人強制連行』(岩波新書、2002) ほか、『毎日新聞』の連載記事はプリントを配布します。
参考文献	NHK 取材班、『NHK スペシャル 幻の外務省報告書―中国人強制連行の記録』(NHK 出版、1994) ほか。
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出 (40%)、毎週のフェイスブックへの投稿 (30%)、最終レポート (30%) ＊授業はディスカッション型で、積極的な参加が求められます。

13 年度以降 12 年度以前	トランスナショナル文化特殊講義 (パフォーマンス研究) パフォーマンス研究	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の授業「表象文化論」の後編になりますが、こちらだけ受講することも可能です。戦争の記憶がどのように表象されているかは、パフォーマンス研究にとっても重要なテーマです。 テクストの『忘却された支配』は、2015年の『毎日新聞』に連載記事「支配した国　強制の記憶」がベースになっていますので、元の記事も参照しながら議論を進めていきます。 秋学期は、日本の朝鮮植民地支配に焦点を当てますが、植民地支配の延長線上にある在日コリアンや沖縄の状況についても、学生の皆さんと議論していきたいと思います。また、舞台や映画のパフォーマンスという視点から、日本を代表する劇作家である平田オリザの『ソウル市民1919』や、植民地支配に関連した劇映画なども取り上げましょう。 日時、場所などは未定ですが、土日を利用して日帰りの課外授業をおこなう予定です。 ＊昨年の授業とは内容が異なるので重複履修も可能です。	1. イントロダクション 2. 強制を思い出す (宇部、北海道) 3. 骨と碑の戦後史 (筑豊) 4. 追悼と謝罪の間 (紀州) 5. 朝鮮人の特攻 (万世・知覧) 6. 朝鮮ジェノサイド (四国) 7. 総督府官僚たち 8. 松代大本営 (長野) 9. 端島 (軍艦島、長崎) 10. 沖縄 (その1) 11. 沖縄 (その2) 12. 天皇の逝く国で 13. 平田オリザ『ソウル市民1919』 14. 朝鮮植民地支配と劇映画 15. まとめのディスカッション (授業内容は順番が前後することがあります)

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを十分に予習し、また背景となる歴史や社会状況について調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。
テキスト	伊藤智永『忘却された支配：日本のなかの植民地朝鮮』(岩波、2016) 他にプリントを配布します。
参考文献	ノーマ・フィールド (大島かおり訳)『天皇の逝く国で』(みすず書房、2011) ほか、適宜、紹介します。
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出 (40%)、毎週のフェイスブックへの投稿 (30%)、最終レポート (30%) ＊授業はディスカッション型で、積極的な参加が求められます。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	食の文化論	担当者	中野　美季

講義目的、講義概要	授業計画
始めに、味わうという行為を五感の仕組みから把握します。次に食の文化的側面についてイタリアをフィールドに考察します。イタリアにおける食の位置づけ、伝統食品の知恵、食の地域性と郷土料理について、写真資料とともに概観します。講義の参加者数、進度によりシラバスに記載の内容・順序は変更されます。	１．講義の概要 ２．食と五感１ ３．食と五感２ ４．おいしさとは何か ５．イタリアの味覚教育 ６．イタリアにおける食 ７．生産物認証制度 ８．伝統食品１ ９．伝統食品２ １０．伝統食品３ １１．郷土と食１ １２．郷土と食２ １３．郷土と食３ １４．郷土と食４ １５．まとめと試験対策

到達目標	「食」というキーワードを手がかりに、グローバル化、ナショナル化に統合されていく「文化」の多様性の意義を再定義し、地域人・家庭人としての自分達の食事について理解、分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出する
テキスト	定めない
参考文献	適宜紹介する
評価方法	定期試験（50%）、学期中課題（50%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （移民・難民と日本社会）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
「日本は単一民族国家だ」という人がいますが、間違いです。どんな社会も例外なく多民族で構成されていますし、今後はもっとそうなるでしょう。この授業では、文化多様性を尊重し、言語、宗教、文化の背景を異にする人たちが暮らしやすい社会をどのように作っていくか、受講生の皆さんと共に考えていきます。 （テクスト）①西日本新聞社編『新 移民時代：外国人労働者と共に生きる社会へ』（明石書店、2017）②塩原良和『共に生きる：多民族・多文化社会における対話』（弘文堂、2012）。昨年、早稲田ジャーナリズム大賞を受賞した①を題材に日本社会の現状に目を開き、②を使って文化多様性の理論を学びます。 課外授業を2回実施します。1回目はハンセン病の隔離療養施設だった多摩全生園で、日本の中のマイノリティー差別について考えます。2回目は群馬県館林市にあるロヒンギャ民族のコミュニティーを予定しています。 ＊昨年の授業とは内容が異なるので重複履修も可能です。	1. イントロダクション 2. 映画『あん』（2015）から考える差別の問題 3. 映画『あん』（2015）から考える差別の問題 4. 出稼ぎ留学生①より 5. 留学ビジネス：ネパールからの報告①より 6. 留学ビジネス：学校乱立の陰で①より 7. 働けど実習生①より 8. 変わる仕事場①より 9. 交差する人々①より 10. ともに生きる、近未来を歩く①より 11. 多民族・多文化社会としての日本②より 12. 日本人というマジョリティ②より 13. マイノリティーと差異②より 14. コスモポリタン多文化主義②より 15. ロヒンギャ民族と日本 ＊課外授業の日時、内容については初回の授業でお話します。また、課外授業の実施に伴い、授業計画に変更が生じる場合があります。

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを十分に予習し、また背景となる歴史や社会状況について調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。
テキスト	『新 移民時代』『共に生きる』とも売店(Duo)に発注ずみです。
参考文献	適宜、紹介します。図書館にあるものは指定書コーナーに配架されているので、利用してください。
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）＊授業はディスカッション型で、積極的な参加が求められます。

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと子ども）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
世界では約1億7000万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバリゼーションや私たちがどのようにかかわっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関やNGOの取り組みについて理解する。 この授業を通じて、世界の子どもの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。	1．ガイダンス（概要と、予習・復習について） 2．アジアの児童労働 3．タイのストリート・チルドレン 4．赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題 5．女性と子どものヒューマン・トラフィック Part Ⅰ 6．女性と子どものヒューマン・トラフィック PartⅡ 7．ヒューマン・トラフィック撲滅への取り組み 8．日本の子どもの貧困 9．在日外国人の子どもの問題（アクティブラーニング） 10. アフリカの子ども兵士 11. イラク戦争と子どもたち 12. 国連の安全保障と子どもの保護 13. 子どもの権利の実現に向けての国連の役割 14. 子どもと教育について 15. 今学期のまとめ（質疑応答など）

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと、授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと
テキスト	テキスト　初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015 年）
参考文献	授業で適宜紹介します
評価方法	大福帳 15%、期末試験 85%

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
経済のグローバル化が進展しているが、女性はどのような役割を果たし、影響を受けているのだろうか。それを知るためには、現在経済成長が著しいアジアに着目するとよいだろう。アジア開発銀行は『アジア2050－アジアの世紀の誕生』（2012）の中で、現在のアジアの成長が続けば、その名目GDPは世界全体の50%を超えるとし、21世紀はまさしくアジアの世紀だと述べた。授業では、このアジア経済の成長を牽引する中心に女性の労働があると位置づけ、グローバル経済の実態－古典的国際分業から今日のグローバル経済を構成している3つの新国際分業を再解釈する。 日本女性の労働の問題もその観点から考える。女性の労働の在り方を考えることは、男性の労働や家族との関係についても考えるきっかけとなると考えている。	1．ガイダンス－授業の内容、進め方、予習復習について 2．古典的国際分業とグローバル経済 3．新植民地主義について『バナナの逆襲』から考える 4．今日のグローバル経済（1）新国際分業の成立 5．新国際分業について『トゥルーコスト』から考える 6．今日のグローバル経済（2）再生産領域の新国際分業 7．香港の家事労働者受入れ政策とフィリピン女性 8．フィリピン女性の移住労働と家族の問題 9．日本の“輝ける女性”の活躍とフィリピン家事労働者 10. 資本主義の発展と再生産領域についてのまとめ 11. 今日のグローバル経済（3）サービス業の新国際分業 12. インド、中国、フィリピンのBPOの国際比較 13. 日本女性の労働と男女雇用機会均等法 14. 日本女性の労働と非正規雇用 15. 授業のまとめと質疑応答など

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組み、予習復習する。
テキスト	授業でプリントを配布します
参考文献	堀芳枝編『学生のためのピース・ノート２』コモンズ、2014 年、ほか授業で適宜紹介します。
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています――いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？ 「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ＆ラースン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。 そのためこの講義では、(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し、(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り（Selfie）」や「絶景」や「SNSフォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることを目的とします。	1. ガイダンス：「観る」ことと「まなざし」 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：写真が「写真」になるとき 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③： 天皇のイメージとイマジネーション 8. 「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生） 9. 「撮る」の政治学②：映画が「映画」になるとき 10. 「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication 11. 「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体 12. 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 写真とツーリズム②：「自撮り」とセルフ・ポートレイト 14. 写真とツーリズム③： SNS時代の「観る」体験 15. まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （東南アジアのナショナリズム、民主主義、平和）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
2000年代に入り中国や東南アジアの成長はめざましい。中国はいまや世界第二位のGDPとなり、東アジアの平和のカギを握る存在となった。また、2015年に成立したASEAN共同体は6億人の巨大市場としても注目されている。また、インドもICT産業を牽引する国家である。みなさんは将来、出張先として、ビジネスパートナーとして中国、東南アジア、インドと向き合うことになる。したがって、この授業では、将来みなさんが向き合うことになるアジアの政治や社会―ナショナリズム、戦後の国民国家建設の歩み、そして紛争や平和の課題を理解し、日本との関係について、東南アジア地域研究の観点から考えることを目的とする。それはみなさんが将来、何らかの形でアジアと良い信頼関係を築き、東アジアの平和や安定を創り出す一端を担ってほしいからである。	1．ガイダンス（予習・復習）東南アジア地域の特徴 2．近代以前の東南アジア 3．帝国主義と植民地政策 4．中国、ベトナム、インドのナショナリズム（民族運動） 5．日本軍政と東南アジア 6．冷戦と東南アジアの独立 7．中国の文化大革命と改革開放 8．ベトナム戦争とアメリカ 9．ベトナム戦争とカンボジアのポルポト（大虐殺） 10. タイの国民国家―国王・軍・政治家・中間層 11. フィリピンの権威主義体制と民主化、NGO 12. インドネシアの権威主義体制とアジア通貨危機 13. マレーシア・シンガポールの国民統合と多文化主義 14. ASEANの地域統合と課題 15. 今学期のまとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを事前に熟読すること、復習については授業の最後で述べるポイントに従って、テキストを振り返ること
テキスト	中野亜里・遠藤聡ほか『入門　東南アジア現代史（改訂版）』福村出版、2016 年。
参考文献	授業で紹介します
評価方法	大福帳　15%、期末テスト　85%

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性）、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もっとも、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし、主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。それらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の１つである「ＬＴＤ話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、中学３年生生向けのシティズンシップ教育用教材（１時限分）を作成することを目指します。 第１回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについて詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第１回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。	1.　オリエンテーション 2.　グループ分け、ＬＴＤを支える教育理論と技法 3.　予習及びミーティングの解説と練習 4.　ＬＴＤウォーミングアップ（練習用教材使用） 5.　ＬＴＤ（短縮型）（シティズンシップ教育論①） 6.　ＬＴＤ（１）（シティズンシップ教育論②） 7.　ＬＴＤ（１）の振り返り 8.　ＬＴＤ（２）（シティズンシップ教育の課題） 9.　ＬＴＤ（２）の振り返り 10.　ＬＴＤ（３）（シティズンシップの授業） 11.　シティズンシップ教育用教材作成（その１） 12.　シティズンシップ教育用教材作成（その２） 13.　シティズンシップ教育用教材作成（その３） 14.　教材発表会（受講者作成教材による模擬授業） 15.　授業全体のまとめと振り返り、 ラーニング・ポートフォリオについて説明

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修では、ＬＴＤの方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業でのＬＴＤミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります
テキスト	教材は、必要に応じてその都度配布します。
参考文献	ＬＴＤ話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟・須藤文『ＬＴＤ話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2014 年）を参照してください。
評価方法	出席率、宿題提出率、教材作成・模擬授業への参加の有無、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は、複雑でこの欄に書き切れないため、第１回目のオリエンテーションで説明します。

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
多民族社会米英を舞台にユダヤ系を中心に、黒人その他の集団との関係史を学ぶ。 下記二冊のテキストにそって英米の人種関係史をユダヤ系を主軸にして考察する。	1. 中世英国のユダヤ人金融。 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る。―1290年のイングランド― 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656年。 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国。 5. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人。 6. 英国人地主貴族社会への同化現象。 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム。 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ。 9. 8%の有色人種人口を抱える現代英国社会。 10. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥。 11. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史。 12. 黒人の反ユダヤ主義。 13. 英労働党の反ユダヤ主義。 14. 在英ムスリム社会の反ユダヤ主義。 15. パレスチナ難民の救援とパレスチナへの送り出し。

到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関する学際的な専門知識を習得し、多様化した英語圏を文学研究、コミュニケーション論、人類学、言語学、国際関係論、ツーリズム研究などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年 講談社選書　1600 円）
参考文献	
評価方法	評価はクイズ形式による筆記試験（12 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持込み可。 出席はとらない。

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English. This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.	1. Introduction, The First Americans 2. Columbus and the Conquistadors 3. The First British in America 4. War and Independence 5. Building a New Nation 6. Civil War Splits the Country 7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts 8. European Immigrants Pour In 9. Agriculture: Amber Waves of Grain 10. Industrialists, Inventors, Tycoons 11. Black Culture in America 12. Imperial World Capital 13. Postwar Good Life & The Sunbelt 14. America the Beautiful 15. Final Test (Essay)

到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関する学際的な専門知識を習得し、多様化した英語圏を文学研究、コミュニケーション論、人類学、言語学、国際関係論、ツーリズム研究などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　小クイズ（抜き打ち）の準備
テキスト	Materials will be handed out in class.
参考文献	
評価方法	Class performance 20%, final project 30%, final test (essay) 50%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence. Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏の思想 a）	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもりです。 具体的にどこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。 またドイツ語圏に限定せず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講時代を追っていくのにじっくり急がないつもりですが、しかし今学期もせめてカントまでは触れます。（ドイツ語の知識は前提にしない）。	1. はじめに 2. 古典について 3. 古典について 4. キリスト教：ローマ・カトリックとプロテスタント 5. ルネッサンス 6. デカルトの思想 7. カントの思想(1) 8. カントの思想(2) 9. カントの思想(3) 10. カントの思想(4) 11. ドイツ観念論(1) 12. ドイツ観念論(2) 13. ドイツ観念論(3) 14. ドイツ観念論の問題点 15. 授業内試験

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後に 18 世紀ドイツ啓蒙までの思想文化の概略を把握する。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	配布したプリントの中で紹介します。
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏の思想 b）	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
主にドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していく。春学期の講義の続きではありますが、別個に受講してもよい。具体的な目標として、どこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。今学期の講義に出ればたぶん、ニーチェの『道徳の系譜』は読めるくらいにはなれます。テーマはドイツ語圏に限定されず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してほしい。（ドイツ語の知識は前提にしない）。今学期もハイデガーやベンヤミンなど現代思想に触れられたらいい。現代思想ゆえの過激な展開になります。関心がある学生は歓迎します。	1. はじめに 2. ロマン派 3. ヘーゲルとマルクス 4. 若いマルクスと『資本論』のマルクス 5. 『資本論』と宗教批判 6. マルクス主義と現代思想(1) 7. マルクス主義と現代思想(2) 8. ニーチェ(1) 9. ニーチェ(2) 10. ニーチェ(3) 11. ハイデガー(1) 12. ハイデガー(2) 13. ハイデガー(3) 14. 現代の思想 15. 授業内試験

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後には 19 世紀以降の思想の概略を把握している。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	配布したプリントの中で紹介します。
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの音楽Ⅰ）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は、バロック時代（17～18 世紀半ば）のイタリア、ドイツ、フランスの主要三カ国の音楽を比較し、さらにフランス・バロックから継承されたフランス的なものが 19 世紀後半にどのような形で表現されるかを見ます。それによってフランス音楽の特質を理解することが目的です。 講義は可能なかぎり音楽を聴き、映像を見ながら進めますので、それに真摯に向き合い自分はどう受け止めるかをつねに意識するようにしてください。	1. ガイダンス 2. イタリア・バロック（1） 3. イタリア・バロック（2） 4. イタリア・バロック（3） 5. ドイツ・バロック（1） 6. ドイツ・バロック（2） 7. ドイツ・バロック（3） 8. フランス・バロック（1） 9. フランス・バロック（2） 10. フランス・バロック（3） 11. ヴァトーの絵画の時代の音楽 12. ヴァトーの絵画とヴェルレーヌの詩と歌曲（1） 13. ヴァトーの絵画とヴェルレーヌの詩と歌曲（2） 14. ヴァトーの絵画とヴェルレーヌの詩と歌曲（3） 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。
テキスト	プリント
参考文献	ガイダンス時に紹介
評価方法	試験 100%（中間と期末の合計）。受験資格：各期の 3 分の 2 以上の出席

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの音楽Ⅱ）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、まず伝統的な宗教音楽の一ジャンルであるレクイエムに焦点を当てます。そして美意識が変化する 20 世紀前半にフランス音楽は、伝統とつながりながらもどのように新しい創造を試みたかを見ていきます。ここでもフランス音楽の特質を実感することが目的です。 講義は可能なかぎり音楽を聴き、映像を見ながら進めますので、それに真摯に向き合い自分はどう受け止めるかをつねに意識するようにしてください。	1. ガイダンス 2. 宗教音楽（1）：ミサ曲とレクイエム 3. 宗教音楽（2）：モーツァルトからベルリオーズへ 4. 宗教音楽（3）：19世紀のレクイエム 5. 宗教音楽（4）：フォーレのレクイエム 6. 20世紀における美意識の変化：ストラヴィンスキー 7. キリスト者・鳥類学者メシアン 8. サティ 9. 六人組（1）：オネゲル（1） 10. 六人組（2）：オネゲル（2） 11. 六人組（3）：ミヨー（1） 12. 六人組（4）：ミヨー（2） 13. 六人組（5）：プーランク（1） 14. 六人組（6）：プーランク（2） 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。
テキスト	プリント
参考文献	ガイダンス時に紹介
評価方法	試験 100%（中間と期末の合計）。受験資格：各期の 3 分の 2 以上の出席。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの美術Ⅰ）	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 17 世紀から 19 世紀までの代表的なフランス絵画を取りあげます。前半はキリスト教、古代ギリシア神話など、「物語画」の主題を取り上げ、それらの「読み方」を学びます。後半は、近代フランスの歴史的文化的社会的コンテクストをふまえた上で、同時代の事件や生活を描いた絵画について理解を深めます。 講義概要： 毎回ひとつのテーマを取り上げ、画像や映像を用いて複数の作品を比較検討していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1. イントロダクション 2. 宗教画 1：旧約聖書の主題 3. 宗教画 2：新約聖書の主題 4. 寓意画 5. 神話画 1： アポロとムーサたち 6. 神話画 2： ディアナ 7. 神話画 3： ウェヌス 8. 神話画 4： ユピテル 9. 古代史を主題にした絵画 10. 同時代の事件を主題にした絵画 1 11. 同時代の事件を主題にした絵画 2 12. 近代生活を主題にした絵画 1 13. 近代生活を主題にした絵画 2 14. 近代生活を主題にした絵画 3 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。美術館、画集などで作品に親しむ。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	学期末試験（80%）、毎回のコメントペーパー（10%）、美術館レポート（10%） ただし「美術館見学レポート」を提出することが試験を受ける条件となります。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの美術Ⅱ）	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 毎回一つのキーワードを起点とし、美術作品を批判的に読み解いてゆくことで、絵画をはじめとする表象文化が提起する問題について理解を深めます。 講義をとおして、フランスの美術にとどまらず、身の回りのさまざまな事象についても、自ら分析する力を養うことを目的とします。 講義概要： 画像や映像を用いて作品を見ながら解説していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1. イントロダクション 2. 権力と美術1 3. 権力と美術2 4. オリジナリティと規範1 5. オリジナリティと規範2 6. ジェンダー1 7. ジェンダー2 8. オリエンタリズム1 9. オリエンタリズム2 10. ジャポニスム1 11. ジャポニスム2 12. プリミティヴィスム1 13. プリミティヴィスム2 14. まとめ1 15. まとめ2

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。美術館、画集などで作品に親しむ。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に適宜紹介します。
評価方法	学期末試験（80%）、毎回のコメントペーパー（10%）、美術館レポート（10%） ただし「美術館見学レポート」を提出することが試験を受ける条件となります。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏の歴史 a）	担当者	伊豆田　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、20世紀前半のドイツの歴史を学び、更に、歴史的な思考力を育むことを目的としています。具体的には、歴史上の「なぜ」に対して、因果関係を説明できること、多面的に見ることが必要な能力になります。 春学期は4つの問いを扱います。 1. 第一次世界大戦はなぜ起きたのか？ 2. ヴァイマル共和国はなぜ崩壊したのか？ 3. ヒトラーは如何にして国民から『支持』を集めたのか？ 4. ホロコーストはなぜ起きたのか？ 本授業での課題は、①全体での講義を聞き、②グループごとに分かれて資料（史料）を読み、先ず一つの原因から説明できるようにし、③さらに別のグループを作って、②の結果を再検討する〔ここまでが授業内作業〕、さらに④自分で問いに対する答えを文章化すること、です。この④が評価の中心になります。第一回目の授業に参加すること！	1. ガイダンス 2. 第一次世界大戦(1) ―導入 3. 第一次世界大戦(2) ―グループワーク①調査 4. 第一次世界大戦(3) ―グループワーク②報告 5. ヴァイマル共和国(1) ―導入 6. ヴァイマル共和国(2) ―グループワーク①調査 7. ヴァイマル共和国(3) ―グループワーク②報告 8. 課題講評(1) 9. ナチドイツ(1) ―導入 10. ナチドイツ(2) ―グループワーク①調査 11. ナチドイツ(3) ―グループワーク②報告 12. ホロコースト(1) ―導入 13. ホロコースト(2) ―グループワーク①調査 14. ホロコースト(3) ―グループワーク②報告 15. 課題講評(2)

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	復習を心がけてください。大量の資料を毎回配るので、それを読み授業に臨むこと
テキスト	テキストは指定しない。
参考文献	適時指示する。
評価方法	課題〔上記の④〕の評価をおおよそ 80%、授業への参加度合 20%を目安に総合的に判断する

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏の歴史 b）	担当者	伊豆田　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、20世紀後半の「ドイツ」の歴史を学び、更に、歴史的な思考力を育むことを目的としています。具体的には、歴史上の「なぜ」に対して、因果関係を説明できること、多面的に見ることが必要な能力になります。 秋学期は4つの問いを扱います。 1. 冷戦はどうして起きたのか？ 2. なぜベルリンの壁が作られたのか？ 3. なぜ東ドイツは崩壊したのか？ 4. ナチズムの過去をどのように想起するべきなのか？ 本授業での課題は、①全体での講義を聞き、②グループごとに分かれて資料（史料）を読み、先ず一つの原因から説明できるようにし、③さらに別のグループを作って、②の結果を再検討する〔ここまでが授業内作業〕、さらに④自分で問いに対する答えを文章化すること、です。この④が評価の中心になります。第一回目の授業に参加すること！	1. ガイダンス 2. 冷戦(1) ―導入 3. 冷戦(2) ―グループワーク①調査 4. 冷戦(3) ―グループワーク②報告 5. ベルリンの壁(1) ―導入 6. ベルリンの壁(2) ―グループワーク①調査 7. ベルリンの壁(3) ―グループワーク②報告 8. 課題講評(1) 9. 東ドイツの崩壊(1) ―導入 10. 東ドイツの崩壊(2) ―グループワーク①調査 11. 東ドイツの崩壊(3) ―グループワーク②報告 12. 想起の文化(1) ―導入 13. 想起の文化(2) ―グループワーク①調査 14. 想起の文化(3) ―グループワーク②報告 15. 課題講評(2)

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	復習を心がけてください。大量の資料を毎回配るので、それを読み授業に臨むこと
テキスト	テキストは指定しない。
参考文献	適時指示する。
評価方法	課題〔上記の④〕の評価をおおよそ 80%、授業への参加度合 20%を目安に総合的に判断する

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
英国スパイ・アクション映画のブランド「００７」シリーズを鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。 このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。 スパイ映画「００７」シリーズは、１９６０年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。	１　スパイ映画「００７　スカイフォール」世界のいま ２　　同上 ３　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ４　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ５　　同上 ６　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ７　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ８　　同上 ９　スパイ映画「００７」―１９７０年代の世界 １０　　同上 １１　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １２　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １３　　同上 １４　原作者イアン・フレミングの世界 １５　ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	『グローバル社会論資料集』
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
英国スパイ・アクション映画のブランド「００７」シリーズを鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。 このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。 スパイ映画「００７」シリーズは、１９６０年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。	１　スパイ映画「００７　スカイフォール」世界のいま ２　　同上 ３　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ４　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ５　　同上 ６　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ７　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ８　　同上 ９　スパイ映画「００７」―１９７０年代の世界 １０　　同上 １１　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １２　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １３　　同上 １４　原作者イアン・フレミングの世界 １５　ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	『グローバル社会論資料集』
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあって、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか。本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。	1　はじめに 2　行為主体（1）主権国家、主権国家体制 3　行為主体（2）国際組織 4　行為主体（3）ＮＧＯ、多国籍企業 5　地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 6　地域主義・地域協力（2）ＡＳＥＡＮ 7　戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 8　戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 9　戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和構築 10　人間の安全保障 11　グローバリゼーションとは何か 12　グローバル・イシューズ（1）貧困 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15　まとめ

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト	指定しない
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する
評価方法	コメント点 20%、試験 80%

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあって、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか。本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。	1　はじめに 2　行為主体（1）主権国家、主権国家体制 3　行為主体（2）国際組織 4　行為主体（3）ＮＧＯ、多国籍企業 5　地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 6　地域主義・地域協力（2）ＡＳＥＡＮ 7　戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 8　戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 9　戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和構築 10　人間の安全保障 11　グローバリゼーションとは何か 12　グローバル・イシューズ（1）貧困 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15　まとめ

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト	指定しない
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する
評価方法	コメント点 20%、試験 80%

09年度以降	国際協力論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、開発途上国の開発をめぐる国際協力を中心に、その歴史、仕組み、変化、課題を検討します。講義は３つのシリーズから構成されます。 第１の「国際協力の歴史」では、植民地期から現在までを時代ごとに区分し、それぞれの時期の国際協力の特徴を多面的に描きながら、その変化を捉えます。 第２の「開発途上国の開発と国際協力」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、それを後押ししてきた国際援助のあり方とその影響について考えます。 第３の「グローバル化時代の開発と国際協力」では、グローバル化時代の特徴・影響や開発のトレンドを探りつつ、MDGsなどを例に新たな開発と国際協力の方向性について検討します。	１．イントロダクション：国際協力、国際開発、開発援助 **＜国際協力の歴史＞** ２．開発の格差を生んだ要因：植民地支配 ３．欧米諸国の植民地政策とその功罪 ４．日本の植民地支配と戦後の国際協力 ５．冷戦期の国際関係と国際協力 ６．ポスト冷戦時代の国際協力 **＜開発途上国の開発と国際協力＞** ７．経済開発の基本形と途上国の実態 ８．工業化の段階と国際協力 ９．高度経済成長の要因と弊害 10．高度成長の弊害としての貧富の格差（中国） 11．経済格差の社会・文化的要因（カースト制度） **＜グローバル化時代の開発と国際協力＞** 12．グローバル化時代の特徴と開発協力 13．グローバル化がもたらす開発途上国への影響 14．新たなテーマとMDGs／SDGs 15．国際協力／開発援助

到達目標	国際協力に関して専門知識を習得し、国際協力に関連した事例の分析、および国際協力の実態や新たな展開などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。
テキスト	授業ごとに配布するレジュメ資料を使用します。特定の文献をテキストとして指定することはしません。
参考文献	講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09年度以降	国際開発論（世界のエアライン・ホテル）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、「国際」と「開発」をキーワードに、エアライン、ホテル、リゾートなどツーリズム産業を扱います。 シンガポールでは、強力な政府が国策会社テマセクを設立し、シンガポール航空、ラッフルズ・ホテル、有力な民間企業の大半を傘下に置いてきました。小国シンガポールが生き延び、そして豊かな先進国として成長し続けるために、国家主導で開発政策を導入したのです。 常に顧客のニーズを考え、誰にも負けない比較優位を実現することで、シンガポール航空は世界ナンバーワン・クラスのエアラインへと飛躍しました。 ビデオ映像、パワーポイント資料を活用し、テキストを使用しながら授業を進めます。	1　世界のエアライン・ホテル・リゾート 2　世界のエアライン：ＴＯＰ　１０ 3　世界のエアライン：ＴＯＰ　１０ 4　世界のエアライン：ランキングで見る特色 5　世界のエアライン：ランキングで見る特色 6　世界の国際空港　エアポート：ＴＯＰ　１０ 7　海洋リスク 8　同上 9　同上 10　小さなスイスが「観光大国」へ変身、その謎を解く 11　世界のホテル 12　世界のホテル 13　世界のホテル 14　日本のツーリズム：ＪＴＢ、国際観光ホテル、東京 15　日本のツーリズム：ＪＴＢ、国際観光ホテル、東京

到達目標	国際開発に関して専門知識を習得し、開発途上国が直面する課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	竹田いさみ『世界を動かす海賊』（ちくま新書）など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト80%。小テスト20%です。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	国際交流論	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の狙いは、学生が国際交流の基本的な考え方を学び、現代のグローバル社会において様々な形での国際交流・国際貢献にチャレンジする基盤を作ることです。 授業は2つのパートから構成されます。前半のパートでは異文化コミュニケーションを中心とした国際交流の考え方について学術的、及び実証的な観点から学び、国際的活動への基礎を固めます。後半のパートでは、実際に行われている文化交流や国際協力等の事例を取り上げ、それらの成果を考えると共に、活動に関与している人材が抱える課題等も検討します。 授業では、積極的に発言することが求められます。将来に向けて、国際交流力を付けてグローバルに活動したいと考えている意欲のある学生の受講を歓迎します。	1. 講義の概要 2. 世界とつながる（歴史と現代） 3. 日本人の苦手意識（文化） 4. コミュニケーション 4 つのステップ 5. 共感力を鍛える(1) 6. 共感力を鍛える(2) 7. 過剰な意識を手放す 8. 総合力を養う 9. 対応力を鍛える 10. 国際交流の実践：青年の船&ボランティア 11. 国際協力の実践：青年海外協力隊の活動 12. 国際協力の実践：人道援助・開発援助 13. 国際協力の実践：国際公務員 14. 講義のまとめ (1) 15. 講義のまとめ (2)

到達目標	国際交流に関して専門知識を習得し、分野ごとの文化交流事業、文化交流政策、文化交流目的などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各自、事前に教科書を読んで授業に臨んでください。その他の資料は、随時、ポータルサイトにアップロードします。
テキスト	石川幸子著『世界のどこでも誰とでもうまくいく共感コミュニケーション』（同文館、2017 年 4 月）
参考文献	石川幸子著『敵をもファンに変える超一流の交渉術』（実務教育出版、2016 年）
評価方法	定期試験 80%、授業内レポート 20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	国際ＮＧＯ・ボランティア論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化、開発途上国の多極化といった現象が進むなか、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も、国家、国際機関、企業などに加え、非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、途上国への開発支援におけるODAやNGOの役割に注目しながら、開発協力の諸問題について考えます。本講義は３つのシリーズから構成されます。 第１の「開発援助の仕組みと展開」では、援助の主流をなしてきた政府開発援助（ODA）の現状を把握します。 第２の「NGOの役割と課題」では、NGOの歴史、位置付け、実態、役割などを捉えるとともに、開発とNGOの関係を具体的なケースを取り上げながら考えます。 第３の「開発援助の新たなテーマ」では、開発援助に関して現在起こっている新しい動きを捉えます。	１．イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO **＜開発援助の仕組みと展開＞** ２．ODA の仕組みとトレンド ３．日本の ODA の特徴 ４．日本の援助実績 ５．開発援助の問題点 ６．ODA の課題と改革 ７．国際援助の新たなトレンドと NGO **＜NGO の役割と課題＞** ８．NGO の定義と歴史的経緯 ９．NGO の機能と途上国での役割 10．開発と NGO：ケーススタディ・バングラデシュ 11．日本における市民活動の歴史と国際協力 NGO 12．日本の国際協力 NGO の実績と課題 **＜開発援助の新たなテーマ＞** 13．マイクロクレジットという方法 14．中国による「ODA」の特徴と問題点 15．開発援助とNGOの将来

到達目標	国際 NGO・ボランティアに関して専門知識を習得し、現代の国際社会が抱える開発協力の諸課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。
テキスト	授業ごとに配布するレジュメ資料を使用します。特定の文献をテキストとして指定することはしません。
参考文献	講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

09 年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、オーストラリアの歴史をイギリスの植民地時代から第二次世界大戦終結時まで振り返り、現代オーストラリア理解の一助とすることである。 多くの日本人が観光客、留学生として訪問し、また経済的にも日本と繋がりが深い国でありながら、オーストラリアがどのような歴史をたどってきたのかを知る者はおどろくほど少ないのが現状である。また知りたいと思っても、日本では情報がそもそも少なく、オーストラリアを知る機会はおのずと限られてしまっている。 本講義では、イギリス人が18世紀後半に入植して、6つの植民地がそれぞれ発展を遂げ、それが1901年にオーストラリア連邦として独立し、そして20世紀前半の二つの世界大戦を経験するまでの、オーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国、英連邦）やアメリカ、アジア地域（日本や中国、東南アジア）との関係性の中で振り返って行く。 本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2回程度、理解度確認テストを実施する予定。	第1回：イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義 第2回：植民地オーストラリア①～植民地の誕生 第3回：植民地オーストラリア②～植民地の発展 第4回：大英帝国・英連邦とオーストラリア① ～国のなかのオーストラリア 第5回：大英帝国・英連邦とオーストラリア② ～英連邦、コモンウェルスのなかのオーストラリア 第6回：ゴールドラッシュと白豪主義政策 第7回：多文化主義社会オーストラリア 第8回：講義前半の総括と質疑応答 第9回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア～「二つのナショナリズム」 第10回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とアンザック精神 第11回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第12回：第二次世界大戦～アジア国際関係と黄禍論 第13回：2つの捕虜収容所～アンボンとカウラ 第14回：対日講和問題とオーストラリア 第15回：総括と質疑応答

到達目標	英語圏の国際関係に関する専門知識を習得し、政治的、経済的、社会的な発展経緯、ならびに背景事情などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト	永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布
評価方法	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

09 年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・天然ガス・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはアジア太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。 それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。本講義では、戦後のアジア太平洋国際関係においてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、受講者には21世紀の国際関係において日本が学ぶべきものは何かを考えてもらいたい。 本講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリア外交の歴史を概観していく。 本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2回程度、理解度確認テストを実施する予定。	第1回：イントロダクション～オーストラリア外交を見る眼 第2回：チフリー労働党政権の外交～新たな国際関係構築の模索 第3回：アンザス同盟の実現 第4回：冷戦下のアジア① ～中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争、第一次インドシナ危機 第5回：冷戦下のアジア② ～イギリスのアジアの戦争「対決政策」 第6回：冷戦下のアジア③ ～アメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」 第7回：ポストベトナムのオーストラリア外交 第8回：講義前半の総括と質疑応答 第9回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ～オーストラリアの「アジア化」 第10回：ミドルパワー外交①その定義 第11回：ミドルパワー外交②その実践 第12回：アジア太平洋地域の経済統合 第13回：日豪関係の歴史的展開①～戦後から 70 年代 第14回：日豪関係の歴史的展開②～80 年代以降 第15回：21世紀オーストラリア外交の行方＆質疑応答

到達目標	英語圏の国際関係に関する専門知識を習得し、政治的、経済的、社会的な発展経緯、ならびに背景事情などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト	永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布
評価方法	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

13 年度以降	グローバル・ヒストリーa	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦（The Cold War）」の展開を考察する。 春セメスターでは、ヨーロッパ、地中海周辺地域、アフリカにおける米ソ冷戦の展開とヨーロッパ諸国の冷戦政策に加え、西ヨーロッパ諸国による脱国家的な地域統合（今日の欧州連合）の試み、イギリス、フランス等のヨーロッパ諸国の帝国の解体・脱植民地化と冷戦の関連について考察する。また、国際機関やNGO、市民運動による国際的、またはトランスナショナルな連帯がヨーロッパの冷戦の進展、変容、終焉に及ぼした影響にも注目する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。	1　はじめに 2　第二次世界大戦の展開：大戦の起源・展開 3　ヨーロッパ冷戦の起源 4　ヨーロッパ分断体制の形成（1） 5　ヨーロッパ分断体制の形成（2） 6　「危機の時代」の米ソ関係とヨーロッパ 7　ヨーロッパ植民地支配の終焉：アフリカ 8　冷戦構造の多極化とデタント 9　米ソ・デタントとヨーロッパ・デタント 10　デタントの崩壊 11　新冷戦とヨーロッパ 12　冷戦の終焉（1）：ゴルバチョフ、東欧革命 13　冷戦の終焉（2）：ドイツ統一、ソ連崩壊 14　冷戦後のヨーロッパ：民主化、市場経済化 15　まとめ

到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト	指定しない
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する
評価方法	コメント点 20%、試験 80%

13 年度以降	グローバル・ヒストリーb	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」の展開を考察する。 秋セメスターでは、アジア・中東における米ソ冷戦、米中対立の展開のほか、日本および欧米諸国のアジア、中東における帝国解体とそれに伴う第三世界諸国による世界大での独立戦争、非同盟・中立運動、また、70年代以降のアジア国際関係の構造転換・地域紛争、経済発展、民主化などについて議論する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。	1　はじめに 2　第二次世界大戦の展開：日中戦争、日米戦争 3　大戦の終結と占領：日本帝国の解体 4　朝鮮戦争とアジア国際秩序の変容 5　脱植民地化（1）：南アジア、東南アジア 6　脱植民地化（2）：中東 7　非同盟・中立運動 8　アジア冷戦における中ソ対立 9　ベトナム戦争 10　米中和解 11　1970年代の地域紛争 12　新冷戦とアジア 13　経済発展と民主化 14　冷戦の終焉とアジア 15　まとめ

到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト	指定しない
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する
評価方法	コメント点 20%、試験 80%

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
本講義ではイギリス帝国の誕生、発展、そして解体までの歴史を、当時の国際関係（構造やプロセス）と関連づけながら概観していく。まずは帝国、帝国主義、脱植民地化の定義や国際政治上の意味について説明した上で、イギリス帝国の歴史を概観する。続いて、より詳細にイギリス帝国の誕生と発展のプロセスを振り返り、最後に東南アジア、南アジア、中東、南太平洋における脱植民地化の進展を具体的に検証していく。 講義を進めるにあたっては、帝国とはいったい何か、そして帝国と当時の国際関係にはどのような関係が存在したのか、さらには帝国の解体、脱植民地化と戦後の国際関係（冷戦）がどのように影響を及ぼしあったのか、などを念頭に置きながら、イギリス帝国の歴史を振り返っていく。 イギリス帝国の歴史を振り返ることを通じて、イギリス帝国についての理解を深めるだけでなく、帝国の存在やその解体（を考えること）が現代国際関係にどのようなインプリケーションを持っているのか、自分なりの考え方を持つことができるであろう。	1. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 2. 国際政治と帝国・脱植民地化① 3. 国際政治と帝国・脱植民地化② 4. 国際政治と帝国・脱植民地化③ 5. 国際政治と帝国・脱植民地化④ 6. 国際政治と帝国・脱植民地化⑤ 7. 前半の授業のまとめと質疑応答 8. イギリス帝国の誕生と発展①～英帝国の誕生（その１） 9. イギリス帝国の誕生と発展②～英帝国の誕生（その２） 10. イギリス帝国の誕生と発展③～英帝国の再編（その１） 11. イギリス帝国の誕生と発展④～英帝国の再編（その２） 12. イギリス帝国の誕生と発展⑤～英帝国の発展（その１） 13. イギリス帝国の誕生と発展⑥～英帝国の発展（その２） 14. イギリス帝国の解体、脱植民地化（総論） 15. 授業の総括

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったグローバル社会に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までに授業内容と疑問点をまとめておくこと。
テキスト	川北稔・木畑洋一編『イギリスの歴史　帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年。（図書館所蔵）
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。
評価方法	リアクションペーパーの提出（40%）と学期末試験（論述形式、60%）による。

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は講義形式で進める。サブ・サハラ・アフリカ（SSA）に着目し、歴史、政治、経済、社会などの側面から国際社会におけるアフリカの果たしうる役割について考察する。 数多くのアフリカ諸国が独立を果たした1960年は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から半世紀以上が経過した現在、アフリカはこれまでの援助の対象としての立場から脱却し、豊富な天然資源、一部でみられる順調な経済成長、労働人口の増加などに着目し、世界最後のフロンティアとして国際社会の関心を集めるようになった。実情はどうだろうか。 この授業では、アフリカを取り巻く国際関係を理解するのに必要な視点また情報を提供する。映像資料を積極的に用い、地理的・心理的に未だ遠いアフリカを身近に感じてもらいたい。	1. 講義概要の説明 2. 多様なアフリカ 3. つくられたアフリカ像 4. 奴隷貿易の歴史・影響 5. 植民地支配の歴史 6. 植民地支配の影響 7. 冷戦とアフリカ 8. 国際支援と国家建設 9. 経済的条件付けと自由貿易 10. 政治的条件付けと民主化 11. 蔓延る貧困 12. 食糧問題 13. 環境問題 14. 地域統合 15. 授業総括

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったグローバル社会に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で用いる資料をポータルサイトに掲載する。予習・復習を怠らないこと。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	適宜配布する。
評価方法	レポート 30%、学期末試験 70%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「紛争・平和と国際協力」をテーマとして、理論(conflict theories)と国際社会における実践を考察しながら、平和を実現するために国際社会が歩んできた歴史を理解するとともに、現代、国際社会が直面する課題とその解決策について考えます。 講義は3つのパートから構成されます。まず、パート1で、紛争・平和の歴史と理論を学んだ後、パート2で平和実現に向けた国際社会の活動を、国際機構、法、軍事介入、人道援助、並びに開発援助の5つの観点から考察し、それぞれの分野での成果と課題を検討します。パート3では、日本の政府開発援助(開発協力)で実施されてきた平和構築支援について、その政策と実践について学びます。事例研究として、カンボジアやフィリピン（ミンダナオ）等の具体的な平和構築活動を紹介し、平和実現のための国際協力の考え方が各国の事例においてどのように反映されているかを検討します。	1. 講義の概要 2. 紛争の歴史と変容 3. 冷戦後の新しい紛争(1) 4. 冷戦後の新しい紛争(2) 5. 平和のための国際機構(1) 6. 平和のための国際機構(2) 7. 平和のための法 8. 人間の安全保障の考え方(1) 9. 人間の安全保障の考え方(2) 10. 軍事介入（保護する責任） 11. 人道援助 12. 開発援助（開発協力） 13. 開発援助（開発協力）の事例研究 14. 開発援助（開発協力）の事例研究 15. 講義のまとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったグローバル社会に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから講義に臨んでください。
テキスト	適宜、授業内で紹介します。
参考文献	適宜、授業内で紹介します。
評価方法	定期試験　100%

13 年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、国際関係に関わる日本語と英語の両方の文献を用いて国際情勢を分析し、多角的な視点を身に付けることを目的とする。具体的には、国際支援、持続可能な開発目標（SDGs)、人の移動、食糧安全保障など国際社会が直面する事象をテーマとして扱う。資料としては、新聞記事、論文、国連決議、国際機関の発行する報告書などを用いる。 この授業を通じて、文献（一次資料・二次資料）調査方法、レポート執筆方法を身に付けてもらいたい。またディスカッションの時間も設ける。学期完結の授業であり、授業効率化のため、毎回の授業で課題を課す。	1. 授業概要の説明 2. レポート・プレゼンテーション方法 3. 文献調査方法 4. 広がる不平等 5. 核拡散 6. 持続可能な開発目標（SDGs） 7. 国際支援の形–伝統的ドナー 8. 国際支援の形–新ドナー 9. 人の移動–移民 10. 人の移動–ディアスポラ・コミュニティ 11. 食糧安全保障–土地争奪 12. 食糧安全保障–水問題 13. 自由貿易 14. 地域統合の行方 15. 授業総括

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で用いる資料をポータルサイトに掲載するので、予習・復習を怠らないこと。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	適宜配布する。
評価方法	課題 20%、授業貢献度 20%、小テスト 20%、学期末レポート 40%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「人間の安全保障（human security）」のコンセプトの基礎を理解した上で、東アジア各国において人間の安全保障がどのように理解され、実践されているかについて国別の論文を読み解きながら、各国の比較研究を行います。 1. 授業は、グループによるプレゼン(英語または日本語)とクラス討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ・ワークによってプレゼンの準備・発表を行います。 授業の流れは、プレゼン内容（対象国・論文）の決定→グループ準備作業→授業でのプレゼン→全体での討論・まとめ。学期の最後には５分間の課題スピーチを行います。授業内容・教材の詳細は、最初の授業で説明します。東南アジア各国の情勢に関心のある学生の参加を歓迎します。	1. Orientation 2. Introduction: Lecture on human security 1 3. Introduction: Lecture on human security 2 4. Human security in Japan 5. Human security in Cambodia 1 6. Human security in Cambodia 2 7. Human security in Indonesia 1 8. Human security in Indonesia 2 9. Human security in Malaysia 1 10. Human security in Malaysia 2 11. Human security in Myanmar 1 12. Human security in Myanmar 2 13. Review of the studied papers 14. Speech on human security 15. Speech on human security

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	JICA 研究所のワーキング・ペーパー・シリーズ “Human Security in Practice: East Asian Experience” 詳細については、最初の授業で説明します。
参考文献	適宜、授業内で紹介します
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表４０％　&　授業中討論への参加度(スピーチを含む)　６０％

13 年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「人間の安全保障（human security）」のコンセプトの基礎を理解した上で、東アジア各国において人間の安全保障がどのように理解され、実践されているかについて国別の論文を読み解きながら、各国の比較研究を行います。 1. 授業は、グループによるプレゼン(英語または日本語)とクラス討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ・ワークによってプレゼンの準備・発表を行います。 授業の流れは、プレゼン内容（対象国・論文）の決定→グループ準備作業→授業でのプレゼン→全体での討論・まとめ。学期の最後には５分間の課題スピーチを行います。授業内容・教材の詳細は、最初の授業で説明します。東南アジア各国の情勢に関心のある学生の参加を歓迎します。	1. Orientation 2. Review of the concept of human security 3. Human security in Philippines 1 4. Human security in Philippines 2 5. Human security in Singapore 1 6. Human security in Singapore 2 7. Human security in Thailand 1 8. Human security in Thailand 2 9. Human security in Vietnam 1 10. Human security in Vietnam 2 11. Human security in South Korea 12. Human security in China 13. Review of the studied papers 14. Speech on human security 15. Speech on human security

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	JICA 研究所のワーキング・ペーパー・シリーズ “Human Security in Practice: East Asian Experience”
参考文献	適宜、授業内で紹介します
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表４０％　&　授業中討論への参加度(スピーチを含む)　６０％

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏の政治・経済 a）	担当者	大重　光太郎

講義目的、講義概要	授業計画
2017年秋の連邦議会選挙では二大政党が大きく議席を減らすなか、極右政党が大きく伸長し初めて国会に議席を獲得しました。政権合意は難航し、今後も政治的な不安定化が予想されます。ドイツはEU最大の経済大国ですが、ドイツの帰趨はイギリスのEU離脱、難民問題で揺れるヨーロッパや国際政治に大きな影響を及ぼすことになるでしょう。ドイツ政治はどのような方向に動こうとしているのでしょうか。 春学期はこうした動きを横目に見ながら、政治領域に注目し、様々な切り口から考えていきます。毎回のテーマごとにドイツのあり方を国際比較のなかで特徴づけ、歴史と現状、現在の問題点などを見ていきます。 日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。	1. ガイダンス――講義の概要 2. 連邦主義：連邦制－単一国家、中央集権－地方自治 3. 立法：間接民主主義－直接民主主義 4. 行政：大統領制－議院内閣制 5. 司法：一元性－多元性、憲法裁判所 6. メディア：第四権力のあり方 7. 中央銀行：行政からの自立か、従属か 8. コーポラティズム：国際比較とドイツの特徴 9. 社会国家：ドイツの福祉国家の特徴は？ 10. 選挙：小選挙制か、比例代表制か 11. 政党：どのような政党があるか？ 12. 社会主義－共産主義－社会民主主義、東ドイツ 13. ポピュリズム：民主主義と何が違うか？ 14. 市民運動、住民参加 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。
テキスト	特定のテキストは使用しない。テーマごとに適宜指示する。
参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治　統一後の 20 年』ミネルヴァ書房、2014 年。
評価方法	毎回コメントペーパーを提出してもらう。学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏の政治・経済 b）	担当者	大重　光太郎

講義目的、講義概要	授業計画
一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。ドイツでは福祉国家を表す場合、Sozialstaat（社会国家）という言葉がよく用いられています。ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化のなか、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。 秋学期は、経済・社会の領域を対象とし、様々な切り口から考えていきます。毎回のテーマごとにドイツのあり方を国際比較のなかで特徴づけ、歴史と現状、現在の問題点などを見ていきます。 日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。	1. ガイダンス――講義の概要 2. 職業教育：職業資格の意味 3. 大学教育：勉強と就職の関係は？ 4. 教育と雇用へのつながり：日本との比較 5. 雇用システム：内部労働市場か、外部労働市場か 6. ワーク・ライフ・バランス：働き方の比較 7. 女性の就労：ドイツの特徴は？何が課題か？ 8. 労働組合：ドイツの特徴は？ 9. 労働者文化：特徴は？どのように変化してきたか？ 10. 経済民主主義、共同決定、コーポレート・ガバナンス 11. グローバリズム：メリットか、デメリットか？ 12. ネオ・リベラリズム：市場は善か、悪か？ 13. 貧困化：なぜ拡大するのか？課題は？ 14. 少子・高齢化：どのように対応すべきか？ 15. 外国人（移民、難民）：統合に限界はあるか？

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。
テキスト	特定のテキストは使用しない。テーマごとに適宜指示する。
参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治　統一後の 20 年』ミネルヴァ書房、2014 年。
評価方法	毎回コメントペーパーを提出してもらう。学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅰ）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、フランスの政治経済についての基礎的な知識の習得を目的とする。 学期の前半では、第四共和政期までのフランスの政治経済の変遷を歴史的に辿ったうえで、第五共和政の政治制度の特徴について学んでいく。さらに、第五共和政期については、歴代大統領の下で、それぞれどのような政策が実施されたかを確認する。学期の後半では、いくつかのトピックを取り上げて、フランス経済の現在の状況について検討していきたい。	1. ガイダンス 2. 第二帝政以前 3. 第三共和政からヴィシー期 4. 第四共和政期 5. 第五共和政の成立と政治制度 6. ドゴール、ポンピドゥー、ジスカールデスタン 7. ミッテラン時代 8. シラク時代 9. サルコジから現在まで 10. 戦後のフランス経済 11. 失業問題 12. 産業構造 13. 税制 14. フランスの国際競争力 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。
テキスト	テキストは用いない。
参考文献	参考文献は授業中に紹介する。
評価方法	複数回のテスト（90%）と授業への参加度（10%）によって評価する。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅱ）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきた。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を担ってきた。本講義では、第2次世界大戦以前から今日のEUに至るまでの過程において、ヨーロッパ統合構想にフランスがどのように関わってきたかを学んだうえで、ドイツ一人勝ちと言われる現在のEUにおけるフランスの役割について考えていきたい。	1. ガイダンス 2. ヨーロッパ構想の出現から第1次大戦まで 3. 戦間期のヨーロッパ構想 4. 第2次大戦期のヨーロッパ構想 5. 戦後復興と経済近代化 6. シューマン・プランとECSC 7. 欧州防衛共同体構想 8. EECの設立に向けて 9. ドゴールとEEC 10. ドゴールとイギリス 11. 1970年代のフランスと統合 12. ミッテラン時代の統合政策 13. EU誕生から今日まで 14. マクロン大統領とEU 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。
テキスト	テキストは用いない。
参考文献	参考文献は授業中に紹介する。
評価方法	複数回のテスト（70%）と授業への参加度（30%）によって評価する。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏の地域・環境問題 a）	担当者	岡村　りら

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。 　テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的、多角的に考察します。 日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。 ＜講義概要＞ 　ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学びます。 　春学期は主に、身近な問題である廃棄物・リサイクルを通じて環境問題への理解を深めます。	1.　ガイダンス 2.　環境問題・環境政策の概要 3.　ドイツ環境行政の歴史としくみ 4.　各主体（緑の党・企業・NGO・市民など）の役割 5.　廃棄物・リサイクル（1） 6.　廃棄物・リサイクル（2） 7.　廃棄物・リサイクル（3） 8.　放射性廃棄物・核燃料サイクル（1） 9.　放射性廃棄物・核燃料サイクル（2） 10.　放射性廃棄物・核燃料サイクル（3） 11.　自然/動物保護 12.　食と環境（有機農業） 13.　エコマーク 14.　まとめ 15.　まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい。
テキスト	資料は適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は必要に応じて指示します。
評価方法	学期末試験 70%、平常点、授業への参加度 30%に基づいて評価します

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏の地域・環境問題 b）	担当者	岡村　りら

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。 　テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的、多角的に考察します。 日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。 ＜講義概要＞ 　ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学びます。 　秋学期は主に地球規模の環境問題について取り上げ、環境問題と他の社会問題とのつながりについて考察します。	1.　ガイダンス 2.　旧東ドイツの環境問題 3.　グローバル化と環境問題 4.　地球環境問題とは（1） 5.　地球環境問題とは（2） 6.　国際交渉と日本の役割（1） 7.　国際交渉と日本の役割（2） 8.　気候変動とエネルギー政策 9.　再生可能エネルギー（1） 10.　再生可能エネルギー（2） 11.　気候変動と大気汚染・交通政策 12.　環境と観光 13.　環境教育 14.　環境意識 15.　まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい。
テキスト	資料は適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は必要に応じて指示します。
評価方法	学期末試験 70%、平常点、授業への参加度 30%に基づいて評価します。 詳細は第 1 回の授業（ガイダンス）に説明をします。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅰ）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。 はじめにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。 政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。	1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. フランス政治史① 3. フランス政治史② 4. フランス政治史③ 5. 現代フランスの政治システムの概要 6. 議会 7. 官僚制 8. 政党システム① 9. 政党システム② 10. 選挙制度 11. 政治的リーダーシップ 12. 政策決定過程 13. 地方分権改革の動向 14. 最近の政治動向 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。
テキスト	指定しない。
参考文献	大山礼子『フランスの政治制度（改訂版）』東信堂、2013 年。　その他、授業中に紹介。
評価方法	小テスト 10%×2、期末テスト 80%。テストの無断欠席は 0 点扱い。 やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅱ）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、年金や医療保険などのフランスの社会保障制度の仕組みと最近の改革の動向を日本と比較しながら学びます。 フランスは北欧諸国と並ぶ巨大な福祉国家であり、年金や医療保険などの社会保障制度の改革は政治・経済に関する議論の中心に位置していると言っても過言ではありません。日本でも、少子高齢化、雇用や家族の不安定化などを背景として社会保障改革が喫緊の課題になっています。 そこでこの講義では、まず社会保障とは何を目的とした制度なのかを明らかにします。次に年金や医療保険などの個々の社会保障制度の基本的な仕組みと、日仏における改革動向について解説します。講義と試験を通じて、年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようになることを目指します。	1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. フランスの社会保障システム 3. フランスの経済・人口・社会の動向 4. 年金① 5. 年金② 6. 中間まとめ＆年金③ 7. 医療保険① 8. 医療保険② 9. 医療保険③ 10. 高齢者介護 11. 雇用政策（失業・非正規雇用対策） 12. 最低所得保障（生活保護） 13. 家族政策（子ども手当・保育サービス） 14. 社会保障財政 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。
テキスト	指定しない。
参考文献	土田武史編『社会保障論』成文堂、2015 年。　その他、授業中に紹介。
評価方法	中間テスト 30%、期末テスト 70%。テストの無断欠席は 0 点扱い。 やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。

2018 年度

第二外国語（英語プラス1言語）
【全学共通授業科目】
シラバス

09 年度以降	ドイツ語（Ｉａ 総合 1）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1.　ドイツ語学習への導入 2.　Lektion 1 (1) 3.　Lektion 1 (2) 4.　Lektion 2 (1) 5.　Lektion 2 (2) 6.　Lektion 3 (1) 7.　Lektion 3 (2) 8.　Lektion 4 (1) 9.　Lektion 4 (2) 10.　Lektion 5 (1) 11.　Lektion 5 (2) 12.　Lektion 6 (1) 13.　Lektion 6 (2) 14.　Lektion 7 (1) 15.　Lektion 7 (2)

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト	Friedrike Jin ほか :『prima plus＋』A1（朝日出版社）2016 年
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ｉｂ 総合 1）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1.　既習事項の復習と秋学期への導入 2.　Lektion 8 (1) 3.　Lektion 8 (2) 4.　Lektion 9 (1) 5.　Lektion 9 (2) 6.　Lektion 10 (1) 7.　Lektion 10 (2) 8.　Lektion 11 (1) 9.　Lektion 11 (2) 10.　Lektion 12 (1) 11.　Lektion 12 (2) 12.　Lektion 13 (1) 13.　Lektion 13 (2) 14.　Lektion 14 (1) 15.　Lektion 14 (2)

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト	Friedrike Jin ほか :『prima plus＋』A1（朝日出版社）2016 年
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ｉａ 総合 2）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1.　ドイツ語学習への導入 2.　Lektion 1 (1) 3.　Lektion 1 (2) 4.　Lektion 2 (1) 5.　Lektion 2 (2) 6.　Lektion 3 (1) 7.　Lektion 3 (2) 8.　Lektion 4 (1) 9.　Lektion 4 (2) 10.　Lektion 5 (1) 11.　Lektion 5 (2) 12.　Lektion 6 (1) 13.　Lektion 6 (2) 14.　Lektion 7 (1) 15.　Lektion 7 (2)

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト	Friedrike Jin ほか :『prima plus＋』A1（朝日出版社）2016 年
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ｉｂ 総合 2）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1.　既習事項の復習と秋学期への導入 2.　Lektion 8 (1) 3.　Lektion 8 (2) 4.　Lektion 9 (1) 5.　Lektion 9 (2) 6.　Lektion 10 (1) 7.　Lektion 10 (2) 8.　Lektion 11 (1) 9.　Lektion 11 (2) 10.　Lektion 12 (1) 11.　Lektion 12 (2) 12.　Lektion 13 (1) 13.　Lektion 13 (2) 14.　Lektion 14 (1) 15.　Lektion 14 (2)

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト	Friedrike Jin ほか :『prima plus＋』A1（朝日出版社）2016 年
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ｉａ 総合 3）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです映像と音声はすべて Web の専用ページで PC でもスマホでも視聴できるようになっています。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1.　ドイツ語学習への導入 2.　Lektion 1 (1) 3.　Lektion 1 (2) 4.　Lektion 2 (1) 5.　Lektion 2 (2) 6.　Lektion 3 (1) 7.　Lektion 3 (2) 8.　Lektion 4 (1) 9.　Lektion 4 (2) 10.　Lektion 5 (1) 11.　Lektion 5 (2) 12.　Lektion 6 (1) 13.　Lektion 6 (2) 14.　ポイントの総復習 15.　まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht's nach Berlin! und danach』（朝日出版社）2017 年
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ｉｂ 総合 3）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。映像と音声はすべて Web の専用ページで PC でもスマホでも視聴できるようになっています。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1.　既習事項の復習と新学期への導入 2.　Lektion 7 (1) 3.　Lektion 7 (2) 4.　Lektion 8 (1) 5.　Lektion 8 (2) 6.　Lektion 9 (1) 7.　Lektion 9 (2) 8.　Lektion 10 (1) 9.　Lektion 10 (2) 10.　Lektion 11 (1) 11.　Lektion 11 (2) 12.　Lektion 12 (1) 13.　Lektion 12 (2) 14.　ポイントの総復習 15.　まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht's nach Berlin! und danach』（朝日出版社）2017 年
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱa 総合 1）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 9 (1) 3. Lektion 9 (2) 4. Lektion 10 (1) 5. Lektion 10 (2) 6. Lektion 11 (1) 7. Lektion 11 (2) 8. Lektion 12 (1) 9. Lektion 12 (2) 10. Lektion 12 (3) 11. Lektion 13 (1) 12. Lektion 13 (2) 13. Lektion 13 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱb 総合 1）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 14 (1) 3. Lektion 14 (2) 4. Lektion 15 (1) 5. Lektion 15 (2) 6. Lektion 16 (1) 7. Lektion 16 (2) 8. Lektion 17 (1) 9. Lektion 17 (2) 10. Lektion 17 (3) 11. Lektion 18 (1) 12. Lektion 18 (2) 13. Lektion 18 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱa 総合 2）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 9 (1) 3. Lektion 9 (2) 4. Lektion 10 (1) 5. Lektion 10 (2) 6. Lektion 11 (1) 7. Lektion 11 (2) 8. Lektion 12 (1) 9. Lektion 12 (2) 10. Lektion 12 (3) 11. Lektion 13 (1) 12. Lektion 13 (2) 13. Lektion 13 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱb 総合 2）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 14 (1) 3. Lektion 14 (2) 4. Lektion 15 (1) 5. Lektion 15 (2) 6. Lektion 16 (1) 7. Lektion 16 (2) 8. Lektion 17 (1) 9. Lektion 17 (2) 10. Lektion 17 (3) 11. Lektion 18 (1) 12. Lektion 18 (2) 13. Lektion 18 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱa 総合 3）	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト	生駒美喜ほか :『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017 年
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱb 総合 3）	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト	生駒美喜ほか :『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017 年
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅲa 応用）	担当者	Ｓ．メルテンス

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語Ⅲ」を終えた時点でGoethe-InstitutのZD (Zertifikat Deutsch)および独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにしたDVD教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 1 (1) 3. Abschnitt 1 (2) 4. Abschnitt 2 (1) 5. Abschnitt 2 (2) 6. Abschnitt 3 (1) 7. Abschnitt 3 (2) 8. Abschnitt 4 (1) 9. Abschnitt 4 (2) 10. Abschnitt 5 (1) 11. Abschnitt 5 (2) 12. Abschnitt 6 (1) 13. Abschnitt 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト	Treffpunkt Berlin 1　プリントを配布します。
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅲb 応用）	担当者	Ｓ．メルテンス

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語Ⅲ」を終えた時点でGoethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Abschnitt 7 (1) 3. Abschnitt 7 (2) 4. Abschnitt 8 (1) 5. Abschnitt 8 (2) 6. Abschnitt 9 (1) 7. Abschnitt 9 (2) 8. Abschnitt 10 (1) 9. Abschnitt 10 (2) 10. Abschnitt 11 (1) 11. Abschnitt 11 (2) 12. Abschnitt 12 (1) 13. Abschnitt 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト	Treffpunkt Berlin 1　プリントを配布します。
参考文献	
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	フランス語（Ｉａ 総合 1）	担当者	横地　卓哉

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（Ｉａ 総合 1）は日本人講師、（Ｉａ 総合 2）はフランス人講師が担当する。 この（Ｉａ 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ｉｂ 総合 1）	担当者	横地　卓哉

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（Ｉｂ 総合 1）は日本人講師、（Ｉｂ 総合 2）はフランス人講師が担当する。 この（Ｉｂ 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ｉａ 総合 2）	担当者	M．デルヴロワ

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ｉａ 総合１：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision, bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ib 総合 2）	担当者	M．デルヴロワ

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ｉｂ 総合１：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ｉａ応用）	担当者	林　ゆき

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、フランス語の基本的な運用能力の習得を目指します。フランス語力の基礎となる最も初歩の文法事項を学びながら、聞き取り、語彙や会話表現、発音の学習も行います。春学期終了時に仏検（フランス語技能検定試験）５級に合格できるレベル達成を目指し、仏検の対策として過去問の演習や模擬試験を行います。また、言語の学習を通して、フランス語圏の文化や日常に関する知識・関心も高めていきましょう。	１．　アルファベ、挨拶、綴り字の読み方 ２．　名詞の性と数、冠詞 ３．　主語人称代名詞、動詞êtreとavoir ４．　-er動詞、否定文、疑問文 ５．　形容詞 ６．　指示形容詞、所有形容詞、強勢形 ７．　-ir動詞、動詞allerとvenir、定冠詞の縮約 ８．　命令法、前置詞の用法 ９．　不規則動詞 10.　非人称構文 11.　応答問題（１）疑問詞を用いない疑問文 12.　応答問題（２）疑問詞を用いる疑問 13.　対話文読解 14.　対話文聞きとり 15.　まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次回授業で扱う章の文法説明に目を通し、新出単語の意味を確認しておく。宿題として指示された練習問題を解き、授業で学んだ文法事項や語彙を復習する。
テキスト	テキスト：服部悦子ほか『≪プティ≫シェリーとフランス語―仏検５級・４級対応フランス語文法』（三修社）
参考文献	参考文献：フランス語の辞書、参考書については授業中に適宜指示します。
評価方法	授業への積極的な参加 30%、小テストあるいは中間試験の成績 30%、最終試験 40%

09 年度以降	フランス語（Ｉｂ応用）	担当者	林　ゆき

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、フランス語の総合的な運用能力の習得を目指します。フランス語力の基礎となる文法事項を学びながら、聞き取り、語彙や会話表現、発音の学習も行います。秋学期終了時に仏検（フランス語技能検定試験）４級に合格できるレベル達成を目指し、仏検の対策として過去問の演習や模擬試験を行います。また、言語の学習を通して、フランス語圏の文化や日常に関する知識・関心も高めていきましょう。	１．　前学期の復習 ２．　不定詞を伴って用いられる動詞 ３．　補語人称代名詞 ４．　比較級・最上級 ５．　現在分詞とジェロンディフ ６．　中性代名詞 ７．　直説法複合過去（１） ８．　直説法複合過去（２） ９．　関係代名詞、強調構文 10.　代名動詞 11.　応答問題（１）計画、気持ちを言う、たずねる 12.　応答問題（２）状況、日常について話す 13.　対話文読解 14.　対話文聞きとり 15.　まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次回授業で扱う章の文法説明に目を通し、新出単語の意味を確認しておく。宿題として指示された練習問題を解き、授業で学んだ文法事項や語彙を復習する。
テキスト	テキスト：服部悦子ほか『≪プティ≫シェリーとフランス語―仏検５級・４級対応フランス語文法』（三修社）
参考文献	参考文献：フランス語の辞書、参考書については授業中に適宜指示します。
評価方法	授業への積極的な参加 30%、小テストあるいは中間試験の成績 30%、最終試験 40%

09 年度以降	フランス語（Ⅱa 総合 1）	担当者	平井　康和

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ⅰa 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ⅱa 総合 1) は日本人講師、(Ⅱa 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（Ⅱa 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ⅱb 総合 1）	担当者	平井　康和

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ⅰb 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ⅱb 総合 1) は日本人講師、(Ⅱb 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（Ⅱb 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ⅱa 総合 2）	担当者	Ｆ．Ｘ．レット

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ⅰa 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ⅱa 総合 1) は日本人講師、(Ⅱa 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（Ⅱa 総合 2）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ⅱb 総合 2）	担当者	Ｆ．Ｘ．レット

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ⅱb 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ⅱb 総合 1) は日本人講師、(Ⅱb 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（Ⅱb 総合 2）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

08 年度以降	フランス語（Ⅱa 応用）	担当者	竹内　久雄

講義目的、講義概要	授業計画
(1) 初級文法の知識をフランス語文を読むことにつなげる．(2)世界のフランス語圏についての基本的な知識を身につけてもらう．(3) 言語を通じてフランス文化の流れ，現代フランス事情を知る．	(1) 授業の説明，履修者のフランス語力判定． (2) 1 課会話．聞き取り．作文．名詞関連の文法復習． (3) 1 課本文．名詞関連の文法復習． (4) 2 課会話．聞き取り．作文．être と avoir 復習． (5) 2 課本文．être と avoir 関連の文法復習． (6) 3 課会話．聞き取り．作文，er 動詞復習． (7) 3 課本文．er 動詞復習． (8) 復習と応用． (9) 4 課会話．聞き取り．作文．不規則動詞復習 1． (10) 4 課本文．不規則動詞復習． (11) 5 課会話．聞き取り．作文．不規則動詞復習 2． (12) 5 課本文．不規則動詞復習 2． (13) 復習と応用． (14) 復習と応用 (15) 総まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には，教科書巻末の各課ごとの文法まとめを読んでおいてください．事後は，テキストを構文という観点から復習してください．興味の持てた内容についてはいろいろ調べてもらいたいと思います
テキスト	小松　祐子，フランコフォニーへの旅（駿河台出版社）
参考文献	平野千果子，フランス植民地主義の歴史，人文書院
評価方法	平常点（発表，宿題など：50%）と期末試験（50%）

08 年度以降	フランス語（Ⅱb 応用）	担当者	竹内　久雄

講義目的、講義概要	授業計画
(1) 初級文法の知識をフランス語文を読むことにつなげる．(2)世界のフランス語圏についての基本的な知識を身につけてもらう．(3) 言語を通じてフランス文化の流れ，現代フランス事情を知る．	(1) 授業の説明，前期のまとめ． (2) 6 課会話．聞き取り．作文．代名詞，代名動詞復習． (3) 6 課本文．代名詞，代名動詞復習． (4) 7 課会話．聞き取り．作文．複合過去復習． (5) 7 課本文．複合過去復習． (6) 8 課会話．聞き取り．作文，半過去復習． (7) 8 課本文．半過去復習． (8) 復習と応用． (9) 9 課会話．聞き取り．作文．単純未来復習． (10) 9 課本文．単純未来復習． (11) 10 課会話．聞き取り．作文．条件法，接続法復習． (12) 10 課本文．条件法，接続法復習． (13) 復習と応用 (14) 復習と応用 (15) 総まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には，教科書巻末の各課ごとの文法まとめを読んでおいてください．事後は，テキストを構文という観点から復習してください．興味の持てた内容についてはいろいろ調べてもらいたいと思います
テキスト	小松　祐子，フランコフォニーへの旅（駿河台出版社）
参考文献	平野千果子，フランス植民地主義の歴史，人文書院
評価方法	平常点（発表，宿題など：50%）と期末試験（50%）

09 年度以降	フランス語（Ⅲa 応用）	担当者	C．ラビニャス

講義目的、講義概要	授業計画
Le cours a pour but de preparer à l'examen de DELF. Nous mettrons l'accent sur l'oral afin de rendre la classe dynamique. Dans ce but nous travaillerons sur des sons et des vidéos avec lesquels nous approfondirons la compréhension et la production orales. Ces exemples permettent le developpement de la prononciation et le naturel. De plus, nous travaillerons l'écrit, aussi bien la rédaction que la compréhension écrite, en particulier dans la mise en forme de textes courts sur des sujets quotidiens.	1- 自己紹介する、あいさつする 2- 人や場所について尋ねる 3- 好きなものについて話す 4- 余暇について話す 5- フランスのポップミュージックを聞いて自分の感想を言う 6- どこにいつ何時に何をしに行くか尋ねる 7- 一日の生活について話す 8- 習慣について話す 9- 勉強と時間割について質問する 10- フランス語での e-mail の作り方を勉強する 11- 街で道に迷ったときの聞き方を勉強する 12- 買い物をする、値段を尋ねる 13- 休暇の予定について話す 14- Vidéo 15- Révision

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。
テキスト	なし　プリントを配布する
参考文献	なし
評価方法	定期試験：40%、宿題：40%、積極的な参加：20%

09 年度以降	フランス語（Ⅲb 応用）	担当者	C．ラビニャス

講義目的、講義概要	授業計画
Le cours a pour but de preparer à l'examen de DELF. Nous mettrons l'accent sur l'oral afin de rendre la classe dynamique. Dans ce but nous travaillerons sur des sons et des vidéos avec lesquels nous approfondirons la compréhension et la production orales. Ces exemples permettent le developpement de la prononciation et le naturel. De plus, nous travaillerons l'écrit, aussi bien la rédaction que la compréhension écrite, en particulier dans la mise en forme de textes courts sur des sujets quotidiens.	1- この前の休暇について話す 2- 先週末に何をしたか尋ねる 3- Imparfait 4- どちらが好きか言う 5- 自分について話す（年齢や勉強科目） 6- 好みについて話し合う 7- 誰かを招待する、OK する、断る 8- フランス語でディベートする 9- フランスの映画についてディベートする 10- 友達と見に行く映画を選ぶ 11- レストランで注文する、質問する 12- 各国の文化的習慣を比べる 13- インターネットで情報交換する 14- したいことを言う 15- Révision

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。
テキスト	なし　プリントを配布する
参考文献	なし
評価方法	定期試験：40%、宿題：40%、積極的な参加：20%

09 年度以降	スペイン語（Ｉａ 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉ）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、それにより簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目指す。 （総合1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語を習得することを目的とする。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 なお、この授業はスペイン語（Ｉａ 総合2）とのペア授業である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar動詞の使い方 ⑦ ser, estar動詞の使い方 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑮ 今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉｂ 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉb総合1）は、スペイン語（Ｉａ 総合1, 2）の継続の授業である。 直説法未来形・過去未来形までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し聞き取る能力の一層の向上を目指す。直説法までの初級スペイン語文法の学習はすべて完了する。 （総合1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現を習得し、日常生活に支障がない程度に書きくこと、話すこと、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 なお、この授業はスペイン語（Ｉb総合2）とのペア授業である。	① 春学期の復習 ② 動詞の活用---再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用---直説法点過去規則活用 ⑧ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑩ 動詞の活用---直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 受け身表現 ⑬ 動詞の活用---未来形・過去未来形 ⑭ 動詞の活用---未来形・過去未来形 ⑮ 今学期のまとめ

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉａ 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 総合 2）はスペイン語（Ｉａ 総合 1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（Ｉａ 総合1）と（Ｉａ 総合2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語（Ｉａ 総合1）に同じ。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor　Ｉ （青い表紙）” 朝日出版社
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉｂ 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 総合 2）の継続の授業である。 スペイン語（Ｉｂ 総合 2）はスペイン語（Ｉｂ 総合 1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（Ｉｂ 総合1）と（Ｉｂ 総合2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語（Ｉｂ 総合1）に同じ。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor　Ｉ （青い表紙）” 朝日出版社
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉａ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（I）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目ざす。 （会話）では、スペイン語（Ｉａ 総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉａ 総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉａ 総合1）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉｂ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 会話）の継続の授業である。 直説法未来・過去未来までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。直説法の初級スペイン語文法の学習を終える。 （会話）では、スペイン語（Ｉｂ 総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉｂ 総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉｂ 総合1）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	担当者が随時紹介する
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa会話1）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	担当者が随時紹介する
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	担当者が随時紹介する
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 会話 2）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	担当者が随時紹介する
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1 年目で未習の接続法を中心に扱う。また、命令表現を新たに学ぶとともに、点過去・線過去・現在完了・過去完了、未来・過去未来、関係詞、前置詞などの重要文法事項については重点的に復習し、より高度な表現力を身につける。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に 1 年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	テキスト：パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社
参考文献	担当者が随時紹介する
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 総合）の継続の授業である。 この授業では、初級文法のうち、1 年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、その他の重要な文法事項についての復習も行い、接続法現在までの初級文法の学習を完了する。より高度な表現方法を学び、表現力をさらに向上させることも重視する。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に 1 年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。この授業ではとくに予習が不可欠である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	テキスト：パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社
参考文献	担当者が随時紹介する
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅲa 応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲ）の授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目ざす。 なお、接続法過去、条件文など、スペイン語（Ⅱ）までに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	復習の際に使用することがあるので、スペイン語（Ⅱa, b 総合）で使用した教科書も持参のこと
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅲb 応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 応用）の継続の授業である。 この授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目ざす。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	復習の際に使用することがあるので、スペイン語（Ⅱa, b 総合）で使用した教科書も持参のこと
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	中国語（Ｉａ 講読・文法）	担当者	丸山　貴士

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及びその表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方、文法の基礎を学習し、平易な文章の読解ができることを目指す。 【講義概要】 ・週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・中国語の発音表記法であるローマ字を用いた“ピンイン”による表記法と発音のルールを知り、単語、フレーズ、文を音読できるようにする。 ・基本的な文型を学習し、作文練習などのドリルで知識を定着化し、さらに既習文型を用いた文章の読解をする。 ・1年間で初級レベルの語彙および基本的文法事項を学び、2年次でさらに発展した学習ができる基礎を作る。	1.　中国語とは？　授業の進め方など 2.　第1課　韻母1、韻母2、声母1、軽声 3.　第2課　声母2、鼻母音、声調変化① 4.　第3課　軽声2、変調②③、ｒ化、声調の組合せ　等 5.　第4課　“是”の文、〝吗〟疑問文、副詞“也”“都” 6.　第4課　人称代名詞 7.　第5課　〝Ｓ＋Ｖ＋Ｏ〟構造、姓名の言い方 8.　第5課　疑問詞疑問文、選択疑問文 9.　まとめ、試験　など 10.　第6課　名詞述語文、省略疑問文、省略可能な“的” 11.　第6課・第7課　形容詞述語文 12.　第7課　比較文、反復疑問文、指示代名詞のまとめ 13.　第8課　所在の“在”、存在・所有の“有” 14.　第8課　時点と時量、量詞 15.　まとめ、試験　など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　（金星堂）
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ｉｂ 講読・文法）	担当者	丸山　貴士

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、語彙を増やし、基礎的文法事項を学び「使える単語」「使える言い回し」を増やす。 【講義概要】 ・発音に留意し、「聞いて分かる単語」、「相手に通じる単語」＝「使える単語」にする。 ・基本文型を用いた作文練習などのドリルを通じて知識を定着させ、中国語の初級レベルの文法ルールを知る。 ・それによって平易な文章の読解力をつけ、併せて「文を書く」「話す」などの発信できる力をつけられるように練習する。	1.　春学期の復習、口慣らし 2.　第9課　前置詞、経験の“过”、数量補語 3.　第9課　方位詞・第10課　主述述語文、２つの“了” 4.　第10課“有点儿”と“一点儿”、願望・意思の助動詞 5.　第11課　進行の“在”、持続の“着”、連動文 6.　第11課　結果補語、{V／Adj.} を含む連体修飾節 7.　第12課　可能、必然・当然の助動詞、“是～的”構文 8.　第12課　副詞“就”と“才” 9.　まとめ、試験　など 10.　第13課　様態補語、二重目的語をとる動詞 11.　第13課　受身文、動詞の重ね型 12.　第14課　存現文、方向補語 13.　第14課　可能補語、“把”構文 14.　第15課　使役文、副詞“又”と“再”、“不是～吗” 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　（金星堂）
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ｉa 会話 1）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ｉａ（会話１）・中国語Ｉａ（会話２）は異なる科目として、異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とする。発音の基礎及び中国語の表記法―“简体字”（中国で現在使用されている漢字）、ピンイン（中国で使用されている発音表記法）―から学び始め、基本的な文法を学習し、平易な会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・ 週3コマの中で（会話１，２）は語学力の4分野「聴く」「話す」「読む」「書く」のうち、「聴く」「話す」―（会話）に重点を置く。 ・ 単語レベル・フレーズレベル・文レベルで正しい発音・声調で読めるように徹底する。 ・ 学習した文法項目を練習により身についた知識とする。	1.　中国語について、発音part１ 2.　発音　part２ 3.　発音　part３ 4.　第1課　你好！　あいさつと応答表現 5.　第2課　我叫张瑞　中国語の句読点 6.　第3課　我很喜欢日本“动漫” 7.　第4課　我们看电影，怎么样? 8.　まとめ・試験など 9.　第5課　我有点儿饿了 10.　第6課　学校附近有商店吗？ 11.　第7課　送礼物 12.　第8課　介绍家人 13.　第9課　打电话 14.　まとめ・試験など 15.　まとめ・試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『たのしいの中国語　愉快的汉语』首都大学東京中国文学研究室編　　金星堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ｉb 会話 1）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 ・ 春学期に引き続き、基本的な文法を学習しつつ、平易な会話ができることを目指す。 ・ 常用の文を暗記し、それらを用いて中国語の初級レベルの運用能力を身につけることを目指す。 【講義概要】 ・ 春学期に引き続き発音訓練を行い、発音・声調の矯正を徹底する。 ・ 学んだ語彙・文型を用いて、場面に応じて表現練習を重ね、会話力習得に重点を置く。	1.　春学期の復習、口慣らし 2.　第10課　回市内 3.　第11課　你吃得太多了 4.　第12課　飞机票买来了吗？ 5.　第13課　味道好极了 6.　第14課　我们是坐飞机去的 7.　まとめ・試験など 8.　まとめ・試験など 9.　第15課　请你来我家玩儿吧 10.　第16課　汉语不这么说 11.　第17課　进修就要结束了 12.　第18課　张瑞的日记 13.　<补充课文>　山口的电子邮件 14.　まとめ・試験など 15.　まとめ・試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『たのしいの中国語　愉快的汉语』首都大学東京中国文学研究室編　　金星堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ｉa 会話 2）	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法（ピンイン）、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。	1、 授業について･中国語とは [発音入門]声調、単母音 等 2、 子音一覧、有気音と無気音、巻舌音　等 3、 複母音、鼻母音、ピンインの読み方の注意点 4、 声調変化、ｒ化、　軽声の高さ　等 5、 第1課　人称代名詞、“是”述語文、“吗”疑問文　等 6、 第2課　姓名、疑問詞“**什么**”、形容詞述語文　等 7、 第3課、動詞述語文、“有”述語文、指示代名詞　等 8、 第4課　存在の“有”、疑問詞“**几**”、量詞　等 9、 まとめ、試験　等 10、第5課　年月日・曜日、語気助詞“了”・“**吧**”　等 11、第6課　時刻と時間量、連動文、完了の“了”　等 12、第7課　場所を表す代名詞、動詞“在”、介詞　等 13、第8課　動詞“**喜欢**”、経験の“**过**”、離合詞、V重畳 等 14、まとめ、試験　等 15、まとめ、試験、補足説明　等

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『**老师好！** - 王先生との出会い―』守屋宏則、陳浩、梁月軍　著　郁文堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ｉb 会話 2）	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての〝話せる・聴ける〟中国語の習得を目指す。 【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、置き換え練習、聞き取り練習、作文などを行う。 ・既習の文法事項を用いて、日常生活に関することを表現する。そのために必要な教科書以外の語彙を補充する。	1.　春学期の復習、発音練習　等 2.　第9課　比較の表現、程度補語、選択疑問文　等 3.　第10課　数量補語、動詞“**打算**”、助動詞“想”　等 4.　第11課　方向補語、“**请**”の兼語文、持続の“**着**”　等 5.　第12課　動作の進行、結果補語、V＋“**给**”　等 6.　第13課　助動詞“**能**”“**会**”“**可以**”、方位詞、“**一下**”等 7.　まとめ、試験　等 8.　試験、補足説明　等 9.　第14課　“把”文型、方向補語の（基本義と）派生義 10.　第14課　助動詞“要”、 副詞の“不用”、可能補語 11.　第15課　条件・仮定を表す“了”、副詞“可能” 12　第15課　“是…的”文型、疑問詞“**怎么**” 13.　第16課　近接未来の表現、様態補語、助動詞“**应该**” 14.　第16課　“**让**”“**叫**”“**使**”の 兼語文、連用修飾の“**地**” 15.　まとめ、試験　等

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする
テキスト	『**老师好！** - 王先生との出会い―』守屋宏則、陳浩、梁月軍　著　郁文堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱa 講読・文法）	担当者	明田川　聡士

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に中国語Ⅰを履修した学生を対象とし、学んだ文法の基礎を確認しつつ更に進んだレベルの文法項目を学習し、150字～350字程度の文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・ この時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・ 1年次より量的に多い文章に対し、語の意味を適切に把握し、学んだ文法事項を生かして文の意味を正確に読み取る練習をする。 ・ 学習した文法事項を用いた作文など練習問題を行い定着した知識とする。 ・ 1年次に引き続き発音練習を行い、一文ではなく文章を読む練習をする。 ・ 各課の内容に即して初歩的な中国事情を知る。	1. 1年次の復習、ガイダンス 2. 第1課 「大学生の週末」ポイント、本文 3. 第1課 練習問題 4. 第2課 「食習慣」ポイント、本文 5. 第2課 練習問題 6. 第3課 「北京の交通」ポイント、本文 7. 第3課 練習問題 8. まとめ、試験など 9. 第4課 「数字の好み」ポイント、本文 10. 第4課 練習問題 11. 第5課 「大学生のアルバイト事情」ポイント、本文 12. 第5課 練習問題 13. 第6課 「集団生活の利点」ポイント、本文 14. 第6課 練習問題 15. まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『知っておきたい中国事情　改訂版』　吉田泰謙　相原里美　葛婧　著　　白水社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱb 講読・文法）	担当者	明田川　聡士

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、中国語Ⅰで学んだ文法の基礎を確認しつつ、更に進んだレベルの文法項目を学習し、やや長い文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「読む」「書く」ことに重点を置く。 ・量的に多い文章に対し、学んだ文法事項を生かして単語・文の意味を正確に読み取り、文章の趣旨を的確に把握する練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文練習をおこなう、文章理解をもとに、内容についての中国語の質問に答えるなど、発信できる力を身につける練習をする。 ・春学期に引き続き発音練習を行う。 ・日本文化に大きな影響を与えてきた中国について知る。	1. 春学期の復習、ガイダンス 2. 第7課 「値切る」ポイント、本文 3. 第7課 練習問題 4. 第8課 「贈り物」ポイント、本文 5. 第8課 練習問題 6. 第9課 「中国式の結婚」ポイント、本文 7. 第9課 練習問題 8. まとめ、試験　など 9. 第10課 「共働き世帯」ポイント、本文 10. 第10課 練習問題 11. 第11課 「中国人の人への呼称」ポイント、本文 12. 第11課 練習問題 13. 第12課 「理想の職業」ポイント、本文 14. 第12課 練習問題 15. まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『知っておきたい中国事情　改訂版』　吉田泰謙　相原里美　葛婧　著　　白水社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱa 会話 1）	担当者	星野　芳欣

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていくことを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文の内容を理解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1.　復習課　　1年次の復習、 2.　第1課　「打电话」　課文、ポイント、ドリル 3.　第1課· 第2課　「接风」　課文、ポイント、ドリル 4.　第2課 5.　第3課　「介绍」　課文、ポイント、ドリル 6.　第3課・第4課「交通工具1」課文、ポイント、ドリル 7.　第4課 8.　まとめ、試験　など 9.　第5課　「换钱」　課文、ポイント、ドリル 10.　第5課・第6課　「吃饭」　課文、ポイント、ドリル 11.　第6課 12.　第7課　「生病」　課文、ポイント、ドリル 13.　第7課 14.　まとめ、試験、補足など 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　楊凱栄・張麗群著　白帝社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱb 会話 1）	担当者	星野　芳欣

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、文法の基礎を復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を読解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1.　春学期の復習、口慣らし 2.　第8課　「交通工具2」　課文、ポイント、ドリル 3.　第8課・第9課「网上聊天儿1」　課文、ポイント、ドリル 4.　第9課 5.　第10課　「网上聊天儿2 」 課文、ポイント、ドリル 6.　第10課・第11課　「买东西」　課文、ポイント、ドリル 7.　第11課 8.　第12課　「爱好」　課文、ポイント、ドリル 9.　まとめ、試験　など 10.　第13課　「坐火车」　課文、ポイント、ドリル 11.　第13課・14課「观光(游外滩)」　課文、ポイント、ドリル 12.　第14課 13.　第15課　「送行」　課文、ポイント、ドリル 14.　第15課 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする
テキスト	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　楊凱栄・張麗群著　白帝社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱa 会話 2）	担当者	秦　敏

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅱa（会話1）と中国語Ⅱa（会話2）は2つの科目として異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 中国語Ⅰで学んだ基礎の上に更に語彙・文法の知識を積み重ね、発音練習・会話練習により中国語の運用能力を高める。 【講義概要】 ・（会話1）とともに会話の習得に重点を置く。（会話2）では様々なテーマの会話を読み、“要点”で文法事項を学び、2種類の〝練習〟、〝温故知新〟により知識を定着させる。 ・単語レベル・フレーズレベル・文レベルでの発音練習を徹底する。	1.　1年次の復習、履修上の注意など 2.　第1課　「外国の祭日を祝う」　本文、要点 3.　第1課　練習　温故知新　朗読 4.　第2課　「ストレート」　本文、要点 5.　第2課　練習　温故知新　朗読 6.　第3課　「軍事訓練」　本文、要点 7.　第3課　練習　温故知新　朗読 8.　まとめ、試験など 9.　第4課　「レストラン」　本文、要点 10.　第4課　練習　温故知新　朗読 11.　第5課　「母親と息子」　本文、要点 12.　第5課　練習　温故知新　朗読 13.　第6課　「病人の付き添い」本文、要点 14.　第6課　練習　温故知新　朗読 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『大学生のための現代中国 12 話・4　』黄漢青　杉本元子著　白帝社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱb 会話 2）	担当者	秦　敏

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、更に語彙・文法の知識を積み重ね、発音練習・会話練習により中国語の運用能力を高める。 【講義概要】 ・（会話1）とともに会話の習得に重点を置く。（会話2）では様々なテーマの会話を読み、“要点”で文法事項を学び、2種類の〝練習〟、〝温故知新〟により知識を定着させる。 ・春学期に引き続き、発音練習―発音の矯正・声調―を徹底する。 ・自然なイントネーションを身につけ、ナチュラルスピードで音読できることを目指す。	1.　春学期の復習、口慣らし 2.　第7課　「ビザ」　本文、要点 3.　第7課　練習　温故知新　朗読 4.　第8課　「待遇」　本文、要点 5.　第8課　練習　温故知新　朗読 6.　第9課　「北京の空」　本文、要点 7.　第9課　練習　温故知新　朗読 8.　まとめ、試験など 9.　第10課　「ボーイフレンド」　本文、要点 10.　第10課　練習　温故知新　朗読 11.　第11課　「思いもよらなかった」　本文、要点 12.　第11課　練習　温故知新　朗読 13.　第12課　「ベートーヴェンと模範劇」　本文、要点 14.　第12課　練習　温故知新　朗読 15.　まとめ・試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『大学生のための現代中国 12 話・4　』黄漢青　杉本元子著　白帝社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅲa 応用）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、中級レベルの語学力を持つ中国語学習者を対象に、より実践的な会話能力、読解能力を養うことを目指します。 音読と和訳を通して、発音や本文への理解度を確認しつつ、その都度解説を加えます。また、新出の単語、慣用句、文法事項への理解を深め、これを取り入れたセンテンスを作成し、練習を行ないます。 教科書の内容が難しいため、事前の予習を義務付けます。 ※初回から教科書を使用するため、初回までに準備しておいてください。	1. ガイダンス、第二课　健康第一 2. 同前 3. 同前 4. 第四课　这种款式适合我吗？ 5. 同前 6. 同前 7. 中間試験、第六课　生活有时候就是琐碎的 8. 同前 9. 同前 10. 第七课　让我们轻松一下 11. 同前 12. 同前 13. 第九课　大手大脚还是精打细算 14. 同前 15. 同前、期末試験

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	本文にはピンインが振られていないため、音読、訳出できるように予習してくること。また、新たに学習した単語、構文を使って作文できるようにすること。
テキスト	『汉语口语速成· 提高篇（第３版）』、北京大学出版社，2015 年 11 月，ISBN: 9787301263761
参考文献	授業中に紹介します
評価方法	授業課題への取り組み 30%、中間試験 35%、期末試験 35%

09 年度以降	中国語（Ⅲb 応用）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
春学期同様。	1. 第十二课　我们生活在人群里 2. 同前 3. 同前 4. 第十三课　特别的经历 5. 同前 6. 同前 7. 中間試験、第十六课　轻轻松松挣大钱 8. 同前 9. 同前 10. 第十七课　永远的爱情永远的家 11. 同前 12. 同前 13. 第十九课　我们的生活 14. 同前 15. 同前、期末試験

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	本文にはピンインが振られていないため、音読、訳出できるように予習してくること。また、新たに学習した単語、構文を使って作文できるようにすること。
テキスト	『汉语口语速成· 提高篇（第３版）』、北京大学出版社，2015 年 11 月，ISBN: 9787301263761
参考文献	授業中に紹介します
評価方法	授業課題への取り組み 30%、中間試験 35%、期末試験 35%

09年度以降	韓国語（Ⅰa総合1）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. オリエンテーション 2. 字母編1課 3. 字母編2課 4. 字母編3課 5. 字母編4課 6. まとめ 7. 1課　SET1　自己紹介/습니다体 8. 1課　SET2　SET3 9. 2課　SET1　注文 10. 2課　SET2　位置関連 11. 2課　SET3　漢数字 12. 3課　SET1　場所/ 해요体 13. 3課　SET2　好き嫌い/固有数字 14. 3課　SET3　否定形 15. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト、プレゼンテーション

09年度以降	韓国語（Ⅰb総合1）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取ることを目的とする。	1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 4課 SET1　過去形・否定形 4. 4課 SET2　曜日 5. 4課 SET3　時間表現 6. 5課 SET1　敬語表現 7. 5課 SET2　様々な表現 8. 5課 SET3　比較表現 9. 6課 SET1　天気予報 10. 6課 SET2　ㅂ変則・丁寧な命令形 11. 6課 SET3　季節の食べ物 12. 7課 SET1　電話表現・不可能の呉 13. 7課 SET2　理由説明の表現 14. 7課 SET3　誕生日と食べ物・誘いの表現 15. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト、プレゼンテーション

09 年度以降	韓国語（Ｉa 総合 2）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. ハングルのしくみ① 2. ハングルのしくみ② 3. ハングルのしくみ③ 4. あいさつ① 5. あいさつ② 6. 名詞文 7. 存在文 8. 用言文 9. 中間テスト 10. 数詞① 11. 数詞② 12. 否定形 13. 尊敬形 14. 連用形 15. 해요体

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
参考文献	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト

09 年度以降	韓国語（Ｉb 総合 2）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 해요体の尊敬形 4. 過去形 5. 連体形① 6. 連体形② 7. 未来意思形 8. ㄹ変則 9. 中間テスト 10. ㄷ変則 11. ㅅ変則 12. ㅂ変則 13. ㅎ変則 14. 르変則 15. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
参考文献	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
評価方法	中間テスト、期末テスト　小テスト

09年度以降	韓国語（Ｉａ応用）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. 文字と発音①② 2. 文字と発音③④ 3. 文字と発音⑤⑥ 4. 1課 5. 2課 6. 3課 7. まとめ 8. 4課 9. 5課 10. まとめ／中間テスト 11. 6課 12. 7課 13. 8課 14. まとめ 15. 復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	金京子・喜多恵美子『改訂版パランセ韓国語初級』朝日出版社
参考文献	生越直樹他　『根と幹』朝日出版社
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト

09年度以降	韓国語（Ｉｂ応用）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 9課 4. 10課 5. 11課 6. まとめ 7. 12課 8. 13課 9. 14課 10. まとめ 11. まとめ／中間テスト 12. 15課 13. 16課 14. まとめ 15. 復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	金京子・喜多恵美子『改訂版パランセ韓国語初級』朝日出版社
参考文献	生越直樹他　『根と幹』朝日出版社
評価方法	中間テスト、期末テスト　小テスト

09 年度以降	韓国語（Ⅱa 総合 1）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取ることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 8課 SET1 4. 8課 SET2 5. 8課 まとめ 6. 9課 SET1 7. 9課 SET2 8. 9課 まとめ 9. まとめ／中間テスト 10. 10課　SET1 11. 10課　SET2 12. 10課　まとめ 13. 11課　SET1 14. 11課　SET2 15. 11課　まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　中級表現編』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ⅱb 総合 1）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取ることを目的とする。	1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 12課 SET1 4. 12課 SET2 5. 12課 まとめ 6. 12課 プレゼンテーション課題発表 7. 前半のまとめ 8. 13課 SET1 9. 13課 SET2 10. 13課 まとめ 11. まとめ／中間テスト 12. 14課 SET1 13. 14課 SET2 14. 14課 まとめ 15. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　中級表現編』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ⅱa 総合 2）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取ることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. 1課　復習 2. 2課　復習 3. 3課　ぞんざいな文末表現 4. 3課　推量表現 5. 4課　未来連体形 6. 4課　さまざまな表現 7. 5課　引用形 8. 5課　引用形のさまざまな表現 9. まとめ 10. まとめ／中間テスト 11. 6課　名詞化語尾 12. 6課　さまざまな表現 13. 7課　受身形 14. 7課　さまざまな表現 15. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編　白帝社
参考文献	金京子・喜多恵美子　『改正版パランセ韓国語中級』朝日出版社
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト

09 年度以降	韓国語（Ⅱb 総合 2）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取ることを目的とする。	1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 8課　本文 4. 8課　慣用句 5. 8課　さまざまな表現① 6. 8課　さまざまな表現② 7. 9課　本文 8. 9課　使役形 9. 9課　慣用句 10. まとめ／中間テスト 11. 10課　本文 12. 10課　書きことばの表現 13. 10課　さまざまな表現① 14. 10課　さまざまな表現② 15. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編　白帝社
参考文献	金京子・喜多恵美子　『改正版パランセ韓国語中級』朝日出版社
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト

09年度以降	韓国語（Ⅱa応用）	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取ることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 1課 4. 2課 5. 3課 6. まとめ 7. 4課 8. 5課 9. まとめ 10. まとめ／中間テスト 11. 6課 12. 7課 13. 8課 14. まとめ 15. 復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	金京子・喜多恵美子　『改正版パランセ韓国語中級』朝日出版社
参考文献	生越直樹他『花と実』朝日出版社
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト

09年度以降	韓国語（Ⅱb応用）	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取ることを目的とする。	1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 9課 4. 10課 5. 11課 6. まとめ 7. 12課 8. 13課 9. まとめ 10. まとめ／中間テスト 11. 14課 12. 15課 13. 16課 14. まとめ 15. 復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	金京子・喜多恵美子　『改正版パランセ韓国語中級』朝日出版社
参考文献	生越直樹他『花と実』朝日出版社
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト

09 年度以降	韓国語（Ⅲa 応用）	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1-2年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 1課 紹介 2. 2課 学校生活 3. 3課 家 4. 4課 招待と訪問 5. 4課 アクティビティ 6. 5課 外貌と性格 7. 5課 アクティビティ 8. まとめ／中間テスト 9. 6課 問題 10. 6課 アクティビティ 11. 7課 仕事 12. 7課 アクティビティ 13. 8課 公共生活 14. 8課 アクティビティ 15. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 Student’s Book 3A』西江大学韓国語教育院
参考文献	別冊、CD
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト

09 年度以降	韓国語（Ⅲb 応用）	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1-2年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 1課 天気と旅行 2. 2課 食べ物 3. 3課 健康 4. 3課 アクティビティ 5. 4課 shopping 6. 5課 紛失 7. 5課 アクティビティ 8. まとめ／中間テスト 9. 6課 ミスと言い訳 10. 6課 アクティビティ 11. 7課 思い出 12. 7課 アクティビティ 13. 8課 後悔と計画 14. 8課 アクティビティ 15. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 Student’s Book 3A』西江大学韓国語教育院
参考文献	別冊、CD
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト

2018 年度

外国語学部共通科目シラバス

08 年度以降	総合講座	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
人は何かが見えているとき、本当に何かを見ているのであろうか。何かが見えていることは純粋に世界の何かを経験していると疑いなく言えるのであろうか。見る以前に見るべきモノやコトが客観的にあると言えるのだろうか。何が人に、＜見える＞という経験を確信させるのであろう。その経験の明証性はどこからくるのであろうか。 これらの問いは、我々にとって＜見える＞という事実が自明であることから生じているようである。本講義では、このあまりに自明な＜見える＞という経験を問い直し、見えるという経験がいかに可能となるのかを考えてみたい。 どのように＜見える＞のか、どのように見ることが（不）可能になり、何を見ることが許され（ず）、何が強いられるのか。＜見える＞という経験を考察する多様な学問の中で、見ることをより根本的な仕方で捉え直す様々な視点を本講義で提示してみたい。 ＜見える＞という視覚経験は人間のさまざまな営みから形成される。化学や文学、芸術や文化、哲学や思想、メディア論やコミュニケーション論などの様々な学問のアプローチから、様々な＜見える＞ことの事例と共に、それらの事例に考察される＜見える＞とは何かを、講師がそれぞれの立場で講義していく。	1．イントロダクション ——「＜見える＞を問い直す」開講にあたり（柿田秀樹） 2．「パブリック・スクリーン」時代の視覚文化（菅野　遼） 3．空からパリを撮る——ナダールの写した19世紀（福田美雪） 4．ポスト写真時代のリアリティ： タッチパネル・スクリーンショット・ゲーム（松本健太郎） 5．「見る」と「観る」のメディア社会学（山口誠） 6．（暗室）箱の中の手——デヴィッド・ホックニーの逆遠近法（柿田秀樹） 7．像を拝むときひとは何を拝んでいるのか いくつかの事例から（森元庸介） 8．戦争と作家：ヴァージニア・ウルフの『三ギニー』を中心に（片山亜紀） 9．「能」における「見る・見えるもの」（柿沼義孝） １０．神の見え方を問い直す——宗教改革と聖画像の問題（青山愛香） １１．精神分析から「見える」を問い直す（若森栄樹） １２．ソマトフォビアと異性愛中心主義 —ホロコースト博物館の髪の毛展示論争から—（藤巻光浩） １３．視覚の文法—ヒトの脳は世界をどう表現するか—（安井美代子） １４．我々が知覚する世界はリアルと言えるか —プラトンの「イデア」をめぐって（M. ビティヒ） １５．まとめ（柿田秀樹）

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の後で、授業やプリント等で紹介された文献を読み、関心を持ったテーマについて自分で調べて理解を深めてほしい。 必要な場合、事前の読書課題があるかもしれない。
テキスト	テキストは授業内で適宜指示する。
参考文献	参考文献は授業内で適宜指示する。
評価方法	各講義後コメントペーパーを試験解答として提出するため、出席と講義の内容の復習が不可欠である。 ７５分の講義の後、担当の先生の各テーマについて１５分ほどのテストを毎回行う。このテストをもとに成績を評価する。

09 年度以降	総合講座	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
「フィールドワーク」とは、研究対象が存在する環境の中で、研究者自身によって行われる実際的作業のことである。実験室や研究室ではなく、現場にある資料・データなどの調査や探索である。現場は大都市中心部、小部族の集落、会社、バスターミナルかもしれない。フィールドワーク作業は、対象への面談や観察を通しての人類学的・社会学的データの収集、対象言語の記述を目的としたデータ収集、あるいはアーカイブにある史料の書き写しなど実にさまざまである。人類学、社会学、言語学、民俗学、政治学、美術史学など広範囲の分野の研究者がフィールドワークを行う。フィールドワークは研究過程の中でもっとも興味深く価値ある部分であり、研究において、方法論的、創造的に研究の翼を広げ、独創的要素と経験的信頼性を証明できる機会である。 本講義では、さまざまな分野の研究者が実際に行ったフィールドワークについていろいろな角度から論じる。	1. 「フィールドワークの実践」開講にあたって（A. ゾーリンジャー） 2. 歩いて学ぶニューヨーク：パブリック・メモリーの考察（板場良久） 3. 未定（金井満/黒子葉子） 4. Research Interviews and Knowledge (Re)Production（工藤和宏） 5. 関わりながら知ること—民俗芸能の伝承と企業活動をめぐるフィールドワークの実践（鈴木涼太郎） 6. Gaining Access: More Than Just Walking Through the Door（E. 本橋） 7. 脆弱国家支援の考察—シエラレオネ（佐野康子） 8. From Classrooms to Cities: Adventures in Data Collection and Fieldwork（J. N.ウェンデル） 9. ことばを守るということ（田中善英） 10. ドイツ現代史とフィールドワーク —東ドイツ史研究の事例から（伊豆田俊輔） 11. 農村調査—フィリピンの農村でのフィールドワークの実践を中心に（堀芳枝） 12. 民俗学のフィールドワーク…民間の伝統的習俗（行事・祭礼・生活等）の調査と観察（飯島一彦） 13. 本ではわからない福祉の現場（尾玉剛士） 14. ドイツでの企業調査からの教訓（大重光太郎） 15. まとめ（A. ゾーリンジャー）

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントや授業内で紹介された参考文献をもとに自分が関心を持ったテーマを調べ理解を深める。
テキスト	授業内で適宜指示する。
参考文献	授業内で適宜指示する。
評価方法	期末テストは行わず、毎回提出するコメントペーパーで評価する。

09 年度以降	総合講座	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
鍵盤音楽史① 　いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら音楽の歴史をたどっていく授業です。2018年度は、鍵盤楽器（ピアノ、オルガン、チェンバロ等）のための音楽に注目します。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。映像資料が少ないため、CD等の録音で鑑賞することが多くなると思いますが、ご了承ください。2015～2017年度に総合講座（西洋音楽史）を履修した方の重複履修も可能です。 ◇一度、外部講師による楽器説明の回を設ける予定です。 ◇注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。	1．導入・概観、評価方法の説明等 2．鍵盤楽器について 3．鍵盤楽器について、14～16世紀の鍵盤音楽 4．16～18世紀のイベリア半島とイタリアの鍵盤音楽 5．16～18世紀のイギリスの鍵盤音楽 6．17～18世紀のフランスの鍵盤音楽 7．スウェーリンク、17世紀北ドイツの鍵盤音楽 8．17世紀南ドイツの鍵盤音楽 9．J.S. バッハの生涯と鍵盤音楽 10. J.S. バッハのオルガン音楽 11. J.S. バッハのクラヴィーア音楽 12. J.S. バッハの鍵盤楽器を含む室内楽曲等 13. バッハの息子たちの世代 14. ハイドン 15. まとめ・授業内試験

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』や『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が評価の前提です。

09 年度以降	総合講座	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
鍵盤音楽史② 　いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら音楽の歴史をたどっていく授業です。2018年度は、鍵盤楽器（ピアノ、オルガン、チェンバロ等）のための音楽に注目します。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の内容を踏まえての授業になりますので、ご了承ください。2015～2017年度に総合講座（西洋音楽史）を履修した方の重複履修も可能です。 ◇注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。	1．18世紀中頃までの鍵盤音楽 2．モーツァルトの鍵盤音楽 3．ベートーヴェンの鍵盤音楽 4．シューベルトのピアノ音楽 5．19世紀のピアノ音楽概観 6．ショパンのピアノ音楽 7．メンデルスゾーン、シューマンの鍵盤音楽 8．リスト、ブラームスのピアノ音楽 9．国民楽派のピアノ音楽 10. ロシアのピアノ音楽 11. 1750年以降のオルガン音楽 12. 19世紀後半～20世紀のピアノ音楽 13. 20世紀のピアノ音楽 14. チェンバロの復興、20～21世紀のチェンバロ音楽 15. まとめ・授業内試験

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』や『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が評価の前提です。

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度情報化社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。さらに、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1.　講義の概要、データ表現、基数変換、論理演算 2.　オペレーティングシステム（OS） 3.　データ構造―リスト、スタック、キュー、2分木 4.　アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 5.　プログラム言語 6.　プログラミングの仕組み 7.　コンピュータの構成要素 8.　自然言語とは 9.　コンピュータによる言語情報処理技術（1） 10.　コンピュータによる言語情報処理技術（2） 11.　人工知能と言語処理 12.　情報検索と質問応答システム 13.　インターネット上の多言語処理技術 14.　講義のまとめ 15.　講義のまとめ

到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。
事前・事後学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。
テキスト	学内ネットに開示するテキストを使用します。
参考文献	特にありません。
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%です。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［総合］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［総合］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［英語］	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 　コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［英語］	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 　コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［ヨーロッパ言語］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［ヨーロッパ言語］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要： この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要： この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際の発表（質疑応答も含む）を通じて、「わかりやすいプレゼンテーションとは何か」を考えていく半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、課題（演習）が締め切り日までに提出されなかったり、また提出はあっても、発表の準備をしていない場合は、実際の発表ができません。	１．ガイダンス ２．基本知識と操作の確認 ３．プレゼンテーションとは ４．スライドの作成法(1) ５．スライドの作成法(2) ６．演習１：時間の意識 ７．発表(1) ８．発表(2) ９．演習２：配布資料の利用 10. 発表(1) 11. 発表(2) 12. 演習３：「言葉」の定義 13. 発表(1) 14. 発表(2) 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後 学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 演習（作成・発表・振り返り）90%、平常点（練習問題等）10%。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09年度以降	［応用］情報科学各論（Office 中級）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、WordおよびExcel、PowerPointについて、より広い知識と活用法の習得を目的とする半期完結授業である。 個々のソフトの基本的操作だけでなく、ソフトの連携による活用ができる力を養成することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 Word、Excel、PowerPointの基本を習得していることが望ましいが、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	１．　講義のガイダンス・基本操作の確認 ２．　Wordの基本操作の確認 ３．　Excelの基本操作（セル参照・関数）の確認（１） ４．　Excelの基本操作（関数・入力規則）の確認（２） ５．　Excelの基本操作（グラフ・抽出）の確認 ６．　WordとExcelの連携処理（１） ７．　WordとExcelの連携処理の確認テスト ８．　データベースの準備・作成 ９．　PowerPointの基本操作の確認 １０．フィルタによるデータ抽出 １１．プレゼンテーション資料作成（１） １２．プレゼンテーション資料作成（２） １３．プレゼンテーション実習（１） １４．プレゼンテーション実習（２） １５．レポートへのまとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の進行により随時指示する。
テキスト	『情報活用法とアカデミック・スキル』（共立出版株式会社、2018 年）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	確認テスト 30%、授業内課題 20%、レポート 30%、プレゼンテーション実習 20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

16 年度以降 15 年度以前	［応用］情報科学各論（コーパス言語学 a） ［応用］情報科学各論（言語情報処理１）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目的とします。 コーパス言語学aでは、「コーパス（=言語データ）とは何か？」という基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか？」、「コーパスをどのように分析するのか？」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題(Research question(s))をたて、実際にコーパスデータを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。 授業では、教科書（下記参照）に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思います。	1. ガイダンス・第1章「コーパス言語学への招待」 2. 第2章「コーパスとは何か」 3. 第3章「さまざまなコーパス」 4. 第5章「コーパス検索の技術」 5. 第6章「コーパス頻度の処理」 6. 第7章「コーパスと語彙」(1) 7. 第7章「コーパスと語彙」(2) 8. 第8章「コーパスと語法」(1) 9. 第8章「コーパスと語法」(2) 10. 第9章「コーパスと文法」(1) 11. 第9章「コーパスと文法」(2) 12. プレゼンテーション準備(1):RQを検討 13. プレゼンテーション準備(2):データ分析 14. プレゼンテーション準備(3):資料作成 15. プレゼンテーション

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、オンラインで提出する。
テキスト	『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著 ひつじ書房）
参考文献	英語コーパス研究シリーズ（ひつじ書房）
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（60%）、最終プレゼンテーション（40%）

16 年度以降 15 年度以前	［応用］情報科学各論（コーパス言語学 b） ［応用］情報科学各論（言語情報処理２）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題(Research question)は、「日本人英語学習者の話す/書く英語の特徴にはどのようなものがあるか？」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する(あるいはしない)文法項目、誤り(error)などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まってくるに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかしてしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人に向いている内容と言えます。 授業では、演習が中心になります。コーパス言語学 a を履修していなくても構いません。	1. ガイダンス・学習者コーパスとは何か 2. 学習者の言語データと第二言語習得 3. 学習者コーパスの仕組み 4. 学習者データの収集(1) 5. 学習者データの収集(2) 6. 学習者データの入力 7. 学習者データの加工 8. 学習者コーパスの語彙分析 9. 学習者コーパスの文法分析 10. 学習者コーパスの流暢さ分析 11. 学習者コーパスの誤り分析 12. プレゼンテーション準備(1):RQを検討 13. プレゼンテーション準備(2):データ分析 14. プレゼンテーション準備(3):資料作成 15. プレゼンテーション

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、オンラインで提出する。
テキスト	テキストは使用せず。PPt スライドを提示する。
参考文献	英語コーパス研究シリーズ（ひつじ書房）
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（60%）、最終プレゼンテーション（40%）

09年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML初級）（月５）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。 まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである「WWW（World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML（Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ（ホームページ）も作成する。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 コンピュータの言語（Language）を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し（復習)」が極めて重要です。	１．ガイダンス ２．基本知識と操作の確認、情報倫理 ３．Webページとは、著作権 ４．文字中心のページ、リンク ５．画像(1) ６．画像(2)、表 ７．FTP ８．課題(1) ９．課題(2) 10．小鑑賞会、企画書の作成 11．CSS 12．総合課題(1) 13．総合課題(2) 14．作品紹介のプレゼンテーション 15．鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用Webにて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）40%、平常点（課題、著作権のレポート等）60%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML初級）（木４）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。 まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである「WWW（World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML（Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ（ホームページ）も作成する。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 コンピュータの言語（Language）を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し（復習)」が極めて重要です。	１．ガイダンス ２．基本知識と操作の確認、情報倫理 ３．Webページとは、著作権 ４．文字中心のページ、リンク ５．画像(1) ６．画像(2)、表 ７．FTP ８．課題(1) ９．課題(2) 10．小鑑賞会、企画書の作成 11．CSS 12．総合課題(1) 13．総合課題(2) 14．作品紹介のプレゼンテーション 15．鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用Webにて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）40%、平常点（課題、著作権のレポート等）60%。

09年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、「情報科学各論（HTML初級)」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたWebページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページの作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 まず、コンピュータとネットワーク（インターネット）の基礎知識の確認、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：授業内容や評価方法等を詳しく説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。原則として、HTML初級を履修済みであること。プログラミングの授業なので、特に欠席や遅刻はしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 抽象度が高いので、準備と復習をしっかり行い、こまめにメモを取ることが必須です。	１．ガイダンス ２．HTMLとFTPの復習(1) ３．HTMLとFTPの復習(2) ４．インタラクティブなページとは ５．プログラミングの基礎知識 ６．JavaScript(1) ７．JavaScript(2) ８．JavaScript(3) ９．JavaScript(4) 10．JavaScript(5) 11．CGIの利用 12．総合課題(1) 13．総合課題(2) 14．総合課題(3) 15．鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用Webにて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）70%、平常点（課題等）30%。

09 年度以降	経済原論 a	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	1.　経済学の目的と方法 2.　家計の行動①－効用の概念と予算制約 3.　家計の行動②－効用最大化 4.　家計の行動③－消費者余剰の概念 5.　企業の行動①－生産技術の決定 6.　企業の行動②－費用曲線と利潤最大化 7.　企業の行動③－生産者余剰の概念 8.　市場価格の決定 9.　不完全競争市場 10.　厚生経済学の基本定理 11.　市場の失敗 12.　所得分配の決定 13.　政府の役割①－規制および補助金政策 14.　政府の役割②－租税政策 15.　まとめ

到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。
テキスト	特に指定しない。
参考文献	初回の講義にて紹介する。
評価方法	定期試験の成績（80%）に授業内での小テストの結果（20%）を加味して評価する。

09 年度以降	経済原論 b	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	1.　マクロ経済学の体系 2.　国民所得の諸概念 3.　消費と貯蓄の理論 4.　企業投資の理論 5.　国民所得決定の理論 6.　生産物市場の分析 7.　金融市場の分析 8.　財政政策の有効性 9.　金融政策の有効性 10.　国際収支と為替レートの決定要因 11.　開放マクロ経済下での経済政策 12.　公債発行と財政赤字 13.　経済成長の決定要因 14.　日本の公的債務と経済成長 15.　まとめ

到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。
テキスト	特に指定しない。
参考文献	初回の講義にて紹介する。
評価方法	定期試験の成績（80%）に授業内での小テストの結果（20%）を加味して評価する。

09 年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a，bでは，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは，個人の心の働きに主に焦点を当てる。	1. イントロダクション -「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7. 自己(1)：自分はどんな人間か 8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12. 社会的影響(3)： 「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14. まとめと振り返り 15. 社会的影響(5)：人間の力

到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣，2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

09 年度以降	社会心理学 b（金２）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a，bでは，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは，主に個人と社会との間の相互作用や，社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。	1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)： 言語的・非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)： コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情(1)：互恵性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2)：表情と感情 11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦 14. まとめと振り返り 15. 社会心理学の未来

到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣，2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

09 年度以降	社会心理学 b（金３）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a，bでは，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは，主に個人と社会との間の相互作用や，社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。	1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)： 言語的・非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)： コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情(1)：互恵性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2)：表情と感情 11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦 14. まとめと振り返り 15. 社会心理学の未来

到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣，2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

シラバス 交流文化学科

2018 年 4 月 1 日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1656

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	